

# 村松白根遺跡 1

大強度陽子加速器施設事業に伴う  
埋蔵文化財調査報告書 I

(下巻)

平成17年3月

日本原子力研究所  
高エネルギー加速器研究機構  
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第250集

むら まつ しら ね  
村松白根遺跡 1

大強度陽子加速器施設事業に伴う  
埋蔵文化財調査報告書 I

(下巻)

平成 17 年 3 月

日本原子力研究所  
高エネルギー加速器研究機構  
財団法人茨城県教育財団

# 目 次

## 一 下 卷一

5	その他の遺構と遺物	371
(1)	整地面	371
(2)	貝集積地	420
(3)	溝跡	431
(4)	土坑	432
(5)	ピット群	460
(6)	集石	464
(7)	遺物集中地点	467
(8)	埋納遺構	470
(9)	不明遺構	494
(10)	その他の出土遺物	507
	第4節 まとめ	544
	付 章	567
	写真図版	
	付 図	

## 5 その他の遺構と遺物

ここでは、性格や時期が不明な遺構について、出土遺物とともに記述する。なお、所見については、第4節のまとめの中で記述する。

### (1) 整地面

今回の調査で整地面33か所を確認した。ここでは、原則的に以下の条件を満たす遺構25か所を整地面として報告し、その他の整地面は一覧表で報告する。整地面は、広場（屋外カ）、作業場（屋外カ）などが推測される。

ア 黒色土を主体とする盛土によって構築された平坦な面で、調査の段階で整地面と判断することができたもの。

イ 平坦な面から遺物が出土し、生活面ととらえることができた面。

なお、本整地面に伴うと判断された土坑はそこで報告する。

### 第2号整地面 2区HK-2(1)～(4)(第440～442図)

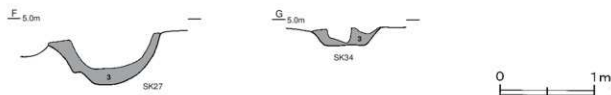
位置 調査区中央部 H115区を中心に位置している。

確認状況 表砂を3m除去後、標高約4.6～5.0mから黒色土面4か所を確認した。各面ともほぼ平坦で、2か所からそれぞれ土坑1基が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲はそれぞれ長軸3.3～5m、短軸1.3～2.8mで、東部が狭い。西部の黒色土面からそれぞれ第27・34号土坑が検出されている。

生活面 4か所とも厚さ約2～18cmの黒色土を貼り付けて整地されている。土層断面図中、第3層は黒色土A層である。

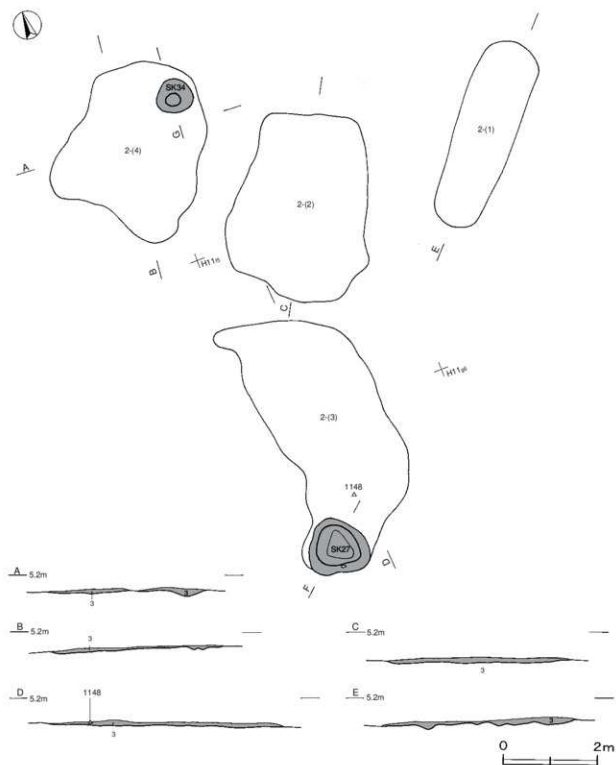
土坑(第440図) 北部の黒色土面に第34号土坑、南部の黒色土面に第27号土坑が構築されている。黒色土の厚さは最大で第27号土坑が18cm、第34号土坑で18cmである。



第440図 第2号整地面土坑土層図



第441図 第2号整地面出土遺物実測図



第442図 第2号整地面実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片11点(皿9, 内耳鍋2), 陶器片1点(甕), 石器1点(砥石), 金属製品3点(古銭1, 不明2)が出土している。1148は「至和元寶」で南西部の黒色土面, 1147は南西部の覆土中から出土している。土師質土器片は細片のため図示できなかった。

第2号整地面出土遺物観察表 (第441図)

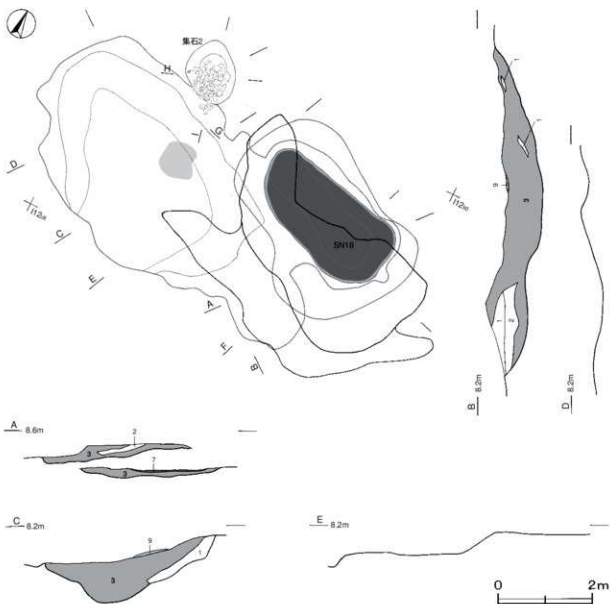
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1147	砥石	(7.4)	3.2	3.0	(53.1)	凝灰岩	砥面2面	覆土中	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1148	至和元寶	2.43	0.75	0.09	3.14	1054	銅	真書	南部黒色土中	

第3号整地面 2区HK-4 (第443~445図)

位置 調査区中央部 112b9区を中心に位置している。

確認状況 表砂を3m除去後、標高約8.3mから第1次面である黒色土面を確認した。さらに下層から第2・3次面が確認され、第2次面からは集石、第3次面からは粘土貼土坑が確認された。

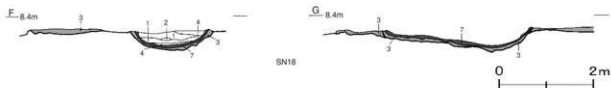


第443図 第3号整地面実測図

**規模と施設** 各黒色土面は狭く、第1～3次面の範囲は南北7.6m、東西4mである。第2次面の黒色土面からは第18号粘土貼土坑が検出されている。

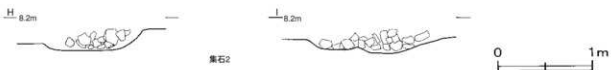
**生活面** 黒色土面の厚さは第1次面が約10～30cm、第2次面が約8～20cm、第3次面が最大で90cmである。土層断面図中、第3層は黒色土A層で、各面との間には20～40cmの砂層が入っている。

**土坑(第444図)** 厚さ8cmの粘土層と6cmの黒色土で構築されている。3次面であるため残存状況が悪いが、平面形は隅丸長方形で、底面は皿状を呈している。



第444図 第3号整地面粘土貼土坑土層図

**集石(第445図)** 第2次面の北部から確認されている。中礫が確認されている範囲は、長軸1.3m、短軸1mである。



第445図 第3号整地面集石土層図

### 第5号整地面 2区HK-11 (第446・447図)

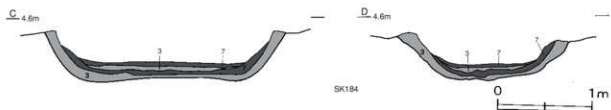
**位置** 調査区中央部 H11a2区を中心に位置している。

**確認状況** 表砂を3m除去後、標高約4.3mから黒色土面を確認した。上面はほぼ平坦で、南部から粘土貼土坑が検出された。

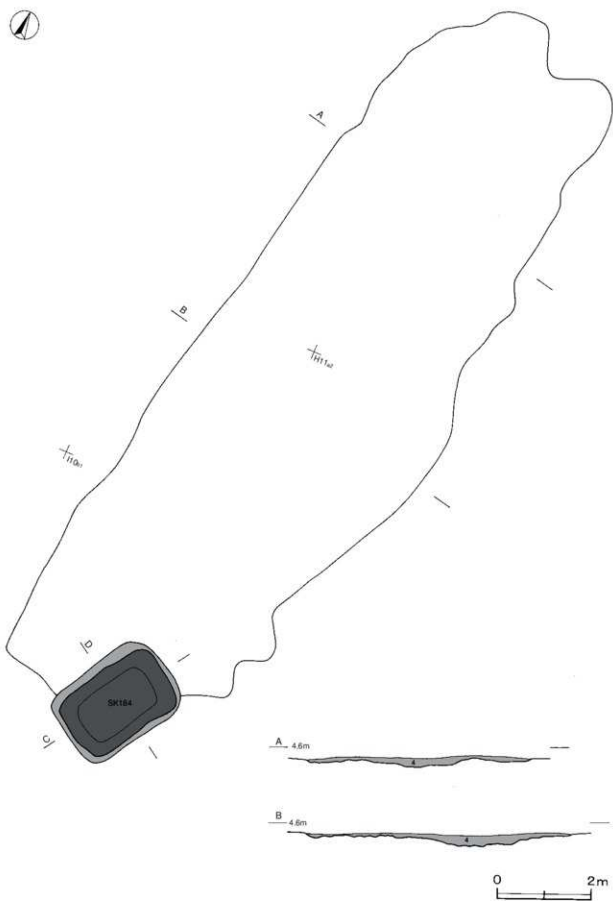
**規模と施設** 黒色土の範囲は南北18m、東西5.5mの南北に延びる不定形である。南部には第184号粘土貼土坑が構築されている。

**生活面** 厚さ約4～20cmの黒色土を貼り付けて整地されている。土層断面図中、第4層は黒色土B層である。

**土坑(第447図)** 粘土層の厚さは2～8cm、黒色土の厚さは2～10cmである。粘土層の間には5cmの黒色土A層が確認されていることから、一回の造り替えが行われている。覆土中には砂B層に混じって貝が確認さ



第447図 第5号整地面土坑土層図



第446图 第5号整地面实测图



第184号粘土貼土坑出土貝種一覧表

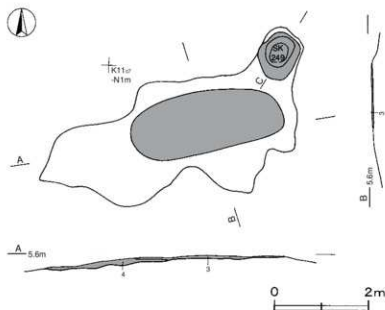
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	レイシガイ	70.0	0.40	8		8	ウバガイ	12,680	72.71	142	細片含む
2	ベンケイガイ	22.0	0.13	6		9	ダンバレイキサゴ細片	90.0	0.52		
3	マツカサガイ	10.0	0.06		淡水	10	ツメタガイ細片	40.0	0.23		
4	シジミ属	3.0	0.02		淡水または汽水	11	サルボウガイ細片	30.0	0.17		
5	コタマガイ	2,940	16.86	231	細片含む	12	イタボガキ属細片	1,020	5.85		
6	チョウセンハマグリ	135.0	0.77	34		13	その他	130.0	0.75		オオタニシ等
7	ウチムラサキガイ	270.0	1.55								

れている。

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(皿)が覆土中から出土している。第184号粘土貼土坑からは貝が出土している。以下、出土した貝種を一覧表で記載する。

**第6号整地面** 2区HK-12(第448・449図)

**位置** 調査区中央部 K11c7区を中心に位置している。

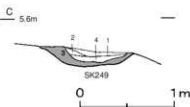


第448図 第6号整地面実測図

**確認状況** 表砂を3.5m除去し、標高約5.5mから黒色土面を確認した。黒色土面の中央部はやや高くなっており、黒色土に締まりが見られる。

**規模と施設** 黒色土の範囲は南北2.7m、東西6.2mの不定形である。北東部には第249号土坑が構築されている。

**生活面** 厚さ約4cmの黒色土A層と厚さ12cmの黒色土B層で整地されている。土層断面図中、第3層は締まりのある黒色土A層、第4層は黒色土B層である。



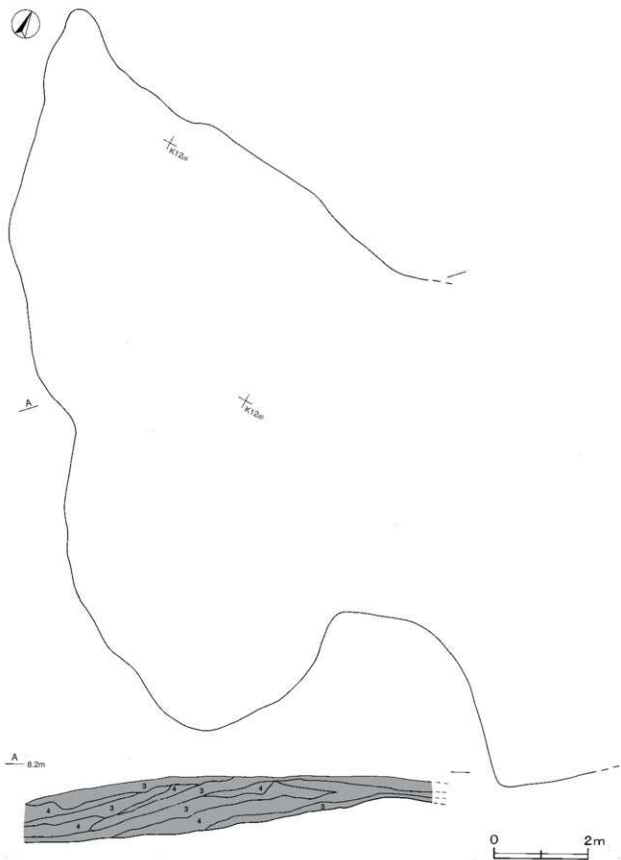
第449図 第6号整地面土坑土層図

**土坑(第449図)** 長径0.7m、短径0.6mの楕円形である。厚さ2～12cmの黒色土で構築されている。

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(皿)が出土している。

第7号整地面 2区HK-14 (第450図)

位置 調査区南部 K12d0区を中心に位置している。



第450図 第7号整地面実測図

**確認状況** 表砂を3 m 除去後、標高約8.3m から黒色土面を確認した。上面はほぼ平坦であるが、西部は緩やかに傾斜している。

**規模と施設** 東部が削平されているため、黒色土の範囲は南北15.5m、東西8.2m だけが確認された。

**生活面** 黒色土層の間には、砂が薄く堆積しており、整地された層は40~120cmの厚さである。黒色土A層や黒色土B層を交互に整地し、西部は斜面を形成するように意図的に整地されている。

**遺物出土状況** 不明金属製品1点が出土している。

#### 第8号整地面 2区HK-16 (第451~453図)

**位置** 調査区南部K11d4区を中心に位置している。

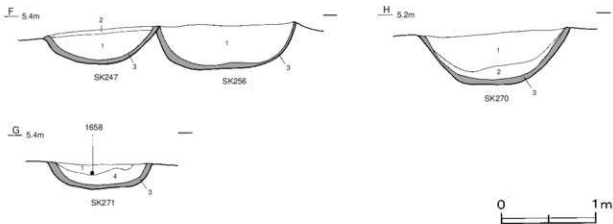
**確認状況** 表砂を約4 m 除去し、標高約5.1m から黒色土面を確認した。上面はほぼ平坦である。

**規模と施設** 黒色土の範囲は南北軸9.7m、東西軸11.5mの不定形である。第247・256・270・271号土坑が構築されている。

**生活面** 黒色土Aが主体の層である。厚さ2~28cmの黒色土で整地されている。

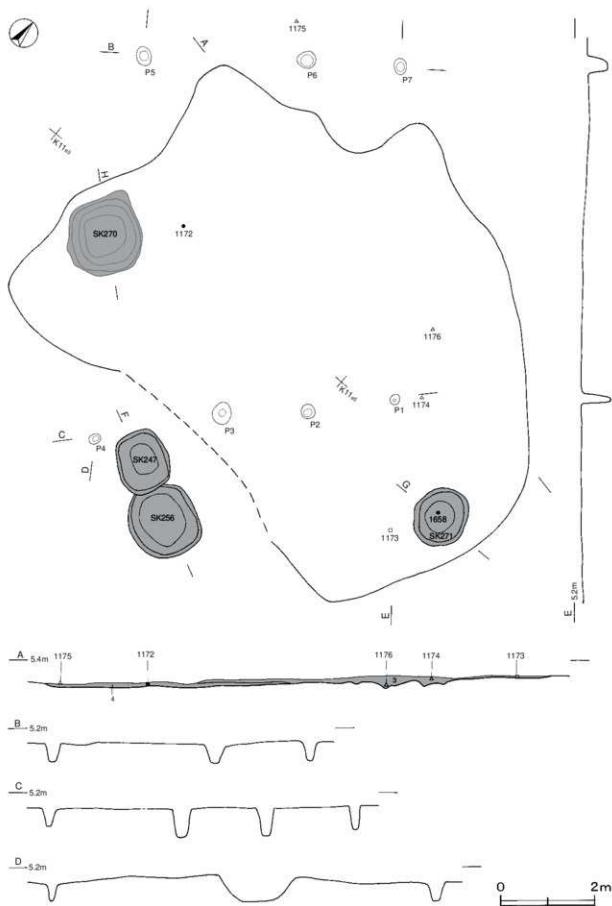
**ピット** 7か所。深さは39~66cmである。整地面を中心に確認されており、上屋を支えた柱穴と考えられる。

**土坑** (第451図) 第271号土坑は南東部、その他の3基は西部に構築されている。第270号土坑は第2次面で、それ以外は第1次面で検出されている。第247・256号土坑は黒色土の範囲外に構築されており、検出状況から第247号土坑が新しい。4基とも2~8 cmの黒色土で構築されている。

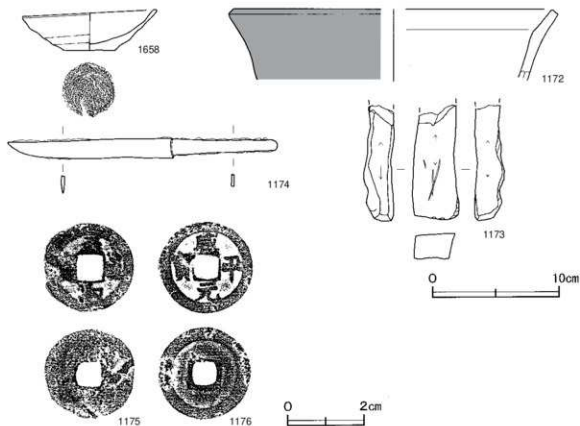


第451図 第8号整地面土坑土層図

**遺物出土状況** 土師質土器片3点(皿2, 内耳鍋1), 石器1点(砥石), 金属製品3点(小刀1, 古銭2)が整地面, 土師質土器1点(小皿)が第271号土坑から出土している。1172は北西部, 1173・1174は東部, 1176は「咸平元寶」で、東部の黒色土面中から出土している。1174は刀身・茎部とも遺存している。1175は北部の砂層から出土しており、銭文が不鮮明で判読ができない。1658はほぼ完形で、埋砂とともに流れ込んだものである。



第452图 第8号整地面实测图



第453図 第8号整地面出土遺物実測図

第8号整地面出土遺物観察表（第453図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1658	小皿	土師質土器	10.7	3.4	4.1	長石	灰褐色	普通	底部回転糸切り	SK271内	95% PL43
1172	内耳輪	土師質土器	[25.2]	(5.7)	—	長石・雲母	灰	普通	口縁部横ナデ、外面備付着	西北部黒色土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1173	砥石	(9.1)	3.7	2.3	(104.3)	凝灰岩	砥面3面、磨痕あり	東部黒色土中	PL49
1174	小刀	21.4	1.6	0.2	34.9	鉄	両側あり、完残	東部黒色土中	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1175	至和通寶	2.41	0.69	0.10	3.46	1054	銅	真書	北部砂層	
1176	咸平元寶	2.48	0.60	0.11	3.30	998	銅	真書	東部黒色土中	

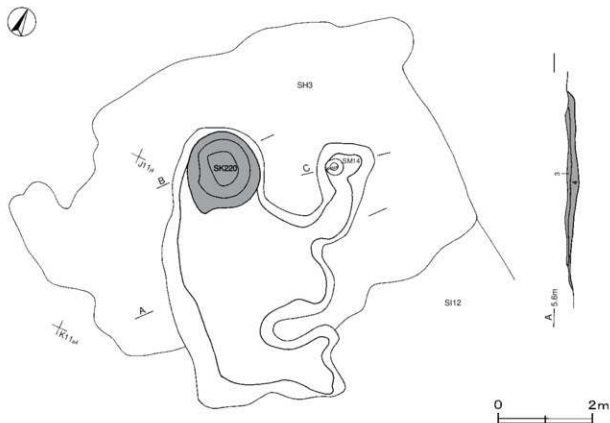
### 第10号整地面 2区HK-19（第454～456図）

位置 調査区中央部J11j4区を中心に位置している。

重複関係 第12号建物跡・第3号製塩跡を掘り込んでいる。

確認状況 表砂を約2m除去後、標高約5.5mから黒色土面を確認した。上面はほぼ平坦で、土坑と貝集積地が確認された。

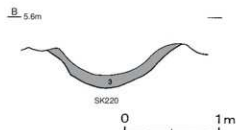
規模と施設 黒色土の範囲は南北6m、東西3.5mである。第220号土坑が構築され、第14号貝集積地が確認されている。



第454図 第10号整地面実測図

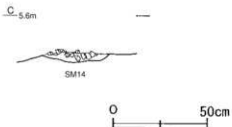
生活面 2層に分層される。上層が厚さ10cmの黒色土A層，下層が厚さの最大が14cmの黒色土B層である。

土坑(第455図) 黒色土面の北部に、厚さ6～14cmの黒色土で構築されている。



第455図 第10号整地面土坑土層図

貝集積地(第456図) 黒色土面の北東部に位置し、長径0.3m、短径0.3mの円形を呈している。貝層は最大で6cmの厚さである。



第456図 第10号整地面貝集積地土層図

第14号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	330.0	69.04	71	淡水
2	イタボガキ属	78.0	16.32	4	
3	その他	70.0	14.64		ウバガイ、マツカサガイ

第11号整地面 2区BHK-1 (第457~459図)

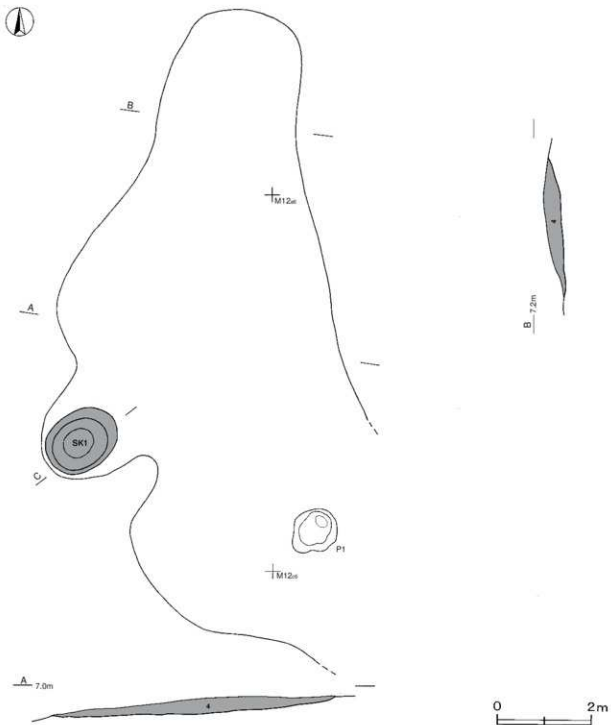
位置 調査区南部 M12a5区を中心に位置している。

確認状況 表砂を約1m除去後、標高約6.7mから黒色土面を確認した。西部は緩やかに傾斜している。

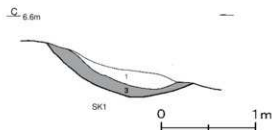
規模と施設 東部が調査区域外に伸びているため、黒色土の範囲は南北13m、東西6.1mだけが確認された。

第1号土坑が構築されている。

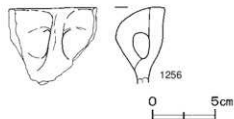
生活面 単一層である。黒色土B層が主体で、黒色土の厚さは最大で30cmである。



第457図 第11号整地面実測図



第458図 第11号整地面土坑土層図



第459図 第11号整地面出土遺物実測図

第11号整地面出土遺物観察表 (第459図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1256	内耳鍋	土師質土器	—	(6.0)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面履付着	覆土中	5%

ピット 1か所。深さは40cmで、性格不明である。

土坑 (第458図) 長径1.6m、短径1.2mの楕円形である。厚さ5～15cmの黒色土で構築されている。

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿1, 内耳鍋2)が出土している。1256は覆土中から出土している。

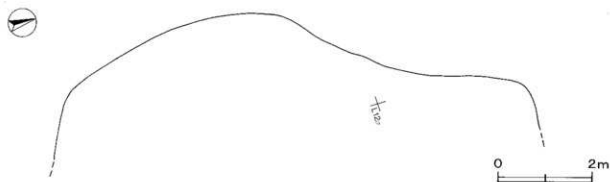
第12号整地面 2区BHK-2 (第460図)

位置 調査区南部L126区を中心に位置している。

確認状況 東部は調査区域外に延びている。黒色土の層厚は薄い。

規模と施設 黒色土の範囲は南北10.2m、東西2.8mの不定形である。

生活面 ほぼ平坦である。



第460図 第12号整地面実測図

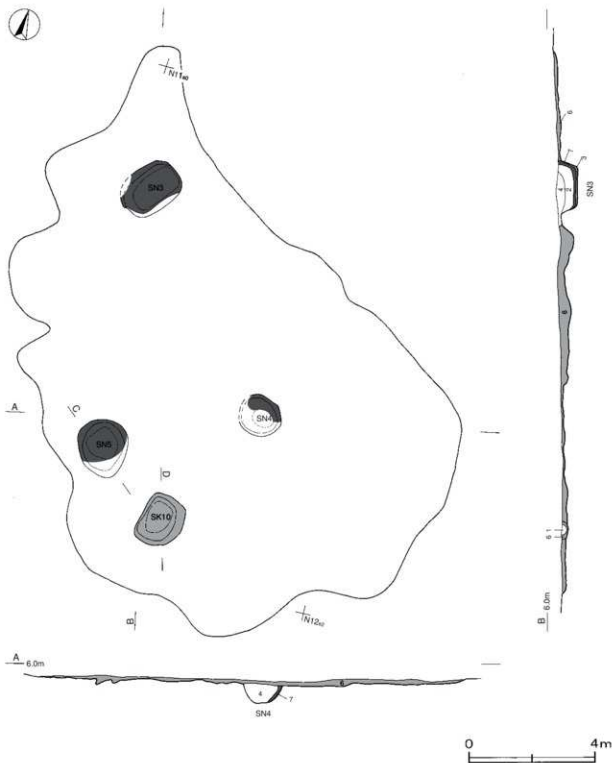
第13号整地面 2区BHK-3 (第461・462図)

位置 調査区南部N12c1区を中心に位置している。

確認状況 表砂を約2m除去後、標高約5.4mから黒色土面を確認した。上面はほぼ平坦である。

規模と施設 黒色土の範囲は南北17.3m、東西13.3mである。第3～5号粘土貼土坑、第10号土坑が構築されている。





第461図 第13号整地面実測図

**生活面** 単一層である。黒色土Bが主体で、黒色土の厚さは最大で40cmである。

**土坑** (第462図) 中央部やや西寄りに位置し、第3号粘土貼土坑は粘土と黒色土の厚さが6cm、第5号粘土貼土坑は粘土の厚さが12cmである。第10号土坑は、黒色土を貼り付けて構築してある。



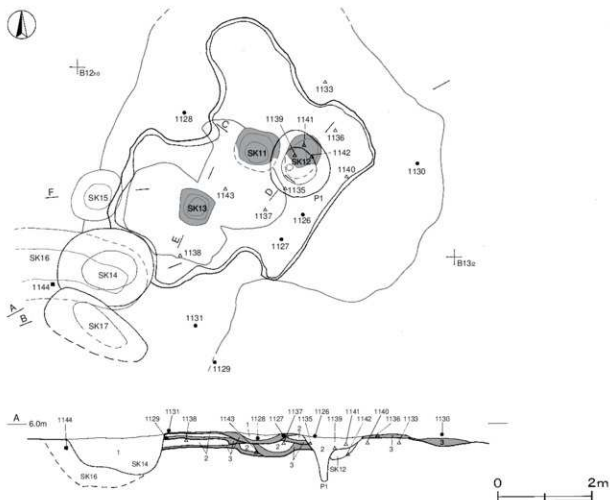
第462図 第13号整地面土坑土層図

第14号整地面 3区HK-1 (第463~466図)

位置 調査区北部 B12h0区を中心に位置している。

確認状況 表砂を6.5m除去後、標高約5.8mから第1次面を確認した。上面はほぼ平坦で、複数の土坑とピットが確認された。下層から第2・3次面が確認され、それに伴う複数の土坑が検出された。

規模と施設 検出された黒色土の範囲は第1次面は南北6m、東西4.2mの不定形である。第2次面は南北7m、東西7mで、黒色土面はさらに南北に延びていると推測される。第3次面は黒色土の範囲は狭い。第11~17号土坑が構築されている。

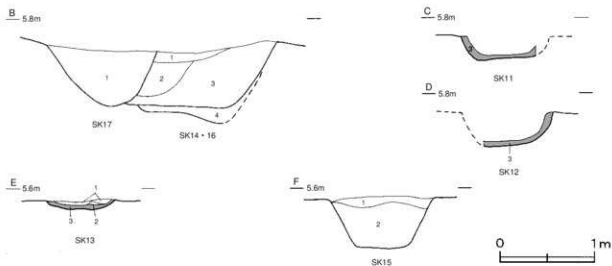


第463図 第14号整地面実測図

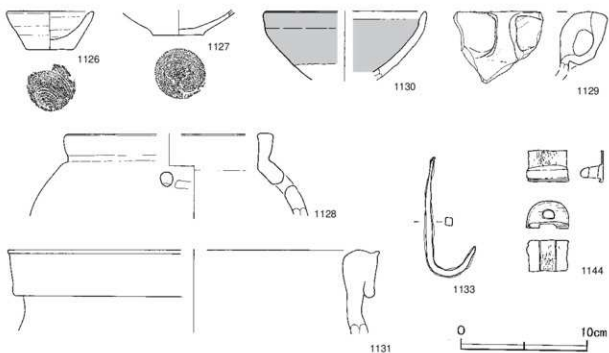
**生活面** 第1～3次面は厚さ約4～17cmの黒色土を貼り付けて整地している。土層断面図中、第3層は黒色土A層で、黒色土A層間には第2層の砂B層が入っている。この層を境に第1～3次面を分けた。

**ピット** 1か所。第1次面から検出され、深さは90cmである。対応するピットがなく、性格不明である。

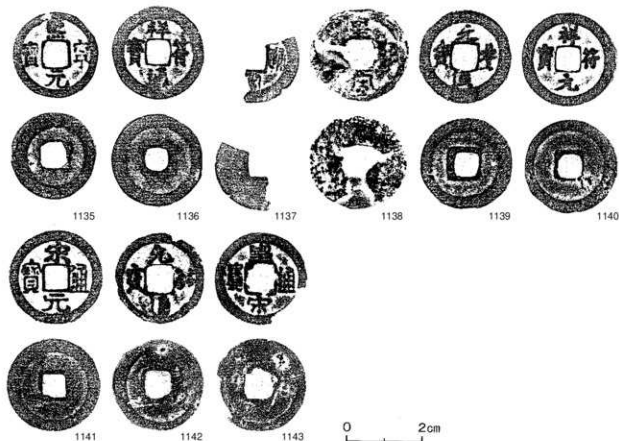
**土坑** (第464図) 第11～13号土坑は厚さ5cmの黒色土を貼り付けて構築されている。第14・17号土坑が第1次面、第11・12・16号土坑は第2次面、第13・15号土坑は第3次面から検出された。



第464図 第14号整地面土坑土層図



第465図 第14号整地面出土遺物実測図(1)



第466図 第14号整地面出土遺物実測図(2)

第14号整地面出土遺物観察表(第465・466図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1126	小皿	土師質土器	7.0	3.0	3.8	雲母	灰黄焼	普通	底部回転承切り	中央部1次面	98% PL41
1127	皿	土師質土器	—	(2.0)	4.0	赤色粘土	にぶい焼	普通	底部回転承切り	中央部1次黒色土中	50%
1128	盥	土師質土器	[16.6]	(6.5)	—	雲母	にぶい焼	普通	体部上部に焼成後穿孔	中央部2次黒色土中	5%
1129	内耳鍋	土師質土器	—	(5.7)	—	長石・石英・雲母	明赤焼	普通	口縁部ナゲ, 外面煤付着	南部砂層	5%

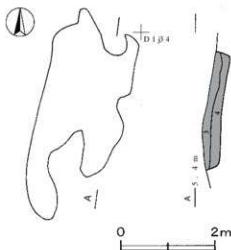
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・軸葉	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1130	天目茶碗	陶器	[13.0]	(5.5)	—	灰白・オリーブ黒	鉄軸	摩滅が激しい	瀬戸・美濃, 15C前半	東部砂層	20%
1131	壺	陶器	[29.6]	(6.6)	—	長石・雲母	—	口縁部のみ	常滑産, 15C中	南部1次面	5% 9型式

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1133	耳金	9.5	4.0	0.6	17.8	鉄	断面方形	北部2次面	
1144	栗形	2.4	3.3	2.2	7.6	鹿角	漆付着あり, 孔径1.0cm	南西部2次面下	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1135	熙寧元寶	2.32	0.69	0.11	2.82	1068	銅	真書	P 1内	
1136	祥符通寶	2.46	0.65	0.10	3.38	1009	銅	真書	中央部1次黒色土中	
1137	皇宋通寶	—	—	0.08	(0.96)	1038	銅	篆書, 欠け	中央部2次黒色土下	
1138	皇宋通寶	2.47	0.74	0.13	(2.54)	1038	銅	篆書, 錆がひどい	中央部2次黒色土下	
1139	元豊通寶	2.46	0.60	0.10	3.12	1038	銅	行書	P 1内	
1140	祥符元寶	2.51	0.60	0.10	3.80	1008	銅	真書	中央部2次黒色土下	
1141	宗通元寶	2.49	0.58	0.09	3.12	960	銅	真書	中央部2次黒色土下	
1142	元祐通寶	2.43	0.61	0.13	3.78	1086	銅	行書	中央部3次黒色土下	
1143	皇宋通寶	2.48	0.71	0.12	(3.18)	1038	銅	真書, 星形孔, 欠け	中央部3次黒色土下	

**遺物出土状況** 土師質土器片74点(皿12, 内耳鍋60, 壺2), 陶器片3点(天目茶碗1, 甕2), 石器1点(砥石), 金属製品10点(耳金1, 古銭9), 骨角製品1点(栗形)が出土している。1127が1次面, 1126・1128・1129が2次面から出土しており, 1128の体部は焼成後, 穿孔されている。1130は瀬戸・美濃産で摩滅が激しい。1131は口縁部のみであるが, 常滑産の9型式と考えられる。1144は骨角製で西部の2次面下から出土している。古銭は2・3次面下から散在した状態で多く出土しており, 1142の「元祐通寶」が最新銭である。

#### 第15号整地面 4区HK-2 (第467・468図)



第467図 第15号整地面実測図

**位置** 調査区中央部 D133区に位置している。

**確認状況** 表砂を3.5m除去後, 標高約5.1mから黒色土面を確認した。黒色土面は小範囲ではあるが, 中央部はやや高くなっている。

**規模と施設** 黒色土の範囲は南北4.5m, 東西1.6mの不定形である。

**生活面** 厚さ約32~40cmの黒色土A層と黒色土B層で, 整地されている。土層断面図中, 第3層は黒色土A層, 第4層は黒色土B層である。

**遺物出土状況** 金属製品5点(古銭1, 不明4)が出土している。1293は「景德通寶」で, 覆土中から出土している。



第468図 第15号整地面出土遺物実測図

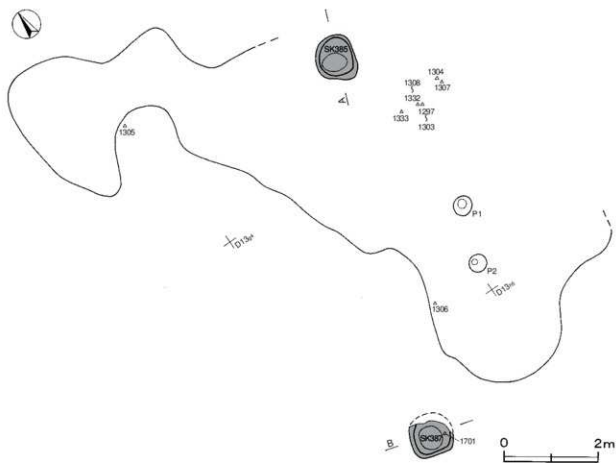
#### 第15号整地面出土遺物観察表 (第468図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1292	不明	(6.5)	0.6	0.1	(3.9)	銅	板状。孔有り	覆土中	PL50

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1293	景德元寶	2.38	0.56	0.13	(3.36)	1004	銅	真書	覆土中	

#### 第16号整地面 4区HK-7 (第469~472図)

**位置** 調査区北部 D134区を中心に位置している。



第469図 第16号整地面実測図

**規模と施設** 東部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は南北9m、東西4mだけが確認された。第385・387号土坑が構築されている。

**生活面** 黒色土B層が主体である。

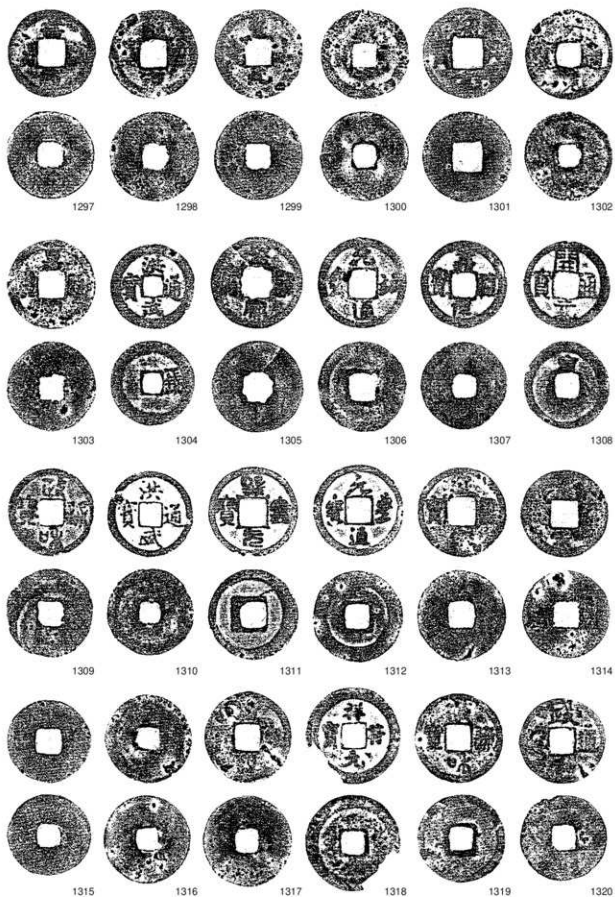
**ピット** 2か所。深さは88cmと77cmで、性格不明である。

**土坑(第470図)** 第385号土坑は北部、第387号土坑は南部に位置している。ともに長径0.8m、短径0.7mの楕円形と推測される。黒色土の厚さは第385号土坑が12cm、第387号土坑が4cmである。

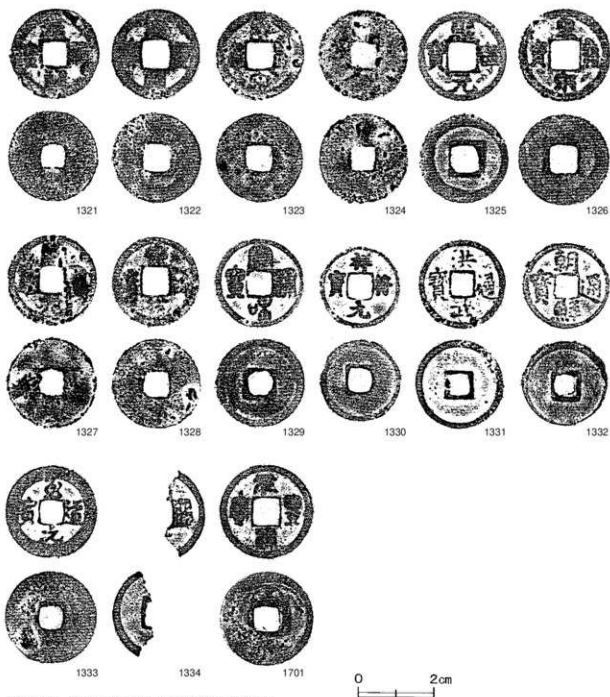


第470図 第16号整地面土坑土層図

**遺物出土状況** 土師質土器片9点(皿3、内耳鍋6)、金属製品38点(古銭)が出土している。1297～1333は中央部やや東寄りの位置からで、1297～1303、1308～1332は一括して出土し、1297～1303は銭文が不鮮明で判読できない。1332の「朝鮮通寶」が最新銭である。



第471図 第16号整地面出土遺物実測図(1) [古銭は原寸大]



第472図 第16号整地面出土遺物実測図(2)

第16号整地面出土遺物観察表(第471・472図)

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1297	□□□□	2.38	0.68	0.08	2.94	—	銅	判読不能、模鋳	北部	
1298	皇宋通寶	2.45	0.68	0.11	3.42	1038	銅	模鋳	北部	
1299	聖宋元寶	2.40	0.71	0.08	2.46	1101	銅	模鋳	北部	
1300	咸平元寶	2.37	0.60	0.08	2.24	998	銅	模鋳	北部	
1301	紹興元寶	2.41	0.80	0.08	1.78	1131	銅	模鋳	北部	
1302	宋通元寶	2.36	0.60	0.14	(3.72)	960	銅	模鋳	北部	
1303	□□□□	2.43	0.66	0.11	(3.42)	—	銅	判読不能、模鋳	北部	
1304	洪武通寶	2.29	0.48	0.11	3.56	1368	銅	真書、背「一銭」	北部	
1305	皇宋通寶	2.50	0.79	0.09	3.02	1038	銅	篆書、星形孔	東部	



番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1306	元祐通寶	2.38	0.65	0.11	3.14	1086	銅	行書	南部	
1307	嘉祐元寶	2.35	0.60	0.10	3.12	1056	銅	篆書	北部	
1308	開元通寶	2.34	0.60	0.12	3.12	845	銅	真書。背上「口」	北部	
1309	政和通寶	2.37	0.63	0.09	2.78	1111	銅	篆書	北部	
1310	洪武通寶	2.34	0.56	0.13	3.54	1368	銅	真書	北部	
1311	熙寧元寶	2.42	0.69	0.12	3.32	1068	銅	篆書	北部	
1312	元豐通寶	2.43	0.65	0.10	3.22	1078	銅	行書	北部	
1313	皇宋通寶	2.38	0.68	0.11	3.36	1038	銅	真書	北部	
1314	皇宋通寶	2.39	0.68	0.07	(2.74)	1038	銅	模鑄	北部	
1315	—	2.22	0.63	0.09	2.50	—	銅	無文銭	北部	
1316	—	2.37	0.53	0.13	(3.16)	—	銅	模鑄	北部	
1317	—	2.41	0.62	0.11	3.08	—	銅	模鑄	北部	
1318	祥符元寶	2.58	0.56	0.13	(3.80)	1008	銅	真書。欠け	北部	
1319	政和通寶	2.40	0.60	0.11	3.90	1111	銅	分幣	北部	
1320	政和通寶	2.36	0.64	0.08	2.74	1111	銅	分幣	北部	
1321	元祐通寶	2.41	0.59	0.09	3.00	1086	銅	模鑄	北部	
1322	元豐通寶	2.39	0.70	0.12	3.68	1078	銅	模鑄	北部	
1323	皇宋通寶	2.37	0.65	0.06	1.56	1038	銅	模鑄	北部	
1324	—	2.37	0.60	0.12	(3.04)	—	銅	判読不能	北部	
1325	熙寧元寶	2.37	0.68	0.11	2.86	1068	銅	真書	北部	
1326	皇宋通寶	2.46	0.71	0.13	4.02	1038	銅	真書	北部	
1327	開元通寶	2.42	0.60	0.14	3.14	621	銅	模鑄	北部	
1328	□□□□	2.38	0.71	0.10	2.98	—	銅	判読不能。模鑄	北部	
1329	宣和通寶	2.40	0.67	0.11	3.16	1119	銅	篆書	北部	
1330	祥符元寶	2.16	0.58	0.10	2.38	1008	銅	真書	北部	
1331	洪武通寶	2.39	0.56	0.15	3.90	1368	銅	真書	北部	
1332	朝鮮通寶	2.32	0.51	0.13	3.26	1423	銅	真書	北部	
1333	至道元寶	2.48	0.56	0.09	3.20	995	銅	行書	北部	
1334	□□通□	—	—	0.12	(1.14)	—	銅	篆書。欠け	覆土中	
1701	元豐通寶	2.50	0.65	0.12	4.90	1078	銅	篆書	SK387内	

#### 第17号整地面 4区HK-9 (第473図)

位置 調査区北部E13d3区を中心に位置している。

確認状況 表砂を約6.5m除去後、標高約5.8mから黒色土面を確認した。上面はほぼ平坦である。北東部には第35号貝集積地が確認されている。

規模と施設 黒色土の範囲は南北6.5m、東西3.0mの不定形である。

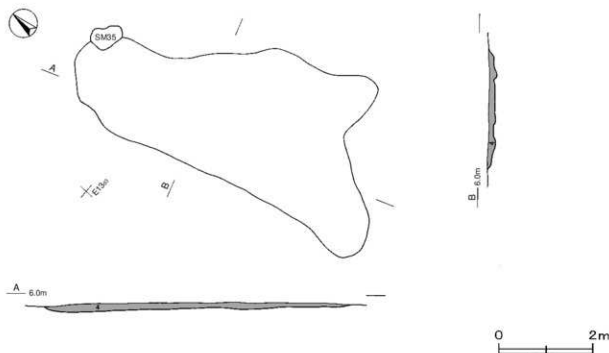
生活面 単一層で、厚さ16cmの黒色土B層である。

貝集積地 長径0.7m、短径0.4mの不定形を呈している。

#### 第35号貝集積地出土具種一覧表

No.	具種	重さ	比率	股頂数	備考	No.	具種	重さ	比率	股頂数	備考
1	サルボウガイ	2.0	0.47	1		4	コタマガイ	10.0	2.37	3	
2	ペンケイガイ	10.0	2.37	1		5	イタボガキ属細片	80.0	18.96		
3	マツカサガイ	20.0	4.74		淡水	6	ウバガイ細片	300.0	71.09		

遺物出土状況 不明金属製品1点が出土している。



第473図 第17号整地面実測図

#### 第18号整地面 4区HK-13 (第474～477図)

**位置** 調査区北部 E1365区を中心に位置している。

**確認状況** 表砂を約8m除去後、標高約5.2～5.4mから黒色土面を確認した。南部に向かって緩やかに傾斜している。

**規模と施設** 東部が調査区域外に伸びているため、黒色土の範囲は南北7.5m、東西5mだけが確認された。第439号土坑が構築されている。

**生活面** 単一層で、厚さ4～10cmの黒色土B層である。層厚は北部が南部よりやや厚く整地されている。

**ピット** 3か所。深さは20～32cmで、性格不明である。

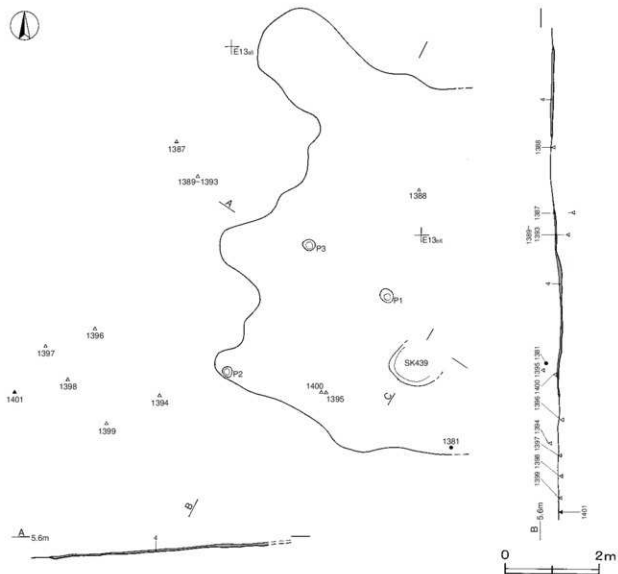
**土坑 (第474図)** 黒色土面の南東部に構築されている。

残存状況が悪く、南部だけが検出された。

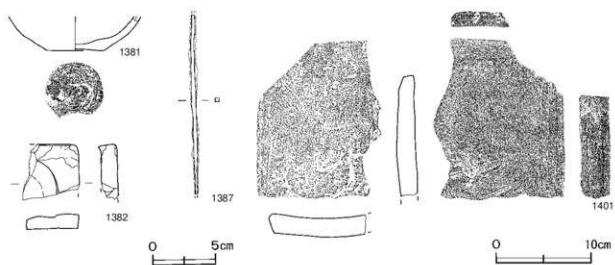


第474図 第18号整地面土坑土層図

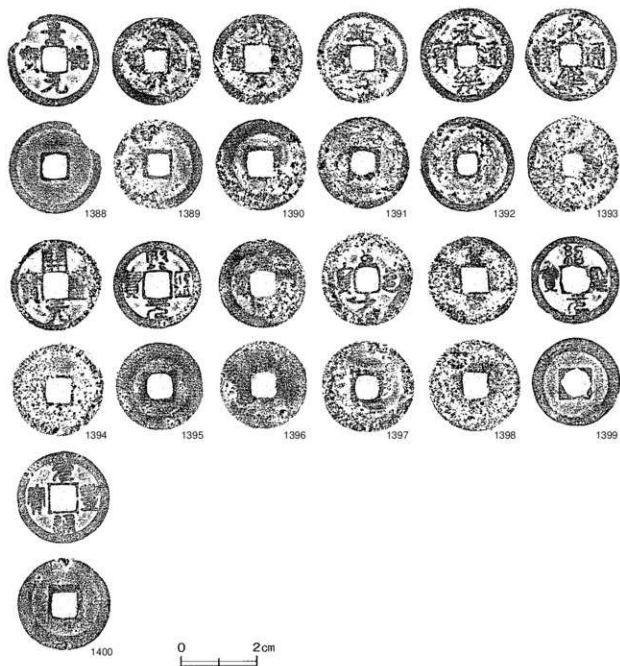
**遺物出土状況** 土師質土器片25点(皿21, 内耳鍋4), 陶器片1点(甕), 石製品1点(碇), 金属製品14点(棒状金具1, 古銭13), 平瓦片1点が出土している。1381は東部の覆土中, 1382は覆土中, 1388・1395・1400は黒色土面や覆土中からそれぞれ出土している。その他の古銭は南部から西部の砂層から散在した状態で出土している。1389～1393は西部の砂層からまとめて出土しており, 1392・1393の「永樂通寶」が最新銭である。



第475图 第18号整地面实测图



第476图 第18号整地面出土遗物实测图(1)



第477図 第18号整地而出土遺物実測図(2)

第18号整地而出土遺物観察表(第476・477図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1381	皿	土師質土器	-	(2.7)	4.6	長石	橙	普通	底部回転糸切り	東部雑土中	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
1382	碗	(4.4)	(4.6)	1.3	(34.0)	泥岩	表面研磨, 海部残存	覆土中	
1387	棒状金具	(14.3)	0.4	0.3	(7.4)	鉄	断面方形, 両端部欠損	西部砂層	
1401	平瓦	(12.8)	(10.2)	1.9	(380.0)	長石・雲母	狭端面残存, 凸面離れ砂	南西部砂層	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1388	景徳元寶	2.48	0.63	0.10	(3.12)	1004	銅	真書、欠け	東部黒色土中	
1389	洪武通寶	2.37	0.53	0.20	3.72	1368	銅	真書	西部砂層	
1390	紹聖元寶	2.43	0.65	0.12	3.20	1094	銅	模跡	西部砂層	
1391	政和通寶	2.46	0.59	0.16	3.46	1111	銅	分幣	西部砂層	
1392	永樂通寶	2.49	0.47	0.11	3.92	1408	銅	真書	西部砂層	
1393	永樂通寶	2.52	0.53	0.11	3.54	1408	銅	真書	西部砂層	
1394	開元通寶	2.44	0.68	0.15	2.92	845	銅	真書	南西部砂層	
1395	熙寧元寶	2.38	0.67	0.13	3.20	1068	銅	篆書	東部覆土中	
1396	開元通寶	2.36	0.63	0.10	3.00	621	銅	模跡	南西部砂層	
1397	至道元寶	2.57	0.56	0.13	3.32	995	銅	草書	南西部砂層	
1398	皇宋通寶	2.41	0.65	0.13	2.96	1038	銅	模跡	南西部砂層	
1399	紹聖元寶	2.36	0.70	0.12	3.12	1094	銅	篆書、星形孔	南西部砂層	
1400	元豊通寶	2.48	0.69	0.11	3.70	1078	銅	篆書	東部黒色土面	

### 第19号整地面 4区HK-14 (第478~480図)

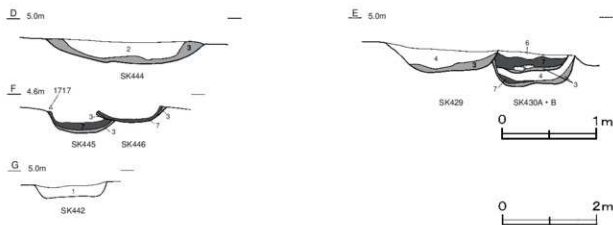
位置 調査区北部D132区を中心に位置している。

確認状況 表砂を6.5m除去後、標高約4.8mから第1次面である黒色土面2か所を確認した。

規模と施設 西部が調査区域外に延びているため、確認された黒色土の範囲は第1次面は2か所で、南北4.7~6.8m、東西2.9~3.5m、第2次面は南北14.5m、東西3.3m、第3次面は南北8.7m、東西3.5mである。第429・430A・430B・442・444~446号土坑が構築されている。

生活面 第1~3次面は厚さ約4~6cmの黒色土を貼り付けている。土層断面図中、第3層は黒色土A層で、黒色土A層間には第2層の砂B層、第4層の黒色土B層が入っている。この層を境に第1~3次面を分けた。

土坑(第478図) 第429・430A・430B・444~446号土坑は北部、第442号土坑は南部に構築されている。検出状況から第444号が第1次面、第429・430A・430B・442号土坑は第2次面、第445・446号土坑は第3次面に伴うと判断した。第430A・445・446号土坑は粘土と黒色土で構築されている。

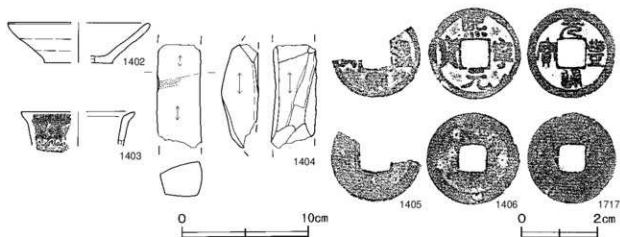


第478図 第19号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片9点(皿5, 内耳鍋3, 香炉1), 石器2点(砥石), 金属製品5点(古銭2, 不明3)が出土している。1402・1403は覆土中からの出土で、1403は口縁部のみである。1405は北部の2次面、1406は覆土中、1717は第445号土坑内からそれぞれ出土している。1406は「熙寧元寶」、1717は「元豊通寶」で、1405の銭種は判別できなかった。



第479图 第19号整地面实测图



第480図 第19号整地面出土遺物実測図

第19号整地面出土遺物観察表 (第480図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1402	皿	土師質土器	[10.2]	3.2	[5.4]	長石・赤色粒子	明焼灰	普通	底部回転糸切り、内外面ナデ	覆土中	20%
1403	香炉	土師質土器	[9.0]	(2.7)	—	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部菱形のスタンプ文	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1404	砥石	(8.2)	3.5	2.9	(104.6)	凝灰岩	砥面4面、斜めの砥面あり	北部2次面	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1405	皇宋通寶	2.36	0.80	0.09	(1.44)	1038	銅	欠け、模跡	北部2次面	
1406	熙寧元寶	2.45	0.68	0.11	3.40	1068	銅	真書	覆土中	
1717	元豊通寶	2.37	0.72	0.08	2.80	1078	銅	篆書	SK445内	

### 第24号整地面 4区HK-19 (第481~483図)

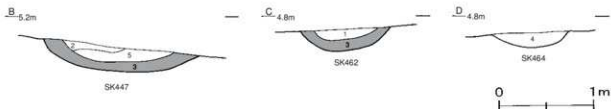
位置 調査区中央部 E13c3区を中心に位置している。

確認状況 表砂を約7m除去後、標高約5.4mから黒色土面を確認した。南部はやや凸凹がある。本跡の下層から、1基の土壇墓が確認されている。

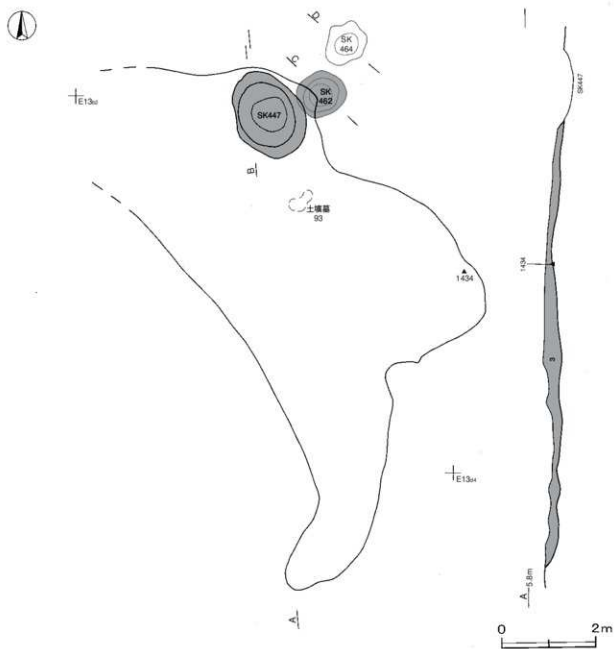
規模と施設 北西部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は南北10m、東西6mだけ確認された。北西方向に延びる不定形である。第447・462・464号土坑が構築されている。

生活面 黒色土Aが主体の層である。黒色土の厚さは、最大で40cmである。

土坑 (第481図) 3基とも北部に構築されている。第447号土坑は第1次面、第462・464号土坑は黒色土面を除去した層から検出された。第447・462号土坑は厚さ13cmの黒色土で構築されている。第464号土坑の覆土は黒色土B層である。

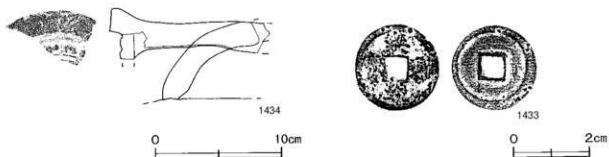


第481図 第24号整地面土坑土層図



第482図 第24号整地面実測図

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿3, 内耳鍋1), 金属製品1点(古銭), 軒丸瓦片1点が出土している。1434は東部の黒色土面下, 1433は「洪武通寶」で覆土中からそれぞれ出土している。



第483図 第24号整地面出土遺物実測図

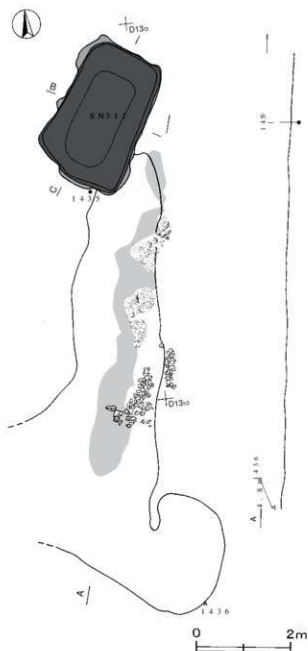


第24号整地面出土物観察表 (第481~483図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
1434	軒丸瓦	(12.1)	(4.3)	2.35	(350)	長石・石英・雲母	外面へう削り, 内面布目煎	東部黒色土下	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1433	洪武通寶	2.24	0.52	0.16	3.40	1368	銅	真書	覆土中	

第25号整地面 4区HK-20 (第484~486図)



第484図 第25号整地面実測図

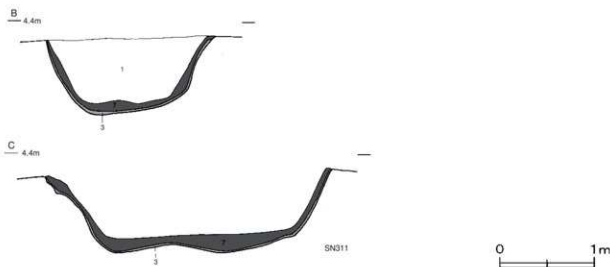
**位置** 調査区北部D13g2区を中心に位置している。

**確認状況** 表砂を約7m除去後、標高約4.3mから黒色土面を確認した。上面はほぼ平坦であり、北部からは粘土貼土坑が確認された。中央部には黒色土面に沿って磁片や灰、炭化材が検出された。

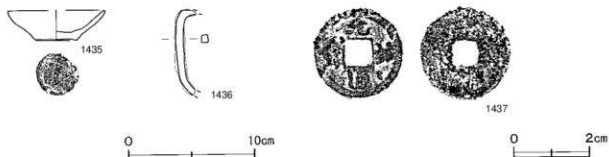
**規模と施設** 黒色土の範囲は南北9m、東西3mで、南北に延びている。南西部の黒色土面は西へ延びる可能性がある。北部に第311号粘土貼土坑が構築されている。

**粘土貼土坑**(第485図) 第311号粘土貼土坑は、粘土の厚さは5~17cm、黒色土は3cmである。

**遺物出土状況** 土師質土器片30点(Ⅲ29, 内耳鍋1), 金属製品2点(耳金カ, 古銭), 獣骨片が出土している。1435は破砕した状態で北部の砂層, 1436は南東部の覆土中からそれぞれ出土している。1437は「元祐通寶」で、覆土中から出土している。



第485図 第25号整地面粘土貼土坑土層図



第486図 第25号整地面出土遺物実測図

第25号整地面出土遺物観察表 (第486図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1435	小皿	土師質土器	[7.6]	2.4	3.2	黄母・赤色粘土	にぶい橙	普通	底部回転糸切り、内外面ナブ	北部砂層	30%

番号	器種	幅	奥行	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1436	耳金カ	(6.8)	0.6	0.6	(16.6)	鉄	断面方形、両端部屈曲し欠損	南東部覆土中	

番号	種別	径	孔幅	厚さ	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1437	元結通寶	2.39	0.67	0.09	3.12	1086	銅	行書	覆土中	

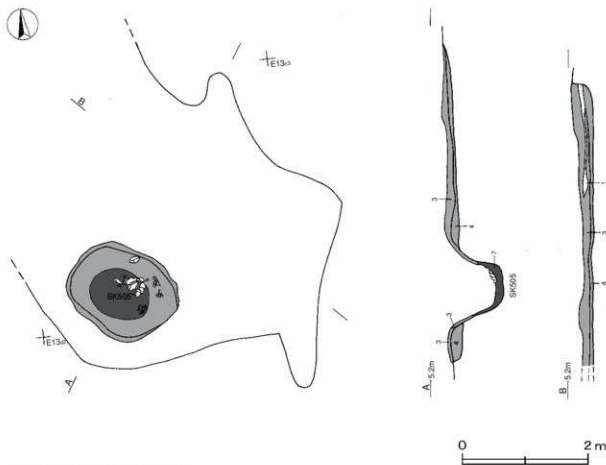
#### 第27号整地面 4区HK-23 (第487図)

**位置** 調査区中央部 E13c2区を中心に位置している。

**確認状況** 表砂を7m除去後、標高約5mから黒色土面を確認した。上面はほぼ平坦である。

**規模と施設** 北西部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は南北5m、東西4mだけ確認できた。第505号土坑が構築されている。

**生活面** 厚さ約2~10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中、第3層は黒色土A層、第4層は黒色土B層である。



第487図 第27号整地面実測図

土坑 長軸1.7m、短軸1.4mの隅丸長方形で、南部に位置している。底面からは炭化材や礫が検出されている。

#### 第28号整地面 4区HK-25 (第488～490図)

位置 調査区北部D13h3区を中心に位置している。

重複関係 西部の上層には第19号整地面が位置している。

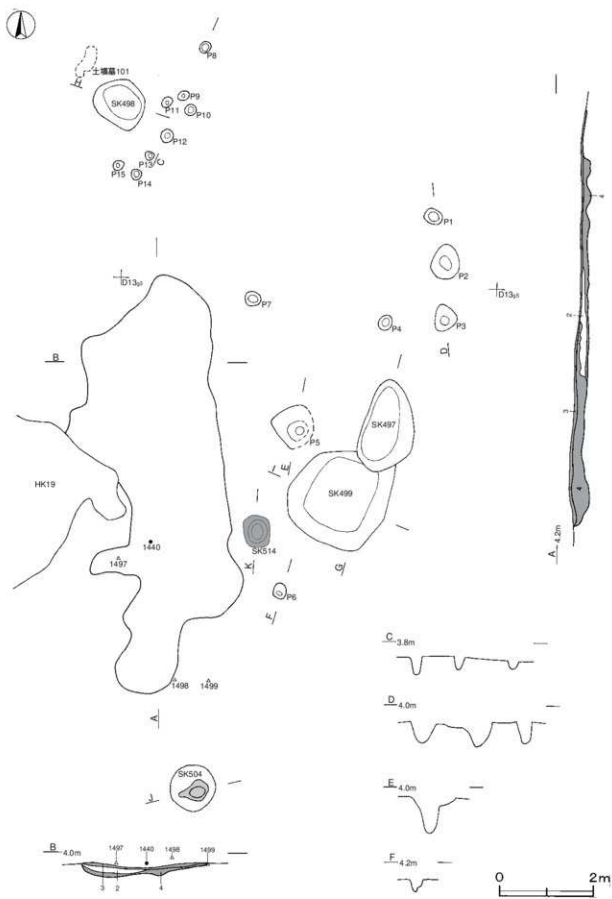
確認状況 表砂を約7m除去後、標高約3.7～3.9mから黒色土面を確認した。上面は北部に向かって緩やかに傾斜している。黒色土の周辺からは土坑が確認され、本跡の下層から、第101号土壙墓が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は南北9m、東西3mの南北に延びる不定形である。北部には第498号土坑、東部には第497・499・514号土坑、南部には第504号土坑が構築されている。

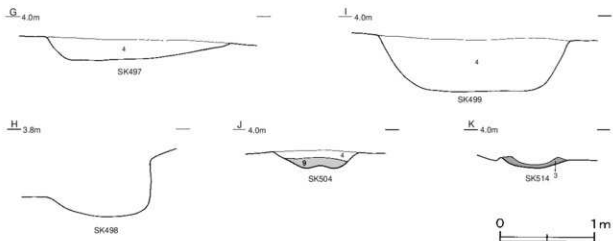
生活面 3層に分層される。上層が厚さ2～6cmの黒色土A層、下層が厚さ最大30cmの黒色土B層と砂B層である。

ピット 15か所。P1～P7の深さは32～66cmで、黒色土面の東側に位置している。P8～P15の深さは15～50cmで、黒色土面の北側に位置している。いずれも性格不明である。

土坑 (第489図) 5基とも砂を掘り込んで構築されている。第498号土坑は黒色土面の北側、第497・499・514号土坑は黒色土面の東側、第504号土坑は黒色土面の南側に位置している。第504号土坑の底面からは灰層が確認された。

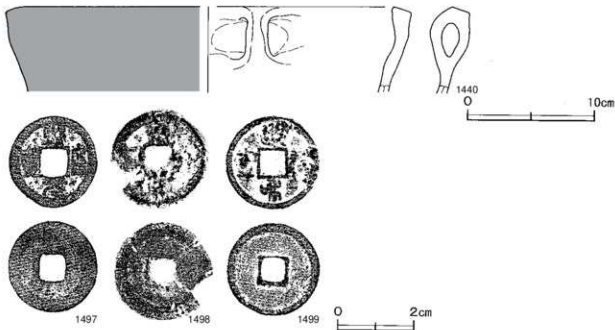


第488图 第28号整地面实测图



第489図 第28号整地面土坑土層・断面図

遺物出土状況 土師質土器片24点(皿1, 内耳鍋22, 鉢1), 陶器片4点(甕), 金属製品3点(古銭)が出土している。1440・1497は黒色土面中央部の覆土中, 1498・1499は南部の砂層からそれぞれ出土している。出土古銭はいずれも銭文が不鮮明である。



第490図 第28号整地面出土遺物実測図

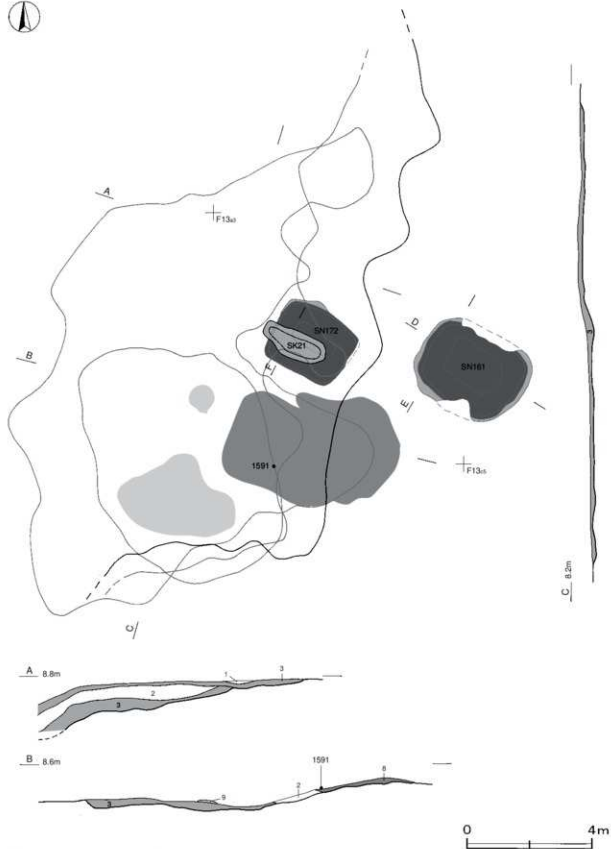
第28号整地面出土遺物観察表 (第490図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1440	内耳鍋	土師質土器	[29.2]	(6.8)	—	長石	にぶい橙	普通	ナデ, 外面煤付着	黒色土覆土中	5%

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1497	熊掌元寶	2.40	0.70	0.06	3.28	1068	銅	篆書	南部黒色土面	
1498	□□□□	2.52	0.60	0.15	(3.44)	—	銅	判読不能, 鑄がひどい, 欠け	南部砂層	
1499	政和通寶	2.49	0.62	0.19	4.04	1111	銅	篆書	南部砂層	

第29号整地面 4区HK-29 (第491~493図)

位置 調査区中央部 F13a3区を中心に位置している。



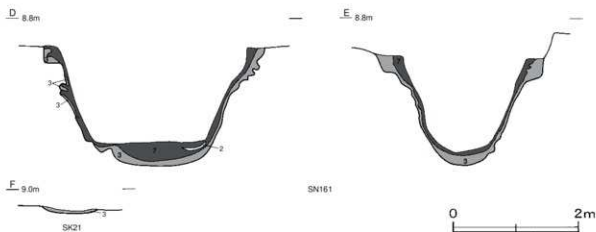
第491図 第29号整地面実測図

**確認状況** 表砂を5.5m除去後、標高約8.7mから第1次面である黒色土面を確認した。西に向かって傾斜しており、黒色土面から土坑1基が確認された。下層から第2・3次面の黒色土面が確認され、鹹水槽や焼砂、灰の広がる範囲が確認された。

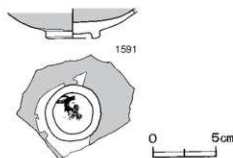
**規模と施設** 西部が大きく削平されており、黒色土の範囲は1次面が南北16m、東西8m、第2次面が南北14m、東西8m、第3次面が南北7.5m、東西5.5m、第4次面が南北16m、東西8mが確認できた。第161号粘土貼土坑は第2次面、第21号土坑は第1次面から確認されている。

**生活面** 黒色土の厚さは第1次面が6～18cm、第2次面が10～38cm、第3次面が最大で25cm、第4次面が最大で10cmである。土層断面図中、第3層は黒色土Aの主体の層、第8層は焼砂層、第9層は灰層である。第1次面と第2次面の間には30cmの砂B層が入っている。

**土坑** (第492図) 第161号粘土貼土坑は東部の砂層中で、第2次面とほぼ同じ標高から検出された。平面形は長軸約3.5m、短軸約3mの隅丸長方形で、深さは1.5mである。土層断面図から、長軸方向を拡張し、造り替えを行っていると考えられる。第21号土坑は第1次面中から検出され、底部のみの残存であった。



第492図 第29号整地面粘土貼土坑・土坑土層図



第493図 第29号整地面出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片19点(皿1、内耳鍋18)、陶器片1点(皿)が出土している。1591は3次面の覆土中から出土しており、高台内には「×」と朱書きされている。高台は露胎で、明代の製品と推測される。土師質土器片は細片のため、図示できなかった。

第29号整地面出土遺物観察表 (第493図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・輪薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1591	皿	磁器	—	(2.4)	4.4	灰白・灰白	白磁	底部高台内「×」	明代、15C前半	3次面覆土中	PL38

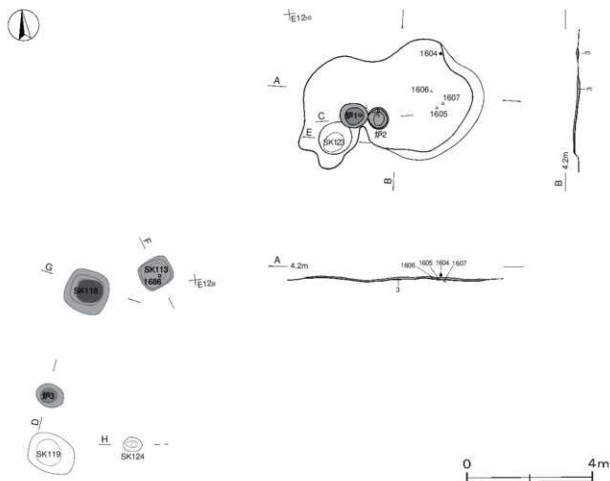
### 第30号整地面 4区HK-31 (第494~497図)

**位置** 調査区中央部 E12h0区を中心に位置している。

**確認状況** 表砂を約4 m除去後、標高約3.9mから黒色土面を確認した。上面はほぼ平坦である。

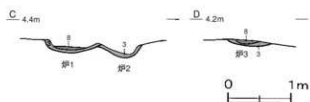
**規模と施設** 黒色土の範囲は狭く、南北3 m、東西4.5m だけである。炉3基、土坑5基が構築されている。

**生活面** 単一層である。黒色土Aが主体で、黒色土の厚さは6~8 cm である。



第494図 第30号整地面実測図

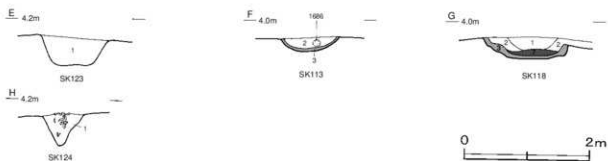
**炉 (第495図)** 第1・2号炉は黒色土面、第3号炉は南西部の砂層から確認されている。第1・2号炉は厚さ5 cmの黒色土を貼り付けて構築されている。第1号炉は第2号炉より新しく、第1号炉の底面から焼砂が確認されている。第3号炉の底面の厚さは2 cmで、焼砂が確認されている。



第495図 第30号整地面炉土層図

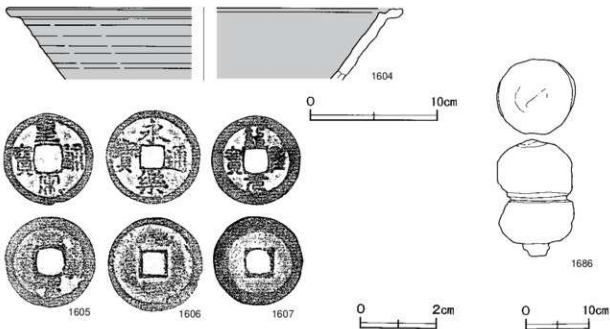
**土坑 (第496図)** 第123号土坑は黒色土面、第113・118・119・124号土坑は南西部の砂層から確認されている。第118号土坑の底面には粘土層が確認されている。第113号土坑は厚さ5 cmの黒色土を貼り付けて構築されている。





第496図 第30号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿2, 内耳鍋1), 陶器片1点(皿), 金属製品3点(古銭)が黒色土面から出土している。1686の五輪塔空風輪部は第113号土坑, 貝片は第124号土坑から出土している。1604は黒色土面から出土しており, 体部から口縁部にかけての折縁深皿の破片である。1605~1607の3枚は黒色土面中から出土しており, 1606の「永樂通寶」が最新銭である。



第497図 第30号整地面出土遺物実測図

第30号整地面出土遺物観察表 (第497図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	給付・軸葉	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1604	折縁深皿	陶器	[31.4]	(5.6)	—	灰白・オリーブ黄	灰軸	内外面施軸	瀬戸・美濃, 15C中	黒色土面	古瀬戸後期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1686	五輪塔	18.7	12.4	11.4	(2.180)	砂岩	空・風輪部 ホゾ残存	SK113内	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1605	皇宋通寶	2.43	0.78	0.09	(2.42)	1038	銅	篆書	黒色土中	
1606	永樂通寶	2.51	0.62	0.15	4.32	1408	銅	真書	黒色土中	
1607	紹聖元寶	2.41	0.65	0.10	3.32	1094	銅	篆書	黒色土中	

第31号整地面 2区SX-3 (第498~500図)

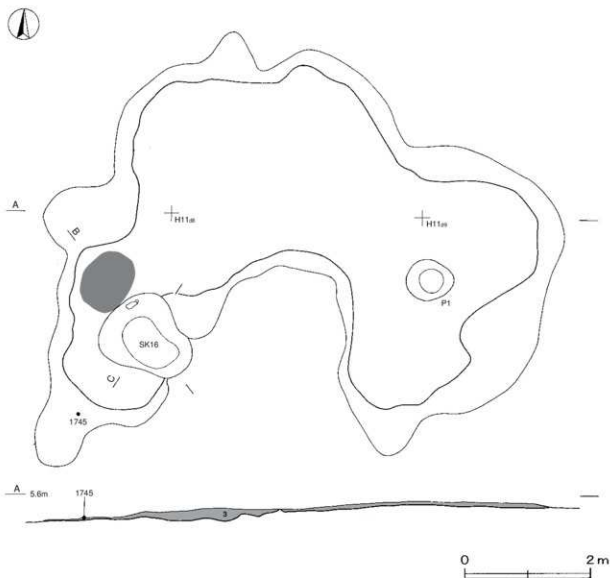
位置 調査区中央部 H11d8区を中心に位置している。

確認状況 表砂を3 m除去後、標高約5.2~5.4mから黒色土面を確認した。上面はほぼ平坦であるが、西部がやや緩やかに傾斜している。南西部からは焼土が検出された。

規模と施設 黒色土の範囲は南北7.5m、東西7 mの不定形である。第16号土坑が構築されている。

生活面 厚さ約4~20cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中、第3層は構築された黒色土A層である。

ピット 1か所。深さ11cmで、性格不明である。

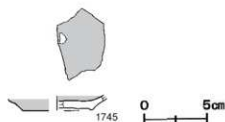


第498図 第31号整地面実測図

土坑 (第499図) 第16号土坑は、長径1.4m、短径1.3mの不定形で、南西部に位置している。



第499図 第31号整地面土坑土層図



第500図 第31号整地面出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片6点(皿2, 内耳第4), 陶器片1点(皿), 礫1点が出土している。1745は南西部の黒色土中から出土しており, 瀬戸・美濃産である。底部には輪トチン痕が確認され, 大窯Ⅲ期の製品と推測される。土師質土器片は細片のため図示できなかった。

第31号整地面出土遺物観察表 (第500図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1745	端反皿	陶器	—	(1.1)	[5.6]	灰白・灰オリーブ	灰輪	輪トチン痕	瀬戸・美濃, 16C前半	南西部黒色土中	10% 大窯Ⅲ期

### 第32号整地面 2区SX-8 (第501~504図)

**位置** 調査区中央部 H11h1区を中心に位置している。

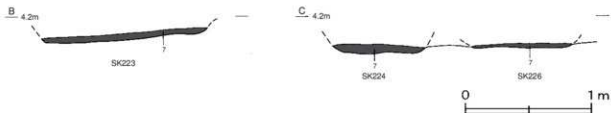
**確認状況** 表砂を約4m除去後, 標高約4.3~4.4mから黒色土面を確認した。上面はほぼ平坦で, 焼砂と土坑3か所, ビット2か所が確認された。

**規模と施設** 西部が調査区域外に延びているため, 黒色土の範囲は南北8m, 東西4.5mだけが確認された。第223・224・226号土坑が構築されている。

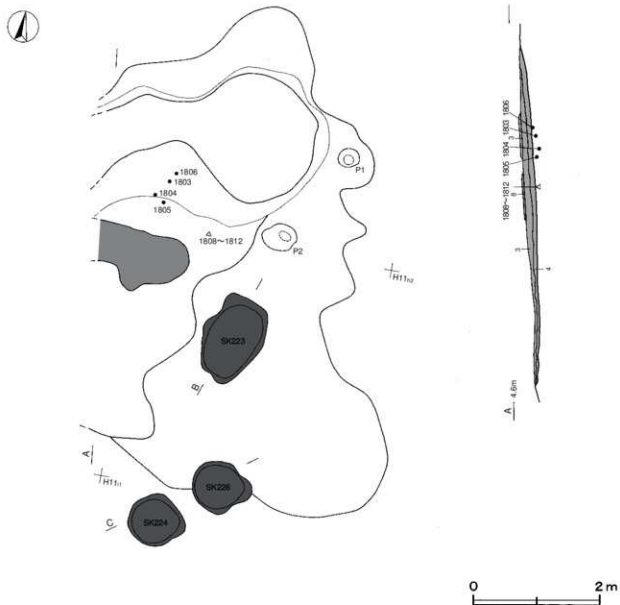
**生活面** 2層に分層される。上層が厚さ4cmの黒色土A層, 下層が厚さ2~10cmの黒色土B層である。北部は締まりのある黒色土A層で, 高まりをもっている。

**ビット** 2か所。深さは43cmと39cmで, 性格不明である。

**土坑 (第501図)** 3基とも粘土で構築され, 底部だけが検出された。なお性格については不明である。



第501図 第32号整地面土坑土層図

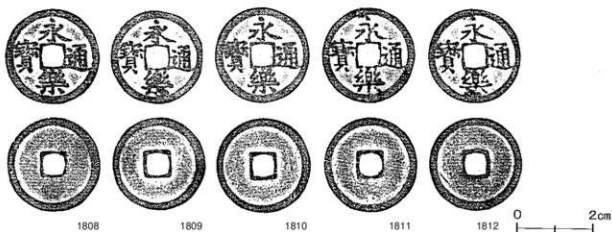


第502図 第32号整地面実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片46点(皿), 陶器片1点(皿), 礎1点, 金属製品7点(耳金1, 古銭5, 不明1)が中央部の黒色土B層を除去した層から出土している。1803~1806はほぼまとめて出土している。これらの底部は回転糸切り痕を残し, 内面底部には指ナデ痕も見られる。1808~1812はまとめて出土しており, 5枚とも「永樂通寶」で, 銭文は鮮明である。



第503図 第32号整地面出土遺物実測図(1)



第504図 第32号整地面出土遺物実測図(2)

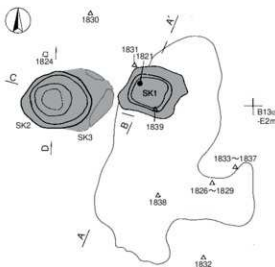
第32号整地面出土遺物観察表 (第503・504図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1803	小皿	土師質土器	5.9	1.8	3.2	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り, 底部内面指ナズ	中央部黒色土下	108% PL44
1804	小皿	土師質土器	6.0	1.7	3.8	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り, 底部内面指ナズ	中央部黒色土下	80% PL44
1805	小皿	土師質土器	6.4	2.0	3.4	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り, 底部内面指ナズ	中央部黒色土下	9% PL44
1806	小皿	土師質土器	6.1	1.9	4.3	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り, 底部内面指ナズ	中央部黒色土下	9% PL44

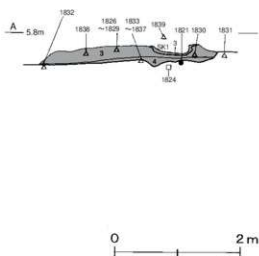
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1808	永樂通寶	2.49	0.55	0.11	3.84	1408	銅	真書	中央部黒色土下	
1809	永樂通寶	2.46	0.57	0.11	4.08	1408	銅	真書	中央部黒色土下	
1810	永樂通寶	2.50	0.54	0.11	3.98	1408	銅	真書	中央部黒色土下	
1811	永樂通寶	2.48	0.57	0.10	3.52	1408	銅	真書	中央部黒色土下	
1812	永樂通寶	2.44	0.57	0.10	3.46	1408	銅	真書	中央部黒色土下	

第33号整地面 3区SX-3 (第505~508図)

位置 調査区北部B13E2区を中心に位置している。



第505図 第33号整地面実測図

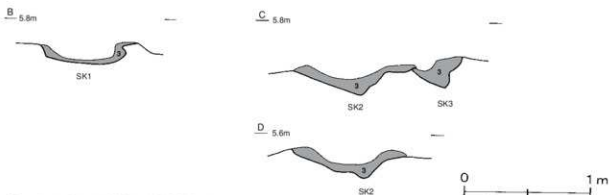


**確認状況** 表砂を約3m除去後、標高約5.3mから土坑3基を確認した。20cm下層からは小範囲の黒色土面が確認された。

**規模と施設** 黒色土面の範囲は、南北3.6m、東西2.5mである。第1～3号土坑が構築されている。

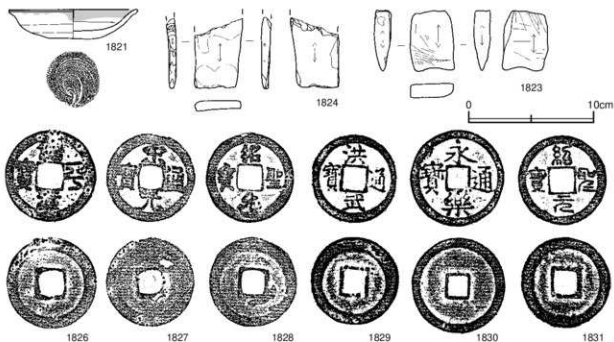
**生活面** 第1号土坑を構築する際に整地された厚さ約20cmの黒色土B層と下層の厚さ4cmの黒色土A層からなる。

**土坑(第506図)** 第1・2号土坑は第1次面、第3号土坑は第2次面から検出された。第2号土坑は第3号土坑を造り替えたものである。第1号土坑は厚さ6cm、第2・3号土坑は厚さ10cmの黒色土で構築されている。灰や焼砂は検出されていない。

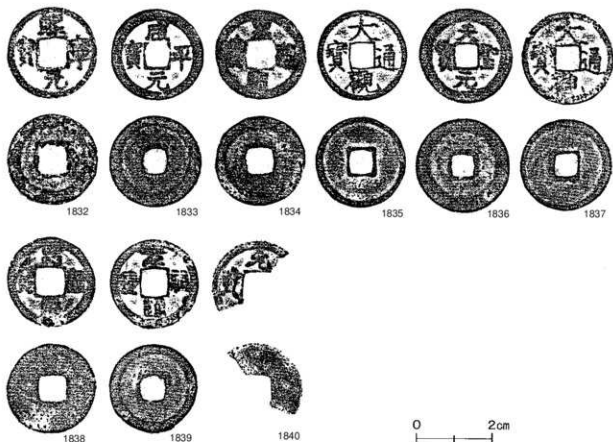


第506図 第3号整地面土坑土層切

**遺物出土状況** 土師質土器片112点(皿9、内耳鍋103)、陶器片1点(皿)、石器2点(砥石)、金属製品14点(古銭)が遺構内から散在して出土している。1821は瀬戸・美濃産で第2次面下から出土している。1826～1831・1838は黒色土A層中、1832～1837は第2次面下から出土している。古銭の中で、1830の「永樂通寶」が最新銭である。



第507図 第3号整地面出土遺物実測図(1) [古銭は原寸大]



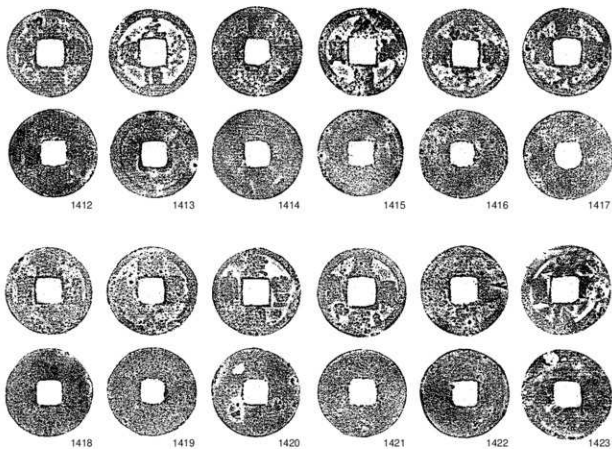
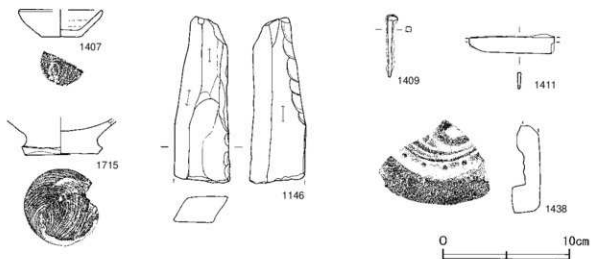
第508図 第33号整地面出土遺物実測図(2)

第33号整地面出土遺物観察表(第507・508図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1821	緑釉小皿	陶器	10.2	2.4	4.1	灰白・灰オリーブ	灰軸	底部回転糸切り	瀬戸・美濃、15C後半	中央部黒色土下	88 3重戸内書1.23

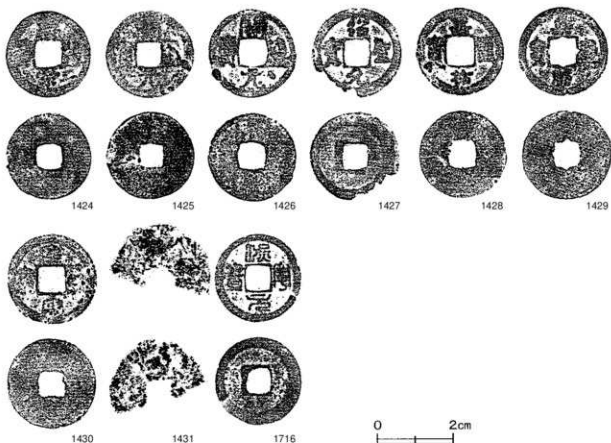
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1823	砥石	4.8	3.5	1.3	32.3	凝灰岩	砥面4面, 断面四角形	覆土中	
1824	砥石	(5.6)	3.8	0.8	(23.2)	滑石	砥面4面, 断面四角形	北西部砂層	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
1826	治平元寶	2.40	0.67	0.13	4.02	1064	銅	篆書	中央部黒色土中	
1827	宗通元寶	2.35	0.59	0.08	(2.30)	960	銅	真書	中央部黒色土中	
1828	紹聖元寶	2.36	0.68	0.13	3.94	1094	銅	行書	中央部黒色土中	
1829	洪武通寶	2.30	0.60	0.14	3.82	1368	銅	真書	中央部黒色土中	
1830	永樂通寶	2.52	0.55	0.11	3.54	1408	銅	真書	北西部砂層	
1831	紹聖元寶	2.39	0.61	0.13	4.34	1094	銅	篆書	北部砂層	
1832	熙寧元寶	2.41	0.73	0.14	3.66	1068	銅	真書	南部砂層	
1833	咸平元寶	2.44	0.67	0.08	3.02	998	銅	真書	東部砂層	
1834	皇宋通寶	2.37	0.71	0.09	2.66	1038	銅	真書, 星形孔	東部砂層	
1835	大觀通寶	2.40	0.57	0.10	3.38	1107	銅	真書	東部砂層	
1836	天聖元寶	2.49	0.61	0.11	4.48	1023	銅	真書	東部砂層	
1837	大觀通寶	2.42	0.59	0.13	4.14	1107	銅	真書	東部砂層	
1838	□□□□	2.37	0.68	0.11	2.32	—	銅	判読不能, 模鑄	中央部黒色土中	
1839	元祐通寶	2.73	0.68	0.09	3.32	1086	銅	篆書	中央部覆土中	
1840	元□□寶	—	—	0.10	(1.38)	—	銅	行書, 欠け	覆土中	



第509図 その他の整地面出土遺物実測図(1) [古銭は原寸大]





第510図 その他の整地面出土遺物実測図(2)

その他の整地面出土遺物観察表(第509・510図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1407	小皿	土師質土器	[6.4]	2.2	3.2	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	HK20	45%
1145	内耳鉢	土師質土器	[34.6]	(13.0)	—	雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面保仔着	HK1	15%
1715	柱状高台	土師質土器	—	(2.8)	5.8	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	SK436 (HK18)	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
1146	砥石	(13.3)	4.4	2.2	(166.0)	滑石	紙面3面, 他は割離面	HK1	
1409	釘	5.0	0.9	0.5	4.6	鉄	断面方形, 折釘	HK20	
1411	小刀	(6.9)	1.3	0.3	(10.4)	鉄	刀身部・基部欠損	HK22	
1438	軒先瓦	(7.0)	(9.0)	2.3	(120.0)	石英・雲母	巴文, 珠文の間隔及び外縁幅広い	HK26	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1412	皇宋通寶	2.39	0.70	0.11	3.24	1038	銅	真書	HK22	
1413	元豊通寶	2.38	0.66	0.12	2.72	1078	銅	行書	HK22	
1414	元祐通寶	2.35	0.68	0.08	2.98	1086	銅	横鋳	HK22	
1415	元豊通寶	2.43	0.65	0.10	3.02	1078	銅	行書	HK22	
1416	熙寧元寶	2.41	0.66	0.10	3.36	1068	銅	真書	HK22	
1417	熙寧元寶	2.38	0.69	0.09	2.72	1068	銅	真書	HK22	
1418	開元通寶	2.34	0.69	0.08	2.56	621	銅	真書, 横鋳	HK22	
1419	開元通寶	2.42	0.68	0.09	2.60	621	銅	真書, 横鋳	HK22	
1420	元豊通寶	2.41	0.66	0.11	(2.98)	1078	銅	真書	HK22	
1421	皇宋通寶	2.38	0.73	0.10	3.28	1038	銅	真書	HK22	
1422	皇宋通寶	2.39	0.67	0.11	3.12	1038	銅	横鋳	HK22	
1423	□□□□	2.42	0.72	0.11	2.94	—	銅	判読不能, 横鋳, ゆがみ有り	HK22	
1424	皇宋通寶	2.28	0.71	0.07	1.90	1038	銅	真書	HK22	

番号	種別	径	孔幅	厚さ	重量	初録年	材質	特 徴	出土位置	備考
1425	開元通寶	2.35	0.65	0.09	2.36	845	銅	真書	HK22	
1426	開元通寶	2.34	0.72	0.08	2.86	845	銅	真書	HK22	
1427	紹聖元寶	2.39	0.67	0.11	(3.28)	1094	銅	真書、欠け	HK22	
1428	嘉祐通寶	2.34	0.71	0.07	3.12	1056	銅	真書	HK22	
1429	嘉祐通寶	2.38	0.73	0.10	2.86	—	銅	篆書、星形孔	HK22	
1430	皇宋通寶	2.39	0.68	0.09	3.42	1038	銅	篆書	HK22	
1431	□□□□	2.54	0.68	(0.21)	(2.22)	—	銅	判読不能。錆がひどい、欠け	HK22	
1716	熙寧元寶	2.32	0.68	0.08	2.16	1068	銅	篆書	SK436 (HK18)	

表12 整地面一覽表

番号	旧遺構番号	位置	主軸方向	標高	黒 色 土				内部施設	その他	備 考
					範囲(最大値) 長軸 (m)	短軸 (m)	形状	厚さ (cm)			
1	2区HK1	F1b3~G1e5	N-20°-E	4.6~5.4	49.4	12.8	不定形	—	SN5-6, SD1, SM1, 2, SX1, SK1, 2, 6, 9, 17, 18, 19	—	SK6-17, 18, 19, 22, 23, SK6-19以上土層
	2区HK2-(1)	H1e5~H1f7	N-43°-E	4.6~5.0	4.1	1.3	楕円形	2~18	—	—	—
	HK2-(2)	H1e5~H1f8	N-28°-E	4.6	4.0	2.8	不定形	2~12	—	—	—
	HK2-(3)	H1f8~H1g5	N-3°-W	4.7	5.0	2.4	不定形	4~12	SK27	—	—
	HK2-(4)	H1d4~H1e5	N-44°-E	4.8~5.0	3.3	2.7	不定形	2~18	SK34	—	—
	2区HK4-1(1次面)		N-50°-W	8.3	5.0	3.3	不定形	10~30	—	—	—
	2次面	H1b9	N-55°-W	8.0	4.2	3.0	不定形	8~20	集石2	—	—
	3次面		N-59°-W	7.5	7.6	4.0	不定形	90	SN18	—	—
5	2区HK11	G1i2-H1h2	N-19°-E	4.3	18.0	5.5	不定形	4~20	SK184	—	—
6	2区HK12	K11c7	N-78°-E	5.5	6.2	2.7	不定形	4~12	SK249	—	—
7	2区HK14	K12d0	N-40°-W	8.3	15.5	(8.2)	不定形	40~120	—	—	—
8	2区HK16	K11d4	N-56°-W	5.1	11.5	9.7	不定形	2~28	SK247・256・270・271	7	—
	2区HK17(1)	K11a2	N-73°-E	4.9	4.4	3.5	不定形	—	—	—	—
	2区HK17(2)	K11b3	N-0°	4.8	3.6	2.1	不定形	6~10	—	—	—
10	2区HK19	J11j4	N-40°-W	5.5	6.0	3.5	不定形	10~14	SK220, SM14	—	SH3(2次面), S12(1次面)
11	2区B, HK1	M12a5	N-7°-E	6.7	13.0	(6.1)	不定形	30	SK1	1	—
12	2区B, HK2	L12b6	N-14°-E	—	10.2	(2.8)	不定形	薄い	—	—	—
13	2区B, HK3	N12c1	N-4°-W	5.4	17.3	13.3	不 明	10~40	SN3~5, SK10	—	—
	3区HK1-1(1次面)		N-20°-E	5.8	6.0	4.2	不定形	4~17	SK14・17	1	—
	2次面	B12b0	N-90°-E	5.7	7.0	7.0	不 明	4~6	SK11・12・16	—	—
	3次面		N-61°-E	5.5	3.4	2.5	不定形	4~6	SK13・15	—	—
15	4区 HK2	D13j3	N-7°-E	5.1	4.5	1.6	不定形	32~40	—	—	—
16	4区 HK7	D13f4	N-12°-W	—	9.0	4.0	不定形	—	SK385・387	2	—
17	4区 HK9	E13d3	N-22°-W	5.8	6.5	3.0	不定形	16	SM35	—	—
18	4区HK13	E13b5	N-27°-E	5.2~5.4	7.5	(5.0)	不定形	4~10	SK439	3	—
	4区HK14-1(1次面)		N-5°-W	4.8	6.8	(2.9)	不定形	4~6	SK444	—	—
	2次面	D13k2	N-19°-W	4.7	14.5	(3.3)	不定形	4~6	SK429・430A・B・442	—	—
	3次面		N-4°-W	4.4	8.7	3.5	不定形	4~6	SK445・446	—	—
20	4区HK15	D13g2-D13j3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	4区HK16	D13h4	N-21°-E	—	3.0	2.5	不定形	—	—	—	—
22	4区HK17	E13a4-D13c5	—	—	—	—	—	—	SK450, SM38	—	—
23	4区HK18	D13h4	N-0°	—	1.7	1.4	不定形	—	SK436	—	—
24	4区HK19	E13c3	N-75°-W	5.4	10.0	6.0	不定形	40	SK447(1次面)・462・464(2次面)	—	第93号土壕跡
25	4区HK20	D13g2	N-16°-E	4.3	9.0	3.0	不定形	—	SN311	—	—
26	4区HK21	D13h2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
27	4区HK23	E13c2	N-15°-E	5.0	5.0	4.0	不定形	2~10	SK505	—	—

番号	遺構番号	位置	主軸方向	標高	黒色土			形状	厚さ (cm)	内部施設	ピット	備考
					範囲 (最大値)	長軸 (m)	短軸 (m)					
28	4区HK25	D13b3	N-2°-W	3.7~3.9	9.0	3.0	不定形	36	SK497~499・504・514	15	第10号土壌層	
	4区HK29			8.7	(16.0)	(8.0)	不定形	6~18	SK21			
29	2次面	F13a3	N-12°-E	8.1	(14.0)	(8.0)	不定形	10~38	SN161			
	3次面			7.8	7.5	5.5	不定形	26	—			
	4次面	F13b5	N-55°-W	7.5	16.0	8.0	不定形	10	—			
30	4区HK31	E12b0	N-79°-W	3.9	3.0	4.5	不定形	6~8	炉1~3, SK113・118・119・123・124			
31	2区SX3	H11a8	N-61°-W	5.2~5.4	7.5	7.0	不定形	4~20	SK16		1	
32	2区SX8	H11b1	N-7°-E	4.3~4.4	8.0	(4.5)	不定形	取付部	SK223・224・226		2	
33	3区SX3	B13c2	N-8°-E	5.3	3.6	2.5	不定形	20	SK1・2(1次面)・SK3(2次面)		—	

表13 整地面内炉一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
HK30	1	E12b0	4.3	N-80°-W	0.9	0.8	15	楕円形	5	—	緩斜	平組	—	
	2	E12b0	4.3	N-80°-W	0.7	0.6	15	楕円形	7	—	緩斜	皿状	—	
	3	E12j7	3.9	N-8°-W	0.9	0.7	5	楕円形	3~7	—	緩斜	平組	—	

表14 整地面内粘土貼土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
HK1	SN5	F11e4	4.8	N-45°-W	1.8	1.3	26	隅丸長方形	1~5	4~10	外傾	平組	—	
	SN6	F11e4	4.9	N-51°-W	1.4	1.1	40	隅丸長方形	1~3	2~5	外傾	平組	—	
HK3	SN18	I12b9	8.2	N-70°-W	3.4	1.5	30	楕円形	3~12	4	緩斜	皿状	—	
	SN3	N11a0	5.6	N-40°-E	2.0	(1.3)	47	[楕円形]	6	6	外傾	平組	—	
HK13	SN4	N12e1	5.2	N-13°-W	[1.4]	[1.3]	55	[円形]	—	20	外傾	平組	—	
	SN5	N11a0	5.2	N-48°-W	1.7	1.6	45	楕円形	—	12	外傾	平組	—	
HK25	SN311	D13c2	4.1~4.2	N-33°-E	3.0	1.8	65	隅丸長方形	1~4	2~18	外傾	平組	—	
HK29	SN161	F13b5	8.4	N-55°-W	1.6	(0.8)	150	楕円形	10	5~30	外傾	平組	—	
	SN172	F13b3	7.8	N-62°-W	1.3	1.0	90	長方形	1~15	2~15	緩斜	平組	—	

表15 整地面内土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
HK1	SK1	G11d3	4.4	N-73°-W	0.7	[0.7]	11	[円形]	—	5~13	緩斜	皿状	—	
	SK2	G11e3	4.6	N-51°-E	1.4	1.3	30	円形	8~26	—	外傾	平組	—	
	SK7	F11e5	4.9	N-2°-W	1.0	(0.5)	51	[円形]	1~2	3~6	緩斜	皿状	—	
	SK8	F11e4	4.7	N-4°-E	0.6	0.6	42	円形	—	—	外傾	平組	—	
	SK9	F11e4	4.9	N-4°-W	1.6	1.5	61	円形	—	—	緩斜	皿状	—	
	SK17	G11a4	4.0	N-30°-E	1.9	1.5	67	楕円形	—	—	外傾	砂岩層	—	
	SK18	G11b4	3.8	N-14°-E	2.9	1.2	56	隅丸長方形	—	—	外傾	平組	—	
	HK2-3	SK27	H11g5	4.7~4.9	N-53°-E	1.3	1.1	33	不定形	10~18	—	緩斜	皿状	—

番号	遺構番号	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土層 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
HK2-4	SK34	H11e5	4.9	N-62°-E	0.8	0.7	17	不定形	2~18	—	緩斜	皿状	—	
HK5	SK184	H11e1	4.4~4.5	N-35°-E	2.5	1.8	36	長方形	2~10	2~8	緩斜	平垣	貝	
HK6	SK249	K11b7	5.4	N-31°-E	0.7	0.6	11	槽凹形	2~12	—	緩斜	皿状	—	
	SK247	K11f4	5.2	N-69°-W	1.3	1.1	37	隅丸長方形	2~5	—	緩斜	皿状	—	
	SK256	K11f4	5.3	N-69°-W	(1.5)	1.4	36	槽凹形	2~7	—	緩斜	平垣	—	
HK8	SK270	K11e3	5.0	N-50°-E	1.6	1.6	55	不整槽凹形	4~8	—	—	—	—	
	SK271	K11e5	5.1	N-24°-W	1.3	1.1	27	槽凹形	2~8	—	—	—	小皿	
HK10	SK220	J1114	5.3	N-11°-W	1.8	1.6	40	不整槽凹形	6~14	—	緩斜	皿状	—	
HK11	SK1	M12b5	5.9~6.3	N-53°-E	1.6	1.2	15	槽凹形	5~15	—	緩斜	皿状	—	
HK13	SK10	N11d0	5.4~5.5	N-23°-E	1.7	1.3	30	隅丸長方形	—	—	緩斜	皿状	—	
	SK11	B12b0	5.6	N-72°-W	1.0	(0.7)	20	[隅丸長方形]	3~7	—	外傾	平垣	—	
	SK12	B13b1	5.6	N-32°-E	(0.7)	0.7	30	[槽凹形]	5~7	—	外傾	平垣	—	
	SK13	B12b0	5.5	N-23°-E	0.7	0.7	10	隅丸方形	3~5	—	緩斜	皿状	—	
HK14	SK14	B1210	5.7	N-84°-E	2.0	1.7	70	槽凹形	—	—	外傾	平垣	—	
	SK15	B12b0	5.5	N-42°-E	1.2	1.0	50	槽凹形	—	—	外傾	平垣	—	
	SK16	B1210	—	N-80°-W	(2.8)	[1.5]	—	不明	—	—	外傾	壺状	—	
	SK17	B1210	5.6	N-63°-W	2.3	[1.0]	60	槽凹形	—	—	外傾	U字状	—	
HK16	SK385	D1315	4.7	N-17°-E	0.8	0.7	15	槽凹形	12	—	緩斜	皿状	—	
	SK387	D13b4	4.7	N-80°-W	0.8	(0.7)	8	[槽凹形]	4	—	緩斜	平垣	古銭	
HK18	SK439	E13b5	5.4	N-46°-W	1.0	(0.5)	8	[凹形]	—	—	緩斜	平垣	—	
	SK429	D13g2	4.7	N-22°-E	1.2	1.2	20	凹形	4~9	—	緩斜	皿状	—	
	SK430A	D13g2	4.6	N-62°-W	0.7	0.7	7	凹形	2	12	緩斜	皿状	—	
	SK430B	D13g2	4.6	N-62°-W	1.0	0.9	10	凹形	3	5	緩斜	平垣	—	
HK19	SK442	D13j3	4.9	N-45°-E	4.3	2.0	10	隅丸長方形	—	—	外傾	平垣	—	
	SK444	D13g2	4.8	N-30°-E	1.7	(1.2)	18	[槽凹形]	4~7	—	緩斜	皿状	—	
	SK445	D13g2	4.5	N-35°-E	0.7	(0.5)	10	[凹形]	4	7	緩斜	皿状	古銭	
	SK446	D13g2	4.5	N-63°-W	0.7	0.7	10	凹形	—	4	緩斜	皿状	—	
HK22	SK450	E13b5	5.1	N-27°-E	[1.4]	[0.8]	17	[長方形]	—	—	緩斜	皿状	小刀	
HK23	SK436	E1315	4.2	N-17°-E	1.0	0.8	12	不定形	3~6	—	緩斜	凸凹	仏具・古銭	
	SK447	E13b3	5.0	N-28°-W	2.0	1.5	0.2	槽凹形	6~13	—	緩斜	皿状	—	
HK24	SK462	E13a3	4.6	N-47°-E	1.0	0.9	0.1	槽凹形	9~11	—	緩斜	皿状	—	
	SK464	E13a3	4.6	N-39°-E	1.0	0.9	0.2	不整槽凹形	—	—	緩斜	皿状	—	
HK27	SK505	E13e2	—	N-51°-E	1.8	1.4	80	槽凹形	4	2~12	外傾	平垣	—	
	SK497	D13g4	3.8	N-12°-E	2.0	1.1	20	槽凹形	—	—	外傾	平垣	—	
	SK498	D13f2	3.1~3.6	N-72°-W	1.1	1.0	10~50	槽凹形	—	—	垂直	平垣	—	
HK28	SK499	D13b4	3.8	N-18°-E	2.2	2.2	60	不定形	—	—	外傾	平垣	—	
	SK504	D1313	3.7	N-25°-W	1.0	0.9	20	凹形	—	—	緩斜	凸凹	—	
	SK514	D13b3	3.7	N-16°-W	0.7	0.6	10~20	槽凹形	3~12	—	緩斜	皿状	—	
HK29	SK21	F13b3	8.8	N-66°-W	2.2	0.9	4	不定形	4	—	緩斜	皿状	—	
	SK113	E1218	3.7	N-68°-E	1.0	0.9	20	隅丸方形	3~6	—	緩斜	皿状	五輪塔	
	SK118	E12j8	3.7	N-65°-W	1.4	1.3	20	隅丸方形	4~15	2~10	外傾	凸凹	—	
HK30	SK119	F12a7	—	N-58°-W	1.5	1.2	50	槽凹形	—	—	外傾	平垣	—	
	SK123	E1210	3.9	N-78°-W	1.1	1.0	50	凹形	—	—	外傾	平垣	—	
	SK124	F12a8	3.9	N-84°-W	0.6	0.5	50	槽凹形	—	—	外傾	U字状	貝	

番号	遺構番号	位置	標高	長軸方向	規模 (m)			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
HK31	SK16	H11d7	5.2~5.4	N-37°-W	1.4	1.3	20	不定形	—	—	外傾	平掘	—	
	SK223	H11h1	3.9	N-19°-E	(1.4)	(1.0)	—	不定形	—	3~5	外傾	平掘	—	
HK32	SK224	H11i1	3.7	N-55°-E	(0.8)	(0.8)	—	円形	—	5~8	外傾	平掘	—	
	SK226	H11h1	3.7	N-55°-E	(0.9)	(0.8)	—	不定形	—	2~3	外傾	平掘	—	
HK33	SK1	B13e1	5.6	N-65°-W	0.9	0.8	10	不定形	3~10	—	外傾	平掘	—	
	SK2	B13e1	5.2	N-80°-W	1.1	0.9	12	楕円形	6~14	—	緩斜	皿状	—	
	SK3	B13e1	5.3	N-12°-E	0.9	(0.4)	8	不定形	5~20	—	緩斜	皿状	—	

表16 整地面内貝集積地一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸方向	平面形	長軸(m)	短軸(m)	厚さ(cm)	出土遺物	備考(伴う遺構)
14	2IKSM14	J1114	5.4	N-0°	円形	0.3	0.3	6	—	HK10
35	4IKSM12	E13e3	5.8	N-52°-W	不定形	0.7	0.4	—	—	HK17

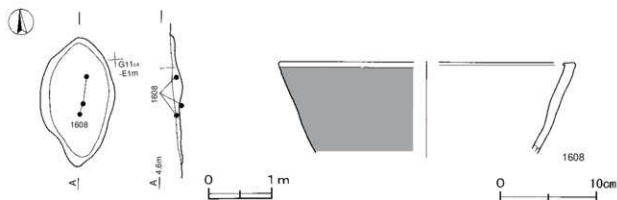
## (2) 貝集積地

当遺跡では、地点貝塚が47か所確認されている。それらには捨てられた貝と目的をもって集められた貝が混在していると考えられることから、これらの遺構を貝集積地という呼称で統一した。

貝種の和名、分類及び記載の順序は、原則として『エコロン自然シリーズ貝』に拠った。また、貝種組成の分析については、主に重量で表した。多板綱及び複足綱については殻頂数を記載し、二枚貝綱については、右殻左殻のそれぞれについて殻頂の数を求めた。殻頂の残存状態によっては、左右の合計数で記載した。細かく破碎されたものについては、貝種の判別が困難なものもあった。

### 第1号貝集積地 2区SM-1 (第511図)

位置 調査区中央部のG11c4区に位置している。



第511図 第1号貝集積地・出土遺物実測図

**確認状況** 表砂を2 m除去後、標高4.5mで貝を確認した。

**規模と形状** 長径2 m, 短径1.2mの不整楕円形で、長径方向はN-5°-Eである。貝層は最も厚いところで14cmである。

**遺物出土状況** 土師質土器5点(内耳竈)が出土している。1608は貝層中に確認され、接合したものである。

### 第1号貝集積地出土遺物観察表 (第511図)

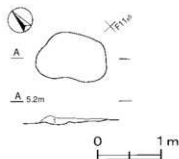
番号	器種	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1608	内耳竈	土師質土器	[31.4]	(9.6)	-	赤色粒子・雲母	にぶい桃	普通	外面縦付着。口縁部横ナデ	貝層中	5%

### 第2号貝集積地 2区SM-2 (第512図)

**位置** 調査区北部のF11e4区に位置している。

**確認状況** 表砂を1.7m除去後、標高5 mで貝を確認した。

**規模と形状** 長径1.1m, 短径0.7mの不整楕円形で、長径方向はN-45°-Wである。貝層は最も厚いところで7 cmである。



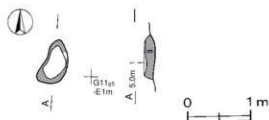
第512図 第2号貝集積地実測図

### 第2号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	アワビ	10.0	0.26	1		9	シジミ属	3.4	0.09	3	淡水または汽水
2	ヒザラガイ	4.4	0.12	2	淡水	10	コタマガイ	28.9	0.76	15	
3	コザラガイ	4.2	0.11	2		11	ハマグリ	17.9	0.47	5	
4	ダンバイキヤゴ	9.9	0.26	1		12	シオヤガイ	1.2	0.03	1	
5	サルボウガイ	4.0	0.11	2		13	ウバガイ	1,240.0	32.77	L=14 R=18	
6	アカガイ	2.5	0.07	2	淡水	14	ウバガイ細片	2,190.0	57.88		
7	タマガイ	46.1	1.22	6	淡水または汽水	15	その他	21.3	0.56		
8	イタボガキ属	200.0	5.29	6							

### 第3号貝集積地 2区SM-3 (第513図)

**位置** 調査区中央部のG11f5区に位置している。



第513図 第3号貝集積地実測図

### 第3号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	マツカサガイ	157.9	67.51	L=69 R=66	淡水
2	マツカサガイ細片	76.0	32.49		淡水

**確認状況** 表砂を1.9m除去後、標高4.9mで貝を確認した。

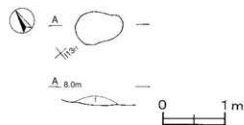
**規模と形状** 長径0.7m、短径0.4mの不整楕円形で、長径方向はN-14°-Eである。貝層は最も厚いところで4cmである。

#### 第8号貝集積地 2区SM-8 (第514図)

**位置** 調査区中央部のI13B区で、第15号鹹水層の西側1mに位置している。

**確認状況** 表砂を1.8m除去後、標高7.8mで貝を確認した。

**規模と形状** 長径0.7m、短径0.5mの不整楕円形で、長径方向はN-48°-Wである。貝層は最も厚いところで14cmである。



第514図 第8号貝集積地実測図

第8号貝集積地出土貝種一覧表

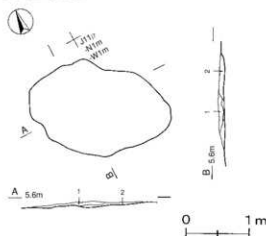
No.	貝種	重さ	比率	数個数	備考
1	シジミ属	221.7	96.81	L=154	淡水または汽水
				R=155	
2	シジミ属	7.3	3.19	4	淡水または汽水 4個体接合

#### 第17号貝集積地 2区SM-17 (第515図)

**位置** 調査区南部のJ116B区で、第10号整地面の東側6mに位置している。

**確認状況** 表砂を2.2m除去後、標高5.5mで貝を確認した。

**規模と形状** 長径2.3m、短径1.4mの不整楕円形で、長径方向はN-50°-Wである。貝層は最も厚いところで10cmである。



第515図 第17号貝集積地実測図

第17号貝集積地出土貝種一覧表

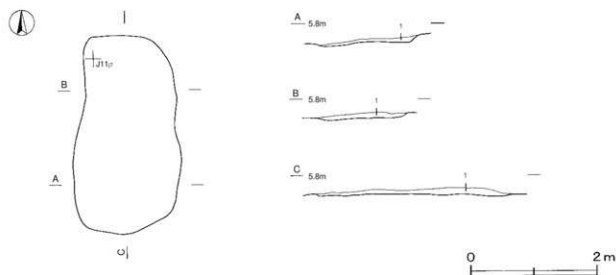
No.	貝種	重さ	比率	数個数	備考
1	マツカサガイ	690.0	8.23	346	淡水 7個体接合
2	マツカサガイ細片	3,360.0	40.10		淡水
3	細片(大)	1,260.0	15.04		焼けている
4	(中)	1,460.0	17.42		焼けている
5	(小)	1,460.0	17.42		焼けている
6	その他	150.0	1.79		オオタロシ、ペンケイガイ、コハマガイ、ウバガイなど

第18号貝集積地 2区SM-18 (第516図)

位置 調査区南部のJ117区で、第10号整地面の東側6mに位置している。

確認状況 表砂を2.5m除去後、標高5.6mで貝を確認した。

規模と形状 長径3.1m、短径1.7mの不整楕円形で、長径方向はN-0°である。貝層は最も厚いところで11cmである。



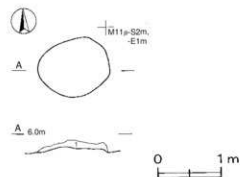
第516図 第18号貝集積地実測図

第18号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	イガイ	2.0	0.14	1		4	シジミ属	0.5	0.04	R=1	淡水または汽水
2	イタボガキ属	20.0	1.41	3		5	コタマガイ	2.0	0.14	2	
3	マツカサガイ	1,000.0	70.75	L=364 R=386	淡水	6	ウバガイ	4.0	0.28		
						7	マツカサガイ細片	385.0	27.24		淡水

第22号貝集積地 2B区SM-1 (第517図)

位置 調査区南部のM119区で、2区第1号鹹水層の南西4mに位置している。



第517図 第22号貝集積地実測図

第22号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	サルボウガイ	9.5	0.30	2	
2	ウバガイ	1,980.0	62.87	L=36 R=32	接合しない
3	ウバガイ細片	1,160.0	36.83		



**確認状況** 表砂を1.8m除去後、標高5.9mで貝を確認した。

**規模と形状** 長径1.1m、短径0.9mの不整楕円形で、長径方向はN-70°-Eである。貝層は最も厚いところで14cmである。

### 第23号貝集積地 3区SM-1 (第518図)

**位置** 調査区北部のB13c3区で、第24号貝集積地の南東側2mに位置している。

**確認状況** 表砂を1.8m除去後、標高6mで貝を確認した。

**規模と形状** 長径0.9m、短径0.9mの円形である。貝が平面的に散布された状態であった。

**遺物出土状況** 貝に混じって、土師質土器片4点(内耳鍋)が出土している。



第518図 第23号貝集積地・出土遺物実測図

### 第23号貝集積地出土遺物観察表 (第518図)

番号	器種	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1613	内耳鍋	土師質土器	-	(3.7)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面保行着	貝層中	5%

### 第23号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	10.0	0.68	2	淡水	4	チョウセンハマグリ	70.0	4.75	L=1	
2	マツカサガイ	450.0	30.51	199	淡水 細片含む		R=1				
3	コタマガイ	45.0	3.05	L=1		5	ウバガイ	360.0	24.40		
				R=1		6	イタボガキ属細片	90.0	6.10		
						7	ウバガイ細片	450.0	30.51		

### 第24号貝集積地 3区SM-2 (第519図)

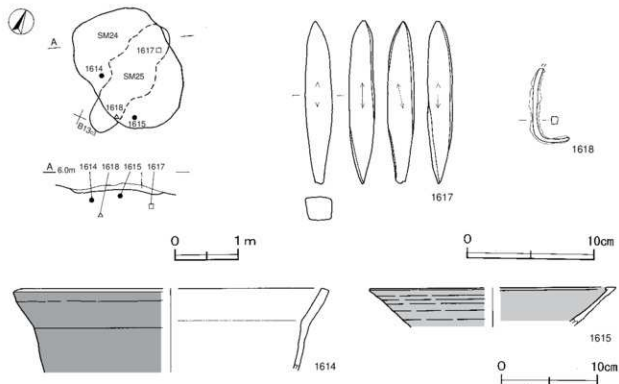
**位置** 調査区北部のB13b3区で、第23号貝集積地の北西側2mに位置している。

**確認状況** 表砂を1.4m除去後、標高5.8mで貝を確認した。

**規模と形状** 長径2m、短径1.5mの不整楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。貝層は最も厚いところで10cmである。

### 第24号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	100.0	1.82	21	淡水
2	マツカサガイ	5,120.0	93.44		淡水 細片含む
3	ウバガイ	260.0	4.74	5	



第519図 第24・25号貝集積地・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片10点（内耳鍋7，鉢3），陶器片2点（鉢），鉄製品1点（不明）が貝層中から出土している。1615は、本跡の南東側からの出土である。

第24号貝集積地出土遺物観察表（第519図）

番号	器種	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1614	内耳鍋	土師質土器	[33.3]	(8.9)	—	砂粒・雲母	灰白	普通	外面煤付着	貝層中	10%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1615	鉢	陶器	[26.0]	(4.1)	—	褐灰・暗赤褐	結輪	口クロ整形	瀬戸・美濃	貝集積地周辺	5% 志戸呂産

### 第25号貝集積地 3区SM-3（第519図）

**位置** 調査区北部のB13b3区で、第23号貝集積地の北西側2mに位置している。

**確認状況** 表砂を1.7m除去後、第24号貝集積地の下層0.3mの標高5.5mで貝を確認した。

**規模と形状** 長径2m，短径0.8mの不定形で，長径方向はN-7°-Eである。貝が平面的に散布された状態であった。

**遺物出土状況** 貝に混じって，石器1点（砥石），鉄製品1点（耳金カ）が出土している。1617は，使用面が4面ある。

第25号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	80.0	2.57	17	淡水	5	シジミ属	1.0	0.03	1	淡水または汽水
2	ベンケイガイ	10.0	0.32	1		6	ウバガイ	220.0	7.07	3	細片含む
3	イタボガキ属	65.0	2.09	4		7	マツカサガイ細片	1,610.0	51.74		淡水
4	マツカサガイ	1,126.0	36.18		淡水						

第25号貝集積地出土遺物観察表 (第519図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1617	砥石	15.9	2.3	2.0	83.3	砂岩	砥面4面 端部が狭まる	貝層中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1618	耳金カ	(5.9)	2.9	0.6	(14.5)	鉄	断面方形	貝層中	

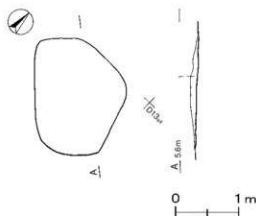
第28号貝集積地 4区SM-4 (第520図)

位置 調査区北部のD13a3区で、第29号貝集積地の南側7mに位置している。

確認状況 表砂を5.8m除去後、標高5.3mで貝を確認した。

規模と形状 長径1.9m、短径1.4mの不定形で、長径方向はN-41°-Wである。貝層は最も厚いところで12cmである。

遺物出土状況 礫1点が出土している。



第520図 第28号貝集積地実測図

第28号貝集積地出土貝種一覧表

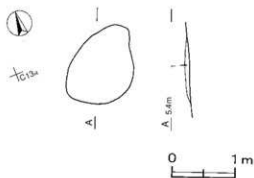
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
2	サルボウガイ	8.0	0.04	3	
3	ベンケイガイ	8.0	0.04	4	
4	マツカサガイ	8.0	0.04	2	淡水
5	コタマガイ	4.0	0.02	2	
6	チョウセンハマグリ	660.0	3.00		L=7 接合しない R=8
7	ウバガイ	13,560.0	61.66		L=196 接合しない R=131
8	イタボガキ属	3,040.0	13.83	78	
9	ウバガイ細片	4,700.0	21.37		

第29号貝集積地 4区SM-6 (第521図)

位置 調査区北部のC13i4区で、第28号貝集積地の北側7mに位置している。

確認状況 表砂を5.6m除去後、標高5.1mで貝を確認した。

規模と形状 長径1.2m、短径1mの不定形で、長径方向はN-21°-Eである。貝層は最も厚いところで7cmである。



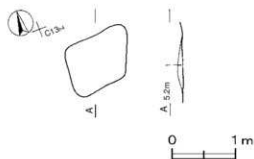
第521図 第29号貝集積地実測図

### 第30号貝集積地 4区SM-7 (第522図)

位置 調査区北部のC13a4区で、第29号貝集積地の北側2mに位置している。

確認状況 表砂を5.1m除去後、標高5.1mで貝を確認した。

規模と形状 長径1m、短径0.8mの不定形で、長径方向はN-22°-Eである。貝層は最も厚いところで8cmである。



第522図 第30号貝集積地実測図

### 第31号貝集積地 4区SM-8 (第523図)

位置 調査区北部のC13a11区で、第32号貝集積地の北西側6mに位置している。

確認状況 表砂を3.8m除去後、標高4.9mで貝を確認した。

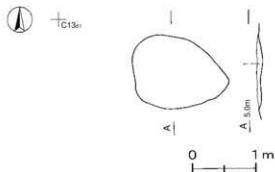
規模と形状 長径1.5m、短径1.2mの不定形で、長径方向はN-64°-Wである。貝層は最も厚いところで7cmである。

第29号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	160.0	13.27	33	淡水
2	アカニシ	20.0	1.66	2	
3	マツカサガイ	86.0	7.13	62	淡水
4	ウバガイ	920.0	76.28	11	細片含む
5	イタボガキ属細片	20.0	1.66		

第30号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	60.0	4.92	8	淡水
2	サルボウガイ	20.0	1.64	5	
3	バンケイガイ	40.0	3.28	5	
4	イタボガキ属	80.0	6.56	19	
5	マツカサガイ	40.0	3.28	22	淡水
6	ウバガイ	320.0	26.23	22	
7	ウバガイ細片	660.0	53.99		



第523図 第31号貝集積地実測図

第31号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	25.0	1.91	5	淡水	7	シジミ属	2.8	0.21	L=2 R=2	淡水または汽水 1個体接合
2	アカニシ	20.0	1.53	1							
3	サルボウガイ	2.0	0.15	1		8	コタマガイ	55.0	4.20	L=10 R=12	4個体接合
4	イガイ	5.0	0.38	6							
5	イタボガキ属	60.0	4.58	12							
6	マツカサガイ	400.0	30.54	L=174 R=167	淡水 1個体接合						

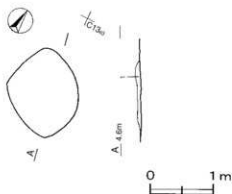
第32号貝集積地 4区SM-9 (第524図)

位置 調査区北部のC13e2区で、第31号貝集積地の南東側6mに位置している。

確認状況 表砂を4.7m除去後、標高4.3mで貝を確認した。

規模と形状 長径1.4m、短径1.1mの不整楕円形で、長径方向はN-27°-Wである。貝層は最も厚いところで8cmである。

遺物出土状況 土師質土器片8点(皿7, 内耳鍋1)とともに、小礫が2.28kg、炭化物が少量出土している。



第524図 第32号貝集積地実測図

第32号貝集積地出土貝種一覧表

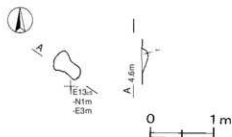
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	アカニシ	5.0	0.04	1	
2	サルボウガイ	10.0	0.08	6	
3	ベンケイガイ	60.0	0.45	7	
4	コタマガイ	55.0	0.41	9	
5	ウバガイ	370.0	2.78	11	
6	イタボガキ属細片	230.0	1.73		
7	ウバガイ細片	9,460.0	71.18		焼けている
8	ウバガイ細片	3,100.0	23.33		焼けていない

第38号貝集積地 4区SM-15 (第525図)

位置 調査区北部のE13b5区で、第43号貝集積地の北側7mに位置している。

確認状況 表砂を7m除去後、標高4.6mで貝を確認した。

規模と形状 長径0.5m、短径0.3mの不整楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。貝層は最も厚いところで10cmである。



第525図 第38号貝集積地実測図

第38号貝集積地出土貝種一覧表

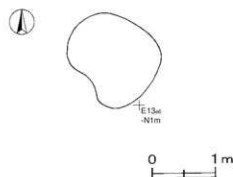
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	アカコシ	10.0	0.18	1		6	ウバガイ	680.0	12.49	L=6	
2	サルボウガイ	56.0	1.03	4						R=9	
3	ベンケイガイ	15.0	0.28	2		7	イタボガキ属細片	135.0	2.48		
4	マツカサガイ	1,720.0	31.58	2976	淡水	8	マツカサガイ細片	290.0	5.33		淡水
5	コタマガイ	30.0	0.55	4		9	マツカサガイ細片	1,100.0	20.20		淡水 焼けている
						10	ウバガイ細片	1,410.0	25.89		

第43号貝集積地 4区SM-21 (第526図)

位置 調査区北部のE13d5区で、第38号貝集積地の南側7mに位置している。

確認状況 表砂を8.5m除去後、標高5mで貝を確認した。

規模と形状 長径1.5m、短径1.4mの不定形で、長径方向はN-7°-Wである。貝が平面的に散布された状態であった。



第526図 第43号貝集積地実測図

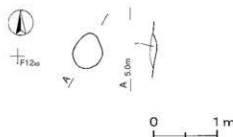
第43号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	ベンケイガイ	15.0	0.32	1	
2	マツカサガイ	2.0	0.04	5	淡水
3	ウバガイ	325.0	6.87	13	
4	イタボガキ属細片	150.0	3.17		
5	ウバガイ細片	4,060.0	85.87		
6	コタマガイ	175.0	3.70	9	
7	その他	1.0	0.03	2	クボガイ、オオタニシ

第44号貝集積地 4区SM-22 (第527図)

位置 調査区北部のE129d区で、第46号貝集積地の南東側20mに位置している。

確認状況 表砂を9.4m除去後、標高4.7mで貝を確認した。



第527図 第44号貝集積地実測図

第44号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	マツカサガイ	205.0	14.96	L=80 R=86	淡水 細片多く 接合しない
2	コタマガイ	110.0	8.03	L=2 R=3	接合しない
3	ウバガイ	525.0	38.32	L=8 R=5	接合しない
4	ウバガイ細片	490.0	35.77		
5	細片	40.0	2.92		アワビ含む

**規模と形状** 長径0.6m, 短径0.5mの楕円形で, 長径方向はN-9°-Eである。貝層は最も厚いところで10cmである。

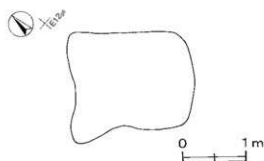
**遺物出土状況** 貝層中から土師質土器片12点(内耳鍋), 礫3点が出土している。

#### 第46号貝集積地 4区SM-25(第528図)

**位置** 調査区北部のE12g6区で, 第44号貝集積地の北西側20mに位置している。

**確認状況** 表砂を6.3m除去後, 標高4.2mで貝を確認した。

**規模と形状** 長径2.3m, 短径2.3mの不定形で, 長径方向はN-2°-Wである。貝が平面的に散布された状態であった。



第528図 第46号貝集積地実測図

第46号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	60.0	5.11	12	淡水
2	マツカサガイ	1,020.0	86.80	L=337 R=357	淡水 6個体接合
3	ウバガイ細片	95.0	8.09		

表17 貝集積地一覧表

番号	区	旧番号	位置	標高	長軸方向	平面形	長軸(m)	短軸(m)	厚さ(cm)	出土遺物	備考
1	2	SM1	G11e4	4.5	N-5°-E	不整楕円形	2.0	1.2	14	土師質土器片	HK1内
2	2	SM2	F11e4	5.0	N-45°-W	不整楕円形	1.1	0.7	7	-	HK1内
3	2	SM3	G11f5	4.9	N-14°-E	不整楕円形	0.7	0.4	4	-	
8	2	SM8	I13f1	7.8	N-48°-W	不整楕円形	0.7	0.5	14	-	
17	2	SM17	J11j6	5.5	N-50°-W	不整楕円形	2.3	1.4	10	-	
18	2	SM18	J11j7	5.6	N-0°	不整楕円形	3.1	1.7	11	-	
22	2B	SM1	M11j9	5.9	N-80°-E	不整楕円形	1.1	0.9	1.4	-	
23	3	SM1	B13e3	6.0	N-24°-W	円形	0.9	0.9	-	土師質土器片	
24	3	SM2	B13e3	5.8	N-58°-W	不整楕円形	2.0	1.5	10	土師質土器片, 陶器片, 鉄製品	
25	3	SM3	B13e3	5.5	N-7°-E	不定形	2.0	0.8	-	砥石, 鉄製品	
28	4	SM4	D13a3	5.3	N-41°-W	不定形	1.9	1.4	12	礫	
29	4	SM6	C13f4	5.1	N-21°-E	不定形	1.2	1.0	7	-	
30	4	SM7	C13f4	5.1	N-22°-E	不定形	1.0	0.8	8	-	
31	4	SM8	C13d1	4.9	N-64°-W	不定形	1.5	1.2	7	-	
32	4	SM9	C13e2	4.3	N-27°-W	不整楕円形	1.4	1.1	8	土師質土器片, 礫	
38	4	SM15	E13b5	4.6	N-58°-W	不整楕円形	0.5	0.3	10	-	
43	4	SM21	E13d5	5.0	N-7°-W	不定形	1.5	1.4	-	-	

番号	区	旧番号	位置	標高	長軸方向	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	厚さ (cm)	出土遺物	備考
44	4	SM22	E12j9	4.7	N-9°-E	楕円形	0.6	0.5	10	土師質土器片、礎	
46	4	SM25	E12g6	4.2	N-2°-W	不定形	2.3	2.3	-	-	

### (3) 溝跡

今回の調査で、溝5条を確認した。ここでは、製塩跡や建物跡などに付属しない第5号溝について記載する。

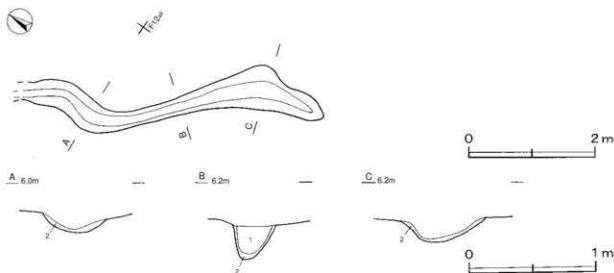
#### 第5号溝跡 4区SD-3 (第529図)

**位置** 調査区中央部F12a8区を中心に位置している。

**確認状況** 表砂を約8m除去した標高5.8mから確認された。

**規模と形状** 確認できた長さは約5mで、さらに北へ延びると推測される。上幅0.3~0.7m、下幅0.12~0.28mで、深さは20~40cmである。底面の形状は中央がU字状で、それ以外は皿状を呈している。覆土は砂Aが主体である。

**所見** 時期は、出土遺物がなく不明である。



第529図 第5号溝跡実測図

表18 溝跡一覧表

番号	旧番号	位置	標高	長軸(径)方向	規 模				粘土厚 (cm)	壁 面	断面形	出土遺物	備考
					長さ (m)	最大幅 (m)	最小幅 (m)	深さ (cm)					
1	2IKSD1	F11e4~F11b5	-	N-42°-E	(8.5)	3.0	2.3	-	-	-	-	-	HK-1
2	2IKSD2	H11g7~H11b5	5.3	N-43°-E	12.1	1.7	7.8	16~32	-	緩斜	逆台形	-	SX-2
3	4IKSD1	F13j6~G13a6	10.0	N-30°-W	(1.8)	2.3	2.0	8	2~6	外傾	U字状	-	SH-10
4	4IKSD2	E13j8~F13a9	10.2	N-48°-W	(3.2)	35	6.0	6	10~18	外傾	U字状	-	SH-11
5	4IKSD3	F12a8~F12a9	5.8	N-45°-W	(5.0)	0.7	0.3	20~40	-	外傾~緩斜	U字状~皿状	-	

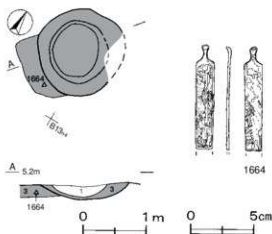


#### (4) 土坑

今回の調査で、製塩跡や建物跡などに組み込まれない246基の土坑が確認された。そのうち遺物が出土している4基を取り上げ、その他の土坑については一覧表で示す。

#### 第19号土坑 (第530図)

位置 調査区北部 B13g3区に位置している。



第530図 第19号土坑・出土遺物実測図

**確認状況** 表砂を2m除去した標高約5mから確認された。

**規模と平面形** 径1.4mの円形で、深さは1.5mである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。土坑は厚さ3cmの黒色土で構築され、壁部がやや厚くなっている。

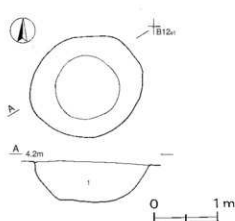
**遺物出土状況** 金属製品1点(斧)が出土している。斧部は欠損している。

**所見** 出土した斧の胴部には繊維が付着しており、廃棄当時は布などに覆われていたものと推測される。本跡は性格・時期ともに不明である。

#### 第19号土坑出土遺物観察表 (第530図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1664	斧	(k.2)	1.4	1.2	(11.4)	銅	斧部欠損、耳縁部残存、繊維質付着	黒色土中	

#### 第36号土坑 (第531・532図)



第531図 第36号土坑実測図

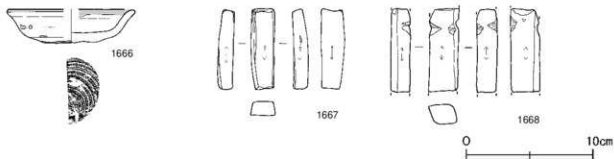
**位置** 調査区北部 B12d0区に位置している。北へ約1mの位置には第30～35号土坑(3区)が確認されている。

**確認状況** 表砂を約3m除去した標高約4.1mから確認された。

**規模と平面形** 長径1.8m、短径1.6mの楕円形で、深さは約60cmである。覆土は1層で、砂Aが主体である。

**遺物出土状況** 陶器1点(皿)、石器2点(砥石)が出土している。1666～1668は覆土中から出土している。1666は瀬戸・美濃産で古瀬戸後IV期の製品と推測される。

**所見** 出土遺物は覆土である砂Aとともに、流れ込んだものと考えられる。



第532図 第36号土坑出土遺物実測図

第36号土坑出土遺物観察表 (第532図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・軸索	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1666	皿	陶器	[10.2]	2.6	4.4	褐灰・オリーブ	灰輪	底部回転糸切り	瀬戸・美濃, 15C中	覆土中	40% 古瀬戸後IV

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1667	砥石	6.3	1.8	1.2	25.7	砂岩	砥面4面, 断面台形	覆土中	
1668	砥石	(6.6)	2.3	1.5	(45.0)	砂岩	砥面4面, 断面台形, 踵に転用か	覆土中	

### 第125号土坑 (第533・534図)

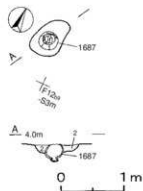
**位置** 調査区中央部F1268区に位置している。約1m上層には第30号整地面が確認されている。

**確認状況** 表砂を約10m除去した標高約3.9mから確認された。

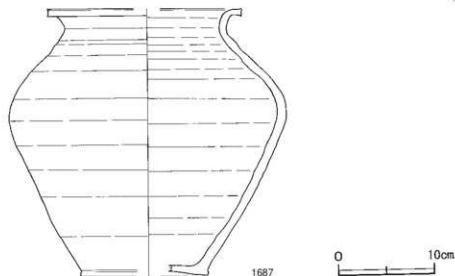
**規模と平面形** 平面形は長径約0.7m, 短径0.5mの楕円形で、深さは10cmである。黒色土Bが主体である。

**遺物出土状況** 陶器1点(甕)が逆位で出土している。常滑産の5型式と推測される。

**所見** 甕は出土状況から、何らかの理由で埋められたものと推測されるが、共存遺物もなく詳細については不明である。



第533図 第125号土坑実測図



第534図 第125号土坑出土遺物実測図

第125号土坑出土遺物観察表 (第534図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1687	甕	陶器	[22.7]	31.9	[15.0]	瓶灰・灰褐色	輪積底	常滑産, 13C中	覆土中	80% 5型式

第502号土坑 (第535図)

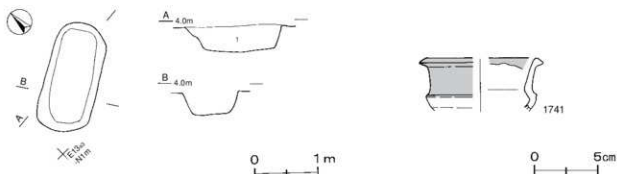
位置 調査区北部 D133区に位置している。

確認状況 表砂を約 8 m 除去した標高約3.9m から確認された。

規模と平面形 長径1.8m, 短径0.9mの隅丸長方形で、深さは約40cmである。覆土は1層で、黒色土Bが主体である。

遺物出土状況 陶器1点(香炉)が覆土中から出土している。1741は口縁部片で、古瀬戸後期IV段階の製品と推測される。

所見 出土遺物は覆土である黒色土Bとともに、流れ込んだものと考えられる。



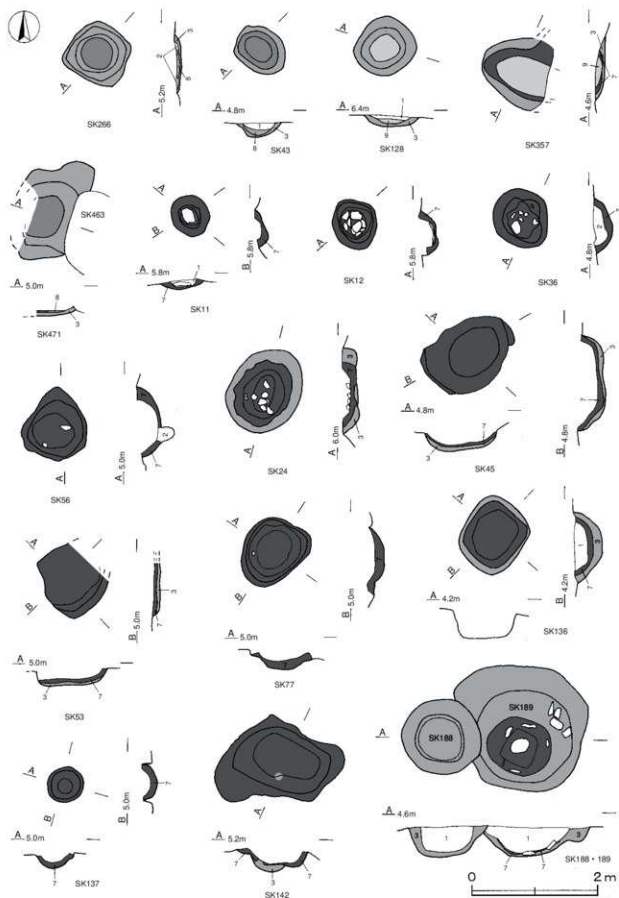
第535図 第502号土坑・出土遺物実測図

第502号土坑出土遺物観察表 (第535図)

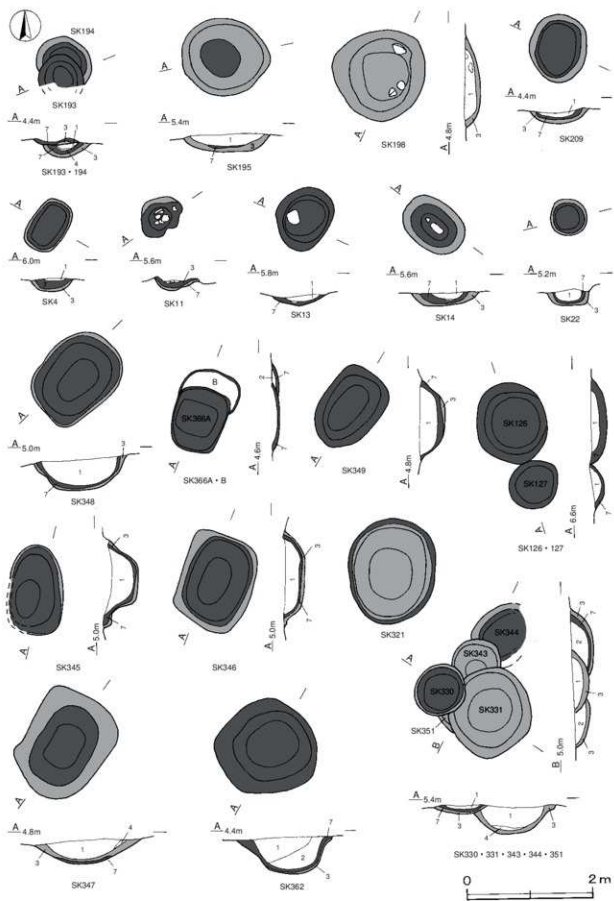
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	胎付・軸葉	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1741	香炉	陶器	[9.8]	(4.2)	—	明焼灰・極暗赤褐色	鉄軸	袴腰形	瀬戸・美濃, 15C前半	覆土中	5% 古瀬戸後IV

表19 土坑一覧表

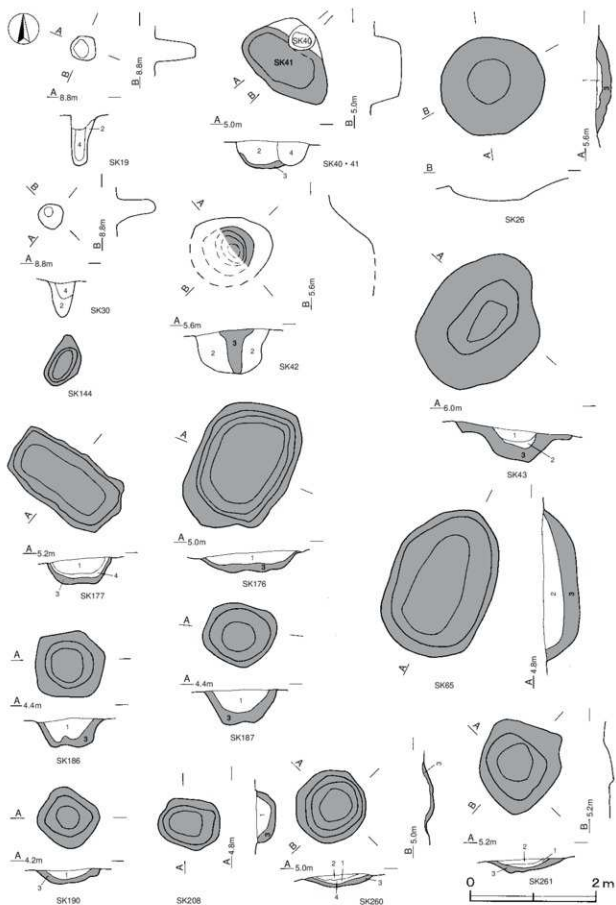
番号	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	備考
				長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
19	B13g3	5.0	N-39°-E	1.4	1.4	15	円形	2~20	—	緩斜	皿状	筭	
36	B12a0	4.1	N-57°-E	1.8	1.6	60	槽円形	—	—	外傾	平坦	皿, 磁石	
125	F12b8	3.9	N-29°-E	0.7	0.5	10	槽円形	—	—	外傾	不明	甕	
502	D13g3	3.9	N-58°-E	1.8	0.9	40	隅丸長方形	—	—	外傾	平坦	香炉	



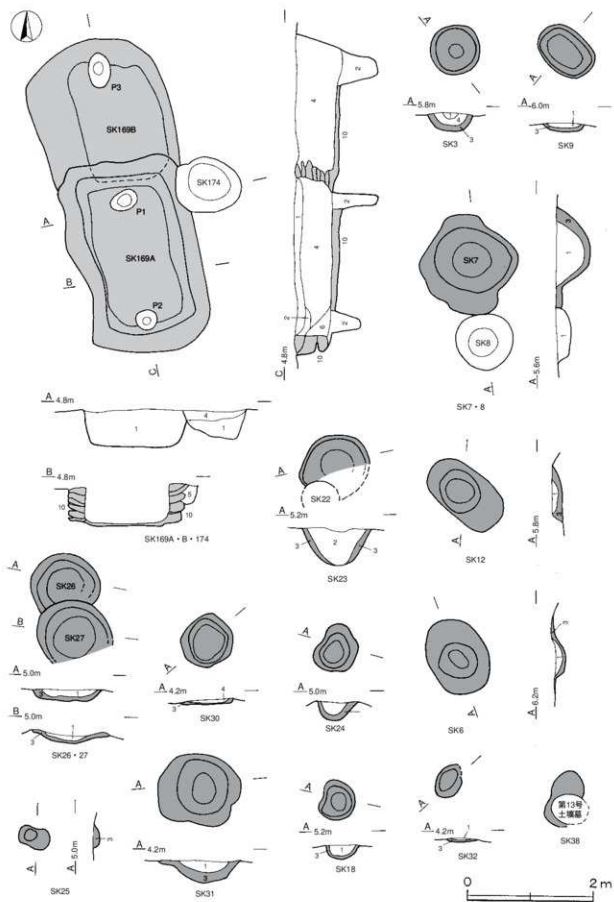
第536图 2·3·4区坑·土坑(粘土层)实测图



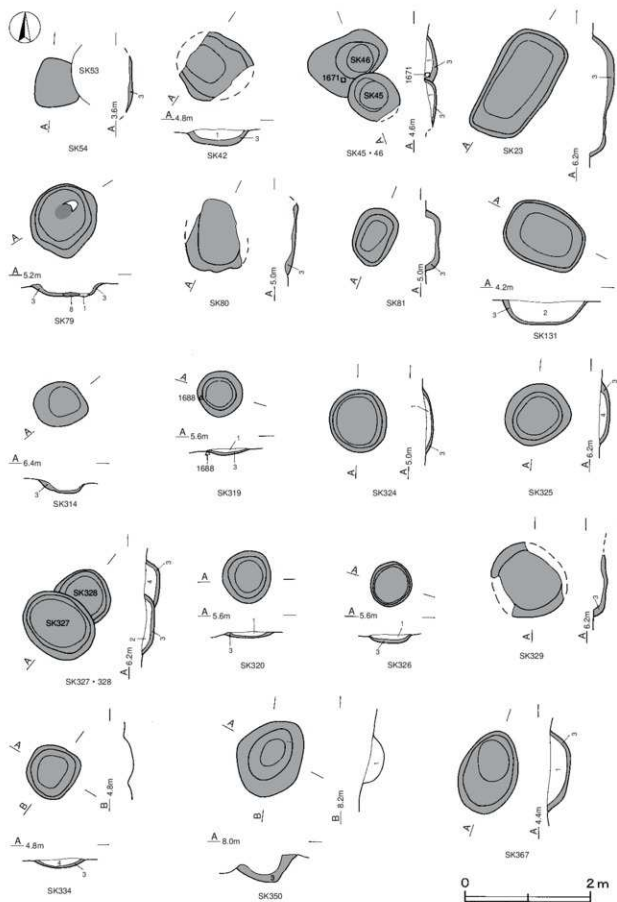
第537图 2·2B·3·4区土坑(粘土贴·黑色土贴)实测图



第538图 2区土坑(黑色土坑)实测图

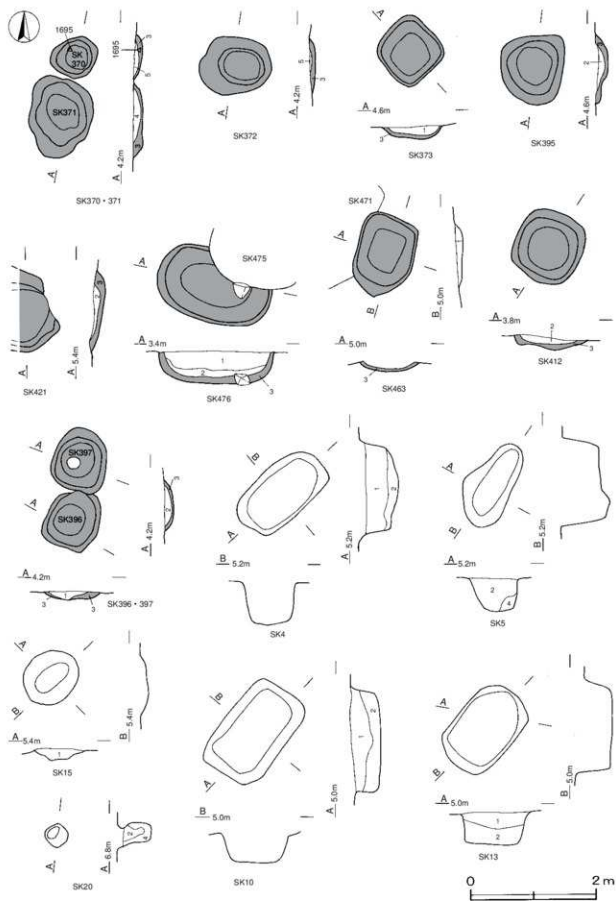


第539图 2·2B·3区土坑(黑色土贴)实测图

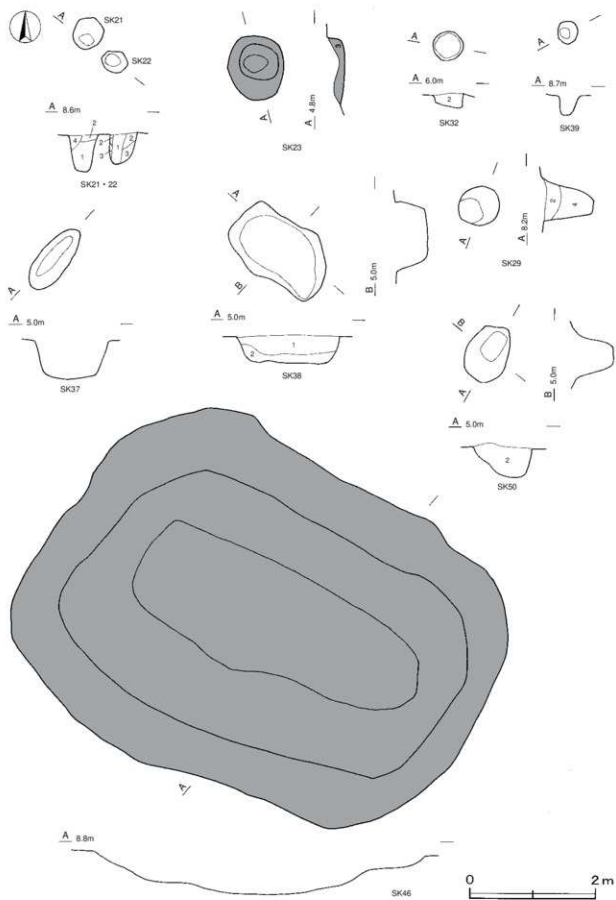


第540图 3·4区土坑(黑色土圪)实测图

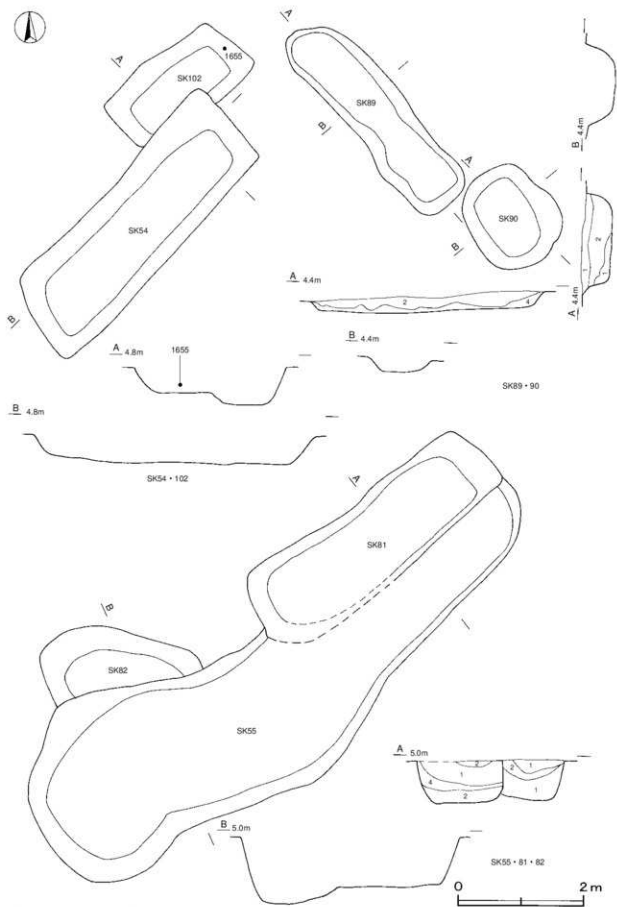




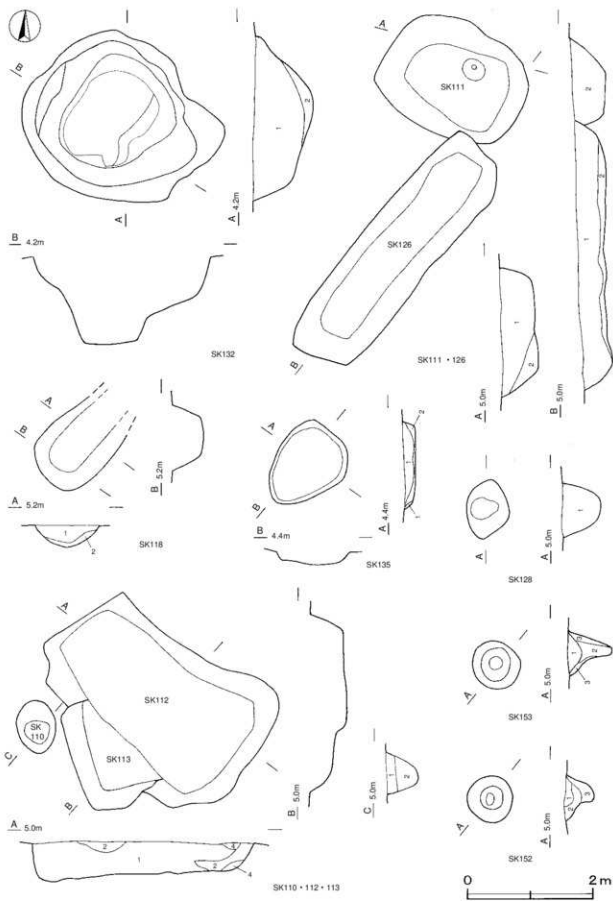
第541图 2·4区土坑(黑色土贴)实测图



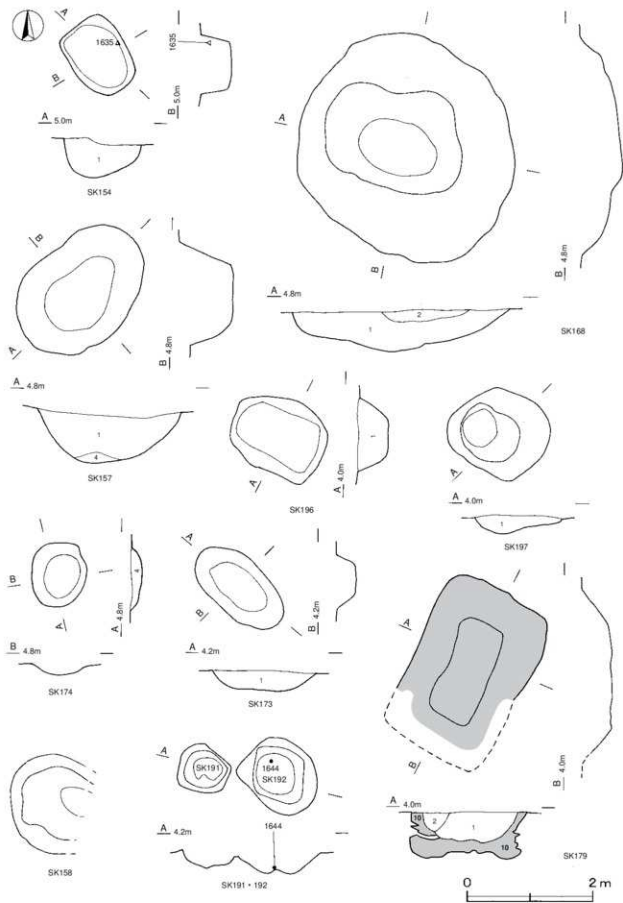
第542图 2区土坑(黑色土贴)实测图



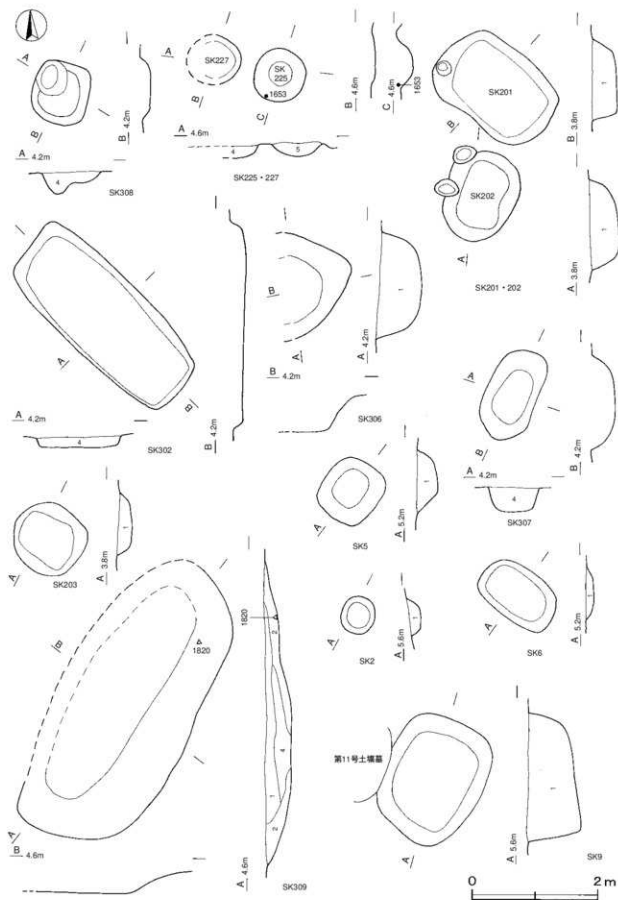
第543图 2区土坑实测图(1)



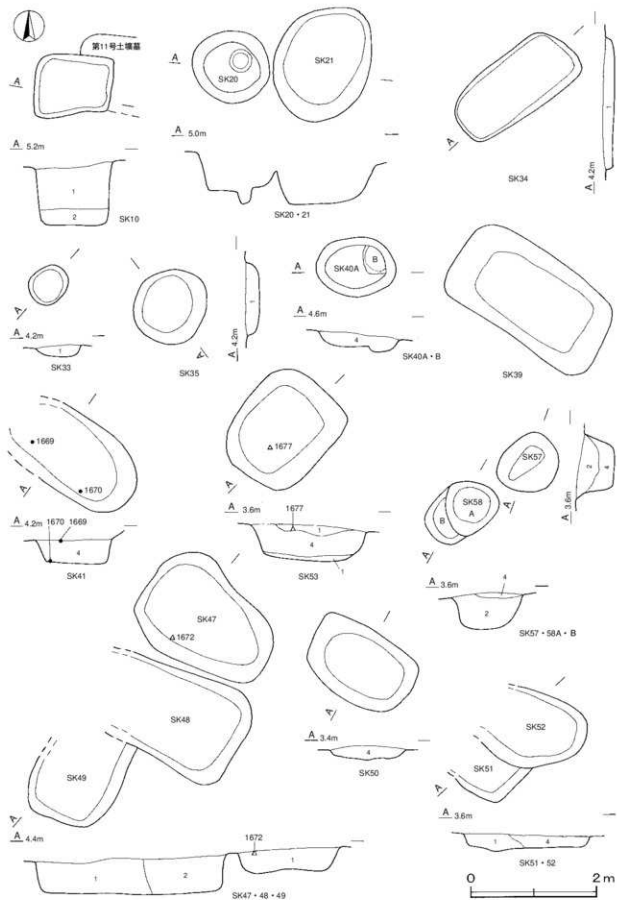
第544图 2区土坑实测图(2)



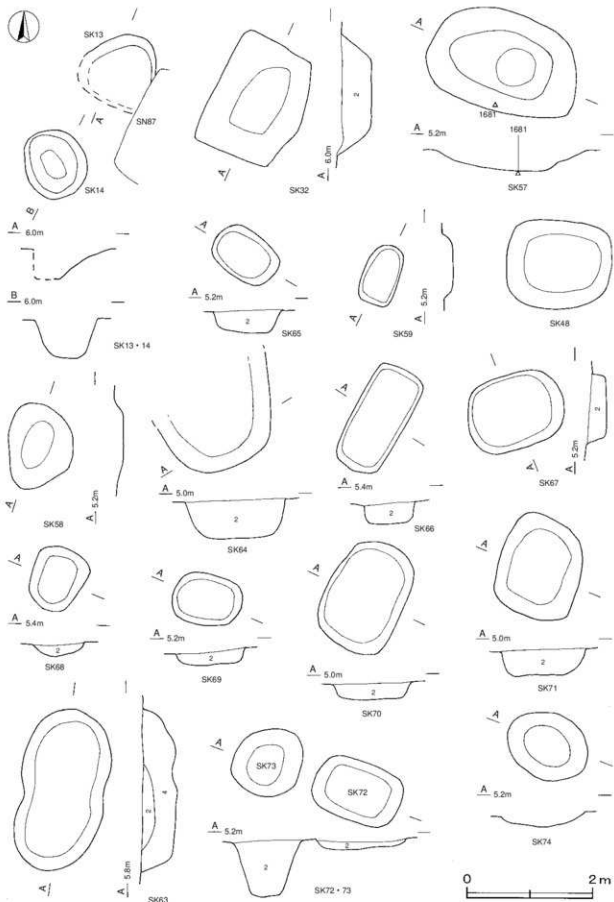
第545图 2区土坑实测图(3)



第546图 2·2B·3区土坑实测图

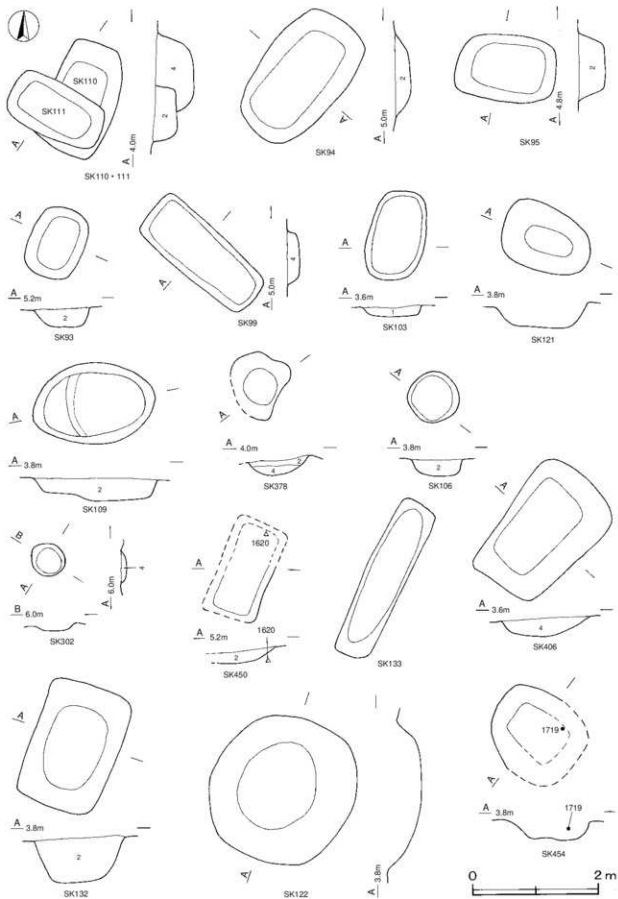


第547图 3区土坑实测图

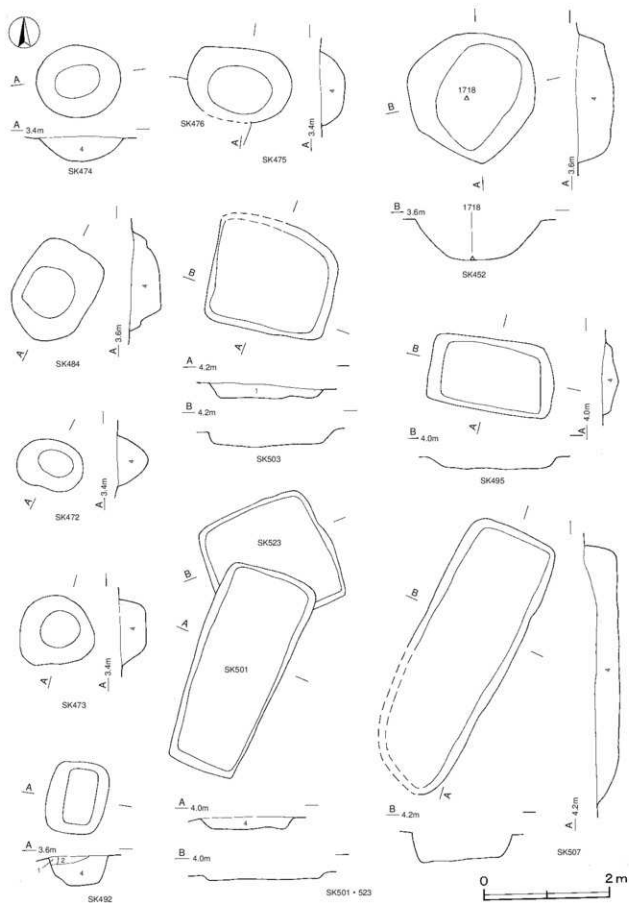


第548图 4区土坑实测图(1)

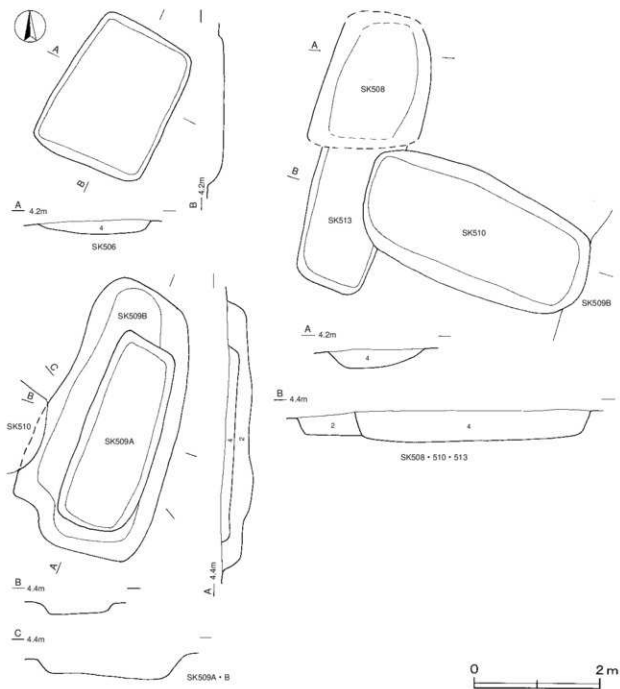




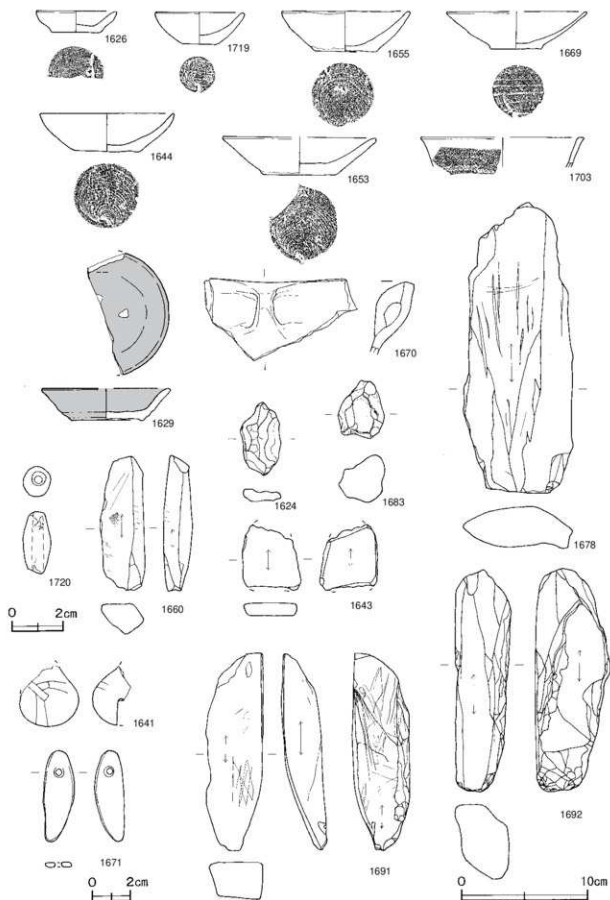
第549图 4区土坑实测图(2)



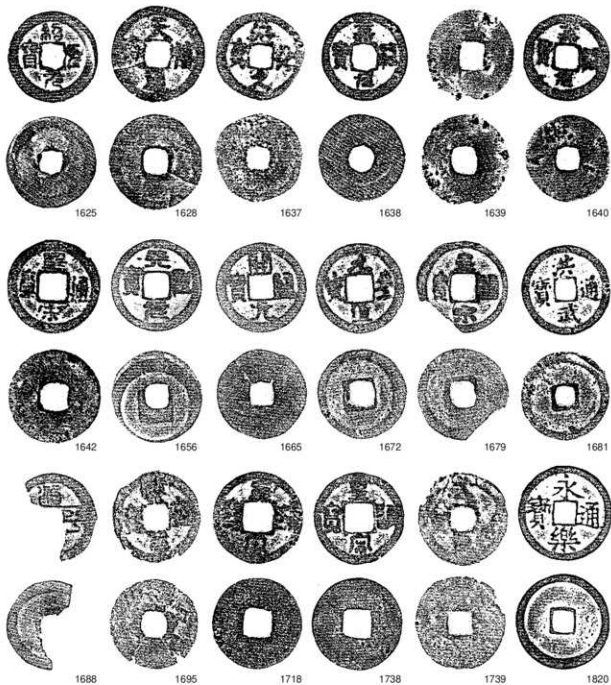
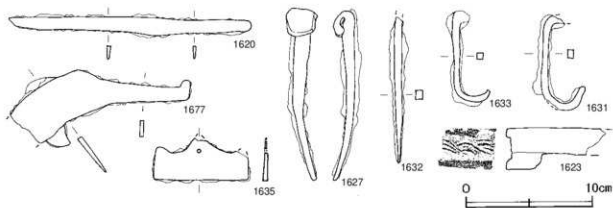
第550图 4区土坑实测图(3)



第551图 4区土坑实测图(4)



第552图 土坑出土遺物実測图(1)



第553図 土坑出土遺物実測図(2) [古銭は原寸大]

その他の土坑出土遺物観察表 (第552・553図)

番号	器種	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1626	小皿	土師質土器	6.4	1.7	3.8	長石・金雲母	にぶい橙	普通	ナゲ、底部回転赤切り	2ISJK50	60%
1719	小皿	土師質土器	7.2	2.6	2.7	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	良好	ナゲ、底部回転赤切り	4ISJK454	100%
1655	皿	土師質土器	10.2	3.4	5.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ナゲ、底部回転赤切り	2ISJK102	80%
1669	皿	土師質土器	[11.2]	3.0	4.0	赤色粒子	淡橙	普通	ナゲ、底部回転赤切り	3ISJK41	60%
1644	皿	土師質土器	10.7	3.2	5.0	長石・金雲母	にぶい橙	普通	ナゲ、底部回転赤切り	2ISJK192	90%
1653	皿	土師質土器	[12.2]	3.1	5.8	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	ナゲ、底部回転赤切り	2ISJK225	70%
1703	香炉	土師質土器	[13.0]	(2.3)	—	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外周、裏面のスタンプ文	4ISJK396	5%
1670	内耳鍋	土師質土器	—	(5.8)	—	長石	にぶい赤橙	普通	内口は滑石、口縁部、外縁部滑	3ISJK41	5%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・軸葉	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1629	皿	陶器	[10.2]	2.6	5.8	明焼灰・明赤釉	鉄軸	削り出し高台	瀬戸・美濃, 16C後半	4ISJK64	50% 大宮Ⅲ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
1720	管状土師	2.5	1.1	1.2	(2.78)	長石・石英	孔径0.4cm	4ISJK454	
1624	火打石	5.8	3.3	1.0	20.2	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	3ISJK48	
1683	火打石	4.7	3.1	3.7	58.9	石英	一部の縁が摩滅	4ISJK69	
1643	砥石	(5.3)	4.6	1.0	(37.6)	凝灰岩	砥面2面, 断面長方形	2ISJK186	
1660	砥石	10.8	3.5	2.3	101.5	凝灰岩	砥面2面, 両端部やや細い	2ISJK289	
1678	砥石	23.2	8.8	3.4	1020.0	泥岩	砥面1面, 磨痕有り	3ISJK47	
1691	砥石	15.7	4.5	3.6	251.0	凝灰岩	砥面3面, 磨痕有り	4ISJK362	
1692	砥石	17.6	4.3	5.9	552.0	滑石	砥面2面	4ISJK362	
1671	垂飾	4.8	1.7	0.3	3.7	滑石	全面研磨。孔有り	3ISJK46	
1620	小刀	19.2	1.5	0.3	34.1	鉄	両側、刃部基部はほぼ直線的	4ISJK450	
1627	釘	13.6	1.1	0.9	69.6	鉄	頭部の僅れ、弓状に屈曲	2ISJK50	
1631	耳金	(7.5)	0.5	0.7	(33.0)	鉄	上部L字状, 下部V字状に屈曲	2ISJK81	
1633	耳金	7.6	0.5	0.5	17.5	鉄	上部L字状, 下部V字状に屈曲	2ISJK82	
1635	火打金	7.5	(3.1)	0.4	(31.6)	鉄	孔あり, 頂端部欠損	2ISJK154	
1677	鉈	14.2	1.3~3.4	0.4	(86.2)	鉄	刃部欠損, 基部はやや屈曲	3ISJK53	
1632	不明	(11.6)	0.8	0.8	(23.6)	鉄	断面長方形の棒状, 一端が欠損	2ISJK81	
1641	土鈴	(3.1)	3.0	(2.2)	(5.8)	長石	下部に細頸残存	2ISJK183	
1623	軒先瓦	(7.5)	—	3.3	(110.0)	長石・白色粒子	波文, 頸紐り付け式段頸	2ISJK46	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1625	紹聖元寶	2.43	0.64	0.14	4.86	1094	銅	篆書, 星形孔	2ISJK48	
1628	天禧通寶	2.51	0.63	0.09	2.82	1017	銅	真書	2ISJK56	
1637	淳化元寶	2.38	0.59	0.09	2.70	990	銅	行書, 模鑄	2ISJK163	
1638	嘉祐元寶	2.32	0.70	0.09	3.16	1056	銅	篆書, 模鑄	2ISJK163	
1639	開元通寶	2.34	0.69	0.09	(2.84)	621	銅	欠け, 模鑄	2ISJK55	
1640	嘉祐元寶	2.30	0.62	0.13	3.06	1056	銅	篆書	2ISJK175	
1642	皇宋通寶	2.48	0.74	0.13	4.04	1038	銅	真書	2ISJK183	
1656	天聖元寶	2.47	0.72	0.08	3.02	1023	銅	篆書, 背鏤范	2ISJK266	
1665	開元通寶	2.45	0.68	0.09	3.24	621	銅	真書	3ISJK35	
1672	元豐通寶	2.39	0.67	0.13	3.66	1078	銅	行書	3ISJK47	
1679	皇宋通寶	2.47	0.77	0.12	(2.90)	1038	銅	真書, 欠け	4ISJK47	
1681	洪武通寶	2.35	0.55	0.13	3.82	1368	銅	真書	4ISJK57	
1688	治平元寶	—	—	0.09	(1.76)	1064	銅	篆書, 欠け	4ISJK319	
1695	熙寧元寶	2.40	0.67	0.11	(2.86)	1068	銅	篆書, 割れ	4ISJK370	
1718	皇宋通寶	2.44	0.76	0.12	3.56	1038	銅	篆書	4ISJK452	
1738	皇宋通寶	2.45	0.77	0.08	3.00	1038	銅	篆書	4ISJK492	
1739	□□□寶	2.39	0.66	0.10	(2.46)	—	銅	判読不能, 模鑄, 欠け	4ISJK492	
1820	永樂通寶	2.30	0.56	0.09	3.16	1408	銅	真書	2ISJK309	

表20 炉跡一覽表

遺構番号	区	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	底面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
SK266	2	K11a3	5.0	N-40°-W	1.0	0.9	8	方 形	2~6	—	緩斜	皿状	—	
SK43	3	B13g4	4.6	N-61°-W	0.9	0.7	16	槽 円 形	2~8	—	外傾	皿状	—	
SK128	4	F12g5	6.3	N-47°-E	0.9	0.9	12	方 形	2~10	—	緩斜	皿状	—	
SK357	4	D13a2	4.4~4.5	N-71°-W	(1.1)	1.1	9	[槽円形]	2~10	2~6	緩斜	平坦	—	
SK471	4	E13a5	4.6~4.7	N-17°-E	1.6	(1.0)	6	不 定 形	4~5	—	緩斜	平坦	—	本跡→SK463

表21 粘土貼土坑一覽表

遺構番号	区	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
SK11	2	H11b0	5.7	N-40°-W	0.7	0.6	10	円 形	—	2~13	外傾	平坦	—	
SK12	2	H11b0	5.7	N-28°-W	0.8	0.7	18	槽 円 形	—	2~10	外傾	皿状	礎	
SK24	2	H11f9	5.6~5.7	N-14°-E	1.4	1.1	10	円 形	2~22	7~17	外傾	平坦	礎	
SK36	2	H11b5	4.9	N-19°-W	1.0	0.9	20	槽 円 形	—	5~12	外傾	皿状	礎	
SK45	2	H11b5	4.5~4.6	N-59°-E	1.5	1.1	28	槽 円 形	2~10	3~10	緩斜	乱石状	—	
SK53	2	H11d5	4.9	N-47°-W	1.1	(0.9)	10	不 明	1~4	4~10	緩斜	乱石状	—	
SK56	2	H11b7	4.8	N-3°-W	1.1	1.0	28	円 形	—	2~12	外傾	皿状	礎	
SK77	2	H11a3	4.7~4.8	N-34°-E	1.1	0.9	12	槽 円 形	—	2~16	緩斜	皿状	礎	
SK136	2	H11i3	4.0~4.1	N-55°-E	1.2	1.0	20	長 方 形	2~12	2~8	外傾	平坦	—	
SK137	2	H11b8	4.7	N-15°-E	0.6	0.6	15	円 形	—	11	緩斜	皿状	—	
SK142	2	H11g4	5.0	N-62°-W	2.0	1.4	24	長 方 形	1~12	1~9	緩斜	平坦	—	
SK189	2	H11c5	4.4	N-43°-W	2.3	2.1	42	不 定 形	2~7	1~3	緩斜	皿状	礎	
SK193	2	H11f1	4.1	N-21°-W	[0.7]	0.7	7	円 形	2~4	2~4	緩斜	平坦	—	SK194→本跡
SK194	2	H11f1	4.1	N-40°-W	0.9	[0.9]	18	[槽円形]	2~8	1~10	緩斜	皿状	—	本跡→SK193
SK195	2	H11f2	5.3	N-78°-E	1.4	1.2	19	円 形	6~14	1~4	緩斜	皿状	—	
SK209	2	H11i3	4.2	N-22°-E	1.1	0.9	8	槽 円 形	6	2~6	緩斜	平坦	—	
SK4	2B	M11b0	5.7	N-37°-E	0.9	0.6	4	長 方 形	4	13	外傾	平坦	—	
SK11	2B	M11i0	5.5	N-54°-E	0.7	0.6	7	不 定 形	2~4	4~10	外傾	皿状	礎	
SK13	2B	M11j9	5.4~5.5	N-33°-E	1.0	0.8	11	槽 円 形	—	2~8	外傾	皿状	礎	
SK14	2B	M11j8	5.3	N-55°-W	1.0	0.8	10	槽 円 形	5~13	3~12	外傾	皿状	礎	
SK22	3	B13b4	4.9	N-76°-E	[0.6]	0.6	15	円 形	1~6	3~9	垂直	平坦	—	
SK126	4	F12h4	6.3	N-19°-W	1.3	1.1	15	槽 円 形	—	2~15	緩斜	皿状	—	
SK127	4	F12i4	6.3	N-60°-E	0.8	0.8	14	円 形	—	2~6	外傾	皿状	—	
SK321	4	C13f4	—	N-4°-E	1.7	1.4	—	槽 円 形	—	—	—	—	—	
SK330	4	C13g4	5.3	N-1°-E	0.8	0.8	6	円 形	2~5	3~5	緩斜	皿状	—	SK30・31・SK31・礎
SK344	4	C13g4	4.9	N-24°-E	(0.9)	(0.8)	28	隅丸長方形	2~3	1~4	緩斜	平坦	—	本跡→SK343
SK345	4	C13i3	4.9	N-5°-E	1.4	[0.9]	40	隅丸長方形	2~8	2~8	外傾	平坦	—	
SK346	4	C13i3	4.8	N-22°-E	1.5	1.1	24	隅丸長方形	2~4	2~6	緩斜	平坦	—	
SK347	4	C13b4	4.6~4.7	N-35°-E	1.7	1.3	32	隅丸長方形	2~10	2~4	緩斜	皿状	—	
SK348	4	C13b3	4.9	N-45°-E	1.5	1.1	40	隅丸長方形	2~6	2~4	外傾	皿状	—	
SK349	4	C13b3	4.6	N-30°-E	1.3	0.9	26	隅丸長方形	1~6	2~8	外傾	平坦	—	
SK362	4	C13b2	4.3	N-79°-W	1.7	1.5	50	円 形	1~6	2~10	外傾	皿状	砥石	

遺構番号	区	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	底面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
SK366A	4	C13g4	4.4	N-10°-E	1.3	0.8	8	隅丸長方形	—	2	緩斜	平坦	—	
SK366B	4	C13g4	4.4	N-69°-W	0.9	(0.3)	8	[槽円形]	—	2~4	緩斜	皿状	—	

表22 土坑（黒色土貼）一覧表

遺構番号	区	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	底面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
SK23	2	H11g9	4.4~4.6	N-16°-W	1.1	0.9	17	円形	8~17	—	緩斜	皿状	—	
SK26	2	H11f8	5.4~5.5	N-61°-E	1.7	1.6	28	円形	10~18	—	緩斜	皿状	—	
SK41	2	H11a3	4.7	N-46°-W	1.6	1.1	35	不定形	2~10	—	外傾	平坦	—	本跡→SK40
SK42	2	H11d9	5.3	N-46°-E	[1.3]	1.2	70	円形	10~54	—	外傾	平坦	—	
SK43	2	H11e0	5.8	N-46°-E	2.2	1.8	30	槽円形	18~22	—	緩斜	皿状	—	
SK46	2	H13b3	8.6~8.7	N-55°-W	7.2	5.5	66	長方形	66	—	緩斜	皿状	—	
SK65	2	H11a7	4.6	N-27°-E	2.4	1.7	30	槽円形	6~28	—	緩斜	皿状	—	
SK144	2	I11g4	—	N-16°-E	0.8	0.5	—	不定形	—	—	—	—	—	
SK176	2	I11b3	4.7~4.9	N-26°-E	2.2	1.6	18	長方形	4~15	—	緩斜	前・泥状	砥石	
SK177	2	I11i5	5.1	N-52°-W	1.9	1.0	29	長方形	4~11	—	外傾	平坦	—	
SK186	2	I11d3	4.1~4.2	N-89°-E	1.1	1.0	32	隅丸方形	8~24	—	外傾	前・泥状	砥石	
SK187	2	I11d4	4.3	N-85°-W	1.2	1.0	33	槽円形	10~23	—	外傾	平坦	—	
SK188	2	I11c5	4.4	N-89°-W	1.2	1.2	38	円形	4~17	—	外傾	平坦	礎	
SK190	2	I11b3	4.1	N-55°-W	0.9	0.8	16	方形	2~16	—	緩斜	皿状	—	
SK198	2	I11i2	4.5~4.6	N-23°-E	1.5	1.5	19	円形	1~7	—	緩斜	皿状	—	
SK208	2	I11b2	4.5	N-75°-W	1.0	0.8	22	槽円形	7~14	—	外傾	平坦	—	
SK260	2	J11b3	4.8~4.9	N-28°-E	1.2	1.1	12	円形	3~8	—	緩斜	皿状	—	
SK261	2	J11b4	4.9~5.0	N-41°-E	1.4	1.3	11	不定形	4~11	—	緩斜	皿状	—	
SK3	2B	M11b0	5.7	N-40°-W	0.8	0.8	20	円形	10	—	外傾	皿状	—	
SK7	2B	M12i1	5.3	N-8°-W	1.6	1.6	44	不定形	6~18	—	外傾	皿状	—	
SK9	2B	M11j0	5.7	N-46°-W	1.0	0.7	8	槽円形	4~6	—	外傾	平坦	—	
SK12	2B	M11j9	5.3~5.5	N-52°-W	1.3	0.8	10	隅丸長方形	5~14	—	外傾	平坦	—	
SK6	3	B13i2	6.0	N-37°-W	1.2	0.9	15	槽円形	1~8	—	外傾	皿状	—	
SK18	3	B13g3	5.0	N-18°-E	0.6	0.5	17	不定形	4~6	—	外傾	皿状	—	
SK23	3	B13b4	5.0	N-74°-E	1.1	[1.0]	55	[槽円形]	2~10	—	外傾	皿状	—	
SK24	3	B13e2	4.9	N-31°-E	0.8	0.6	22	不定形	6~10	—	外傾	皿状	—	本跡→SK22
SK25	3	B13e1	4.7	N-67°-W	0.5	0.3	—	長方形	1~10	—	緩斜	皿状	—	
SK26	3	B13f1	4.8	N-65°-W	1.0	1.0	12	[円形]	6~10	—	緩斜	皿状	—	本跡→SK27
SK27	3	B13f1	4.7~4.8	N-83°-W	1.2	1.0	11	[槽円形]	4~8	—	緩斜	皿状	—	SK26→本跡
SK30	3	B12d0	4.0~4.1	N-50°-E	0.8	0.8	5	方形	1~6	—	緩斜	平坦	—	
SK31	3	B12d9	4.0	N-76°-E	1.4	1.2	18	槽円形	10~16	—	外傾	皿状	—	
SK32	3	B12d9	4.1	N-30°-E	[0.6]	0.4	3	槽円形	1~5	—	緩斜	平坦	—	
SK38	3	B13e2	—	N-23°-E	0.9	(0.5)	—	不明	—	—	—	—	—	本跡→土壌層13
SK42	3	B13g4	4.6	N-43°-E	1.1	[1.1]	18	[円形]	2~10	—	外傾	平坦	—	
SK45	3	B13e1	4.4	N-68°-W	[0.8]	0.7	13	槽円形	1~6	—	緩斜	平坦	—	SK46→本跡
SK46	3	B13e1	4.4	N-62°-E	1.3	[0.8]	10	長方形	7~8	—	緩斜	皿状	垂飾	本跡→SK45
SK54	3	B13g2	3.4	N-3°-E	0.8	(0.7)	—	長方形	2~6	—	緩斜	平坦	—	本跡→SK53



遺構番号	区	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	底面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
SK23	4	F13g6	6.0	N-32°-E	1.9	1.0	24	長方形	1~10	-	緩斜	皿状	-	
SK79	4	E12j0	5.0~5.1	N-55°-E	1.2	1.1	14	円形	2~8	-	緩斜	平埧	-	
SK80	4	E12j9	4.9	N-24°-E	(1.1)	[1.0]	12	不明	2~10	-	緩斜	皿状	-	
SK81	4	E12j9	4.9	N-19°-E	0.9	0.7	14	隅丸長方形	4~10	-	緩斜	平埧	-	
SK131	4	E12h7	3.8~4.0	N-64°-W	1.3	1.0	32	隅丸長方形	3~6	-	外傾	平埧	-	
SK134	4	F12a0	6.1	N-50°-E	0.8	0.7	17	槽円形	2~6	-	外傾	平埧	-	
SK319	4	C13j4	5.4	N-20°-E	0.7	0.7	4	円形	2~4	-	緩斜	皿状	古銭	
SK320	4	C13f6	5.4~5.5	N-10°-E	0.8	0.8	8	円形	2~8	-	緩斜	平埧	-	
SK324	4	C13d0	4.7~4.8	N-17°-W	1.0	0.9	8	円形	2~5	-	緩斜	皿状	-	
SK325	4	C13d4	6.1	N-43°-E	1.0	0.9	10	円形	4~10	-	緩斜	皿状	-	
SK326	4	C13g5	5.3	N-14°-E	0.7	0.6	10	槽円形	2~6	-	緩斜	皿状	-	
SK327	4	C13e2	5.9~6.0	N-48°-W	1.2	1.0	10	槽円形	4~8	-	緩斜	平埧	-	
SK328	4	C13e2	5.9~6.0	N-61°-W	0.9	(0.5)	18	[槽円形]	2~8	-	緩斜	皿状	-	
SK329	4	C13d3	5.9~6.0	N-10°-E	1.3	[1.1]	10	[槽円形]	4~10	-	緩斜	凹凸	-	
SK331	4	C13b4	5.3	N-35°-W	1.3	1.3	34	方形	2~10	-	外傾	平埧	-	SK310→SK300
SK334	4	D13b4	4.6	N-25°-E	0.8	0.8	12	隅丸方形	1~5	-	緩斜	皿状	-	
SK343	4	C13g4	4.8~4.9	N-7°-E	0.9	0.8	16	長方形	2~10	-	緩斜	皿状	-	SK310→SK300→SK300
SK350	4	E13f4	7.8~7.9	N-30°-E	1.3	1.1	25	槽円形	8~16	-	外傾	皿状	-	
SK351	4	C13b4	4.8	N-19°-W	[1.0]	[0.9]	16	[不定形]	2~5	-	緩斜	皿状	-	SK310→SK300→SK300
SK367	4	C13g3	4.2~4.3	N-18°-E	1.3	0.9	28	槽円形	4~10	-	緩斜	皿状	-	
SK370	4	C12d0	4.0	N-75°-E	0.8	0.6	10	槽円形	2~7	-	緩斜	皿状	古銭	
SK371	4	C12d0	4.0	N-15°-E	1.3	1.0	12	不定形	2~18	-	外傾	平埧	-	
SK372	4	C12e0	4.0	N-89°-E	1.2	0.9	4	不定形	4~10	-	緩斜	平埧	-	
SK373	4	C13b4	4.3~4.4	N-41°-W	0.9	0.9	14	正方形	2~6	-	緩斜	皿状	-	
SK395	4	C13i5	4.5	N-42°-E	1.2	1.1	10	不定形	3~10	-	緩斜	皿状	-	
SK396	4	C13j4	4.0	N-29°-E	[0.9]	0.8	12	隅丸長方形	4~10	-	緩斜	平埧	-	本跡→SK397
SK397	4	C13j4	4.0	N-19°-E	1.0	0.9	14	隅丸長方形	4~10	-	緩斜	皿状	礎	SK396→本跡
SK412	4	C13e2	3.4~3.6	N-25°-W	1.2	1.1	10	方形	4~10	-	緩斜	凹凸	-	
SK421	4	E13a3	5.2	N-0°	1.3	(0.7)	10	[円形]	6~16	-	緩斜	皿状	-	
SK463	4	E13a5	4.7~4.8	N-15°-E	1.3	0.9	11	隅丸長方形	4~6	-	緩斜	皿状	-	SK471→本跡
SK476	4	C13i4	3.3	N-66°-W	1.9	1.2	40	隅丸長方形	8~10	-	外傾	平埧	礎	

表23 2・2B・3・4区土坑一覧表

遺構番号	区	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	底面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
SK4	2	G11j7	4.9~5.0	N-46°-E	1.6	0.8	63	隅丸長方形	-	-	外傾	皿状	-	
SK5	2	G11j8	4.9~5.0	N-35°-E	1.4	0.8	74	槽円形	-	-	外傾	皿状	-	
SK10	2	H11b2	4.7	N-43°-E	1.6	1.0	44	長方形	-	-	外傾	平埧	-	
SK13	2	G11b2	4.9	N-36°-E	1.5	0.9	51	槽円形	-	-	外傾	皿状	-	
SK15	2	H11e8	5.2~5.3	N-45°-E	1.0	0.8	13	槽円形	-	-	緩斜	皿状	-	
SK19	2	I13c2	8.5	N-22°-E	0.4	0.4	71	円形	-	-	外傾	平埧	-	
SK20	2	I13d2	6.7	N-5°-E	0.4	0.4	54	円形	-	-	外傾	皿状	-	
SK21	2	I13d2	8.3	N-27°-E	0.5	0.5	58	不定形	-	-	外傾	皿状	-	
SK22	2	I13d2	8.3	N-63°-E	0.4	0.4	45	不定形	-	-	外傾	皿状	-	
SK29	2	I13c2	8.4	N-21°-W	0.7	0.6	92	円形	-	-	外傾	皿状	-	

遺構番号	区	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	底面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
SK30	2	I13c3	8.5~8.6	N-39°E	0.4	0.4	62	円形	—	—	外傾	皿状	—	
SK32	2	H11e0	5.8~5.9	N-9°E	0.5	0.5	20	円形	—	—	外傾	平坦	—	
SK37	2	H11a3	4.8	N-43°E	1.2	0.5	60	楕円形	—	—	外傾	平坦	—	
SK38	2	H11a1	4.7	N-50°W	1.7	1.1	50	不定形	—	—	外傾	平坦	—	
SK39	2	I13c3	8.6	N-60°E	0.3	0.3	32	円形	—	—	外傾	皿状	—	
SK40	2	H11a3	4.7	N-51°E	0.4	0.4	45	方形	—	—	外傾	皿状	—	SK41→本跡
SK50	2	G11j5	4.7	N-30°E	0.9	0.7	61	楕円形	—	—	外傾	皿状	小皿・釘	
SK54	2	H11e6	4.6	N-43°E	4.4	1.4	60	隅丸長方形	—	—	外傾	皿状	—	SK102→本跡
SK55	2	H11d6	4.9	N-57°E	9.2	2.4	80	不定形	—	—	外傾	平坦	—	SK2→本跡→SK3
SK81	2	H11e7	4.9	N-52°E	4.4	1.3	66	隅丸長方形	—	—	外傾	平坦	耳金・不明	SK55→本跡
SK82	2	H11d6	4.9	N-26°W	(2.7)	[1.4]	102	楕円形	—	—	外傾	皿状	耳金	本跡→SK55
SK89	2	H11e4	4.1~4.2	N-42°W	3.7	1.0	20	長方形	—	—	緩斜	皿状	—	
SK90	2	H11f5	4.3	N-36°W	1.7	1.4	46	隅丸長方形	—	—	外傾	平坦	—	
SK102	2	H11e6	4.5	N-50°E	2.2	1.2	40	長方形	—	—	外傾	平坦	小皿	本跡→SK54
SK110	2	H11d7	4.8	N-8°W	0.8	0.6	48	楕円形	—	—	外傾	皿状	—	
SK111	2	H11e6	4.8	N-54°W	2.3	1.8	55	[楕円形]	—	—	緩斜	平坦	—	本跡→SK126
SK112	2	H11d7	4.8	N-49°W	3.5	2.5	61	隅丸長方形	—	—	外傾	平坦	—	SK113→本跡
SK113	2	H11d7	4.8	N-23°E	1.8	[1.3]	35	[長方形]	—	—	緩斜	平坦	—	本跡→SK112
SK118	2	G11j8	4.8~4.9	N-38°E	(1.4)	1.0	49	不明	—	—	緩斜	皿状	—	
SK126	2	H11e6	4.8	N-38°E	4.2	1.2	46	長方形	—	—	外傾	平坦	—	SK111→本跡
SK128	2	H11e9	4.8	N-17°W	0.8	0.7	62	不整長方形	—	—	外傾	皿状	—	
SK132	2	H11j1	4.0	N-58°W	2.8	2.6	125	不定形	—	—	外傾	凹凸	—	
SK135	2	I11a2	4.2	N-40°E	1.4	1.1	23	楕円形	—	—	外傾	皿状	—	
SK152	2	H11c7	4.7~4.8	N-0°	0.8	0.7	45	円形	—	—	緩斜	皿状	—	
SK153	2	H11e8	4.7	N-50°W	0.8	0.7	71	円形	—	—	緩斜	皿状	—	
SK154	2	H11b7	4.7~4.8	N-40°W	1.2	0.9	53	長方形	—	—	外傾	平坦	火打金	
SK157	2	H11f8	4.5~4.6	N-44°E	2.3	1.6	75	楕円形	—	—	外傾	平坦	—	
SK158	2	I11g5	—	N-8°E	(1.1)	(1.0)	—	—	—	—	—	—	—	
SK168	2	G11j4	4.5~4.6	N-53°W	3.5	3.5	68	円形	—	—	外傾	皿状	—	
SK169A	2	G11i4	4.6~4.7	N-12°W	3.1	2.0	56	長方形	—	—	垂直	平坦	—	同跡→本跡→SK174
SK169B	2	G11b4	4.6	N-11°W	[2.3]	2.1	64	不定形	—	—	外傾	平坦	—	本跡→SK169A
SK173	2	H11e1	3.9	N-50°W	1.7	0.9	28	楕円形	—	—	外傾	皿状	—	
SK174	2	G11b4	4.6	N-15°W	1.0	0.9	18	楕円形	—	—	緩斜	皿状	—	SK169A-B→本跡
SK175	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	古銭
SK179	2	I11d2	3.7~3.9	N-27°E	[2.8]	1.8	48	長方形	—	—	外傾	皿・壺	—	
SK183	2	H11b8	4.4	—	(1.2)	(0.9)	35	—	—	—	緩斜	平坦	土鈴・古銭	
SK191	2	I11d1	3.8~3.9	N-78°W	0.8	0.8	14	不定形	—	—	緩斜	皿状	—	
SK192	2	I11d2	3.8~3.9	N-78°W	1.3	1.1	24	楕円形	—	—	緩斜	皿状	皿	
SK196	2	I11b2	3.8	N-62°W	1.6	1.2	44	長方形	—	—	外傾	平坦	—	
SK197	2	I11b3	3.8	N-47°W	1.4	1.4	28	楕円形	—	—	緩斜	皿状	—	
SK201	2	I11a1	3.6	N-51°W	2.0	1.3	38	長方形	—	—	緩斜	平坦	—	
SK202	2	I11a1	3.6	N-26°E	1.5	1.1	46	不整長方形	—	—	緩斜	平坦	—	
SK203	2	I11b1	3.6	N-47°W	1.1	1.1	23	不整長方形	—	—	緩斜	平坦	—	
SK225	2	J10e0	4.4	N-28°E	0.9	0.8	17	円形	—	—	外傾	平坦	—	
SK227	2	J10e0	4.4	N-17°E	[0.8]	[0.8]	18	[円形]	—	—	緩斜	平坦	皿	
SK302	2	J11d1	3.9~4.0	N-44°W	3.3	1.4	25	長方形	—	—	外傾	平坦	—	

遺構番号	区	位置	標高	長軸方向	規模		形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	底面	出土遺物	備考	
					長軸(m)	短軸(m) 深さ(cm)								
SK306	2	J11d1	3.9~4.0	N-3°-W	(1.2)	0.8	68	—	—	外傾	平坦	—		
SK307	2	J11c2	4.0	N-26°-E	1.5	0.8	48	—	—	緩斜	平坦	—		
SK308	2	J11c2	4.0~4.1	N-25°-E	1.0	0.9	15	—	—	緩斜	平坦	—		
SK309	2	J11g1	4.3~4.4	N-36°-E	4.8	[2.3]	40	—	—	緩斜	皿状	古銭		
SK2	2B	M12e1	5.5	N-22°-E	0.6	0.5	19	—	—	緩斜	皿状	—		
SK5	2B	M12b3	5.0	N-35°-E	1.0	0.9	34	—	—	外傾	皿状	—		
SK6	2B	M12f2	5.1	N-56°-W	1.3	0.8	11	—	—	外傾	平坦	—		
SK8	2B	M12j1	5.3	N-6°-W	1.0	0.9	22	—	—	外傾	平坦	—		
SK9	3	B13g2	5.4	N-33°-E	2.1	1.6	72	—	—	垂直	平坦	—	本跡→土曜墓11	
SK10	3	B13g1	4.9~5.0	N-85°-W	1.2	1.0	92	—	—	垂直	平坦	—	土曜墓11→本跡	
SK20	3	B13h2	4.8	N-78°-W	1.3	1.1	56	—	—	外傾	凹	—		
SK21	3	B13h3	4.5	N-32°-E	1.9	1.5	58	—	—	外傾	平坦	—		
SK33	3	B12d0	4.0~4.1	N-42°-E	0.7	0.6	19	—	—	外傾	平坦	—		
SK34	3	B12d0	4.0	N-45°-E	2.1	1.0	18	—	—	外傾	皿状	—		
SK35	3	B12d0	4.1	N-47°-E	1.2	1.2	22	—	—	外傾	平坦	—		
SK39	3	B13h3	—	N-57°-W	2.7	1.4	—	—	—	—	—	—		
SK40A	3	B13h2	4.2~4.3	N-89°-W	1.3	1.0	22	—	—	外傾	平坦	—	SK40B→本跡	
SK40B	3	B13h2	4.2~4.3	N-0°	(0.4)	(0.3)	24	—	—	外傾	皿状	—	本跡→SK40A	
SK41	3	B13g4	4.0	N-52°-W	(2.1)	1.2	38	[隅丸長方形]	—	垂直	平坦	小皿・内耳環		
SK47	3	B13f1	4.2~4.3	N-45°-W	2.3	1.6	36	—	—	外傾	平坦	砥石		
SK48	3	B13f1	4.1~4.2	N-66°-W	(2.4)	1.6	56	—	—	外傾	平坦	火打石	SK49→本跡	
SK49	3	B13f1	4.1	N-28°-E	(1.8)	1.4	56	—	—	垂直	平坦	—	本跡→SK48	
SK50	3	B12e9	3.3	N-30°-E	1.8	1.2	20	長方形	—	緩斜	皿状	—		
SK51	3	B12d9	3.3~3.4	N-48°-E	(0.9)	(0.7)	26	[長方形]	—	外傾	皿状	—	本跡→SK52	
SK52	3	B12d0	3.3	N-71°-W	(1.4)	1.2	20	[長方形]	—	外傾	平坦	—	SK51→本跡	
SK53	3	B13g2	3.3~3.4	N-43°-E	1.8	1.5	56	長方形	—	外傾	平坦	鉈斧		
SK57	3	B13g1	3.4~3.5	N-20°-E	1.0	0.9	56	—	—	外傾	平坦	古銭		
SK58A	3	B13g1	3.5	N-52°-E	0.9	0.8	8	—	—	緩斜	平坦	—	SK58B→本跡	
SK58B	3	B13g1	3.4	N-30°-E	(0.6)	0.7	56	[槽円形]	—	外傾	平坦	—	本跡→SK58A	
SK13	4	G13e2	5.7	N-25°-E	[1.2]	[1.2]	44	—	—	外傾	平坦	—	本跡→SN87	
SK14	4	G13f2	5.7	N-49°-W	1.1	1.0	60	—	—	外傾	皿状	—		
SK32	4	E13f5	5.8~5.9	N-23°-E	1.9	1.5	44	長方形	—	外傾	平坦	—		
SK48	4	E13g5	—	N-87°-W	1.7	1.4	—	隅丸長方形	—	—	—	—		
SK57	4	E13f2	4.9	N-68°-W	2.4	1.5	34	隅丸長方形	—	—	緩斜	皿状	—	
SK58	4	E13e2	4.9	N-18°-E	1.4	1.0	16	槽円形	—	—	緩斜	平坦	—	
SK59	4	E13e2	4.9	N-25°-E	1.0	0.6	16	隅丸長方形	—	—	外傾	平坦	—	
SK63	4	F12d6	5.5~5.6	N-7°-E	2.6	1.4	56	—	—	外傾	皿状	—		
SK64	4	F12b9	4.9	N-54°-E	(1.6)	(2.0)	60	—	—	外傾	平坦	皿		
SK65	4	F12b0	4.9~5.0	N-50°-W	1.1	0.8	34	隅丸長方形	—	—	外傾	平坦	—	
SK66	4	F12b0	5.1	N-31°-E	1.8	0.8	30	長方形	—	—	垂直	平坦	—	
SK67	4	F12b9	5.0	N-72°-E	1.6	1.2	30	隅丸長方形	—	—	外傾	平坦	—	
SK68	4	F12c0	5.1	N-23°-E	1.0	0.8	20	隅丸長方形	—	—	緩斜	皿状	—	
SK69	4	F12e9	5.0~5.1	N-68°-W	1.1	0.8	21	槽円形	—	—	外傾	平坦	火打石	
SK70	4	F12e9	4.9	N-28°-E	1.8	1.2	25	隅丸長方形	—	—	外傾	平坦	—	
SK71	4	F12c8	4.8	N-22°-E	1.6	1.3	42	隅丸長方形	—	—	外傾	平坦	—	
SK72	4	F12d8	5.1	N-71°-W	1.4	0.9	12	長方形	—	—	緩斜	皿状	—	

遺構番号	区	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	底面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
SK73	4	F12d8	5.0~5.1	N-36°-E	1.2	1.1	87	槽 円形	-	-	外傾	平坦	-	
SK74	4	F12d7	4.9	N-69°-W	1.3	1.1	20	槽 円形	-	-	緩斜	皿状	-	
SK93	4	F13a1	5.0~5.1	N-25°-E	1.2	0.9	32	長 方形	-	-	外傾	平坦	-	
SK94	4	F12b0	4.8	N-43°-E	2.2	1.4	23	長 方形	-	-	緩斜	平坦	-	
SK95	4	F12b9	4.5	N-81°-W	1.6	1.1	42	長 方形	-	-	外傾	平坦	-	
SK99	4	E13h1	4.8	N-49°-W	2.2	0.8	21	長 方形	-	-	外傾	平坦	-	
SK103	4	E13g2	3.5	N-18°-E	1.4	0.9	18	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦	-	
SK106	4	E13f1	3.6	N-53°-W	0.8	0.8	26	円 形	-	-	緩斜	皿状	-	
SK109	4	E13f1	3.5~3.6	N-80°-E	2.0	1.2	36	槽 円形	-	-	外傾	平坦	-	
SK110	4	E12f0	3.6	N-26°-E	1.8	1.1	62	長 方形	-	-	外傾	平坦	-	本跡→SK111
SK111	4	E12f0	3.7	N-62°-W	1.6	0.9	40	長 方形	-	-	外傾	平坦	-	SK110→本跡
SK121	4	E13b2	3.6~3.7	N-19°-W	1.4	1.0	38	槽 円形	-	-	外傾	平坦	-	
SK122	4	E13b2	3.5~3.6	N-69°-W	2.3	2.3	47	槽 円形	-	-	緩斜	皿状	-	
SK132	4	E12g7	3.6~3.7	N-21°-E	2.0	1.4	72	長 方形	-	-	外傾	平坦	-	
SK133	4	E12g7	-	N-27°-E	2.7	0.7	-	長 方形	-	-	-	-	-	
SK302	4	F12a7	5.8	N-56°-W	0.6	0.5	12	槽 円形	-	-	緩斜	平坦	-	
SK378	4	D13b4	4.8	N-32°-W	1.1	[1.0]	20	不定形	-	-	緩斜	皿状	-	
SK406	4	C13e2	3.4~3.5	N-39°-E	2.2	1.5	30	隅丸長方形	-	-	緩斜	皿状	-	
SK450	4	E13b5	5.1	N-27°-E	[1.4]	[0.8]	20	[長 方形]	-	-	緩斜	皿状	-	小刀
SK452	4	D13e3	3.5	N-2°-W	2.1	2.0	64	槽 円形	-	-	外傾	皿状	-	古銭
SK454	4	C13j3	3.7	N-56°-W	[1.5]	[1.4]	32	[槽 円形]	-	-	緩斜	皿状	-	小皿
SK472	4	C13b4	3.2	N-76°-W	1.0	0.8	48	槽 円形	-	-	外傾	皿状	-	
SK473	4	C13b4	3.2	N-37°-E	1.2	1.2	40	円 形	-	-	外傾	平坦	-	
SK474	4	C13i3	3.3	N-82°-E	1.3	1.1	36	円 形	-	-	外傾	皿状	-	
SK475	4	C13i4	3.3	N-83°-W	[1.7]	[1.2]	38	[槽 円形]	-	-	外傾	皿状	-	SK476→本跡
SK477	4	D13d4	3.4	N-5°-E	4.0	2.2	30	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦	-	SK490→本跡
SK478	4	D13e3	3.3	N-29°-W	1.6	1.1	74	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦	-	
SK479	4	D13b4	3.5	N-65°-W	1.4	1.0	20	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦	-	
SK480	4	D13b4	3.5	N-24°-E	1.5	1.1	38	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦	-	
SK481	4	D13e4	3.5	N-29°-E	2.4	0.9	18	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦	-	SK490→本跡
SK482	4	D13e4	3.5	N-55°-W	0.8	0.8	42	円 形	-	-	外傾	平坦	-	
SK483	4	D13e4	3.3	N-68°-W	1.1	0.8	36	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦	-	本跡→P群P169
SK484	4	C13j3	3.4	N-26°-E	1.6	1.2	48	長 方形	-	-	外傾	平坦	-	
SK485	4	C13j3	3.2	N-53°-W	[1.2]	1.0	22	[槽 円形]	-	-	緩斜	平坦	-	本跡→SK486
SK486	4	D13b2	3.2	N-34°-E	1.7	1.1	22	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦	-	SK485→本跡
SK487	4	D13d3	3.3~3.4	N-25°-W	1.2	1.2	48	方 形	-	-	外傾	皿状	-	
SK488	4	D13a3	3.5	N-37°-E	(2.9)	1.9	44	[隅丸長方形]	-	-	緩斜	平坦	-	本跡→SK494
SK489	4	D13d3	3.4~3.5	N-77°-W	2.2	1.6	30	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦	-	
SK490	4	D13e4	3.5	N-22°-E	(2.4)	1.5	62	隅丸長方形	-	-	緩斜	凹凸	-	本跡→SK477-481
SK491	4	D13b4	3.5	N-47°-W	0.9	0.8	38	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦	-	本跡→P群P27
SK492	4	C13j4	3.5	N-13°-E	1.2	0.9	50	槽 円形	-	-	外傾	平坦	-	
SK493	4	D13b4	3.5	N-27°-E	(1.0)	(0.4)	10	[槽 円形]	-	-	緩斜	平坦	-	
SK494	4	C13j3	3.3~3.4	N-64°-W	3.1	1.8	30	不定形	-	-	緩斜	平坦	-	SK488→本跡
SK495	4	D13i4	3.7	N-78°-W	2.0	1.1	22	長 方形	-	-	外傾	平坦	-	
SK501	4	D13j4	3.8	N-19°-E	3.4	1.5	20	長 方形	-	-	外傾	平坦	-	SK523→本跡
SK503	4	E13a4	3.8~3.9	N-73°-W	2.0	1.8	27	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦	-	

遺構番号	区	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	底面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
SK506	4	E13a4	4.0~4.1	N-28°-E	2.5	1.9	17	長方形	-	-	外傾	平坦	-	
SK507	4	E13a3	3.8~4.0	N-29°-E	[4.5]	1.6	43	[隅丸長方形]	-	-	外傾	平坦	-	
SK508	4	E13b4	3.9~4.0	N-12°-E	[2.3]	1.7	30	[隅丸長方形]	-	-	緩斜	平坦	-	SK513→本跡
SK509A	4	E13b5	4.2~4.3	N-17°-E	3.2	1.2	16	長方形	-	-	緩斜	平坦	-	SK509B→本跡
SK509B	4	E13b5	4.2~4.3	N-21°-E	4.4	2.3	31	不整長方形	-	-	緩斜	平坦	-	本跡→SK509A・510
SK510	4	E13b4	4.2~4.3	N-68°-W	3.8	1.9	50	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦	-	SK508・510→本跡
SK513	4	E13b4	4.1~4.2	N-17°-E	(2.3)	1.2	30	[長方形]	-	-	外傾	平坦	-	本跡→SK508・SK510
SK516	4	D13a2	3.2~3.3	N-57°-W	(0.3)	(0.3)	20	[円形]	-	-	外傾	平坦	-	
SK523	4	D13j4	3.7	N-68°-E	2.0	1.9	10	方形	-	-	緩斜	平坦	-	本跡→SK501

#### (5) ビット群

調査区の北部からビット群1か所が確認されている。同じ標高でビット群に含まれる土坑も確認されていることから、同じ項内で報告する。なお、土坑の計測値はその他の土坑でまとめて報告する。

#### ビット群 (第554~557図)

位置 調査区北部 D13a2~D13c4区に位置している。

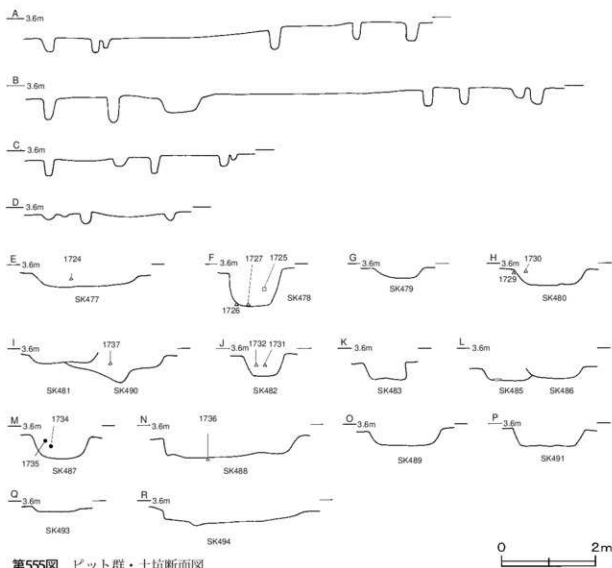
確認状況 表砂を7.5mほど除去した標高3.2mから、ビット77基を確認した。以下、各ビットの規模を表にまとめる。

#### ビット計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P1	20	20	26	P21	18	16	6	P41	22	20	34	P61	22	20	19
P2	20	18	33	P22	20	18	21	P42	24	22	16	P62	20	18	-
P3	21	20	23	P23	20	20	33	P43	29	26	33	P63	24	22	-
P4	21	19	27	P24	12	12	-	P44	22	20	18	P64	20	20	36
P5	20	18	81	P25	20	18	17	P45	22	18	14	P65	24	21	18
P6	30	28	15	P26	20	20	38	P46	30	22	20	P66	24	21	18
P7	24	22	22	P27	22	22	26	P47	30	24	19	P67	32	25	28
P8	26	24	22	P28	16	16	-	P48	30	23	36	P68	16	15	31
P9	30	28	21	P29	20	20	17	P49	18	17	-	P69	33	31	52
P10	28	26	37	P30	25	21	18	P50	14	12	25	P70	30	28	21
P11	32	32	21	P31	13	12	-	P51	19	18	13	P71	29	28	31
P12	26	24	26	P32	25	22	28	P52	22	18	19	P72	28	22	31
P13	28	24	18	P33	24	22	9	P53	20	18	27	P73	20	18	20
P14	26	22	23	P34	28	24	13	P54	28	23	29	P74	30	28	21
P15	18	14	15	P35	18	14	37	P55	20	16	17	P75	34	27	50
P16	20	18	28	P36	22	18	8	P56	20	20	26	P76	33	30	42
P17	25	24	13	P37	20	18	8	P57	16	16	26	P77	26	20	16
P18	16	14	16	P38	38	35	20	P58	24	22	29				
P19	14	12	30	P39	20	15	10	P59	22	20	24				
P20	20	18	29	P40	14	14	7	P60	13	12	19				

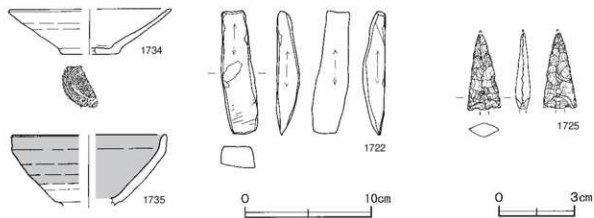


第554図 ビット群・土坑実測図

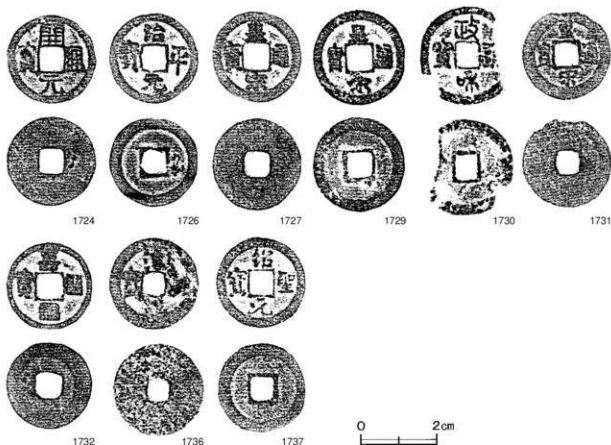


第555図 ビット群・土坑断面図

規模 ビットが検出されたのは南北12.6m、東西10.6mの範囲である。ほぼ同標高で、土坑17基(第477～483・485～491・493・494・516号土坑)が確認され、これらは砂を掘り込んで構築されたものである。



第556図 ビット群・土坑出土遺物実測図(1)



第557図 ビット群，土坑出土遺物実測図（2）

遺物出土状況 遺物はビット群から出土していないが，土師質土器の皿と天目茶碗片が第487号土坑，古銭は第477・478・480・482・488・490号土坑，石鏝が第478号土坑から出土している。

ビット群，土坑出土遺物観察表（第556・557図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1734	皿	土師質土器	[13.0]	3.6	[4.6]	長石・雲母	灰白	普通	底部回転車切り	SK487内	306

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	給付・軸葉	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1735	天目茶碗	陶器	[12.4]	(5.7)	—	灰白・黒褐	鉄軸	体部外面中位まで施釉	瀬戸・美濃，15C前半	SK487内	306 瀬戸1

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1722	砥石	9.8	2.9	1.8	57.3	凝灰岩	砥面4面，断面長方形	SK477内	
1725	石鏝	(3.0)	1.3	0.6	(1.5)	瑪瑙	有茎	SK478内	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初繰年	材質	特徴	出土位置	備考
1724	開元通寶	2.38	0.67	0.08	3.24	845	銅	真書	SK477内	
1726	治平元寶	2.40	0.65	0.11	3.96	1064	銅	真書，星形孔	SK478内	
1727	皇宋通寶	2.41	0.69	0.08	3.14	1038	銅	真書	SK478内	
1729	皇宋通寶	2.45	0.65	0.12	(3.46)	1038	銅	真書	SK480内	
1730	政和通寶	2.58	0.54	0.12	(2.92)	1111	銅	篆書，欠け	SK480内	
1731	皇宋通寶	2.36	0.64	0.08	(2.98)	1038	銅	真書，欠け	SK482内	
1732	嘉祐通寶	2.32	0.71	0.10	3.52	1056	銅	篆書	SK482内	
1736	淳化元寶	2.40	0.55	0.09	3.28	990	銅	真書，模跡	SK488内	
1737	紹聖元寶	2.40	0.62	0.14	4.18	1094	銅	篆書	SK490内	



**所見** ビット群は、最初に遺構が構築されたと推測される黒色土面を除去した層から確認されている。各ビット間に配列の規則性がなく、建物跡を想定することができなかったため、性格不明のビット群とした。土坑についても、性格は不明である。

(6) 集石

今回の調査で、細礫や中礫が集石された遺構が6か所確認された。顕著に確認された集石4か所をここで報告し、その他の集石は一覧表で報告する。

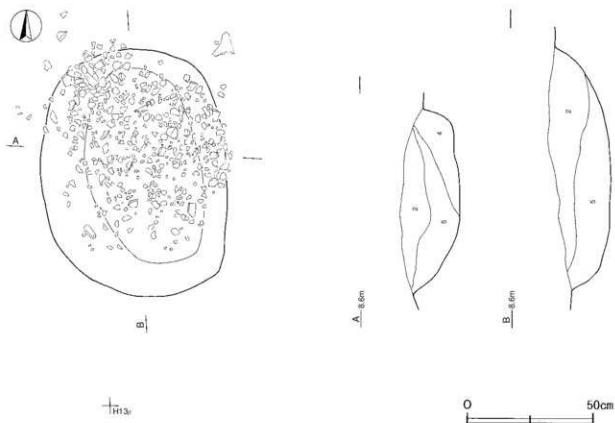
**第1号集石 2区集石-1 (第558図)**

**位置** 調査区中央部 H131区に位置している。北東には第2号鹹水槽(2区)が確認されている。

**確認状況** 表砂を2.5m 除去した標高約8.4mの砂B層中から、細礫が多量に検出された。

**規模と平面形** 礫が確認された範囲は南北1m、東西0.8mの楕円形である。各層の厚さは、砂B層が10cm、下層の黒色土C層が最大で12cm、黒色土B層が最大で15cmである。

**所見** 検出された細礫は、近隣に位置する鹹水槽や釜屋で使用される前か使用された後、何らかの理由で集石された可能性が高い。時期は、出土遺物がなく不明である。



第558図 第1号集石実測図

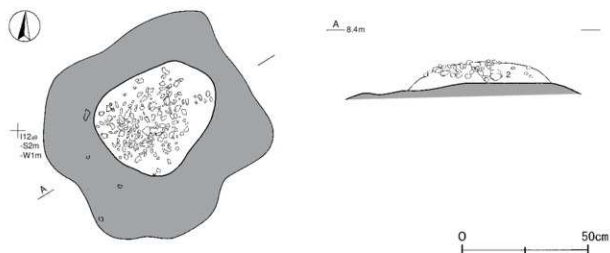
### 第3号集石 2区集石-3 (第559図)

位置 調査区中央部 112a8区に位置している。

確認状況 表砂を2.5m 除去した標高約8.2m の黒色土B層上から、細礫が多量に検出された。

規模と平面形 礫が確認された範囲は南北0.5m、東西0.4mの不整楕円形である。層の厚さは砂B層が最大で10cmである。細礫が確認された下層の黒色土C層は最大で12cm、黒色土B層は最大で15cmである。

所見 検出された細礫は、近隣に位置する鹹水槽の補強材や釜屋内で使用される前か使用された後、何らかの理由で廃棄された可能性が高い。時期は、出土遺物がなく不明である。

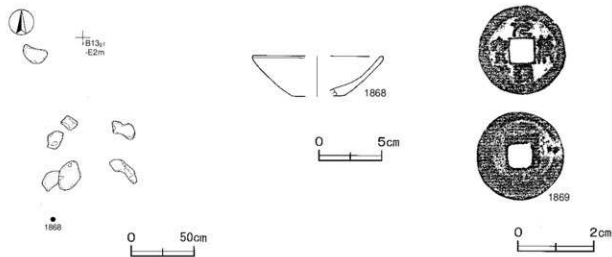


第559図 第3号集石実測図

### 第5号集石 3区集石-1 (第560図)

位置 調査区北部 B13g1区に位置している。

確認状況 標高約5.5m から、礫片と土師質土器片が検出された。



第560図 第5号集石・出土遺物実測図

**規模と平面形** 礫が確認された範囲は南北1.5m、東西1mである。

**遺物出土状況** 土師質土器片15点（皿12、内耳鍋3）、金属製品1点（古銭）が出土している。1868は中礫の出土範囲内の南部から破砕された状態で出土した。1869は元符通寶で、初鋳年は1098年である。

**所見** 出土状況から廃棄された礫と考えられるが、他の遺構との関係もなく詳細は不明である。出土遺物が少なく、時期は不明である。

第5号集石出土遺物観察表（第560図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1868	小皿	土師質土器	[10.4]	3.2	[4.2]	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	礫土中	50%

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1869	元符通寶	2.36	0.65	0.11	3.38	1098	銅	篆書	礫土中	

### 第6号集石 4区集石-1（第561図）

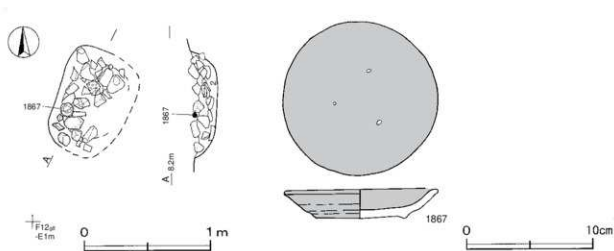
**位置** 調査区中央部 F12F8区に位置している。

**確認状況** 表砂を2.5m除去した標高約8mから、細礫が多量に検出された。

**規模と平面形** 礫が確認された範囲は南北が0.8m、東西が0.6mの長方形である。礫は厚さ20cmの砂B層の中から確認された。

**遺物出土状況** 陶器1点（志野焼丸皿）が礫層のほぼ上層から斜位で出土している。細礫の数は約110個にのぼり、花崗岩や凝灰岩など種類が様々である。表面に火熱痕は確認されなかった。

**所見** 検出された細礫は、廃棄されたものと推測される。出土した丸皿は堆積した砂B層とともに流れ込んだ可能性が高い。



第561図 第6号集石・出土遺物実測図

第6号集石出土遺物観察表（第561図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1867	丸皿	陶器	12.3	2.4	7.0	灰白・灰白	長石釉	見込みに3ヶ所のペン痕	志野焼, 17C初	中央部上層	100% PL37

表24 集石一覧表

番号	旧遺構番号	位置	標高	長軸方向	規模			形状	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)			
1	2区集石1	H13h1	8.4	N-5°-W	1.0	0.8	24	楕円形	-	
2	2区集石2	I12a8	8.0	N-30°-W	1.4	[1.0]	24	[楕円形]	-	HK3層外
3	2区集石3	I12a8	8.2	N-58°-E	0.5	0.4	10	不整形楕円形	-	
4	2区集石4	J11b1	4.7	N-5°-W	0.6	0.5	5	楕円形	-	SI11層内
5	3区集石1	B13g1	5.5	-	-	-	-	-	古銭・小皿	
6	4区集石1	F12f8	8.0	N-26°-E	0.8	[0.6]	20	[隅丸長方形]	志野丸皿	

## (7) 遺物集中地点

大小様々な礫と遺物が集中して出土した遺構1基を確認した。以下、その概要を遺物集中地点として記述する。

## 遺物集中地点（第562・563区）

**位置** 調査区北部のC13g3区で、第17号建物跡の南側4mに位置している。

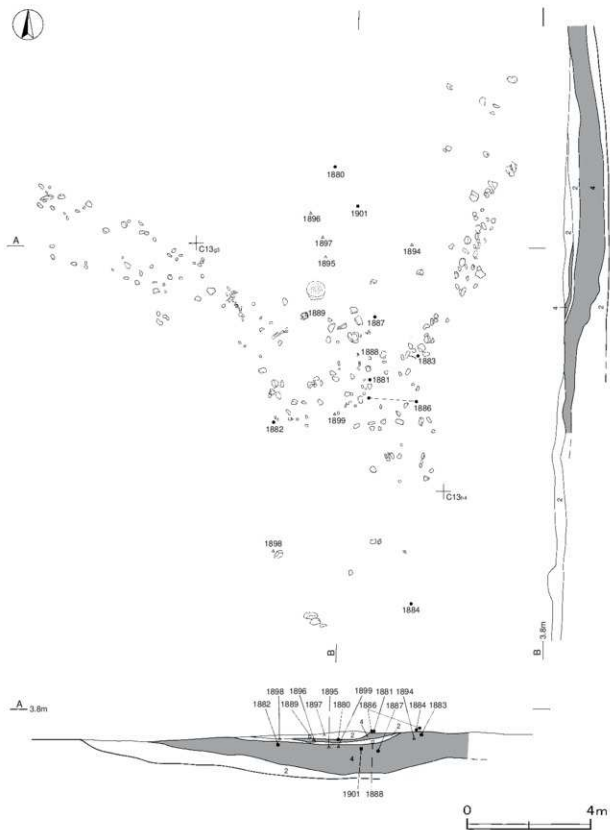
**確認状況** 表砂を6.2m除去後、標高3.6mで不規則に並ぶ礫を確認した。

**規模と形状** 礫の集中している範囲は南北に9m、東西に8mである。中央から北東と北西に向かって不規則に配されている。

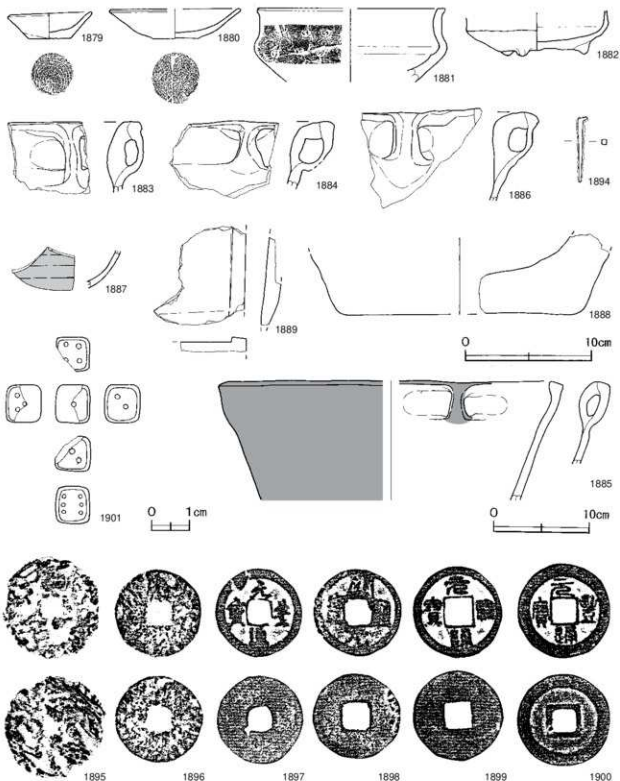
**覆土** 5層に分層され、第2層の砂Bと第4層の黒色土Bが交互に重なって堆積している。それぞれの層には砂Aの含有が見られる。これらはレンズ状の堆積状況で、周囲から砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

**遺物出土状況** 弥生土器片1点（壺）、土師質土器片400点（小皿4、皿48、香炉42、内耳鍋306）、陶器片1点（甕）、磁器片1点（碗）、土製品3点（瓦）、石器16点（火打石15、石臼1）、石製品1点（硯）、軽石4点、鉄製品11点（釘1、不明10）、古銭6枚、銅製品1点（不明）、骨角製品1点（サイコロ）、人骨の頭骨片や椎骨・四肢骨片、鯨の椎骨片、馬の歯、犬の下顎骨などが確認されており、これらは礫に混じって散在した状態で出土している。

**所見** 礫は自然に堆積したと考えられる砂の上層に配されており、明確な規則性は見受けられないが、おおむねL字状に並んでいる。礫の総数は872個で、最大長が20cm以上の礫は20個、10～20cmの礫は269個、10cm以下の礫は583個であった。確認された礫のほとんどが砂岩で、花崗岩や泥岩も若干混じっている。砂岩は火を受けているものが多い。遺物や礫の出土状況から、使わなくなったものや礫、動物の遺骸を徑地に廃棄した可能性が高い。



第562図 遺物集中地点実測図



第563図 遺物集中地点出土遺物実測図〔古銭は原寸大〕

遺物集中地点出土遺物観察表（第563図）

番号	器種	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1879	小皿	土師質土器	6.7	2.1	3.3	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	上層	70%
1880	皿	土師質土器	[10.4]	2.4	3.6	長石・黒色粒子	緑灰黄	普通	底部回転糸切り	上層	55%

番号	器種	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1881	香炉	土師質土器	[14.8]	(5.8)	—	雲母	にぶい黄緑	普通	口クロ整形、体部三巴文	上層	20%
1882	香炉	土師質土器	—	(2.9)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	三足貼りつけ	上層	50%
1883	内耳鍋	土師質土器	—	(5.7)	—	金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	耳部貼りつけ後ナデ	上層	5%
1884	内耳鍋	土師質土器	—	(5.5)	—	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	耳部貼りつけ後ナデ	上層	5%
1885	内耳鍋	土師質土器	[36.0]	(12.5)	—	雲母	にぶい赤褐	普通	耳部貼りつけ後ナデ	上層	10%
1886	内耳鍋	土師質土器	—	(7.9)	—	長石	にぶい赤褐	普通	耳部貼りつけ後ナデ	上層	10%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・軸索	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1887	碗	磁器	—	(3.0)	—	灰・オリブ灰	青磁	—	—	中層	

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1888	石鍋	—	(6.1)	[18.0]	(740.0)	砂岩	底部に工具痕	上層	

番号	器種	幅	奥行	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1889	碟	(7.4)	(7.9)	1.6	(89.2)	泥岩	海部に磨痕	上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1894	釘	5.2	0.45	0.74	5.5	鉄	断面方形	上層	

番号	器種	幅	奥行	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1901	サイコロ	0.92	0.97	0.92	1.18	鯨骨カ	角が磨減	上層	PL53

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1895	□□□□	2.65	0.50	0.26	3.32	—	銅	錆がひどく判読不能	上層	
1896	—	2.32	0.63	0.13	2.54	—	銅	種跡	上層	
1897	元豊通寶	2.34	0.64	0.08	(3.12)	1078	銅	行書	上層	
1898	開元通寶	2.37	0.67	0.10	3.38	621	銅	真書	上層	
1899	元祐通寶	2.40	0.72	0.10	3.20	1086	銅	篆書	上層	
1900	元豊通寶	2.51	0.67	0.12	4.08	1078	銅	篆書	上層	

## (8) 埋納遺構

古銭が埋納されていた遺構 1 基を確認した。以下、その概要を埋納遺構として記述する。

### 埋納遺構 (第564～581図)

**位置** 調査区北部の C13j4 区で、第19号建物跡の北側 3 m に位置している。

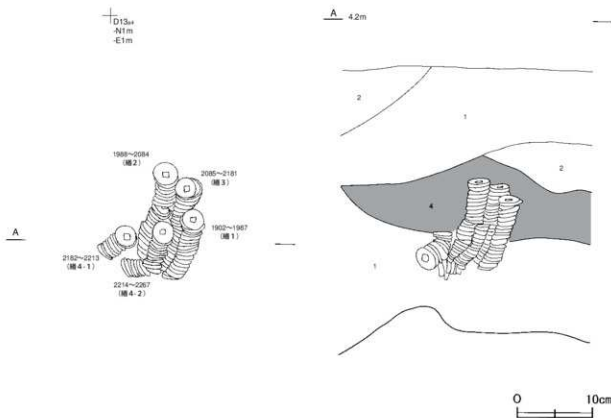
**確認状況** 表砂を 7.1 m 除去後、標高 4 m で古銭を確認した。掘り込みは確認できなかった。

**規模と形状** 古銭の東 4 本が縦に 13 cm の高さで、下側に 1 本が斜位で埋納されていた。容器あるいは袋物に入っていたかについては、確認できなかった。

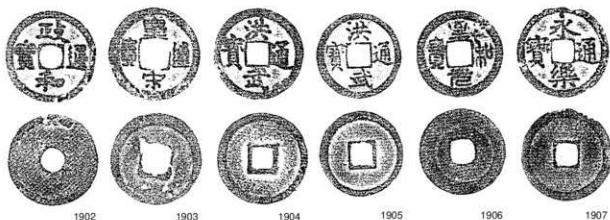
**遺物出土状況** 古銭 366 枚が、86 枚、97 枚、32 枚、54 枚の箱状態で出土している。さらに、本跡の北東側 0.5 m の位置で 15 枚が確認されている。

**所見** 錆で付着した古銭の方孔内には、繊維がわずかに確認でき、紐で 1 箱が 86 枚、97 枚に束ねられていたと判断できる。なお、32 枚と 54 枚の古銭については、32 枚の古銭が斜位で確認されているため、86 枚の 1 箱の内 32 枚部分が埋納後崩れ、54 枚部分が縦に残存していたとも推測される。このことから 86 枚と 97 枚がそれぞれ 2 箱ずつ埋納されていたと考えられることも可能である。判読できた古銭の中で、最新銭は宣徳通寶 (1433 年) である。なお、北側 0.5 m の位置で出土している 15 枚が 366 枚の古銭とともに埋納されていたかについては、不明で

ある。古銭が埋納されていた周りは砂Aと黒色土Bで、客土と考えられる層である。掘り込みの有無が確認できなかったこと、本跡を含む2か所から古銭が確認されていることから、客土とともに砂の中に納められたと考えられる。また、本跡の南側に近接して第19号建物跡が確認されており、第19号建物跡に付随するものであったことも否定できない。

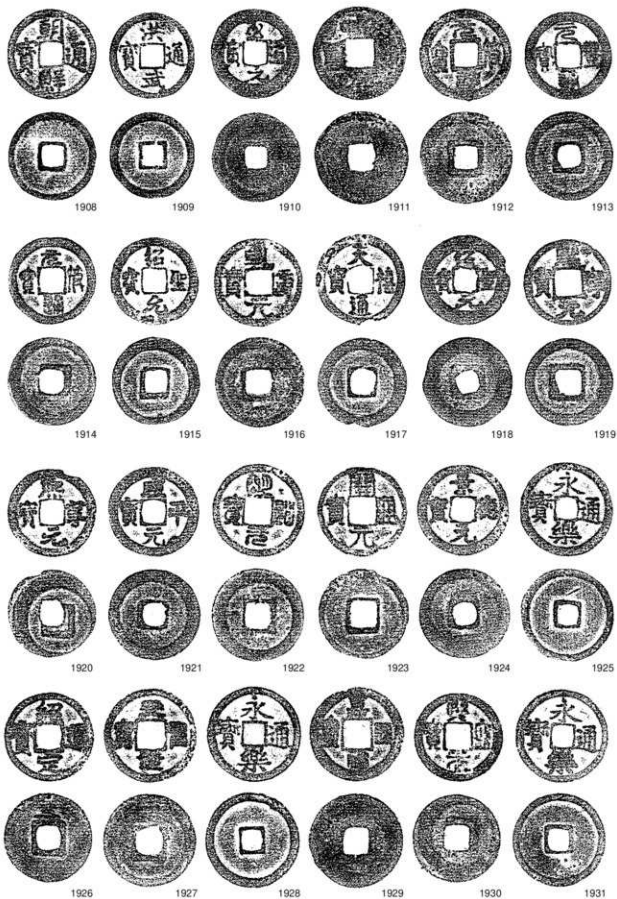


第564図 埋納遺構実測図

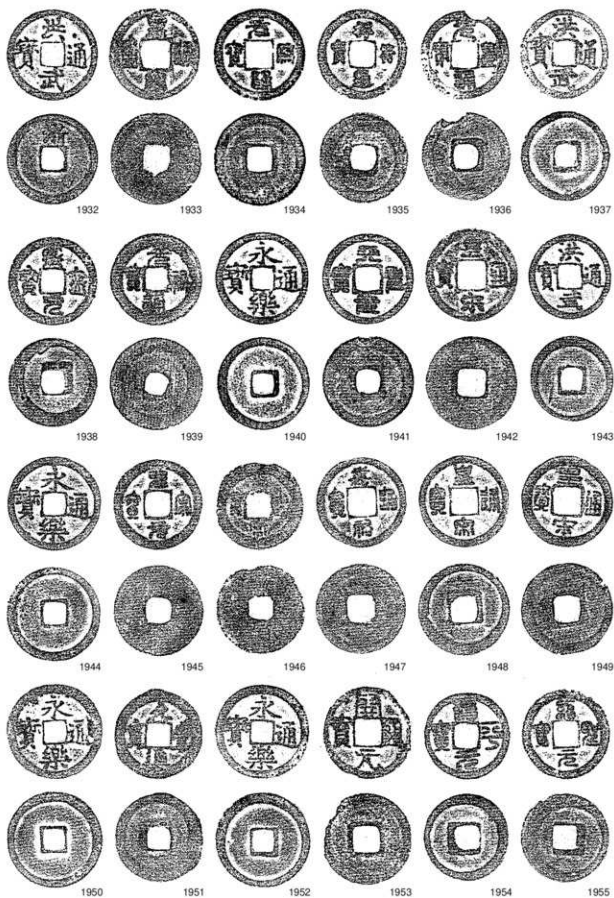


第565図 埋納遺構出土遺物実測図(1) [古銭は原寸大]

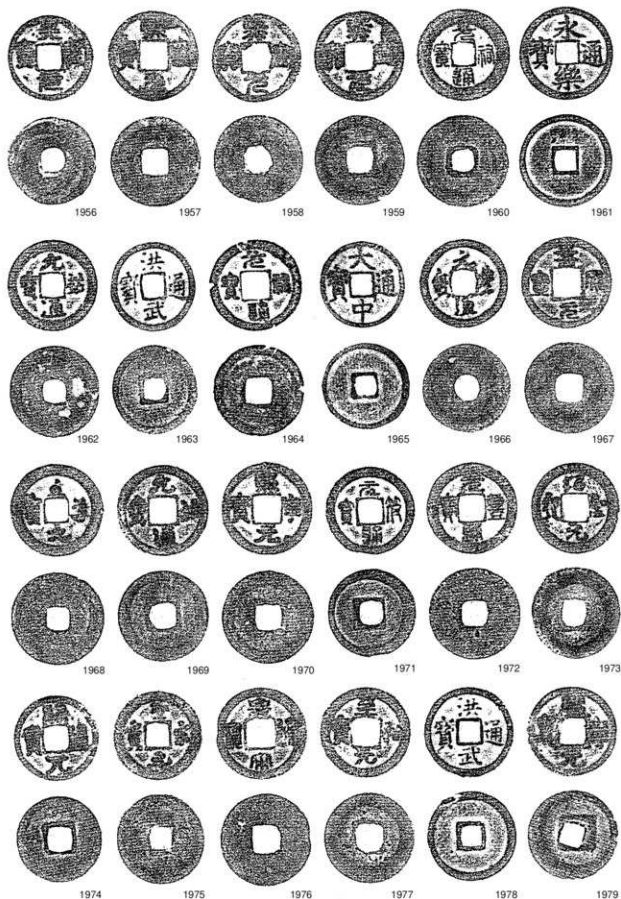




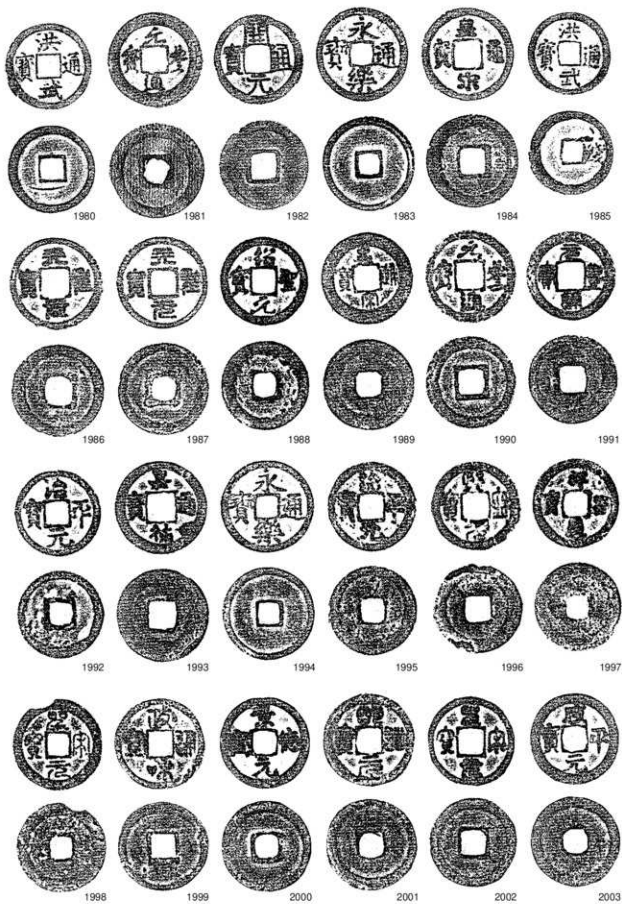
第566図 埋納遺構出土遺物実測図(2) [古銭は原寸大]



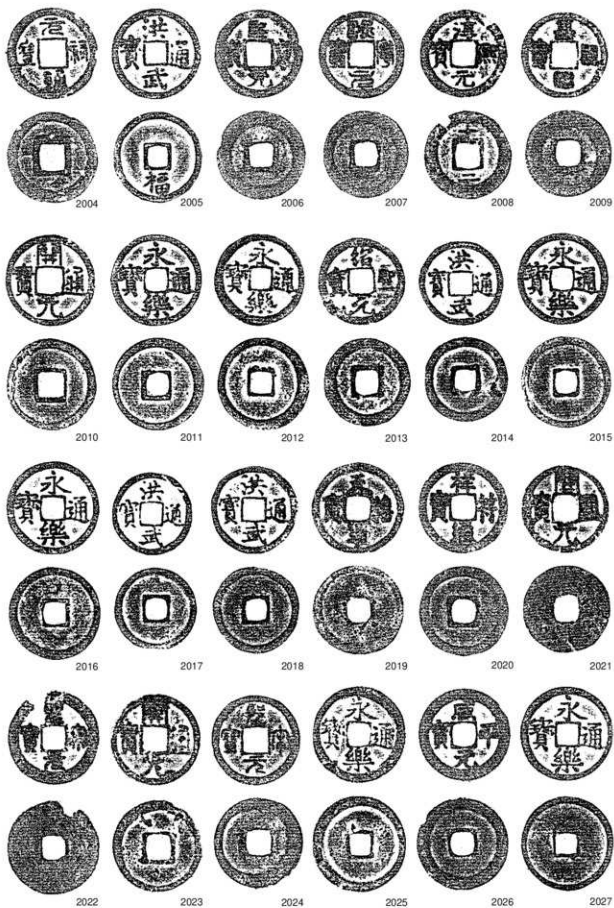
第567圖 埋納遺構出土遺物実測図(3) [古銭は原寸大]



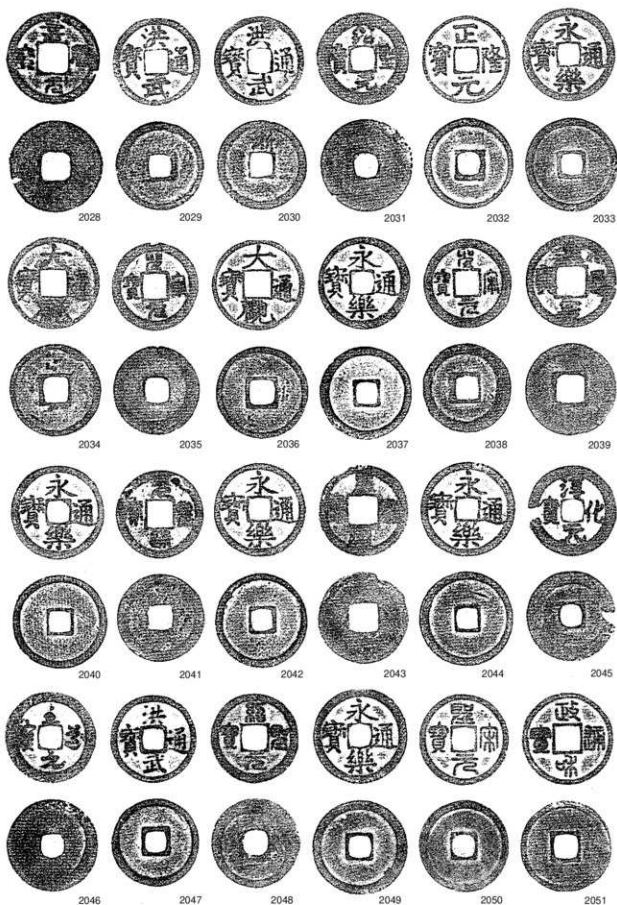
第568図 埋納遺構出土遺物実測図(4) [古銭は原寸大]



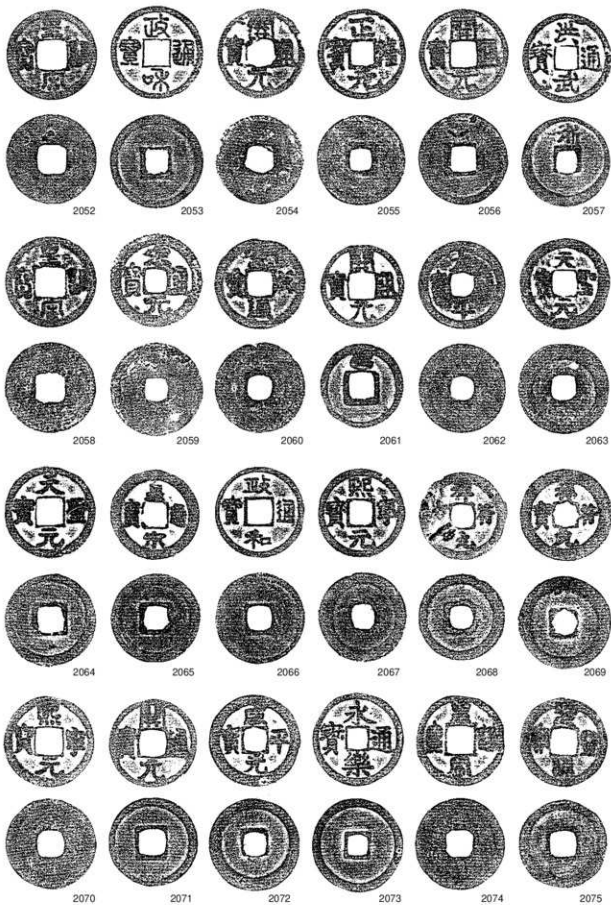
第569図 埋納遺構出土遺物実測図(5) [古銭は原寸大]



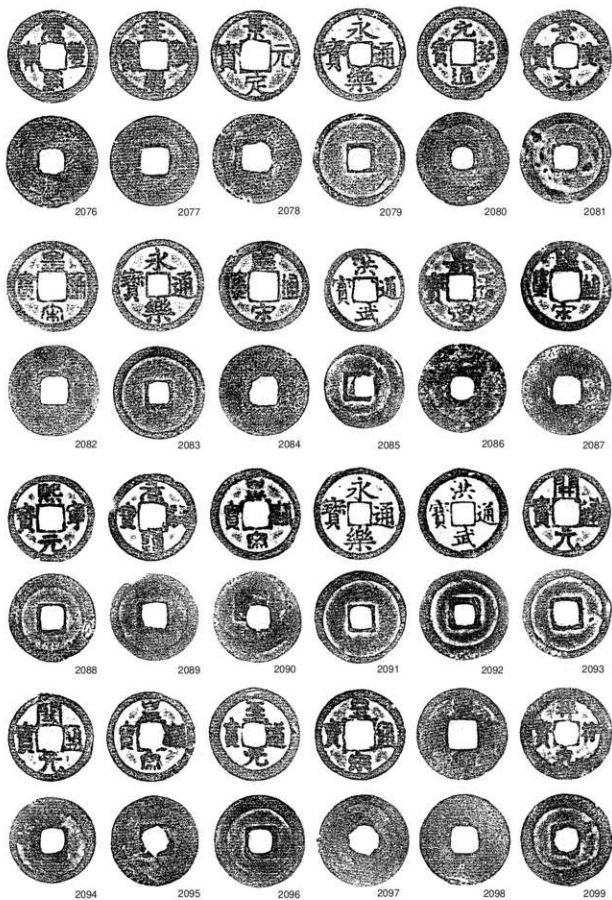
第570図 埋納遺構出土遺物実測図(6) [古銭は原寸大]



第571図 埋納遺構出土遺物実測図(7)〔古銭は原寸大〕

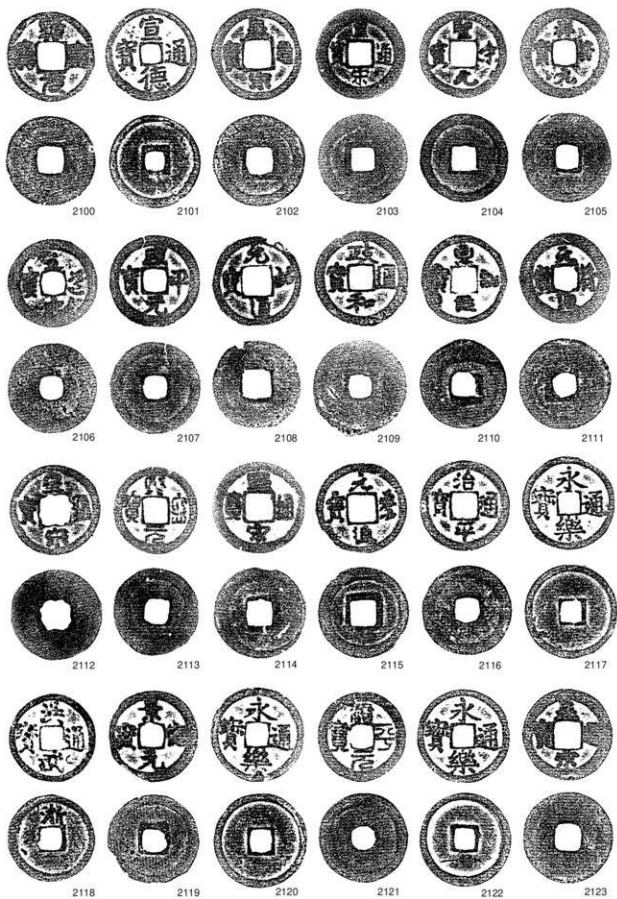


第572図 埋納遺構出土遺物実測図(8)〔古銭は原寸大〕

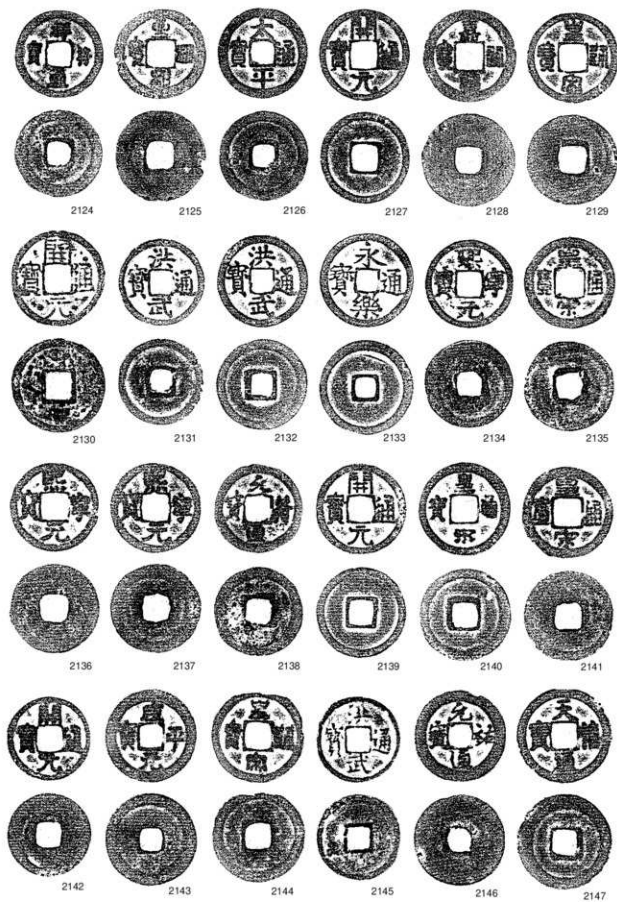


第573図 埋納遺構出土遺物実測図(9) [古銭は原寸大]

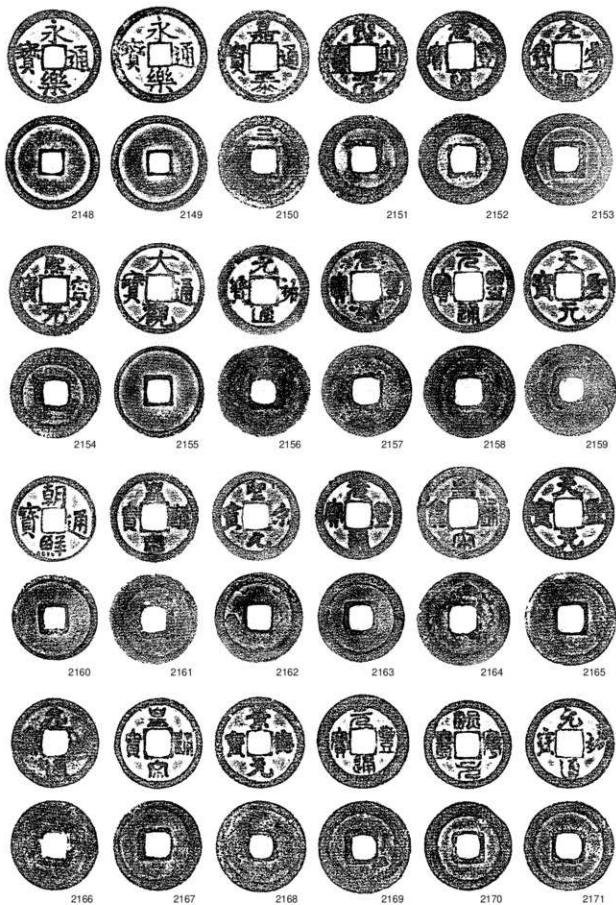




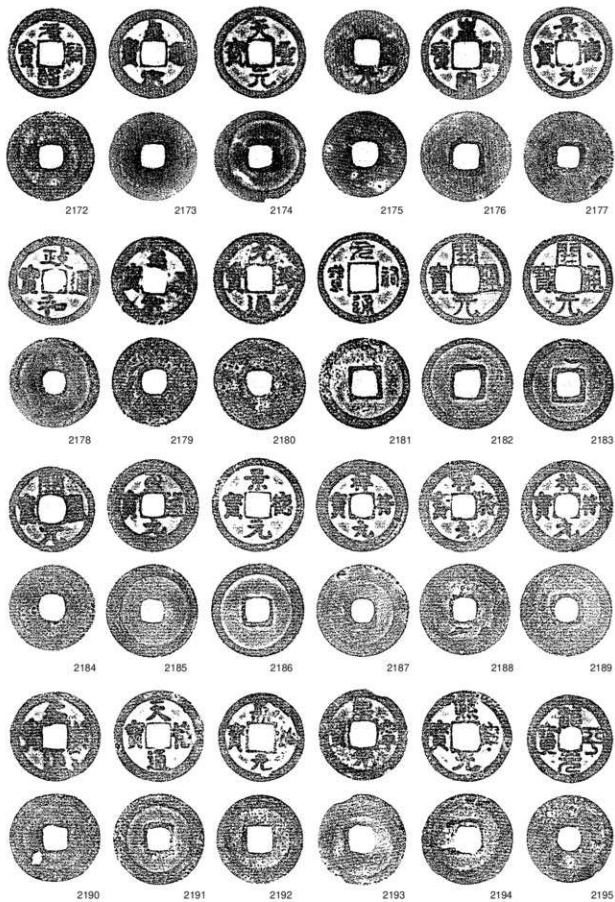
第574図 埋納遺構出土遺物実測図(10) [古銭は原寸大]



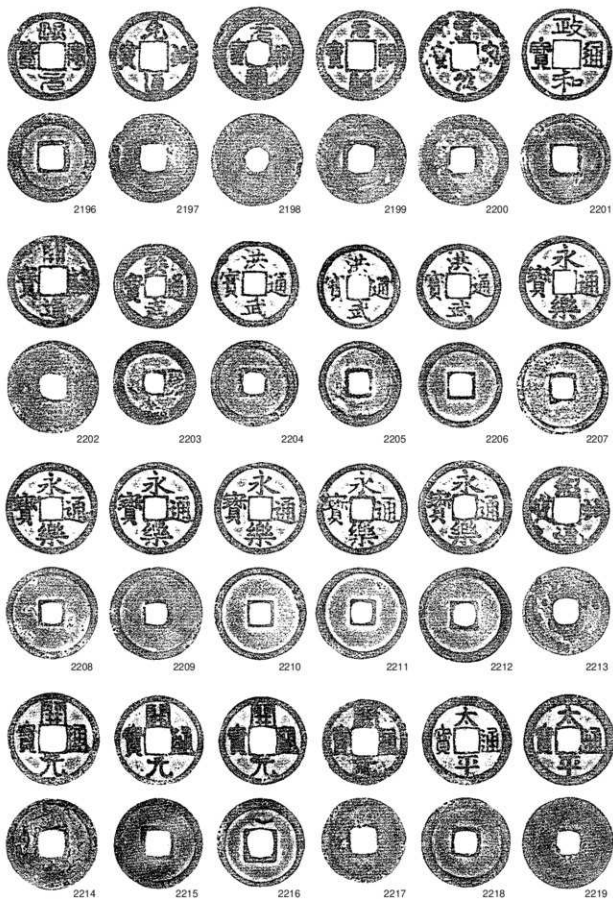
第575図 埋納遺構出土遺物実測図(11) [古銭は原寸大]



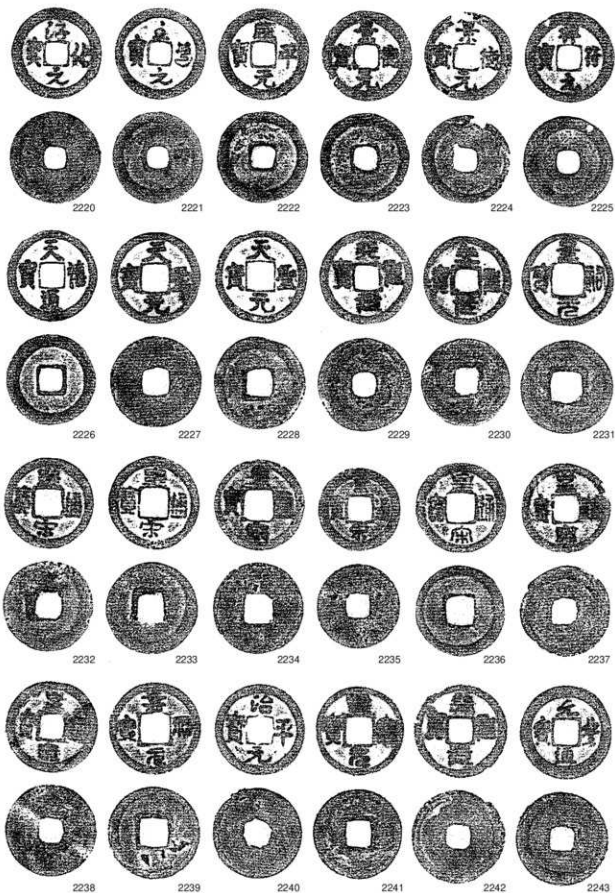
第576図 埋納遺構出土遺物実測図(12) [古銭は原寸大]



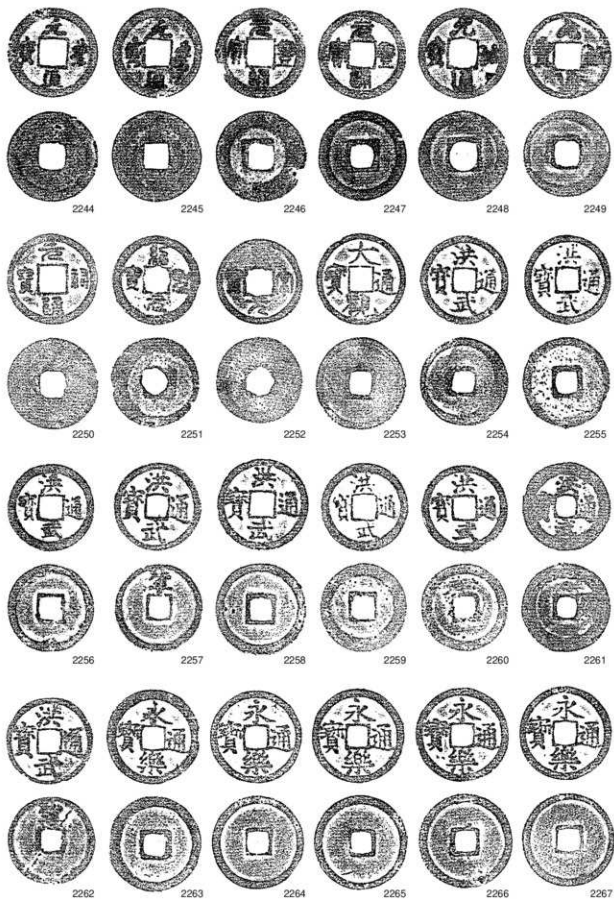
第577図 埋納遺構出土遺物実測図 (13) [古銭は原寸大]



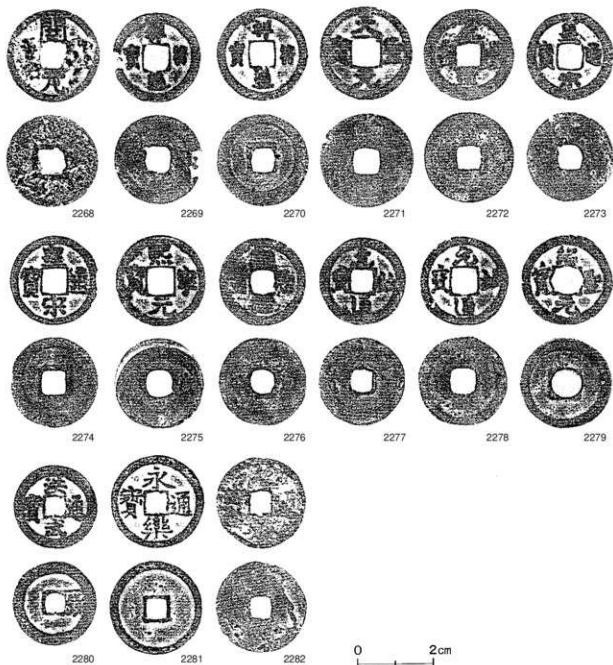
第578図 埋納遺構出土遺物実測図(14) [古銭は原寸大]



第579図 埋納遺構出土遺物実測図(15) [古銭は原寸大]



第580図 埋納遺構出土遺物実測図(16)〔古銭は原寸大〕



第581図 埋納遺構出土遺物実測図(17)

埋納遺構出土遺物観察表(第565~581図)

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特 徴	備考
1902	政和通寶	2.48	0.61	0.11	3.34	1111	銅	分幣, 円孔	綴1
1903	皇宋通寶	2.48	0.80	0.11	(2.96)	1038	銅	真書, 欠け	綴1
1904	洪武通寶	2.46	0.56	0.11	3.54	1368	銅	真書	綴1
1905	洪武通寶	2.29	0.58	0.15	3.16	1368	銅	真書	綴1
1906	至和元寶	2.33	0.61	0.19	2.92	1054	銅	篆書	綴1
1907	永樂通寶	2.49	0.61	0.11	(3.56)	1408	銅	真書, 欠け	綴1
1908	朝鮮通寶	2.37	0.60	0.13	3.28	1423	銅	真書	綴1
1909	洪武通寶	2.30	0.60	0.15	3.68	1368	銅	真書	綴1
1910	至道元寶	2.40	0.61	0.09	2.78	995	銅	行書	綴1
1911	政和通寶	2.50	0.73	0.08	2.72	1111	銅	分幣	綴1



番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	備考
1912	元符通寶	2.49	0.66	0.12	3.84	1098	銅	篆書	摺1
1913	元豊通寶	2.38	0.62	0.14	4.04	1078	銅	篆書	摺1
1914	元符通寶	2.38	0.62	0.11	(3.76)	1098	銅	篆書	摺1
1915	紹聖元寶	2.37	0.62	0.14	3.98	1094	銅	行書	摺1
1916	札元重寶	2.38	0.68	0.10	3.10	758	銅	真書	摺1当十銭
1917	天禧通寶	2.43	0.68	0.11	(3.14)	1017	銅	真書、欠け	摺1
1918	紹聖元寶	2.41	0.59	0.10	(3.86)	1094	銅	行書、欠け、星形孔	摺1
1919	熙寧元寶	2.37	0.68	0.09	2.92	1068	銅	真書	摺1
1920	熙寧元寶	2.39	0.66	0.10	(3.18)	1068	銅	真書、欠け	摺1
1921	咸平元寶	2.44	0.60	0.10	3.06	998	銅	真書	摺1
1922	明道元寶	2.50	0.71	0.11	3.68	1032	銅	篆書	摺1
1923	開元通寶	2.45	0.68	0.11	2.92	621	銅	真書	摺1
1924	景德元寶	2.45	0.59	0.12	3.56	1004	銅	真書	摺1
1925	永樂通寶	2.51	0.55	0.12	3.44	1408	銅	真書	摺1
1926	紹定通寶	2.38	0.65	0.11	3.42	1228	銅	真書、背上「三」	摺1
1927	天聖元寶	2.48	0.68	0.10	3.54	1023	銅	篆書	摺1
1928	永樂通寶	2.52	0.54	0.11	3.20	1408	銅	真書	摺1
1929	嘉祐通寶	2.52	0.67	0.10	3.40	1056	銅	篆書	摺1
1930	熙寧通寶	2.37	0.65	0.11	3.30	1068	銅	篆書	摺1
1931	永樂通寶	2.48	0.58	0.11	3.40	1408	銅	真書	摺1
1932	洪武通寶	2.41	0.64	0.11	3.16	1368	銅	真書、背上「浙」、重点通	摺1
1933	皇宋通寶	2.46	0.76	0.10	2.84	1038	銅	篆書	摺1
1934	元祐通寶	2.43	0.72	0.13	4.52	1086	銅	篆書	摺1
1935	祥符通寶	2.42	0.67	0.10	2.78	1008	銅	真書	摺1
1936	元豊通寶	2.41	0.66	0.12	(3.54)	1078	銅	篆書、欠け	摺1
1937	洪武通寶	2.39	0.54	0.13	3.64	1368	銅	真書	摺1
1938	熙寧元寶	2.36	0.65	0.11	3.74	1068	銅	篆書	摺1
1939	元祐通寶	2.48	0.61	0.12	3.98	1086	銅	篆書	摺1
1940	永樂通寶	2.48	0.57	0.12	3.52	1408	銅	真書	摺1
1941	天聖元寶	2.43	0.67	0.10	3.32	1023	銅	篆書	摺1
1942	皇宋通寶	2.48	0.72	0.11	3.36	1038	銅	真書	摺1
1943	洪武通寶	2.24	0.57	0.15	3.90	1368	銅	真書	摺1
1944	永樂通寶	2.49	0.59	0.14	4.48	1408	銅	真書	摺1
1945	聖宋元寶	2.41	0.72	0.08	2.24	1101	銅	篆書	摺1
1946	皇宋通寶	2.36	0.65	0.09	(3.00)	1038	銅	篆書	摺1
1947	嘉祐通寶	2.43	0.76	0.10	3.24	1056	銅	篆書	摺1
1948	皇宋通寶	2.44	0.68	0.10	2.70	1038	銅	篆書	摺1
1949	皇宋通寶	2.44	0.70	0.09	3.84	1038	銅	真書	摺1
1950	永樂通寶	2.55	0.63	0.12	3.48	1408	銅	真書	摺1
1951	元豊通寶	2.35	0.63	0.13	3.56	1078	銅	行書	摺1
1952	永樂通寶	2.53	0.53	0.11	4.26	1408	銅	真書	摺1
1953	開元通寶	2.44	0.72	0.09	(2.50)	621	銅	真書、欠け	摺1
1954	治平元寶	2.29	0.65	0.11	3.24	1064	銅	篆書	摺1
1955	紹聖元寶	2.38	0.66	0.12	(3.36)	1094	銅	篆書	摺1
1956	天聖元寶	2.35	0.65	0.11	3.44	1023	銅	篆書	摺1
1957	熙寧通寶	2.44	0.74	0.11	4.04	1068	銅	篆書	摺1
1958	熙寧元寶	2.40	0.77	0.11	3.12	1068	銅	篆書、星形孔	摺1
1959	熙寧元寶	2.40	0.72	0.11	3.22	1068	銅	篆書	摺1
1960	元祐通寶	2.49	0.57	0.09	3.30	1068	銅	篆書、星形孔	摺1
1961	永樂通寶	2.49	0.57	0.09	3.18	1408	銅	真書	摺1
1962	元祐通寶	2.42	0.65	0.10	(2.90)	1086	銅	行書	摺1
1963	洪武通寶	2.31	0.64	0.14	3.76	1368	銅	真書	摺1
1964	元祐通寶	2.44	0.73	0.12	(3.54)	1086	銅	篆書	摺1
1965	大中通寶	2.34	0.58	0.14	3.02	1361	銅	真書	摺1
1966	元豊通寶	2.38	0.68	0.10	3.16	1078	銅	行書、円孔	摺1
1967	嘉祐元寶	2.43	0.79	0.12	3.42	1056	銅	篆書	摺1
1968	至道元寶	2.49	0.65	0.10	3.74	995	銅	草書	摺1
1969	元祐通寶	2.43	0.72	0.11	3.80	1086	銅	行書	摺1
1970	熙寧元寶	2.45	0.69	0.11	3.76	1068	銅	真書	摺1

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	備考
1971	元符通寶	2.37	0.65	0.13	3.92	1098	銅	篆書	組1
1972	元豊通寶	2.45	0.70	0.09	2.98	1078	銅	篆書	組1
1973	紹聖元寶	2.41	0.62	0.10	3.72	1094	銅	行書	組1
1974	開元通寶	2.27	0.68	0.09	2.46	621	銅	真書	組1
1975	聖宋元寶	2.40	0.65	0.10	3.34	1101	銅	行書	組1
1976	皇宋通寶	2.45	0.75	0.10	2.24	1038	銅	篆書	組1
1977	至和元寶	2.42	0.75	0.10	2.98	1054	銅	真書	組1
1978	洪武通寶	2.35	0.55	0.15	4.20	1368	銅	真書	組1
1979	熙寧元寶	2.39	0.61	0.12	3.92	1068	銅	真書	組1
1980	洪武通寶	2.34	0.58	0.13	3.56	1368	銅	真書	組1
1981	元豊通寶	2.57	0.72	0.11	3.94	1078	銅	行書、星形孔	組1
1982	開元通寶	2.40	0.68	0.10	3.02	621	銅	真書	組1
1983	永樂通寶	2.50	0.56	0.13	4.56	1408	銅	真書	組1
1984	皇宋通寶	2.48	0.64	0.19	3.34	1038	銅	真書	組1
1985	洪武通寶	2.28	0.52	0.16	3.96	1368	銅	真書、背「一錢」	組1
1986	天聖元寶	2.49	0.71	0.09	3.02	1023	銅	篆書	組1
1987	天聖元寶	2.43	0.63	0.11	3.76	1023	銅	篆書	組1
1988	紹聖元寶	2.37	0.63	0.13	4.14	1094	銅	行書	組2
1989	皇宋通寶	2.45	0.65	0.07	2.64	1038	銅	篆書、星形孔	組2
1990	元豊通寶	2.46	0.66	0.10	3.08	1078	銅	行書	組2
1991	元豊通寶	2.40	0.71	0.10	3.18	1078	銅	篆書	組2
1992	治平元寶	2.33	0.59	0.11	3.34	1064	銅	真書	組2
1993	嘉祐通寶	2.50	0.75	0.08	3.20	1056	銅	真書	組2
1994	永樂通寶	2.47	0.55	0.11	3.82	1408	銅	真書	組2
1995	治平通寶	2.38	0.64	0.08	2.92	1064	銅	真書	組2
1996	熙寧元寶	2.44	0.68	0.11	2.84	1068	銅	篆書	組2
1997	祥符元寶	2.37	0.61	0.10	3.14	1008	銅	真書	組2
1998	聖宋元寶	2.42	0.57	0.09	(2.76)	1101	銅	篆書、欠け	組2
1999	政和通寶	2.47	0.61	0.09	3.68	1111	銅	篆書	組2
2000	景徳元寶	2.44	0.66	0.10	3.54	1004	銅	真書	組2
2001	明道元寶	2.49	0.66	0.11	3.78	1032	銅	篆書	組2
2002	聖宋元寶	2.39	0.68	0.10	3.60	1101	銅	篆書	組2
2003	咸平元寶	2.43	0.65	0.10	2.96	998	銅	真書、星形孔	組2
2004	元祐通寶	2.45	0.68	0.07	2.56	1086	銅	篆書	組2
2005	洪武通寶	2.43	0.54	0.12	4.26	1368	銅	真書、背下「福」	組2
2006	熙寧元寶	2.39	0.65	0.09	(3.44)	1068	銅	真書、欠け	組2
2007	熙寧元寶	2.34	0.62	0.08	3.16	1068	銅	篆書	組2
2008	淳熙元寶	2.38	0.65	0.11	(2.78)	1174	銅	真書、鑄不足、背「十二」	組2
2009	嘉祐通寶	2.32	0.72	0.11	3.42	1056	銅	篆書	組2
2010	開元通寶	2.44	0.68	0.16	3.54	621	銅	真書	組2
2011	永樂通寶	2.47	0.64	0.12	3.48	1408	銅	真書	組2
2012	永樂通寶	2.48	0.56	0.16	4.12	1408	銅	真書	組2
2013	紹聖元寶	2.38	0.69	0.12	3.92	1094	銅	行書	組2
2014	洪武通寶	2.30	0.60	0.16	3.86	1368	銅	真書	組2
2015	永樂通寶	2.48	0.61	0.13	3.44	1408	銅	真書	組2
2016	永樂通寶	2.50	0.62	0.11	3.94	1408	銅	真書	組2
2017	洪武通寶	2.22	0.65	0.16	3.52	1368	銅	真書	組2
2018	洪武通寶	2.35	0.60	0.16	4.30	1368	銅	真書	組2
2019	天禧通寶	2.45	0.63	0.11	3.36	1017	銅	真書	組2
2020	祥符元寶	2.43	0.70	0.11	3.54	1008	銅	真書	組2
2021	開元通寶	2.35	0.70	0.10	2.80	621	銅	真書	組2
2022	聖宋元寶	2.48	0.64	0.09	(3.26)	1101	銅	篆書、欠け	組2
2023	開元通寶	2.43	0.65	0.11	(3.30)	621	銅	真書	組2
2024	聖宋元寶	2.40	0.70	0.13	4.00	1101	銅	篆書	組2
2025	永樂通寶	2.52	0.64	0.15	4.22	1408	銅	真書	組2
2026	咸平元寶	2.45	0.65	0.11	(3.60)	998	銅	真書	組2
2027	永樂通寶	2.56	0.63	0.11	3.36	1408	銅	真書	組2
2028	嘉祐元寶	2.49	0.79	0.11	(3.70)	1056	銅	篆書	組2
2029	洪武通寶	2.38	0.60	0.12	3.32	1368	銅	真書	組2

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特 徴	備考
2030	洪武通寶	2.43	0.58	0.11	2.42	1368	銅	真書, 背上「唐」, 重点通	附2
2031	紹聖元寶	2.48	0.61	0.09	(2.94)	1094	銅	行書	附2
2032	正隆元寶	2.40	0.59	0.11	2.88	1157	銅	真書	附2
2033	永樂通寶	2.51	0.56	0.11	3.54	1408	銅	真書	附2
2034	大觀通寶	2.46	0.64	0.11	3.44	1107	銅	真書	附2
2035	聖宋元寶	2.35	0.64	0.10	3.06	1078	銅	篆書	附2
2036	大觀通寶	2.48	0.66	0.11	2.98	1107	銅	真書	附2
2037	永樂通寶	2.47	0.57	0.11	3.38	1408	銅	真書	附2
2038	聖宋元寶	2.38	0.60	0.13	4.26	1101	銅	篆書	附2
2039	皇宋通寶	2.43	0.72	0.11	3.50	1038	銅	篆書	附2
2040	永樂通寶	2.50	0.57	0.12	3.64	1408	銅	真書	附2
2041	元豐通寶	2.33	0.63	0.10	2.88	1078	銅	篆書	附2
2042	永樂通寶	2.49	0.54	0.11	3.14	1408	銅	真書	附2
2043	皇宋通寶	2.42	0.75	0.10	(3.34)	1038	銅	篆書, 欠寸	附2
2044	永樂通寶	2.50	0.54	0.13	3.66	1408	銅	真書	附2
2045	淳化元寶	2.41	0.58	0.10	(3.58)	990	銅	真書, 欠寸	附2
2046	聖道元寶	2.46	0.59	0.10	3.18	995	銅	草書	附2
2047	洪武通寶	2.33	0.52	0.13	3.90	1368	銅	真書	附2
2048	紹聖元寶	2.38	0.67	0.11	2.96	1094	銅	篆書	附2
2049	永樂通寶	2.51	0.57	0.12	3.66	1408	銅	真書	附2
2050	聖宋元寶	2.40	0.61	0.12	2.88	1101	銅	篆書	附2
2051	政和通寶	2.45	0.62	0.11	3.40	1111	銅	篆書	附2
2052	皇宋通寶	2.42	0.75	0.11	3.74	1038	銅	篆書	附2
2053	政和通寶	2.49	0.60	0.15	4.34	1111	銅	篆書	附2
2054	開元通寶	2.38	0.72	0.11	(3.04)	621	銅	真書, 欠寸	附2
2055	正隆元寶	2.39	0.58	0.10	3.36	1157	銅	真書	附2
2056	開元通寶	2.42	0.67	0.11	3.52	621	銅	真書, 背上月	附2
2057	洪武通寶	2.39	0.57	0.13	3.40	1368	銅	真書, 背上「唐」, 重点通	附2
2058	皇宋通寶	2.44	0.76	0.12	3.34	1038	銅	篆書	附2
2059	宗通元寶	2.47	0.60	0.13	3.26	960	銅	真書	附2
2060	□□通寶	2.43	0.65	0.10	3.16	—	銅	真書, 模跡	附2
2061	開元通寶	2.22	0.68	0.13	3.18	845	銅	真書, 背上「昌」	附2
2062	太平通寶	2.33	0.62	0.06	2.42	976	銅	真書	附2
2063	天皇帝元寶	2.45	0.65	0.08	2.74	1023	銅	真書	附2
2064	天皇帝元寶	2.45	0.74	0.13	3.86	1023	銅	真書	附2
2065	皇宋通寶	2.42	0.63	0.11	3.30	1038	銅	真書	附2
2066	政和通寶	2.45	0.65	0.10	3.12	1111	銅	分権	附2
2067	熙寧元寶	2.40	0.65	0.11	3.90	1068	銅	真書	附2
2068	祥符元寶	2.33	0.61	0.09	(2.52)	1008	銅	真書	附2
2069	祥符元寶	2.52	0.67	0.11	3.66	1008	銅	真書, 星形孔	附2
2070	熙寧元寶	2.45	0.73	0.10	4.06	1068	銅	真書	附2
2071	開元通寶	2.40	0.72	0.08	3.50	621	銅	真書	附2
2072	咸平元寶	2.47	0.61	0.10	3.72	998	銅	真書	附2
2073	永樂通寶	2.49	0.55	0.11	4.28	1408	銅	真書	附2
2074	皇宋通寶	2.41	0.69	0.08	3.24	1038	銅	篆書	附2
2075	元豐通寶	2.40	0.67	0.09	3.54	1078	銅	篆書	附2
2076	元豐通寶	2.47	0.67	0.12	4.22	1078	銅	篆書	附2
2077	□□□□	2.42	0.77	0.09	2.90	1056	銅	一, 模跡	附2
2078	景定元寶	2.41	0.76	0.08	2.62	1260	銅	真書	附2
2079	永樂通寶	2.49	0.57	0.10	(3.10)	1408	銅	真書	附2
2080	元祐通寶	2.49	0.56	0.10	3.76	1086	銅	行書	附2
2081	黃德元寶	2.64	0.67	0.12	(3.10)	1004	銅	真書	附2
2082	皇宋通寶	2.48	0.71	0.11	3.66	1038	銅	篆書	附2
2083	永樂通寶	2.50	0.54	0.09	3.92	1408	銅	真書	附2
2084	皇宋通寶	2.47	0.73	0.09	(3.40)	1038	銅	真書	附2
2085	洪武通寶	2.21	0.50	0.10	3.00	1368	銅	真書	附3
2086	嘉定通寶	2.39	0.59	0.08	3.68	1208	銅	真書	附3
2087	皇宋通寶	2.45	0.74	0.11	3.54	1038	銅	真書, 星形孔	附3
2088	熙寧元寶	2.38	0.63	0.11	3.78	1068	銅	真書	附3

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	備考
2089	元祐通寶	2.38	0.67	0.12	(3.54)	1086	銅	篆書	綴3
2090	皇宋通寶	2.45	0.65	0.12	3.72	1038	銅	篆書	綴3
2091	永樂通寶	2.47	0.63	0.15	4.26	1408	銅	真書	綴3
2092	洪武通寶	2.44	0.63	0.14	(3.86)	1368	銅	真書	綴3
2093	開元通寶	2.40	0.67	0.13	3.46	621	銅	真書	綴3
2094	開元通寶	2.32	0.61	0.15	3.64	621	銅	真書	綴3
2095	皇宋通寶	2.43	0.62	0.11	(3.24)	1038	銅	篆書, 星形孔	綴3
2096	至道元寶	2.45	0.60	0.11	3.56	995	銅	真書	綴3
2097	皇宋通寶	2.47	0.63	0.13	(4.10)	1038	銅	真書	綴3
2098	皇宋通寶	2.44	0.75	0.10	3.62	1038	銅	真書, 模跡	綴3
2099	祥符元寶	2.47	0.62	0.10	(3.50)	1008	銅	真書, 星形孔	綴3
2100	熙寧元寶	2.38	0.75	0.10	2.66	1068	銅	篆書	綴3
2101	宣德通寶	2.46	0.56	0.15	5.15	1433	銅	真書	綴3
2102	皇宋通寶	2.47	0.74	0.14	3.96	1038	銅	真書	綴3
2103	皇宋通寶	2.43	0.65	0.11	3.54	1038	銅	真書	綴3
2104	聖宋元寶	2.36	0.65	0.14	4.06	1101	銅	行書	綴3
2105	祥符元寶	2.43	0.63	0.11	3.28	1109	銅	真書	綴3
2106	至道元寶	2.41	0.63	0.11	2.82	995	銅	草書	綴3
2107	咸平元寶	2.44	0.62	0.10	2.94	998	銅	真書	綴3
2108	元祐通寶	2.37	0.75	0.10	(2.48)	1086	銅	行書	綴3
2109	政和通寶	2.50	0.61	0.11	3.28	1111	銅	分幣	綴3
2110	至和通寶	2.33	0.61	0.13	(3.24)	1054	銅	篆書	綴3
2111	元符通寶	2.46	0.53	0.10	3.32	1098	銅	行書	綴3
2112	皇宋通寶	2.44	0.74	0.12	3.62	1038	銅	真書, 星形孔	綴3
2113	熙寧元寶	2.32	0.65	0.12	2.58	1068	銅	篆書	綴3
2114	皇宋通寶	2.46	0.71	0.13	(3.46)	1038	銅	真書	綴3
2115	元豐通寶	2.45	0.71	0.10	3.30	1078	銅	行書	綴3
2116	治平通寶	2.42	0.69	0.11	3.82	1064	銅	真書	綴3
2117	永樂通寶	2.49	0.55	0.11	3.78	1408	銅	真書	綴3
2118	洪武通寶	2.36	0.61	0.11	3.24	1368	銅	真書, 背上「衝」, 重点通	綴3
2119	景德元寶	2.42	0.61	0.13	(3.62)	1004	銅	真書	綴3
2120	永樂通寶	2.53	0.57	0.12	3.20	1408	銅	真書	綴3
2121	治平元寶	2.39	0.62	0.11	3.38	1064	銅	篆書, 円孔	綴3
2122	永樂通寶	2.48	0.54	0.14	4.46	1408	銅	真書	綴3
2123	皇宋通寶	2.44	0.68	0.10	3.24	1038	銅	真書	綴3
2124	祥符通寶	2.37	0.61	0.12	3.14	1008	銅	真書	綴3
2125	至和通寶	2.44	0.75	0.09	(3.52)	1054	銅	篆書	綴3
2126	太平通寶	2.41	0.58	0.12	3.56	976	銅	真書	綴3
2127	開元通寶	2.44	0.72	0.11	2.98	621	銅	真書	綴3
2128	嘉祐通寶	2.52	0.73	0.11	3.66	1056	銅	篆書	綴3
2129	皇宋通寶	2.46	0.73	0.10	2.70	1038	銅	篆書	綴3
2130	開元通寶	2.57	0.68	0.14	3.50	621	銅	真書	綴3
2131	洪武通寶	2.32	0.55	0.15	4.60	1368	銅	真書, 重点通	綴3
2132	洪武通寶	2.44	0.57	1.13	3.96	1368	銅	真書	綴3
2133	永樂通寶	2.54	0.53	0.12	3.84	1408	銅	真書	綴3
2134	熙寧元寶	2.37	0.64	0.12	4.00	1068	銅	真書	綴3
2135	皇宋通寶	2.43	0.68	0.13	3.62	1038	銅	篆書	綴3
2136	熙寧元寶	2.41	0.74	0.08	2.34	1068	銅	真書	綴3
2137	熙寧元寶	2.45	0.73	0.07	2.74	1068	銅	真書, 星形孔	綴3
2138	元符通寶	2.41	0.68	0.11	3.00	1098	銅	行書	綴3
2139	開元通寶	2.42	0.65	0.11	3.30	621	銅	真書	綴3
2140	皇宋通寶	2.48	0.72	0.12	3.32	1038	銅	真書	綴3
2141	皇宋通寶	2.45	0.75	0.10	3.16	1038	銅	真書	綴3
2142	開元通寶	2.26	0.68	0.08	2.12	621	銅	真書	綴3
2143	咸平元寶	2.48	0.60	0.10	3.72	998	銅	真書	綴3
2144	皇宋通寶	2.48	0.70	0.09	(2.68)	1038	銅	篆書, 欠寸	綴3
2145	洪武通寶	2.27	0.63	0.15	2.68	1368	銅	真書	綴3
2146	元祐通寶	2.44	0.63	0.09	(3.32)	1086	銅	行書, 円孔	綴3
2147	天禧通寶	2.55	0.69	0.11	3.40	1017	銅	真書	綴3

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	備考
2148	永樂通寶	2.51	0.60	0.12	3.96	1408	銅	真書	綴3
2149	永樂通寶	2.57	0.54	0.13	3.68	1408	銅	真書	綴3
2150	嘉泰通寶	2.46	0.68	0.13	3.76	1201	銅	真書、背上「三」	綴3
2151	熙寧元寶	2.41	0.68	0.08	2.78	1068	銅	篆書	綴3
2152	元豐通寶	2.43	0.73	0.12	4.00	1078	銅	篆書	綴3
2153	元豐通寶	2.46	0.63	0.10	3.64	1078	銅	行書	綴3
2154	熙寧通寶	2.42	0.68	0.10	3.36	1068	銅	真書	綴3
2155	大觀通寶	2.44	0.63	0.12	3.34	1107	銅	真書	綴3
2156	元祐通寶	2.49	0.63	0.10	3.08	1086	銅	行書	綴3
2157	元豐通寶	2.44	0.74	0.09	2.94	1078	銅	篆書	綴3
2158	元豐通寶	2.46	0.70	0.11	3.60	1078	銅	篆書	綴3
2159	天聖元寶	2.46	0.64	0.10	3.22	1023	銅	真書	綴3
2160	朝鮮通寶	2.30	0.61	0.13	3.26	1423	銅	真書	綴3
2161	皇宋通寶	2.38	0.64	0.11	2.86	1038	銅	篆書	綴3
2162	聖宋元寶	2.39	0.67	0.14	3.70	1101	銅	行書	綴3
2163	元豐通寶	2.36	0.66	0.11	3.56	1078	銅	篆書	綴3
2164	皇宋通寶	2.50	0.73	0.14	(4.20)	1038	銅	篆書	綴3
2165	天聖元寶	2.50	0.70	0.11	3.60	1023	銅	真書	綴3
2166	元祐通寶	2.36	0.71	0.06	2.42	1086	銅	行書、模鑄	綴3
2167	皇宋通寶	2.39	0.66	0.12	3.72	1038	銅	篆書	綴3
2168	景德元寶	2.42	0.62	0.11	3.22	1004	銅	真書	綴3
2169	元豐通寶	2.50	0.66	0.11	3.46	1078	銅	篆書	綴3
2170	熙寧元寶	2.38	0.58	0.10	(3.22)	1068	銅	篆書	綴3
2171	元祐通寶	2.40	0.63	0.15	4.38	1086	銅	行書	綴3
2172	元祐通寶	2.38	0.64	0.11	3.18	1086	銅	篆書	綴3
2173	皇宋通寶	2.37	0.61	0.11	3.46	1038	銅	真書	綴3
2174	天聖元寶	2.47	0.62	0.11	(3.08)	1038	銅	真書	綴3
2175	開元通寶	2.30	0.65	0.08	2.30	621	銅	真書、模鑄	綴3
2176	皇宋通寶	2.44	0.70	0.10	3.40	1038	銅	篆書	綴3
2177	景德元寶	2.45	0.59	0.11	3.46	1004	銅	真書	綴3
2178	政和通寶	2.44	0.59	0.11	3.56	1111	銅	分幣、円孔	綴3
2179	皇宋通寶	2.31	0.60	0.10	2.94	1038	銅	真書	綴3
2180	元祐通寶	2.46	0.66	0.10	3.38	1086	銅	行書	綴3
2181	元祐通寶	2.45	0.69	0.13	3.36	1086	銅	篆書	綴3
2182	開元通寶	2.48	0.69	0.11	2.88	621	銅	真書、背上月	綴4-1
2183	開元通寶	2.42	0.67	0.11	3.46	621	銅	真書、背上月	綴4-1
2184	開元通寶	2.32	0.70	0.08	2.98	621	銅	真書、円孔	綴4-1
2185	至道元寶	2.49	0.59	0.09	3.68	995	銅	行書	綴4-1
2186	景德元寶	2.48	0.64	0.10	3.30	1004	銅	真書	綴4-1
2187	祥符元寶	2.48	0.59	0.08	3.36	1008	銅	真書	綴4-1
2188	祥符元寶	2.45	0.60	0.10	3.40	1008	銅	真書	綴4-1
2189	祥符元寶	2.48	0.62	0.10	3.42	1008	銅	真書、円孔	綴4-1
2190	天禧通寶	2.45	0.64	0.11	3.38	1017	銅	真書	綴4-1
2191	天禧通寶	2.45	0.62	0.11	3.34	1017	銅	真書	綴4-1
2192	嘉祐元寶	2.37	0.72	0.12	3.36	1056	銅	真書	綴4-1
2193	熙寧元寶	2.44	0.68	0.09	(2.80)	1068	銅	真書、欠け	綴4-1
2194	熙寧元寶	2.46	0.71	0.09	3.68	1068	銅	真書	綴4-1
2195	熙寧元寶	2.37	0.62	0.11	3.68	1068	銅	篆書、円孔	綴4-1
2196	熙寧元寶	2.40	0.65	0.12	3.58	1068	銅	篆書	綴4-1
2197	元祐通寶	2.42	0.68	0.11	(3.00)	1086	銅	行書	綴4-1
2198	元祐通寶	2.47	0.62	0.10	3.88	1086	銅	篆書、星形孔	綴4-1
2199	元祐通寶	2.42	0.74	0.12	3.76	1086	銅	篆書	綴4-1
2200	聖宋元寶	2.45	0.69	0.11	3.68	1101	銅	篆書、欠け	綴4-1
2201	政和通寶	2.44	0.71	0.11	3.02	1111	銅	真書	綴4-1
2202	開禧通寶	2.46	0.68	0.10	3.20	1205	銅	真書	綴4-1
2203	洪武通寶	2.26	0.53	0.13	3.54	1368	銅	真書、背「一錢」	綴4-1
2204	洪武通寶	2.38	0.59	0.12	3.44	1368	銅	真書	綴4-1
2205	洪武通寶	2.27	0.55	0.13	3.16	1368	銅	真書	綴4-1
2206	洪武通寶	2.29	0.62	0.14	3.64	1368	銅	真書	綴4-1

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	備考
2207	永樂通寶	2.50	0.56	0.14	3.70	1408	銅	真書	絹4-1
2208	永樂通寶	2.47	0.58	0.12	3.36	1408	銅	真書	絹4-1
2209	永樂通寶	2.48	0.68	0.13	3.62	1408	銅	真書	絹4-1
2210	永樂通寶	2.51	0.55	0.11	2.68	1408	銅	真書	絹4-1
2211	永樂通寶	2.46	0.55	0.11	3.18	1408	銅	真書	絹4-1
2212	永樂通寶	2.54	0.60	0.10	3.14	1408	銅	真書	絹4-1
2213	元祐通寶	2.38	0.70	0.12	3.24	1086	銅	行書 <sup>h</sup>	絹4-1
2214	開元通寶	2.47	0.73	0.11	2.80	621	銅	真書	絹4-2
2215	開元通寶	2.45	0.69	0.11	3.52	621	銅	真書	絹4-2
2216	開元通寶	2.38	0.70	0.10	2.68	621	銅	真書、背上月	絹4-2
2217	開元通寶	2.32	0.72	0.10	3.02	621	銅	真書	絹4-2
2218	太平通寶	2.42	0.75	0.10	3.26	976	銅	真書	絹4-2
2219	太平通寶	2.45	0.62	0.10	2.98	976	銅	真書	絹4-2
2220	淳化元寶	2.44	0.58	0.10	3.44	990	銅	草書	絹4-2
2221	至道元寶	2.46	0.61	0.10	3.04	995	銅	草書	絹4-2
2222	咸平元寶	2.48	0.60	0.11	3.88	998	銅	真書	絹4-2
2223	景德元寶	2.44	0.65	0.10	3.44	1004	銅	真書	絹4-2
2224	景德元寶	2.39	0.62	0.12	(3.40)	1004	銅	真書、欠け	絹4-2
2225	祥符元寶	2.44	0.63	0.10	3.44	1008	銅	真書	絹4-2
2226	天禧通寶	2.43	0.64	0.12	3.50	1017	銅	真書	絹4-2
2227	天聖元寶	2.45	0.76	0.13	3.84	1023	銅	真書	絹4-2
2228	天聖元寶	2.51	0.73	0.10	(3.16)	1023	銅	真書	絹4-2
2229	天聖元寶	2.50	0.69	0.10	2.90	1023	銅	篆書	絹4-2
2230	天聖元寶	2.40	0.62	0.09	2.80	1023	銅	篆書	絹4-2
2231	景德元寶	2.50	0.85	0.12	4.06	1034	銅	篆書	絹4-2
2232	皇宋通寶	2.44	0.70	0.10	3.08	1038	銅	真書	絹4-2
2233	皇宋通寶	2.50	0.72	0.12	3.56	1038	銅	真書	絹4-2
2234	皇宋通寶	2.47	0.75	0.11	3.52	1038	銅	真書	絹4-2
2235	皇宋通寶	2.50	0.65	0.10	2.88	1038	銅	真書	絹4-2
2236	皇宋通寶	2.42	0.74	0.10	2.72	1038	銅	篆書	絹4-2
2237	皇宋通寶	2.47	0.64	0.13	3.68	1038	銅	篆書、欠け	絹4-2
2238	皇宋通寶	2.46	0.61	0.11	2.86	1038	銅	篆書	絹4-2
2239	嘉祐元寶	2.48	0.79	0.12	3.58	1056	銅	篆書	絹4-2
2240	治平元寶	2.41	0.74	0.11	3.16	1064	銅	真書、星形孔	絹4-2
2241	熙寧元寶	2.39	0.67	0.14	4.24	1068	銅	篆書	絹4-2
2242	熙寧元寶	2.56	0.64	0.11	(3.10)	1068	銅	篆書	絹4-2
2243	元豐通寶	2.50	0.67	0.10	3.60	1078	銅	行書	絹4-2
2244	元豐通寶	2.43	0.72	0.09	3.52	1078	銅	行書	絹4-2
2245	元豐通寶	2.43	0.63	0.11	4.00	1078	銅	行書	絹4-2
2246	元豐通寶	2.43	0.69	0.10	(3.56)	1078	銅	篆書、欠け	絹4-2
2247	元豐通寶	2.37	0.62	0.10	3.58	1078	銅	篆書	絹4-2
2248	元祐通寶	2.40	0.75	0.07	2.50	1086	銅	行書	絹4-2
2249	元祐通寶	2.34	0.67	0.08	2.82	1086	銅	行書	絹4-2
2250	元祐通寶	2.43	0.63	0.10	3.54	1086	銅	篆書	絹4-2
2251	紹聖元寶	2.38	0.64	0.12	3.98	1094	銅	篆書、星形孔	絹4-2
2252	聖宋元寶	2.35	0.73	0.12	3.54	1101	銅	篆書、星形孔	絹4-2
2253	大觀通寶	2.45	0.62	0.11	3.94	1107	銅	真書	絹4-2
2254	洪武通寶	2.36	0.60	0.10	3.02	1368	銅	真書	絹4-2
2255	洪武通寶	2.37	0.58	0.12	3.54	1368	銅	真書	絹4-2
2256	洪武通寶	2.33	0.70	0.13	3.56	1368	銅	真書	絹4-2
2257	洪武通寶	2.35	0.58	0.11	3.28	1368	銅	真書、背上月	絹4-2
2258	洪武通寶	2.45	0.58	0.12	3.68	1368	銅	真書、重点通	絹4-2
2259	洪武通寶	2.33	0.67	0.15	4.20	1368	銅	真書	絹4-2
2260	洪武通寶	2.33	0.50	0.13	3.50	1368	銅	真書	絹4-2
2261	洪武通寶	2.37	0.53	0.10	3.72	1368	銅	真書、背「一鼓」	絹4-2
2262	洪武通寶	2.34	0.57	0.11	2.52	1368	銅	真書、背上月	絹4-2
2263	永樂通寶	2.53	0.58	0.12	4.54	1408	銅	真書	絹4-2
2264	永樂通寶	2.48	0.56	0.14	3.92	1408	銅	真書	絹4-2
2265	永樂通寶	2.53	0.54	0.12	3.54	1408	銅	真書	絹4-2

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	備考
2266	永樂通寶	2.51	0.56	0.10	3.74	1408	銅	真書	楮4-2
2267	永樂通寶	2.48	0.62	0.12	3.64	1408	銅	真書	楮4-2
2268	開元通寶	2.51	0.68	0.16	3.20	621	銅	真書	
2269	祥符通寶	2.40	0.68	0.17	(4.36)	1008	銅	真書, 欠け	
2270	祥符通寶	2.46	0.67	0.13	3.34	1008	銅	真書	
2271	天聖元寶	2.50	0.71	0.15	4.72	1023	銅	真書	
2272	元豊通寶	2.46	0.64	0.10	3.92	1078	銅	行書	
2273	皇宋通寶	2.36	0.64	0.13	3.30	1038	銅	真書	
2274	皇宋通寶	2.40	0.64	0.11	(3.94)	1038	銅	真書	
2275	熙寧元寶	2.45	0.73	0.10	3.50	1068	銅	真書	
2276	熙寧元寶	2.33	0.63	0.10	3.16	1068	銅	篆書	
2277	元祐通寶	2.35	0.58	0.11	3.46	1086	銅	行書	
2278	元祐通寶	2.41	0.67	0.12	3.52	1086	銅	行書	
2279	紹聖元寶	2.46	0.82	0.13	4.14	1094	銅	行書, 星形孔(円孔)	
2280	洪武通寶	2.25	0.49	0.12	3.58	1368	銅	真書, 背「一銭」	
2281	永樂通寶	2.48	0.54	0.12	3.62	1408	銅	真書	
2282	永樂通寶	2.46	0.50	0.10	2.64	1408	銅	真書	

※楮1～4-2は、それぞれ上から確認された順に番号を付し、拓図を示した。

※楮4-1～2には同一銭種が複数枚続いているところが数か所もある。楮にした人物の意図が働いたのか。

#### (9) 不明遺構

ここでは、粘土や黒色土が確認されているが、性格付けが難しいものを不明遺構として扱った。なお、第12～14号不明遺構は、輸送道路設備のため茨城県教育庁文化課が試掘調査を実施した。

#### 第1号不明遺構 2区S X-1 (第582図)

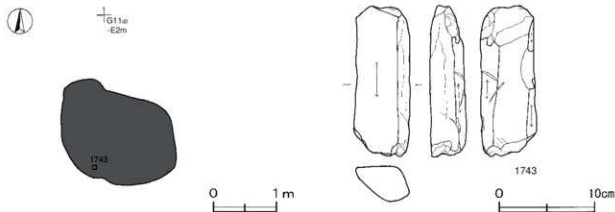
位置 調査区中央部 G11d2区を中心に位置している。

確認状況 粘土の範囲と礫が確認された。

規模と施設 粘土の範囲は長軸2.2m、短軸1.5mの不定形である。

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿3, 内耳鍋1), 石器1点(砥石), 礫2点が出土している。1743は南部の粘土層の中から出土している。土師質土器片は細片のため図示できなかった。

所見 砥石は竈の袖部材の可能性が高かったので、竈として調査をしたが、焼砂や炭化材、灰などが検出されなかったことから、不明遺構とした。



第582図 第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表 (第582図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1743	砥石	16.0	6.1	5.0	460.0	滑石	紙面3面	粘土層中	PL46

第2号不明遺構 2区SX-4 (第583~585図)

位置 調査区中央部 H11h7区を中心に位置している。

確認状況 表砂を2mほど除去した標高5~5.3mの位置から、黒色土面を確認した。南東部には楕円形の落ち込み部が見られ、北西部には粘土貼土坑と土坑が確認された。北部には第2号溝が確認された。

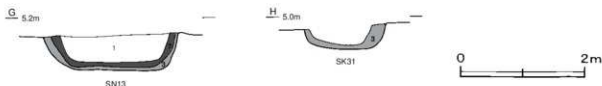
規模と施設 黒色土の範囲は南北約12m、東西約10.5mの不定形である。黒色土の厚さは上層の黒色土A層が8~10cm、下層の黒色土B層が8~30cmである。さらに下層の砂B層の厚さは最大で30cmである。



第583図 第2号不明遺構実測図



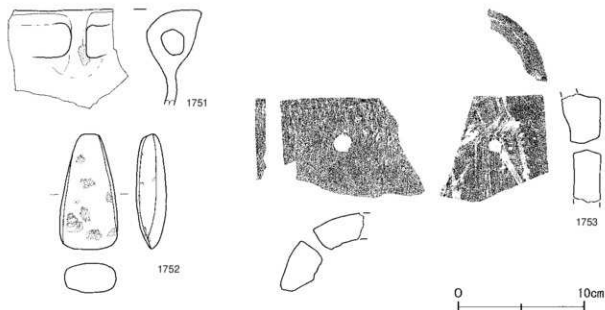
土坑（第584図）2基とも北西部に構築されている。第13号粘土貼土坑は粘土層の厚さが7～10cm、黒色土A層が5cmである。覆土は砂Aが主体で自然堆積の層である。第31号土坑の黒色土の厚さは底部が5cm、壁部が20cmである。



第584図 第2号不明遺構土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片10点（皿6，内耳銅4），陶器片1点（甕），石器1点（石斧），丸瓦片1点が覆土中から出土している。1752は粘板岩，1753は小片であるが穿孔されている。

所見 黒色土で整地され，土坑を伴う。柱跡や柱穴が検出されなかったで，不明遺構としたが構築途中の釜屋の可能性も考えられる。また，北部で確認された溝状の落ち込みの用途についても不明である。



第585図 第2号不明遺構出土遺物実測図

第2号不明遺構出土遺物観察表（第585図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1751	内耳銅	土師質土器	—	(7.8)	—	雲母	靑灰	普通	口縁部ナゲ	覆土中	

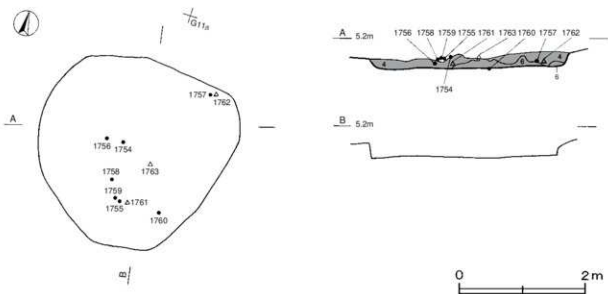
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
1752	磨製石斧	9.2	4.5	2.4	143.4	粘板岩	定角式	覆土中	
1753	丸瓦	(8.7)	(8.2)	(3.3)	(240)	雲母	玉縁式 $\alpha$ ，穿孔有り	覆土中	

第3号不明遺構 2区S X-6 (第586・587図)

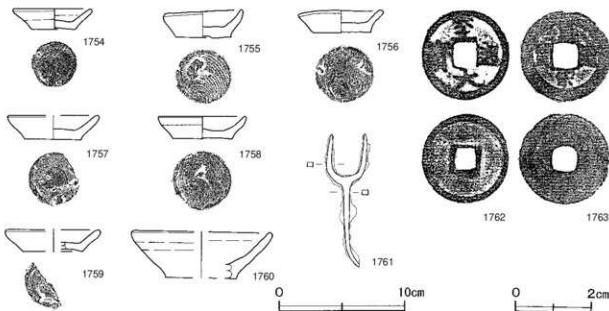
位置 調査区中央部G11j4区を中心に位置している。

確認状況 表砂を2.5mほど除去した標高約5mの位置から、黒色土面を確認した。黒色土を除去すると、多量の土師質土器片が出土した。

規模と施設 黒色土の範囲は一辺が約3.2mの不整形円形である。黒色土は黒色土B層が主体で、厚さは12～20cmであり、整地層と考えられる。



第586図 第3号不明遺構実測図



第587図 第3号不明遺構出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片23点(皿19, 内耳鍋3, 播鉢1), 金属製品3点(簪1, 古銭2)が出土している。1754・1756・1763は中央, 1755・1758～1761は南部の黒色土中から出土している。土師質土器の小皿は底部が

すべて回転糸切り痕、内面底部は指ナデ痕を残している。1762は「至大通寶」で、1763は「皇宋通寶」である。  
**所見** 図示できなかった出土遺物も含めて、これらは廃棄されたものと考えられる。

第3号不明遺構出土遺物観察表 (第587図)

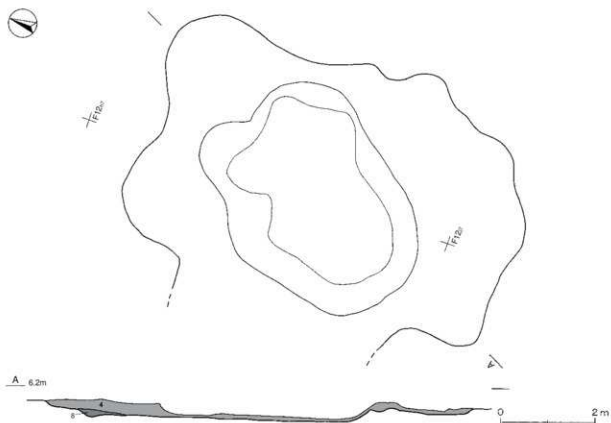
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1754	小皿	土師質土器	6.3	1.7	3.4	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	中央部黒色土面	95% PL44
1755	小皿	土師質土器	6.4	2.3	4.4	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	中央部黒色土面	100% PL41
1756	小皿	土師質土器	6.8	1.8	4.6	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	中央部黒色土中	90% PL41
1757	小皿	土師質土器	[7.4]	1.9	4.4	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	北東部黒色土中	60%
1758	小皿	土師質土器	7.1	1.8	[4.8]	雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	中央部黒色土面	85% PL41
1759	小皿	土師質土器	[7.5]	1.8	[4.8]	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	中央部黒色土面	40%
1760	皿	土師質土器	[11.2]	3.7	[5.6]	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	南東部黒色土中	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
1761	竈	10.6	3.2	0.4	15.8	鉄	断面方形	中央部黒色土中	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1762	至大通寶	2.31	0.60	0.11	3.34	1310	銅	真書	北東部黒色土中	
1763	皇宋通寶	2.42	0.68	0.07	(2.44)	1038	銅	真書	中央部黒色土面	

第8号不明遺構 4区SX-1 (第588・589図)

**位置** 調査区中央部 F127区を中心に位置している。東部には第11号不明遺構が確認されている。



第588図 第8号不明遺構実測図

**確認状況** 表砂を8mほど除去した標高5.9mの位置から、黒色土面を確認した。中央部の砂A層を除去したところ、楕円形のくぼみを確認した。

**規模と施設** 黒色土の範囲は南北約8.5m、東西約5.7mが確認された。黒色土は西部に伸びていると推測される。黒色土の厚さは、南部で26cm、中央の落ち込み部で10cmである。

**遺物出土状況** 土師質土器片7点（皿4、内耳鍋3）、礫片2点が覆土中から出土している。



第589図 第8号不明遺構出土遺物実測図

第8号不明遺構出土遺物観察表（第589図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1841	小皿	土師質土器	[8.4]	1.9	4.0	雲母	にぶい橙	普通	底部回転承切り、口縁部造煙	覆土中	
1842	皿	土師質土器	—	(1.0)	4.6	赤色粘土	にぶい橙	普通	内外面ナデ	覆土中	

**所見** 黒色土で整地され、中央部の落ち込みが確認されたことから、釜屋の可能性が高いとして調査を行ったが、落ち込み部に灰や焼砂が検出されないことから、不明遺構とした。あるいは構築途中の釜屋であった可能性も考えられる。東部で確認された第11号不明遺構との関連も考えられるが、詳細は不明である。

#### 第9号不明遺構 4区焼土-1（第590・591図）

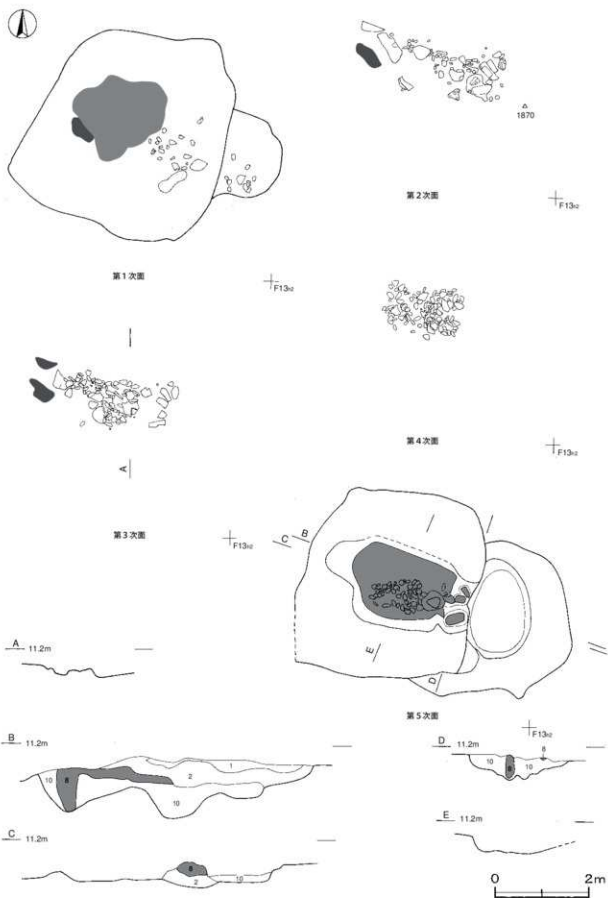
**位置** 調査区中央部 F13g1区を中心に位置している。

**確認状況** 表砂を5mほど除去した標高11mの位置から、ローム土を基層に、赤変硬化した焼土と粘土ブロックの範囲を確認した。焼土を取り除くと礫片と赤変硬化した粘土ブロックが検出された。

**規模と施設** 焼土層と礫層は5面存在している。焼土層の範囲は5面とも一辺が2mの方形である。中礫が検出されている範囲は、東部に集中している。第5次面では、焼土層の厚さは30～90cmである。

**遺物出土状況** 金属製品9点（古銭2、不明7）が出土している。第1次面では焼土混じりの層から、火熱を受けていない礫が出土している。第2～4次面では焼土混じりの層中から、火熱を受けた中礫が多数検出された。古銭の1870・1871は銭文が不鮮明で、銭種の判別ができない。

**所見** 火熱を受けた礫は竈などの構築材として使用されていたものが、崩落した可能性が高い。中央部のやや落ち込んだ部分が燃焼部、東部の炭化材混じりの焼土が出土している部分が焚き口部と見られることから、炭窯の可能性もある。



第590图 第9号不明遺構実測図



第591図 第9号不明遺構出土遺物実測図

第9号不明遺構出土遺物観察表 (第591図)

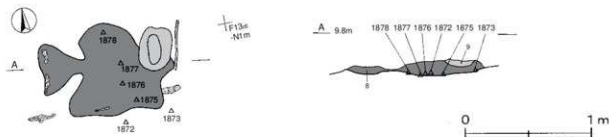
番号	観名	径	孔径	厚さ	重さ	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
1870	—	2.45	0.66	0.18	(3.46)	—	銅	錆がひどく判読不能	覆土中	
1871	—	2.42	0.58	0.22	(4.18)	—	銅	錆がひどく判読不能	覆土中	

#### 第10号不明遺構 4区焼土-2 (第592・593図)

位置 調査区中央部 F13b5区を中心に位置している。

確認状況 表砂を5mほど除去した標高9.5mの位置から、小範囲の焼砂層や灰を確認した。炭化材が、焼砂層を囲むような状態で確認され、さらに灰や焼砂層の下からも釘や炭化材が出土している。

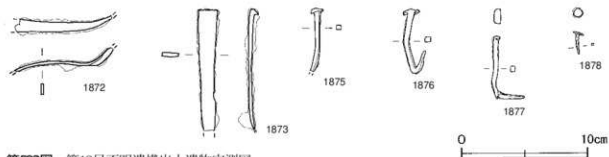
規模と施設 焼砂層や灰の範囲は南北0.7m、東西約1mである。焼砂層の厚さは最大で10cm、灰層は5cmである。



第592図 第10号不明遺構実測図

遺物出土状況 金属製品7点(釘カ)が出土している。1875～1878は焼砂層の中から、1872・1873は焼砂範囲外の南側からそれぞれ出土している。

所見 釜屋跡の竈としては、焼砂層の範囲が狭すぎるため、不明遺構とした。火葬土坑とも想定したが、骨片も確認されず、出土遺物が炭化した木片と釘だけであるため、焼却した場所という以外は不明である。



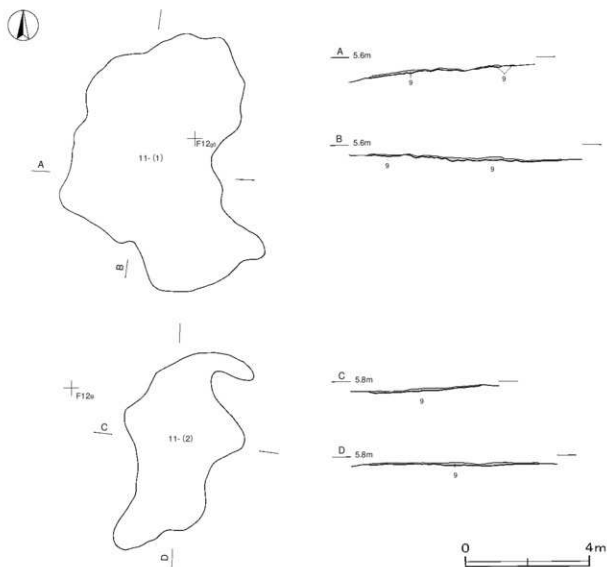
第593図 第10号不明遺構出土遺物実測図

第10号不明遺構出土遺物観察表 (第593図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1872	不明鉄製品	(7.8)	1.8	0.9	(10.4)	鉄	断面長方形, 毛抜	焼砂南側	
1873	不明鉄製品	(9.6)	1.6	0.3	(24.6)	鉄	断面長方形, 片側欠損	焼砂南東側	
1875	釘	(5.0)	1.0	0.4	(4.5)	鉄	断面方形, 頭部の潰れ	南部焼砂層	
1876	釘	5.1	1.2	0.4	5.9	鉄	断面方形, 先端部屈曲	中央部焼砂層	
1877	釘	5.0	0.6	0.5	5.7	鉄	断面方形, 先端部屈曲	中央部焼砂層	
1878	釘	(1.8)	0.8	0.2	(0.6)	鉄	断面方形, 頭部円形	北部焼砂層	

第11号不明遺構 4区灰散布地 (第594図)

位置 調査区中央部 F12f9～F12f9区に位置している。西部には第8号不明遺構, 第241号鹹水槽が確認されている。



第594図 第11号不明遺構実測図

**確認状況** 表砂を2.5m除去した標高約5～5.6mから、灰状の散布面2か所が確認された。

**規模と平面形** 北部の灰の散布面は南北8m、東西5m、南部の散布面は南北5.5m、東西3.5mである。2か所とも不定形で、灰層の厚さは最大で12cmである。

**遺物出土状況** 土師質土器片22点（内耳竈）が出土している。細片のため図示することができなかった。

**所見** 灰は植物焼却灰であるが、灰層中には炭化材などの混入物はない。ほぼ層厚を同じにし、水平な面を成していることから、意図的に灰だけを散布した可能性が高い。性格については不明である。

#### 第12号不明遺構 IO区S X-1（第595図）

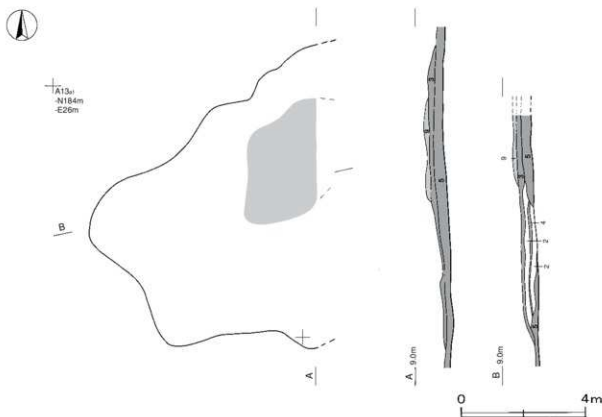
**位置** 調査区北部A13a1区より北へ約180m、東へ約30mを中心に位置している。

**確認状況** 標高8～8.5mから、黒色土面を確認した。中心には灰の範囲が確認されている。

**規模と施設** 東部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は南北軸9.5m、東西軸7mだけ確認することができた。第3層は黒色土A層で、厚さは最大で24cmである。下層には第3層の基部をなす第2・4・5層がある。中央部の灰層の厚さは6～16cmである。

**遺物出土状況** 瓦質土器片1点（鉢）が出土している。細片のため図示することができなかった。

**所見** 出土遺物も少なく時期や性格は不明である。



第595図 第12号不明遺構実測図



第13号不明遺構 11区S X - 1 (第596図)

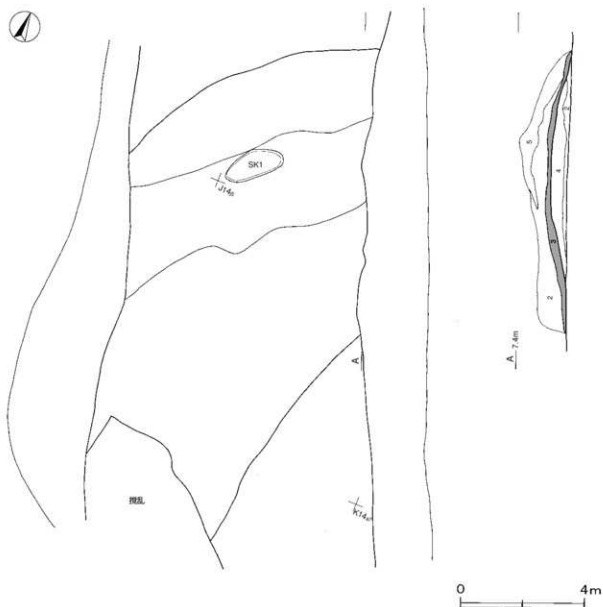
位置 調査区南部J145区を中心に位置している。

確認状況 標高6～6.4mから、黒色土面を確認した。黒色土面は中心から南北それぞれ緩やかに傾斜している。

規模と施設 黒色土面はそれぞれ東西に延びると推測される。確認された黒色土の範囲は南北軸14m、東西軸8mである。中央部やや北寄りに土坑1基が確認されている。

黒色土面 第3層は黒色土A層で、厚さは最大で24cmである。上層には覆土である砂B・黒色土C層が、下層は黒色土B・砂B層が堆積している。

所見 出土遺物もなく、時期や性格は不明である。



第596図 第13号不明遺構実測図

第14号不明遺構 11区SX-2 (第597・598図)

位置 調査区南部 K130区を中心に位置している。

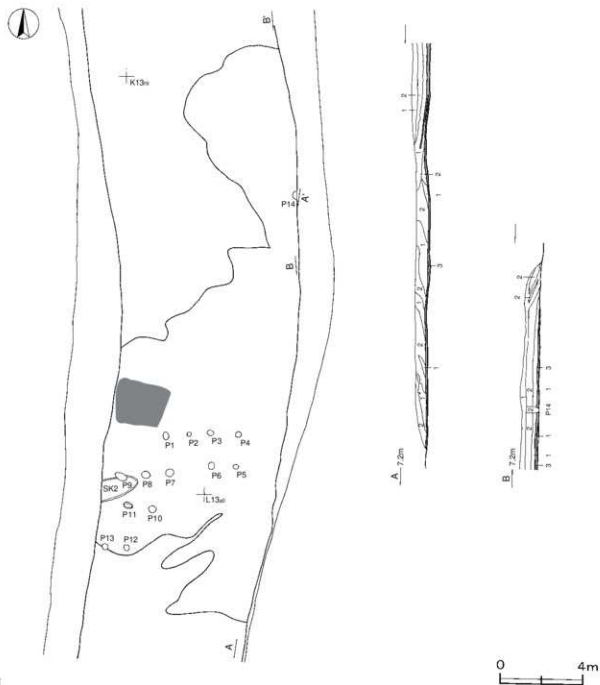
確認状況 標高6.3～6.4mから黒色土面を確認した。西部には焼砂の範囲が確認されている。

規模と施設 確認された範囲は南北軸27.6m、東西軸8.5mで、土坑1基、ピット14か所が確認されている。

黒色土面はそれぞれ東西に延びると推測される。

黒色土面 第3層は黒色土A層で、厚さは5～14cmと非常に薄くなっている。上層は砂A・B層が堆積している。

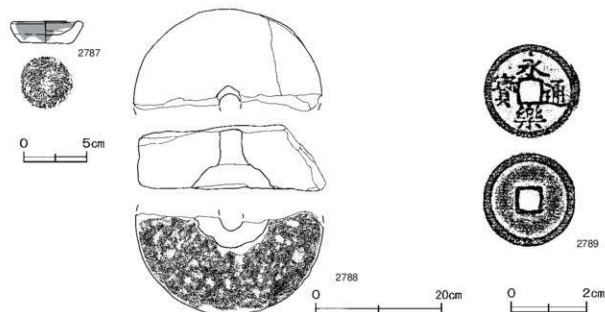
ピット 14か所。P1～P7は深さ23～87cmで、上屋を支えた柱穴と考えられる。P8～P14は深さ62～96cmで規則的な配置が見られないことから、性格不明である。



第597図 第14号不明遺構実測図

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿), 石器3点(砥石2, 石白1), 金属製品1点(古銭)が覆土中から出土している。2787は完形で二次焼成を受けた痕が確認でき, 2788は溝の摩耗が激しい。2789は「永樂通寶」である。

所見 出土遺物も少なく, 本跡の時期や性格は不明である。



第598図 第14号不明遺構出土遺物実測図

第14号不明遺構出土遺物観察表 (第598図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2787	小皿	土師質土器	5.2	1.9	4.0	雲母	褐灰	普通	内外面油煙	覆土中	100% PL41

番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
2788	石白	(29.8)	10.2	3.8~4.0	(6.810)	安山岩	摩耗が激しいため主溝は不明確	覆土中	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
2789	永樂通寶	2.49	0.55	0.11	3.02	1408	銅	真書	覆土中	

表25 不明遺構一覧表

番号	目遺構番号	位置	長軸方向	標高	黒色土 (ローム土)			厚さ (cm)	屋内施設	屋外施設	ビツ	備考
					範囲 (最大値)	形状	形状					
					長軸 (m)	短軸 (m)	形状					
1	2区SX1	G11d2	N-54°-W	4.3	2.2	1.5	不定形	—	—	—	—	HK-1内
2	2区SX4	H11b7	N-60°-W	5	12	10.5	不定形	8~30	SK31, SN13	—	—	
3	2区SX6	G11j4	N-53°-E	5	3.2	3.1	不整形	12~20	—	—	—	
5	3区SX1	B13d3	N-84°-W	—	2.3	1.4	不定形	—	—	—	—	
6	3区SX2	B13d3	N-66°-E	—	[1.6]	1.1	不定形	—	—	—	—	
7	3区SX4	B13b2	N-50°-E	—	4.2	1.4	不定形	—	—	—	—	
8	4区SX1	F1217	N-11°-E	5.7~5.9	8.5	(5.7)	不定形	4~26	—	—	—	
9	4区焼土1	F13g1	N-70°-W	10.4~11	5.9	4.1	不定形	10~70	—	—	—	1次面~5次面

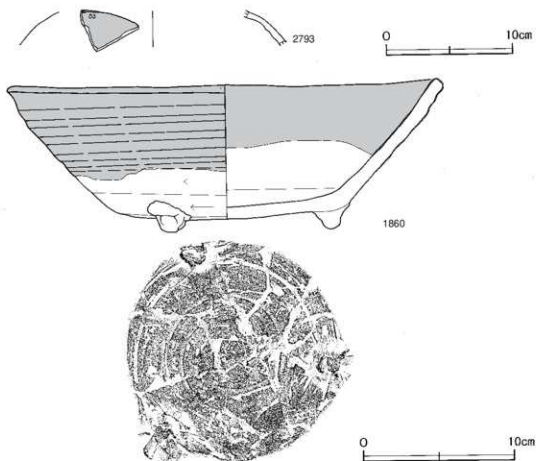
番号	遺構番号	位置	長軸方向	標高	黒色土(焼砂・灰)			厚さ (cm)	屋内施設	屋外施設	ピット	備考
					範囲(最大値)		形状					
					長軸 (m)	短軸 (m)						
10	4区焼土2	F13b5	N-82°-W	9.5	1.0	0.7	不定形	—	—	—	—	焼土厚2~22cm, 灰厚5cm
11	4区焼土埋土①	F12g9	N-6°-E	5.0~5.3	8.0	5.0	不定形	—	—	—	—	灰厚4~12cm
	4区焼土埋土②	F12f9	N-13°-E	5.5~5.6	5.5	3.5	不定形	—	—	—	—	灰厚6~16cm
12	10区SSX1	A13a1より →A13b→D1a	—	8.0~8.5	(9.5)	(7.0)	不定形	10~24	—	—	—	灰厚6~16cm
13	11区SSX1	J14j5	N-13°-W	6.0~6.4	14.0	8.0	不定形	8~24	11区SK1	—	—	—
14	11区SSX2	K13d~L10b	N-8°-E	5.9~6.9	27.6	8.5	不定形	5~14	11区SK2	—	14	—

表26 不明遺構内粘土貼土坑・土坑一覧表

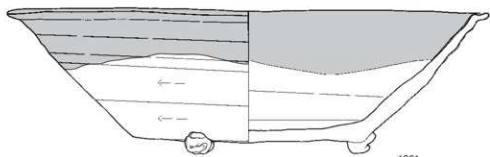
不明 遺構 番号	遺構番号	位置	標高	長軸方向	規模			形状	黒色 土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	備考
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)							
SX2	SN13	H11g6	4.9	N-60°-W	2.2	1.4	43	竪大長方形	5	7~10	外傾	平皿	—	—
	SK31	H11h5	4.8	N-38°-E	1.7	1.3	30	不定形	5~20	—	外傾	皿状	—	—
SX13	11区SK1	J14h5	—	N-49°-E	2.0	0.9	—	槽円形	—	—	—	—	—	—
SX14	11区SK2	K13j8	—	N-72°-E	(1.9)	1.0	—	[槽円形]	—	—	—	—	—	—

(10) その他の出土遺物

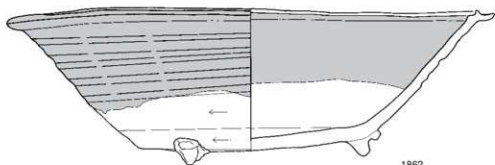
ここでは、当遺跡から出土した遺構に伴わない遺物をその他の出土遺物として記載する。なお、古瀬戸の後期に比定される大皿が逆位で7枚重なった状態で、標高3.5m 前後の砂A層中から出土している。



第599図 その他の出土遺物実測図(1)



1861

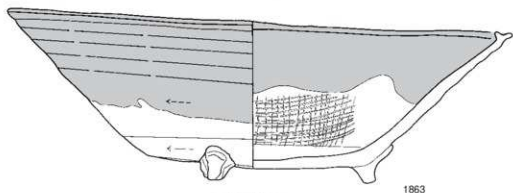


1862

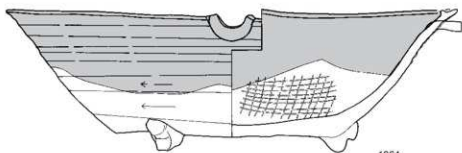
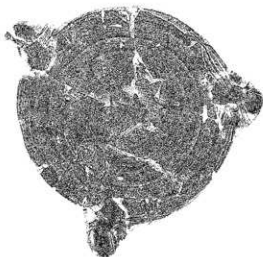


0 10cm

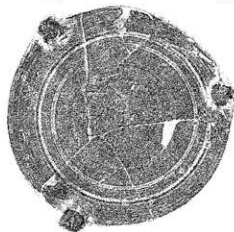
第600図 その他の出土遺物実測図(2)



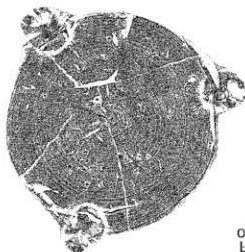
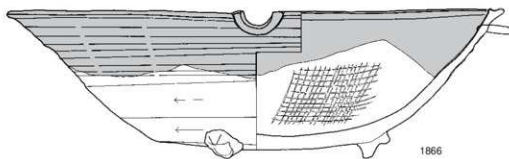
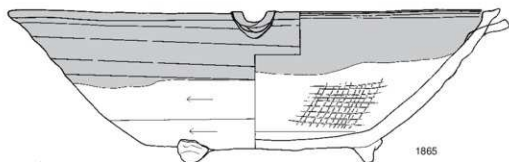
1863



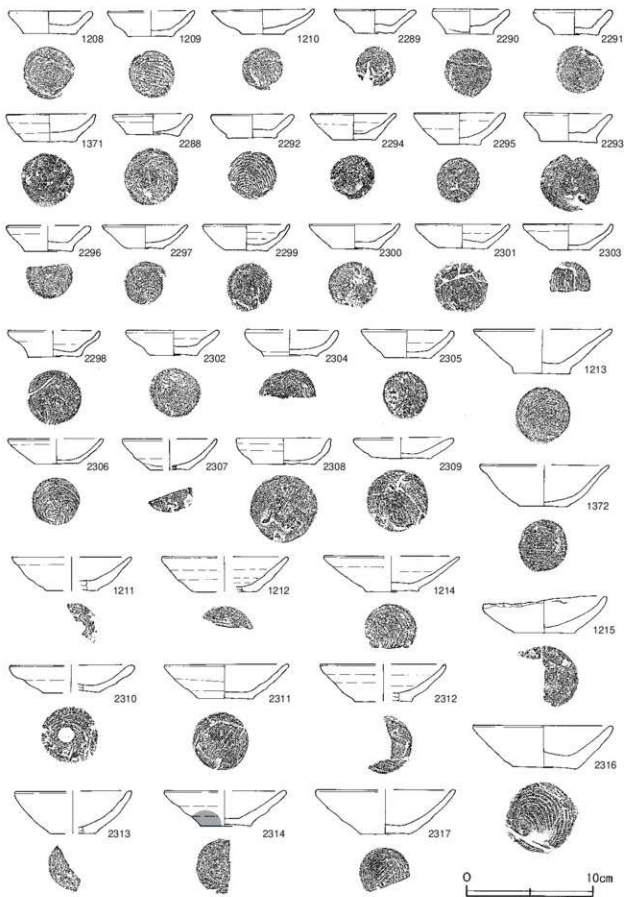
1864



第601図 その他の出土遺物実測図(3)

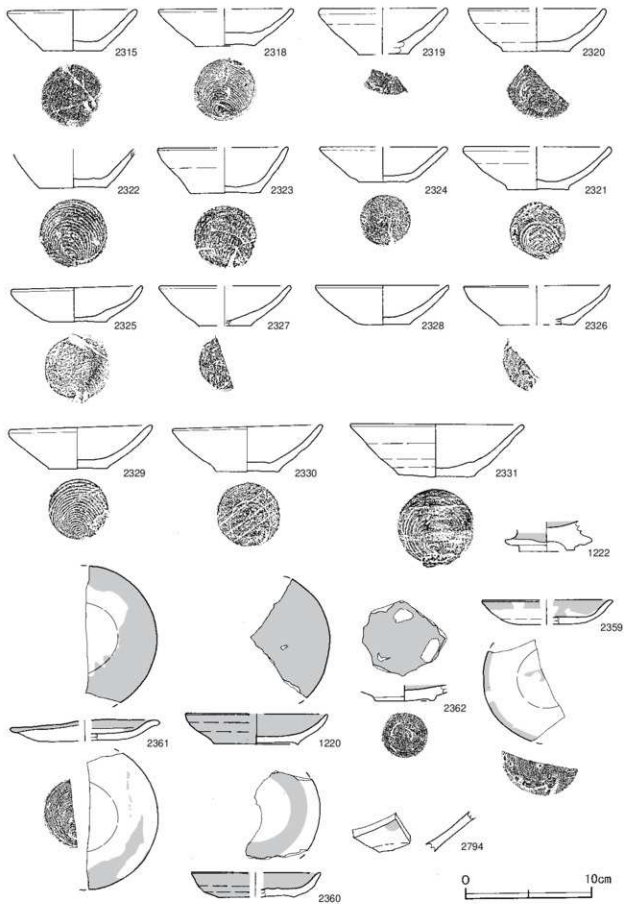


第602図 その他の出土遺物実測図(4)

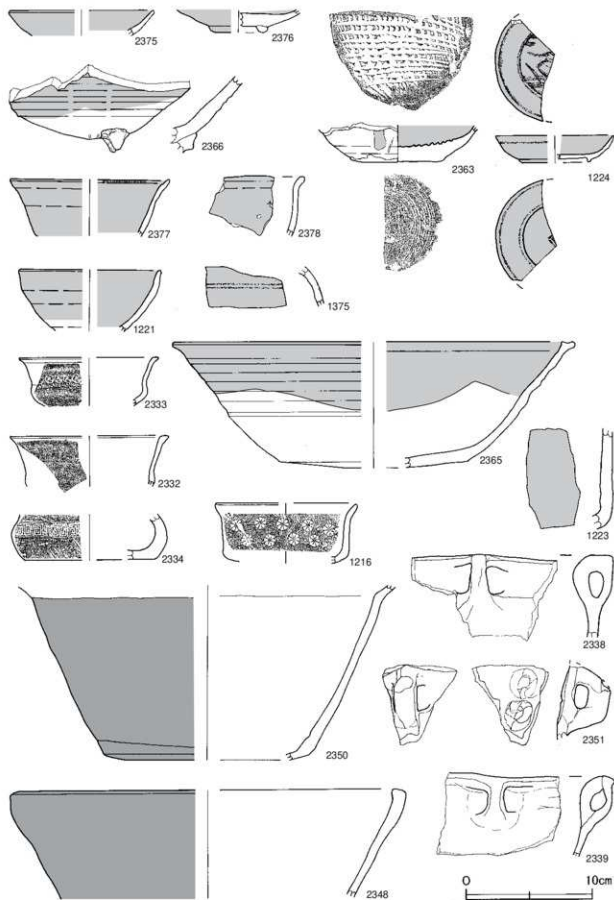


第603図 その他の出土遺物実測図(5)

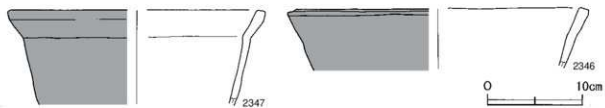
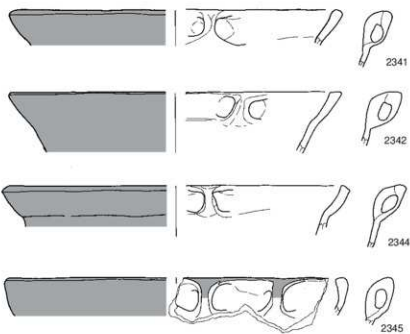
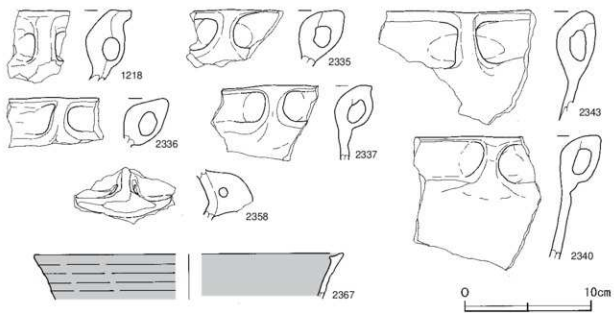




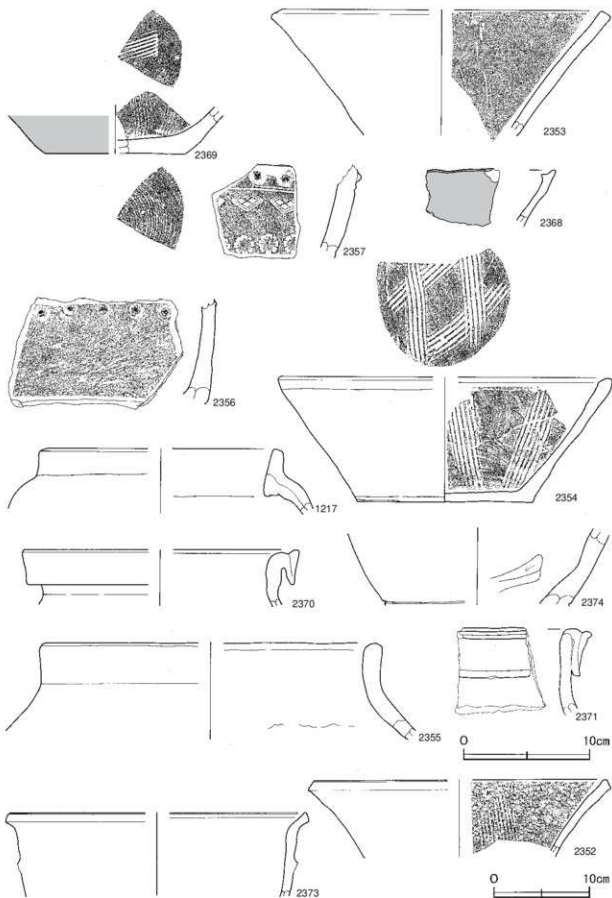
第604図 その他の出土遺物実測図（6）



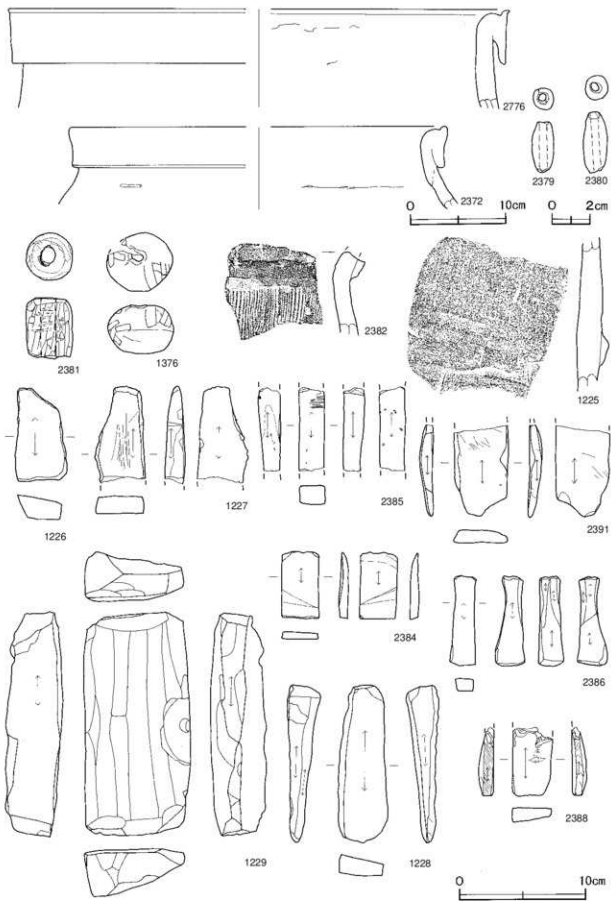
第605図 その他の出土遺物実測図(7)



第605図 その他の出土遺物実測図(8)



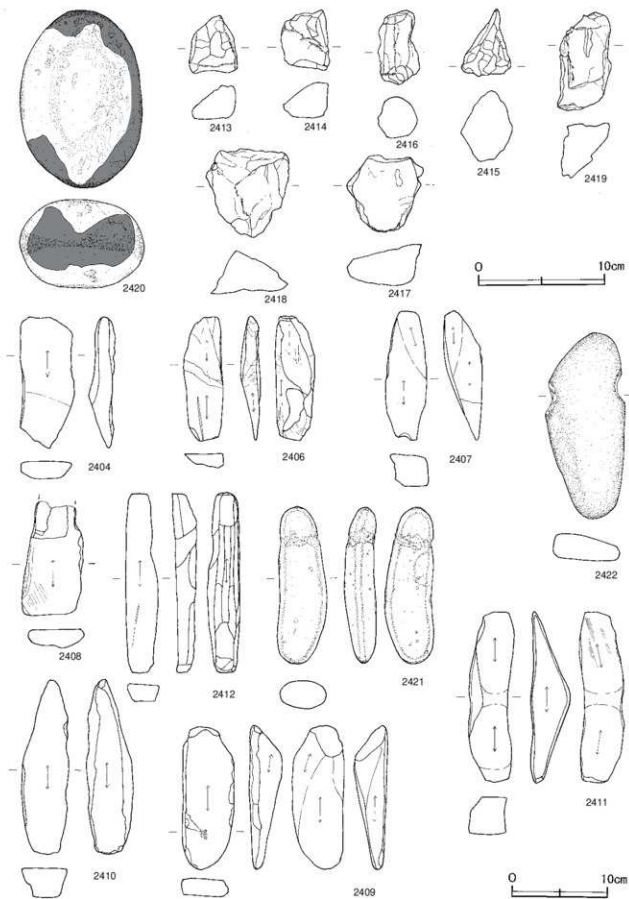
第607図 その他の出土遺物実測図(9)



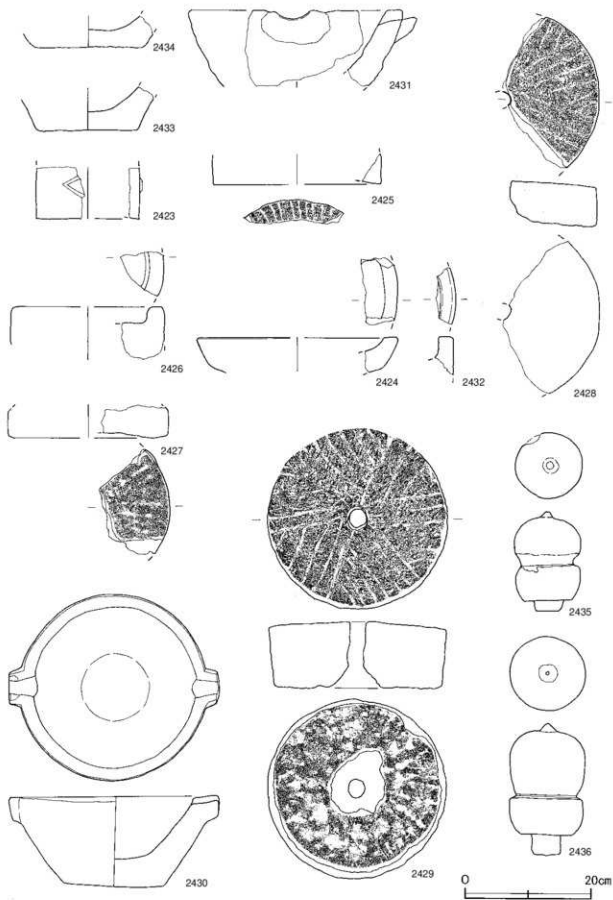
第608図 その他の出土遺物実測図(10)



第609図 その他の出土遺物実測図 (11)

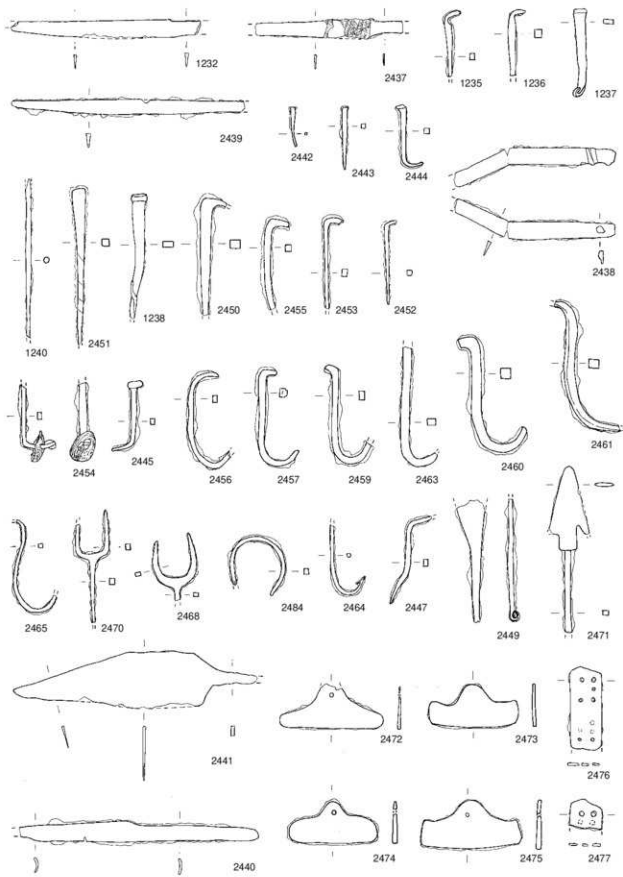


第610図 その他の出土遺物実測図(12)

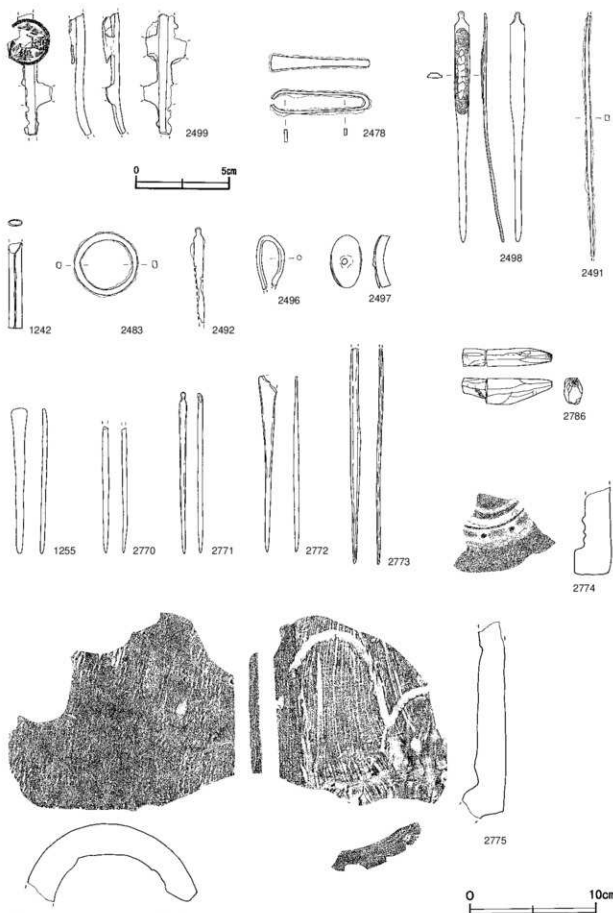


第611図 その他の出土遺物実測図 (13)

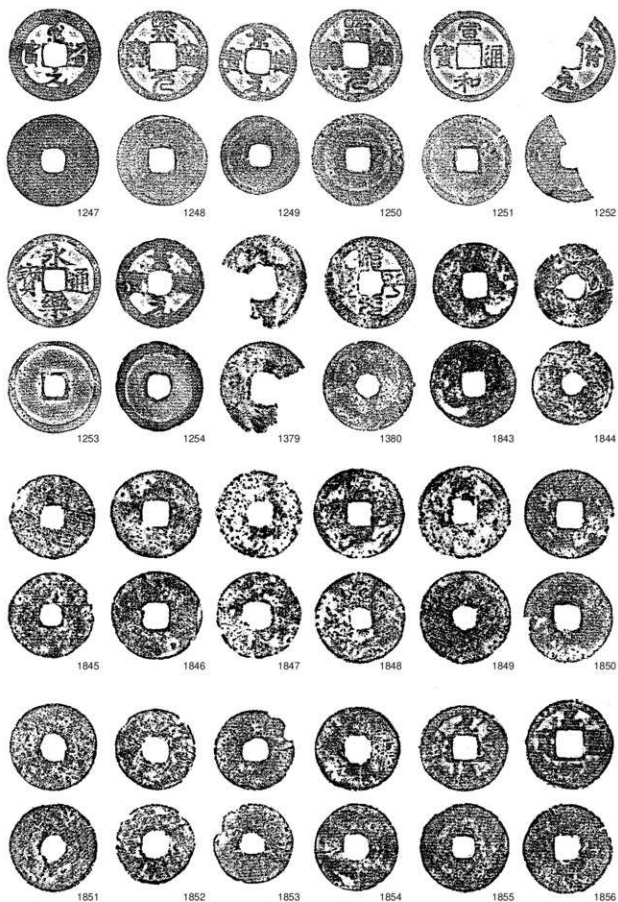




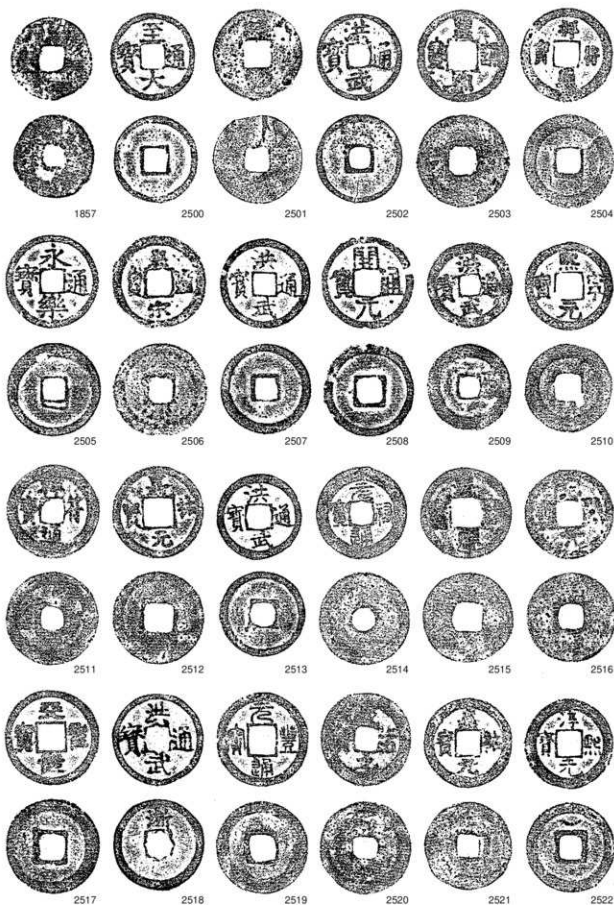
第612図 その他の出土遺物実測図 (14)



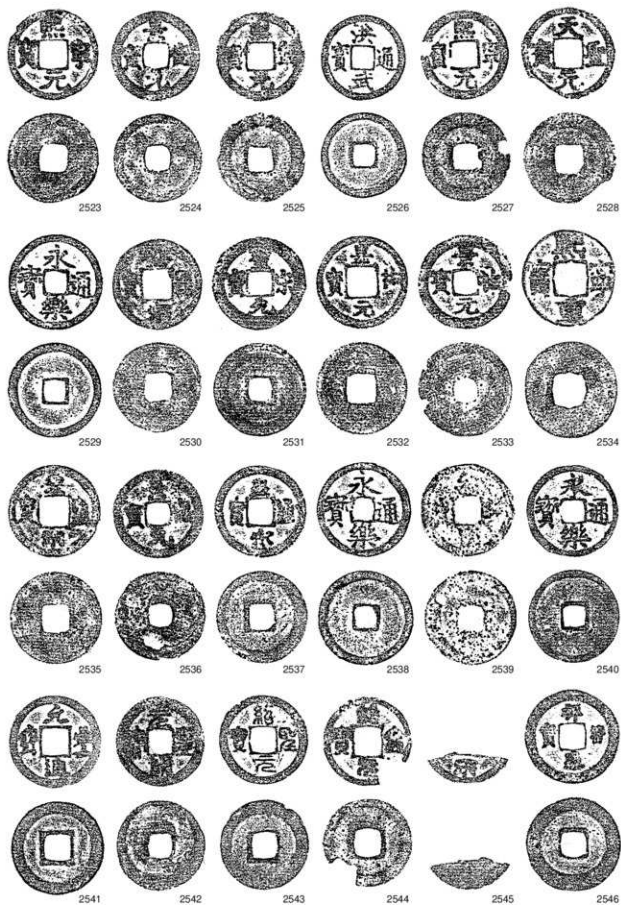
第613図 その他の出土遺物実測図 (15)



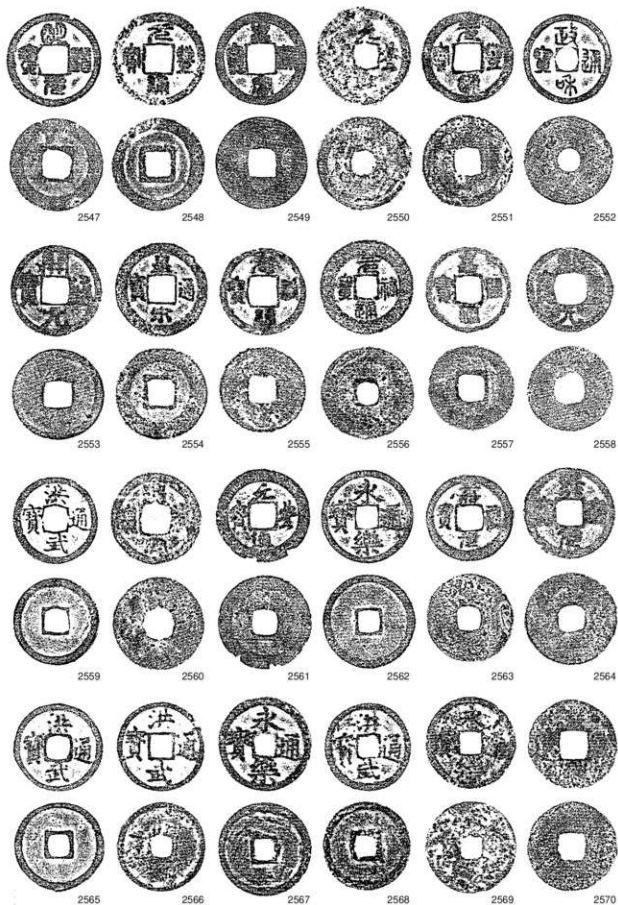
第614図 その他の出土遺物実測図(16) [古銭は原寸大]



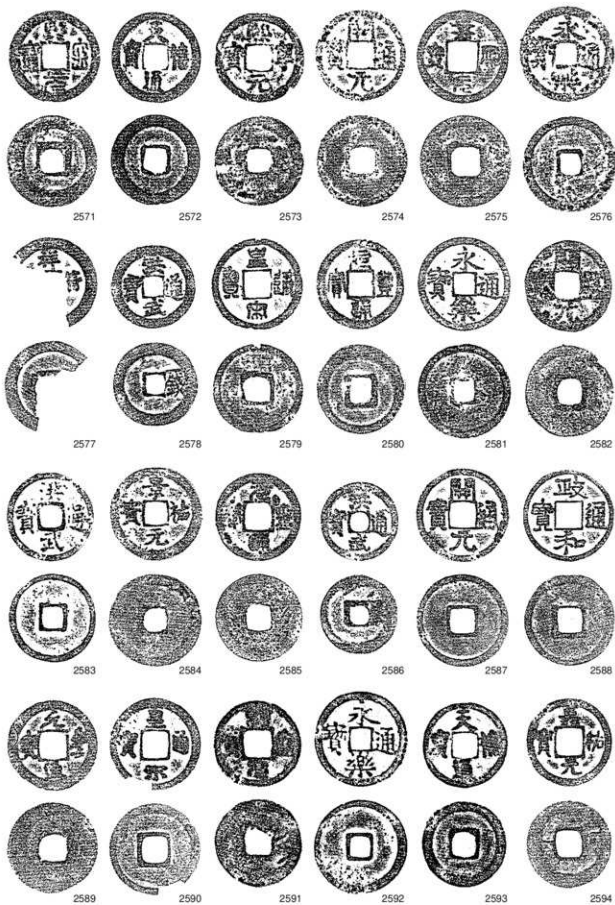
第615図 その他の出土遺物実測図(17) [古銭は原寸大]



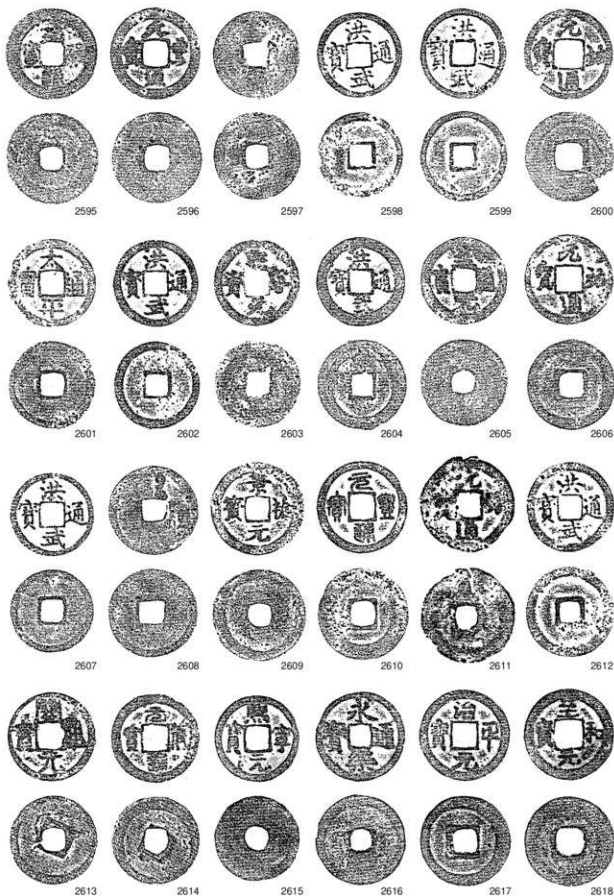
第616図 その他の出土遺物実測図(18) [古銭は原寸大]



第617図 その他の出土遺物実測図 (19) [古銭は原寸大]

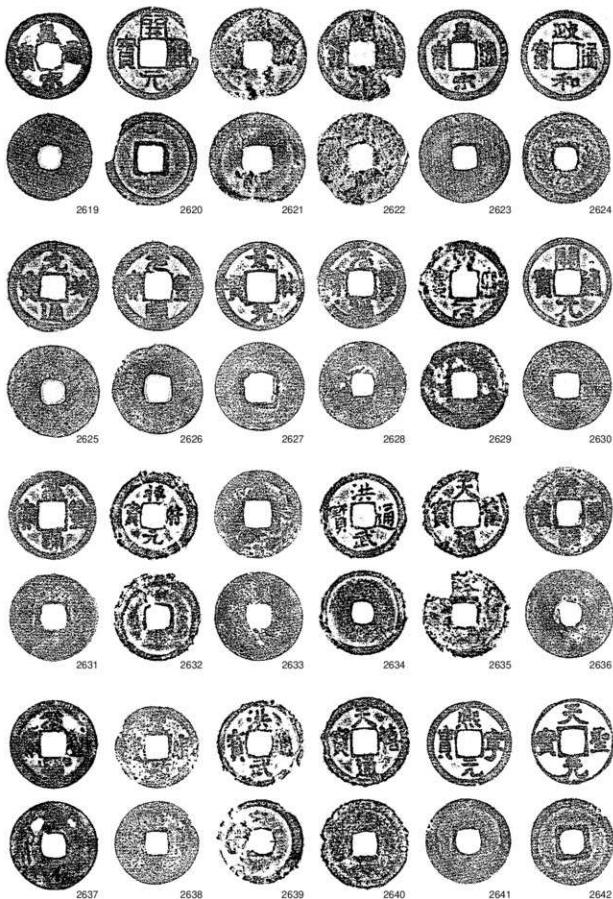


第618図 その他の出土遺物実測図 (20) [古銭は原寸大]

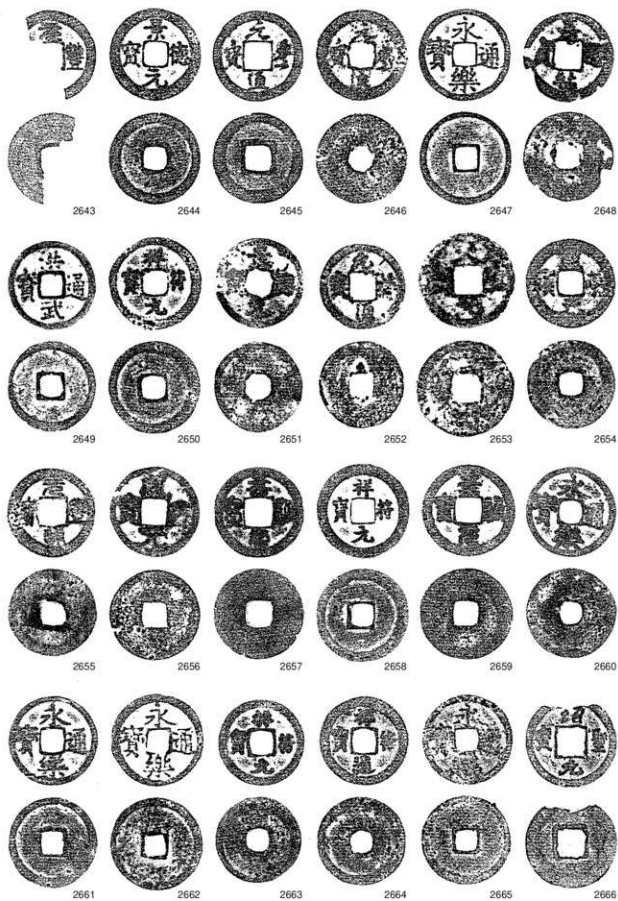


第619図 その他の出土遺物実測図 (21) [古銭は原寸大]

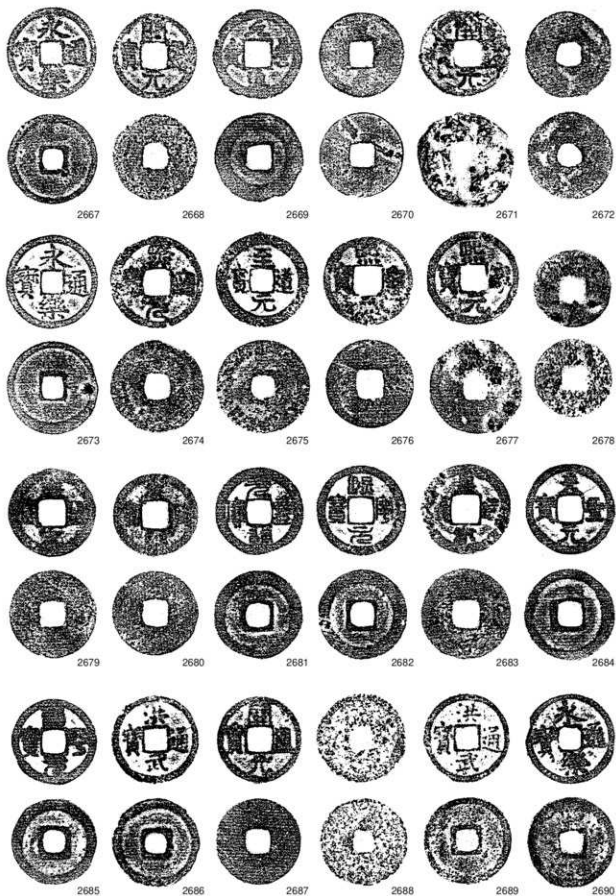




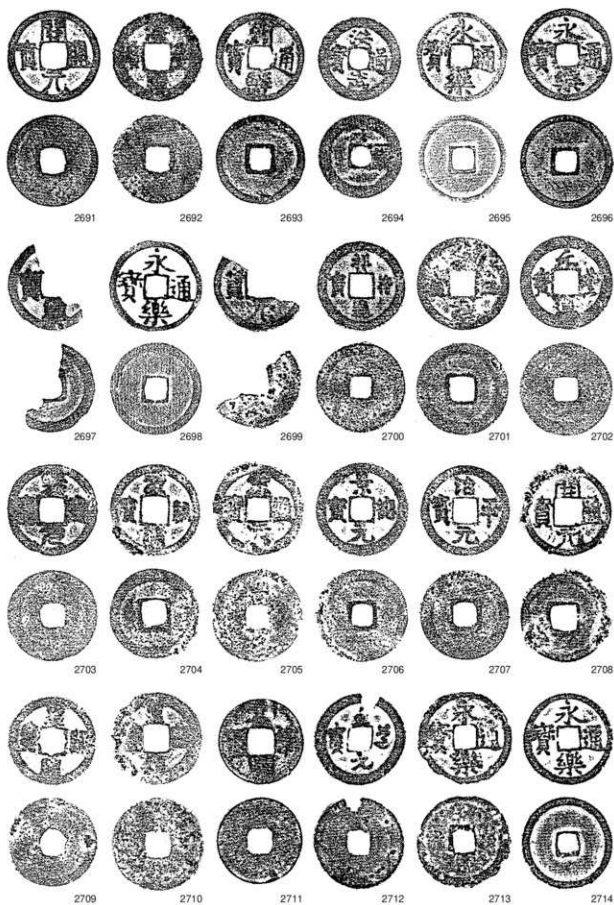
第620図 その他の出土遺物実測図 (22) [古銭は原寸大]



第621図 その他の出土遺物実測図 (23) [古銭は原寸大]

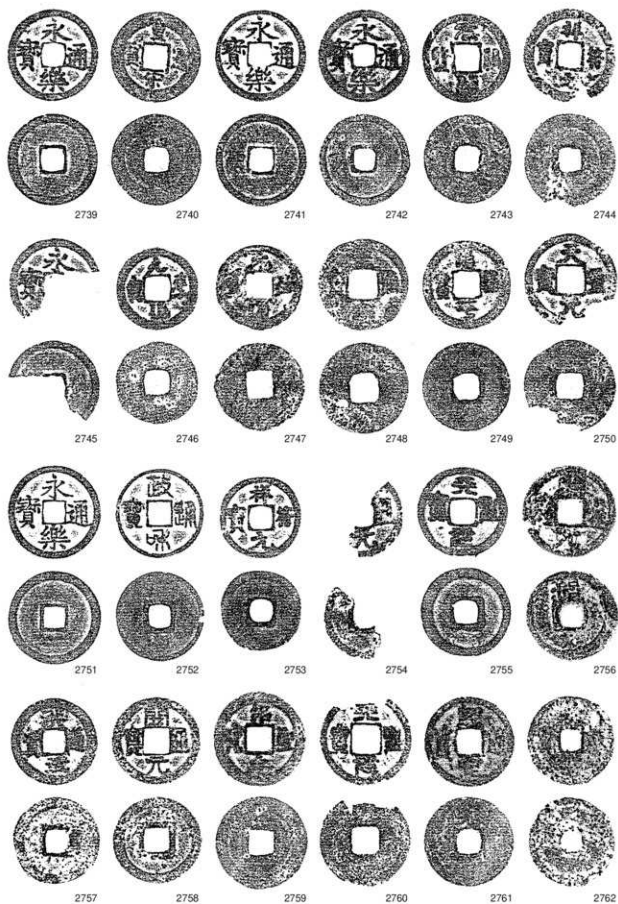


第622図 その他の出土遺物実測図 (24) [古銭は原寸大]

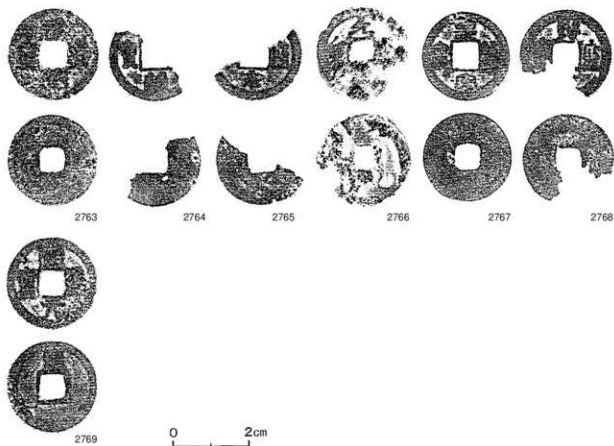


第623図 その他の出土遺物実測図 (25) [古銭は原寸大]





第625図 その他の出土遺物実測図 (27) [古銭は原寸大]



第626図 その他の出土遺物実測図 (28)

その他の出土遺物観察表 (第599~626図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1208	小皿	土師質土器	6.7	1.9	4.2	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	H11区	80% PL41
1209	小皿	土師質土器	[7.0]	2.1	3.6	雲母	橙	普通	底部回転糸切り	H11区	60%
1371	小皿	土師質土器	7.0	2.3	4.1	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	D13区	95% PL41
2288	小皿	土師質土器	6.4	1.8	4.2	長石・雲母	明赤褐	普通	底部回転糸切り	J11区	100% PL41
2289	小皿	土師質土器	6.4	2.0	3.1	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	H11区	70% PL44
2290	小皿	土師質土器	6.1	2.0	3.6	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	H11区	75% PL41
2291	小皿	土師質土器	6.4	2.0	3.4	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	J10区	100% PL44
2292	小皿	土師質土器	6.6	2.0	3.5	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	J11区	75% PL41
2293	小皿	土師質土器	7.0	2.3	4.5	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	J10区	80% PL41
2294	小皿	土師質土器	6.9	2.2	3.3	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	C13区	75% PL41
2295	小皿	土師質土器	7.3	2.5	3.3	雲母	明赤褐	普通	底部回転糸切り	H11区	95% PL41
2296	小皿	土師質土器	[6.7]	2.1	3.7	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	J10区	30%
2297	小皿	土師質土器	6.7	1.9	2.9	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	C13区	70% PL41
2298	小皿	土師質土器	[7.4]	2.1	4.0	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	H11区	55%
2299	小皿	土師質土器	6.9	2.1	3.4	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	H11区	95% PL44
2300	小皿	土師質土器	7.8	2.1	3.7	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	H11区	95% PL44
2301	小皿	土師質土器	7.5	2.0	3.8	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	C13区	75% PL41
2302	小皿	土師質土器	7.5	2.0	3.6	雲母	にぶい赤褐	普通	底部回転糸切り	H11区	100% PL45
2303	小皿	土師質土器	7.2	2.1	3.2	雲母	橙	普通	底部回転糸切り	D13区	50%
2304	小皿	土師質土器	[7.4]	2.1	4.3	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	C13区	40%
2305	小皿	土師質土器	7.4	2.2	3.6	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	H11区	60%
2306	小皿	土師質土器	[7.5]	2.0	3.6	長石	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	C13区	65%
2307	小皿	土師質土器	[7.4]	2.5	[3.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	C13区	40%
2308	小皿	土師質土器	7.5	2.1	5.1	雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	C13区	100% PL41

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2309	皿	土師質土器	[8.1]	1.7	4.7	長石・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	I11区	70%
1210	皿	土師質土器	8.0	1.9	3.4	石英	明黄・褐	普通	底部回転糸切り	H11区	70% PL41
1211	皿	土師質土器	[9.6]	2.7	[4.2]	赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	H11区	45%
1212	皿	土師質土器	[10.0]	2.9	[5.0]	雲母	浅黄・橙	普通	底部回転糸切り	H11区	40%
1213	皿	土師質土器	[11.0]	3.6	4.6	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	H11区	30%
1214	皿	土師質土器	[10.6]	2.8	4.1	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	H11区	50%
1215	皿	土師質土器	9.4	3.0	4.8	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り、口縁部欠損	H11区	80%
1372	皿	土師質土器	[10.2]	3.3	4.0	雲母	淡橙	普通	底部回転糸切り	E13区	40%
2310	皿	土師質土器	[10.0]	2.2	[4.4]	長石	明赤・褐	普通	底部回転糸切り、底部孔有り	I11区	50% PL45
2311	皿	土師質土器	10.0	2.8	4.4	赤色粒子	灰白	普通	底部回転糸切り	E13区	95% PL43
2312	皿	土師質土器	[10.0]	3.0	[4.5]	黒色粒子・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り後へら削り	C13区	50%
2313	皿	土師質土器	[9.3]	3.4	[3.8]	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	E13区	35%
2314	皿	土師質土器	[9.8]	2.8	4.0	石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り、外面備付着	C13区	50%
2315	皿	土師質土器	10.4	3.3	4.6	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り後へら削り	I11区	90% PL43
2316	皿	土師質土器	11.3	3.5	5.4	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	E11区	65% PL43
2317	皿	土師質土器	[11.2]	3.5	3.8	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	B13区	45%
2318	皿	土師質土器	[10.8]	3.0	4.8	雲母	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	F12区	60%
2319	皿	土師質土器	[10.2]	3.6	[4.0]	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	C13区	45%
2320	皿	土師質土器	[11.0]	3.4	5.2	雲母・赤色粒子	灰黄・褐	普通	底部回転糸切り	J11区	40%
2321	皿	土師質土器	[11.8]	3.4	4.8	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	I11区	40%
2322	皿	土師質土器	—	(3.1)	5.4	雲母	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	I11区	70%
2323	皿	土師質土器	[10.4]	3.6	5.5	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	K11区	60%
2324	皿	土師質土器	[10.2]	2.8	4.0	石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	C13区	60%
2325	皿	土師質土器	10.6	3.0	5.0	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	I11区	60%
2326	皿	土師質土器	[11.6]	3.1	[6.0]	雲母	橙	普通	底部回転糸切り	C13区	40%
2327	皿	土師質土器	[10.5]	3.2	[4.2]	長石	橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	I11区	40%
2328	皿	土師質土器	10.7	3.2	4.3	長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	E11区	80% PL43
2329	皿	土師質土器	11.4	3.4	4.7	雲母	灰黄・褐	普通	底部回転糸切り	J11区	95% PL43
2330	皿	土師質土器	11.9	3.8	5.0	長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	F12区	60%
2331	皿	土師質土器	14.0	4.1	6.1	雲母	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	F12区	80% PL43
1216	香炉	土師質土器	[11.4]	(4.8)	—	砂粒	橙	普通	外面スタンプ文(菊花文)	H11区	20% PL45
2332	香炉	土師質土器	[12.6]	(4.5)	—	長石・赤色粒子	灰・褐	普通	体部スタンプ文(三巴文・菊花文)	C13区	5%
2333	香炉	土師質土器	[11.1]	(3.8)	—	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部スタンプ文(三巴文・菊花文)	C13区	5%
2334	香炉	土師質土器	—	(3.8)	[10.4]	長石・雲母	明赤・褐	普通	体部スタンプ文(雷文)	C13区	10%
1217	香炉	土師質土器	[19.4]	(5.1)	—	砂粒	暗灰	普通	口縁部のみ	H11区	5%
1218	内耳鍋	土師質土器	—	(5.7)	—	雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面備付着	H11区	5%
2335	内耳鍋	土師質土器	—	(4.6)	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部のみ、耳は楕円形	C13区	5%
2336	内耳鍋	土師質土器	—	(3.8)	—	雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部のみ、耳は円形	C13区	5%
2337	内耳鍋	土師質土器	—	(5.9)	—	雲母	明褐・灰	普通	口縁部のみ、耳は楕円形	C13区	5%
2338	内耳鍋	土師質土器	—	(6.5)	—	雲母	灰・褐	普通	口縁部のみ、内外面備付着、耳は楕円形	C13区	5%
2339	内耳鍋	土師質土器	—	(6.6)	—	雲母	褐・灰	普通	外面備付着、耳は楕円形	C13区	5%
2340	内耳鍋	土師質土器	—	(9.8)	—	雲母	にぶい褐	普通	外面備付着、耳は楕円形	C13区	5%
2341	内耳鍋	土師質土器	[35.0]	(6.0)	—	雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面備付着、耳は円形	E13区	5%
2342	内耳鍋	土師質土器	[35.0]	(6.4)	—	雲母	浅黄・褐	普通	外面備付着、耳は楕円形	F12区	5%
2343	内耳鍋	土師質土器	—	(9.2)	—	長石・黒色粒子	黄・橙	普通	外面備付着、耳は楕円形	C13区	5%
2344	内耳鍋	土師質土器	[36.4]	(6.6)	—	雲母	明褐・灰	普通	外面備付着、耳は楕円形	C13区	5%
2345	内耳鍋	土師質土器	[36.0]	(5.0)	—	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	外面備付着、内耳2ヶ所削、耳は楕円形	C13区	5%
2346	内耳鍋	土師質土器	[31.8]	(6.3)	—	雲母	にぶい橙	普通	外面備付着、口縁部内・外面ナデ	C13区	5%
2347	内耳鍋	土師質土器	[27.0]	(10.0)	—	雲母	にぶい橙	普通	ナデ 外面備付着	C13区	10%
2348	内耳鍋	土師質土器	[31.6]	(8.6)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ	C13区	10%
2349	内耳鍋	土師質土器	[34.8]	(8.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面備付着、口縁部横ナデ	C13区	10%
2350	内耳鍋	土師質土器	—	(13.9)	[16.2]	雲母	にぶい橙	普通	外面備付着、口縁部内・外縁ナデ	C13区	20%
2351	鉢	土師質土器	—	(6.3)	—	長石・石英・雲母	赤・褐	普通	穿孔後耳取付け	C13区	5%
2352	鉢	土師質土器	[30.6]	(8.1)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	外面備付着、11穴1単位の摺目	C13区	5%
2353	鉢	土師質土器	[27.0]	(10.0)	—	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横溝、2穴1単位の摺目	F12区	10%
2354	鉢	土師質土器	[26.6]	(9.9)	14.0	長石・石英・赤色粒子	黒・褐	普通	6条1単位の摺目	M12区	25%
2355	甕	土師質土器	[27.2]	(7.7)	—	雲母	灰・褐	普通	口縁部外面横ナデ、内面横溝	J11区	5%
2356	火鉢	瓦質土器	—	(8.4)	—	長石	黒・暗赤褐	普通	外面備付着の突起部・外縁大横溝	E13区	5%
2357	火鉢	瓦質土器	—	(7.4)	—	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	縁部縁部内縁部、3ツノ(縁部・縁部)	E13区	5%



番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2358	茶釜	瓦質土器	—	(4.0)	—	砂粒	褐灰	普通	耳部ナデ	C13区	5%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
1220	皿	陶器	[11.3]	2.4	6.7	灰白・灰白	長石軸	見込みにピン痕	瀬戸・美濃、17C初	H11区	30% 志野焼
1224	皿	磁器	[9.3]	2.2	[5.2]	灰白・灰白	染付・透明釉	柿右衛門 見込みに結文	中国	H11区	30% PL38
2360	皿	磁器	[10.4]	2.0	[6.0]	灰黄・灰オリーブ	灰軸	見込みに重ねねの痕	瀬戸・美濃、16C前半～16C中	H11区	30% 大窯皿
2375	皿	磁器	[10.4]	(2.0)	—	灰白・灰白	白磁	内外面施釉	—	E13区	5%
2376	皿	磁器	—	(1.9)	[4.9]	灰白・灰白	白磁	内外面施釉、高台内裏磨	15C前半	F12区	5%
2359	縁軸小皿	陶器	[10.4]	2.0	[5.0]	灰白・オリーブ	鉄軸	底部回転承切り	瀬戸・美濃、15C後半	D13区	30% 古瀬戸後IV
2362	縁軸小皿	陶器	—	(1.3)	4.7	灰白・オリーブ	灰軸	削り出し高台	瀬戸・美濃、15C後半～16C初	C13区	20% 大窯I
2361	狭み皿	陶器	[11.8]	1.6	[5.6]	灰白・オリーブ	灰軸	底部回転承切り	瀬戸・美濃、15C後半	H11区	50% 古瀬戸後IV PL29
2363	脚 皿	陶器	—	(3.0)	7.2	灰白・灰オリーブ	灰軸	底部回転承切り	瀬戸・美濃	C13区	40% 古瀬戸後 PL29
1860	直縁大皿	陶器	28.0	9.5	14.8	浅黄緑・浅黄	灰軸	軸に掛付け、三足形付	瀬戸・美濃、15C中～後半	D13区	95% 古瀬戸後前～古
1861	折縁深皿	陶器	31.6	9.7	15.2	灰白・オリーブ	灰軸	軸に掛付け、三足形付	瀬戸・美濃、15C中～後半	D13区	95% 古瀬戸後前～古
1862	折縁深皿	陶器	32.2	10.5	15.0	灰白・にぶい黄	灰軸	軸に掛付け、三足形付	瀬戸・美濃、15C中～後半	D13区	95% 古瀬戸後前～古
1863	田井付大皿	陶器	33.2	10.8	14.4	浅黄緑・にぶい黄	灰軸	軸に掛付け、三足形付	瀬戸・美濃、15C中～後半	D13区	95% 古瀬戸後前～古
1864	田井付大皿	陶器	29.8	9.5	14.7	灰黄・オリーブ	灰軸	軸に掛付け、三足形付	瀬戸・美濃、15C中～後半	D13区	95% 古瀬戸後前～古
1865	田井付大皿	陶器	32.2	10.2	14.9	灰白・オリーブ	灰軸	軸に掛付け、三足形付	瀬戸・美濃、15C中～後半	D13区	95% 古瀬戸後前～古
1866	田井付大皿	陶器	32.5	9.5	14.3	灰黄・灰オリーブ	灰軸	軸に掛付け、三足形付	瀬戸・美濃、15C中～後半	D13区	95% 古瀬戸後前～古
2365	折縁深皿	陶器	[32.0]	10.0	[15.0]	灰・灰オリーブ	灰軸	軸は横け掛け	瀬戸・美濃、15C後半	E13区	15% 古瀬戸後IV
2366	大 皿	陶器	—	(7.0)	—	灰白・灰白	灰軸	内外面施釉、高台形付	瀬戸・美濃	C13区	5% 古瀬戸後IV
2377	碗	磁器	[12.0]	(4.5)	—	灰白・灰白	白磁	口縁部外反	14C後半～15C前半	F12区	5%
2378	碗	磁器	—	(4.8)	—	灰白・明緑灰	青磁	口縁部片	龍泉窯、15C前半～中	F12区	10% PL38
2394	平 碗	灰陶器	—	(3.2)	—	黒灰・オリーブ	灰軸	内面にトンネル1ヶ所	—	C13区	5%
1221	天目茶碗	陶器	[11.2]	(4.9)	—	灰白・黒褐	鉄軸	柄筋彫、幅口縁磨	瀬戸・美濃	H11区	10%
1222	仏具 鉢	陶器	—	(2.3)	4.4	灰白・黒	鉄軸	高台内裏磨	瀬戸・美濃、15C後半	H11区	20% 古瀬戸後IV
1223	圓形容器	陶器	—	(8.3)	—	灰白・オリーブ	灰軸	内外面施釉	瀬戸・美濃、15C中	H11区	10% 古瀬戸後皿
2367	鉢	陶器	[24.6]	(3.6)	—	灰黄・オリーブ	錯軸	内外面施釉	瀬戸・美濃	D13区	5% 志呂呂産々
2368	鉢	陶器	—	(4.5)	—	灰白・黒褐	錯軸	内外面施釉	瀬戸・美濃	C13区	5% 志呂呂産々
2369	撰 鉢	陶器	—	(3.0)	[11.0]	灰白・暗褐	錯軸	7条1單位の撰り目	—	C13区	10%
1375	梅 瓶	陶器	—	(3.1)	—	灰白・灰オリーブ	灰軸	内外面施釉	瀬戸・美濃	E13区	5% 古瀬戸後期
2793	梅 瓶	陶器	—	(2.9)	—	オリーブ・灰白	灰軸	外面施釉	—	D13区	5%
2370	甕	陶器	[22.0]	(4.5)	—	黒褐	—	口縁部端面に沈線	常滑窯、13C後半～14C	C13区	5% 6b型式
2371	甕	陶器	—	(6.5)	—	にぶい赤褐	—	口縁部貼り付け	常滑窯、15C前半～中	C13区	5% 9型式
2372	甕	陶器	[39.4]	(8.6)	—	褐灰	—	口縁部端面に沈線	常滑窯、15C中～後半	C13区	5% 10型式
2374	甕	陶器	—	(6.1)	—	灰	—	内面ナデ	常滑窯、15C前半	C13区	5%
2776	甕	陶器	[52.4]	(10.4)	—	暗褐	—	口縁部端面に沈線	常滑窯、14C後半	D13区	5% 8型式
2373	甕	須恵器	[31.0]	(8.9)	—	灰	—	頸部に凸部有り	—	E13区	5%

番号	器 種	長さ(径)	幅(高)	厚 さ	重 量	材質(胎土)	特 徴	出土位置	備考
1376	土 鉢	(3.8)	5.2	4.7	(44.6)	長石	孔径0.7cm、外面ナデ、切れ目残存	D13区	
2379	管状土 鉢	2.7	1.1	0.4(孔径)	3.2	長石・石英	ナデ、片面からの穿孔	C13区	
2380	管状土 鉢	3.2	1.2	0.35(孔径)	4.1	長石・石英	ナデ、片面からの穿孔	C13区	
1225	土 鉢	4.8	3.7	1.2(孔径)	66.0	長石・石英	ナデ、片面からの穿孔	D13区	PL46
2381	円筒埴輪	(12.2)	—	—	(370.0)	長石・石英	外面磨毛並凸部形付り、凸部断面台形	2区表探	PL46
2382	円筒埴輪	(5.9)	—	1.3～2.0	(109.0)	長石・石英	外面磨毛並凸部形付り、凸部断面台形	B13区	

番号	器 種	長さ(径)	幅(高)	厚 さ	重 量	材 質	特 徴	出土位置	備考
1226	砥 石	7.4	4.1	2.0	65.5	凝灰岩	砥面1面、断面台形	H11区	
1227	砥 石	(7.7)	4.0	1.4	(64.0)	凝灰岩	砥面3面、断面長方形	H11区	
1228	砥 石	12.5	3.9	1.7	116.8	凝灰岩	砥面3面、断面長方形	H11区	
1229	砥 石	17.8	8.5	4.6	957.0	凝灰岩	砥面2面、調整面有り	H11区	PL47
2384	砥 石	5.3	2.9	0.8	20.9	滑 石	砥面2面、断面長方形	D13区	
2385	砥 石	(6.7)	2.0	1.8	(35.7)	凝灰岩	砥面4面、断面長方形	B13区	
2386	砥 石	7.2	2.1	2.4	41.8	砂 岩	砥面7面、中央部がならかに凹む	C12区	
2388	砥 石	(5.4)	3.2	1.2	(23.3)	滑 石	砥面3面、他は刺離面	C13区	
2389	砥 石	(7.2)	3.0	2.2	(50.0)	滑 石	砥面2面、他は刺離面	H11区	

番号	器種	長さ(径)	幅(高)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2390	砥石	(6.5)	4.6	0.8	(39.7)	砂岩	砥面3面, 断面長方形	E13区	
2391	砥石	(7.3)	4.3	1.1	(44.6)	凝灰岩	砥面4面, 砥面やや湾曲	E13区	
2392	砥石	(7.0)	4.1	2.0	(82.6)	凝灰岩	砥面3面, 砥面に擦痕	3区表探	
2393	砥石	7.6	3.7	0.8	40.3	凝灰岩	砥面3面, 断面長方形	C13区	
2394	砥石	9.0	3.1	2.1	63.3	滑石	砥面3面, 断面長方形	H11区	
2395	砥石	(8.2)	4.4	0.9	(40.9)	凝灰岩	砥面2面, 断面扁平	F12区	
2396	砥石	9.1	3.5	3.0	102.8	砂岩	砥面4面	J10区	
2397	砥石	(10.3)	5.5	2.5	(117.4)	滑石	砥面2面, 他は剥離面	F12区	
2398	砥石	10.2	5.2	2.6	161.5	凝灰岩	砥面2面, 他は剥離面	C13区	
2399	砥石	9.7	3.1	5.3	162.7	砂岩	砥面2面	D13区	
2400	砥石	10.9	4.1	1.2	81.1	凝灰岩	砥面2面, 断面扁平	I11区	
2401	砥石	11.6	4.2	2.0	110.1	滑石	砥面2面	2区表探	
2402	砥石	(11.3)	5.0	1.5	(115.8)	凝灰岩	砥面4面, 断面長方形	3区表探	
2403	砥石	11.1	4.0	3.3	146.2	砂岩	砥面5面, 他は剥離面	H11区	
2404	砥石	13.7	5.8	2.7	208.0	凝灰岩	砥面1面, 他は剥離面	F12区	
2405	砥石	(10.2)	4.3	2.9	(124.4)	凝灰岩	砥面3面, 剥離面有り	E13区	
2406	砥石	12.9	4.2	2.1	111.0	凝灰岩	砥面4面, 剥離面有り	I11区	
2407	砥石	13.5	4.3	4.0	216.0	凝灰岩	砥面3面, 剥離面有り	J11区	
2408	砥石	(12.1)	6.4	1.9	(206.0)	滑石	砥面1面, 他は剥離面	C13区	
2409	砥石	16.0	5.5	3.5	345.0	砂岩	砥面4面, 断面長方形	F13区	PL47
2410	砥石	18.4	4.9	3.1	321.0	凝灰岩	砥面2面, 他は剥離面	D13区	PL47
2411	砥石	18.0	4.8	4.1	391.0	凝灰岩	砥面5面	E13区	PL47
2412	砥石	18.8	3.4	2.6	208.0	凝灰岩	砥面2面, 調整面有り	M11区	
2413	火打石	4.7	3.9	2.6	53.4	石英	摩滅の集中箇所有り	3区表探	PL54
2414	火打石	4.7	3.9	2.9	51.0	石英	一部の縁が摩滅	C13区	
2415	火打石	5.3	4.0	5.6	80.7	石英	一部の縁が摩滅	C13区	
2416	火打石	5.9	3.3	3.3	90.2	石英	摩滅の集中箇所有り	C13区	
2417	火打石	6.1	6.0	3.3	127.7	石英	一部の縁が摩滅	C13区	
2418	火打石	7.1	6.6	3.5	138.4	石英	一部の縁が摩滅	C13区	
2419	火打石	7.9	4.3	4.3	139.0	石英	一部の縁が摩滅	E14区	
2420	敲石	14.1	9.8	7.1	1400.0	花崗岩	石灰付着	4区表探	
2421	石鏝	16.5	4.8	2.9	377.0	砂岩	断面楕円形	F12区	
2422	石鏝	19.5	8.3	2.9	663.0	砂岩	断面扁平	C13区	
2435	五輪塔	15.9	10.5	—	(1940.0)	砂岩	空風輪部, 空径10.6cm, 風径10.4cm	F13区	PL48
2436	五輪塔	21.0	12.1	—	3630.0	安山岩	空風輪部, 空径12.1cm, 風径11.8cm	F12区	PL48

番号	器種	径・口径	厚さ・器高	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2423	茶臼	[16.4]	(8.1)	—	(286.0)	安山岩	挽臼部の底は菱形	F12区	
2424	茶臼	[32.0]	(5.5)	—	(303.0)	砂岩	受重部の小破片	G12区	
2425	石臼	[26.4]	(4.8)	—	(214.0)	安山岩	上臼の破片, すり合わせ部は摩滅	2区	
2426	石臼	[24.6]	(8.4)	—	(357.0)	安山岩	上臼の破片	D13区	
2427	石臼	[25.2]	(4.8)	—	(1060.0)	安山岩	上臼の破片, 6分面	2区	
2428	石臼	[30.6]	7.5	—	(3200.0)	安山岩	下臼の2/3破片, 6分面5溝	表探	PL47
2429	石臼	28.5	10.7	—	12700.0	安山岩	下臼すり合わせ部の摩滅が激しい	E13区	PL48
2430	石臼	—	(6.3)	—	(132.0)	安山岩	上臼の小破片	E12区	
2432	石鏝	29.6	14.7	16.0	9200.0	砂岩	完存, 内面胴部から底部にかけて摩滅	E13区	PL47
2431	石鏝	[33.6]	(12.1)	—	(1450.0)	砂岩	火熱痕有り, 片口, 胴部の破片	2区	PL47
2433	石鏝	—	(6.8)	[15.6]	(639.0)	砂岩	底部片, 内面摩滅	C13区	
2434	石鏝	—	(5.0)	[17.0]	(602.0)	砂岩	底部片, 内面摩滅	4区表探	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2437	小刀	(11.8)	1.7	0.15~0.2	(15.7)	鉄	刃身部欠損, 本質わずかに残存	F12区	
2438	小刀	(12.8)	1.2	0.2	(24.7)	鉄	刃部欠損, 中央部屈曲	B13区	
2439	小刀	(18.5)	1.2	0.4	(24.8)	鉄	ほぼ完存, 刃部をわずかに欠く	C13区	PL49
2440	小刀	(19.0)	1.7	0.3~0.4	(30.2)	鉄	ほぼ完存, 刃部湾曲	H11区	
1232	刀子	(15.8)	0.8~1.5	0.2~0.25	(17.5)	鉄	刃先・茎尻部欠損, 片側	2区表探	PL49
2441	包丁	(19.7)	4.5	0.15~0.25	(59.3)	鉄	鋒部は縁やかな刀	C13区	PL49
1235	釘	(5.5)	1.3	0.6	(15.4)	鉄	断面方形, L字状に屈曲, 折釘	2区表探	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
1236	釘	(5.4)	0.7	0.7	(13.7)	鉄	断面方形, L字状に屈曲, 折釘	2区表探	
1237	釘	7.0	1.1	0.4	16.3	鉄	断面扁平, L字状に屈曲, 皆折釘	2区表探	
1238	釘	(9.9)	1.3	0.4	(26.0)	鉄	断面扁平, L字状に屈曲, 皆折釘	2区表探	
2442	釘	3.3	0.2	0.3	1.7	鉄	完存, 断面方形	4区表探	
2443	釘	4.9	0.5	0.4	3.8	鉄	完存	111区	
2444	釘	4.7	0.5	0.4	5.3	鉄	完存, 先端部緩やかに湾曲	E13区	
2445	釘カ	5.6	2.5	0.5	6.2	鉄	完存, 先端部緩やかに湾曲	D13区	
2447	釘	(7.1)	3.4	0.6	(9.2)	鉄	断面長方形, 頭部屈曲	H11区	
2450	釘	(9.4)	0.9	0.7	(31.8)	鉄	断面方形, 頭部屈曲, 先端部欠損	D13区	
2451	釘	(12.5)	1.1	0.6	(23.9)	鉄	断面方形, 先端部欠損	F12区	
2452	釘	6.6	0.4	0.4	5.3	鉄	断面方形, 頭部屈曲	H11区	
2453	釘	(7.4)	1.6	0.5	(10.5)	鉄	断面方形, 頭部屈曲, 先端部欠損	2区表探	
2454	釘カ	[5.2]	2.8	0.6	(11.7)	鉄	断面長方形, 湾曲部にマツカサガイ	F12区	
2455	釘	(7.2)	2.1	0.6	(16.0)	鉄	断面方形, 頭部屈曲, 先端部欠損	E13区	
2456	耳 金	(7.5)	0.4	0.6	(18.4)	鉄	断面方形, C字状	F13区	
2457	耳 金	7.8	3.2	0.7	13.0	鉄	断面方形, 湾曲	F12区	
2459	吊 金 具	(7.9)	0.5	0.7	(29.6)	鉄	断面方形, 湾曲	H11区	
2460	吊 金 具	9.2	0.8	0.9	45.2	鉄	断面方形, 湾曲	F12区	
2461	吊 金 具	(10.5)	0.8	0.7	(36.8)	鉄	断面方形, 両端部欠損	F12区	
2463	吊 金 具	(9.5)	0.7	0.6	(20.0)	鉄	断面方形, 両端部欠損	F12区	
2464	釣 針	(5.6)	2.8	0.3	(3.4)	鉄	断面円形, 針先にかえり	C13区	PL51
2465	釣 針	(7.5)	(3.4)	0.3	(7.5)	鉄	断面方形, 両端部欠損	2区	
2468	鐙	(5.3)	3.6	0.4	(8.7)	鉄	断面方形, 2本鐙	111区	PL50
2470	鐙	(9.0)	2.7	0.5	(8.7)	鉄	断面方形, 2本鐙	D13区	PL50
2471	結	(13.3)	3.2	0.2~0.3	(40.5)	鉄	断面方形, 先端部楕円形, 峰部方形	C13区	PL50
2472	火 打 金	8.1	(3.4)	0.3	(22.5)	鉄	山型, 頭部欠損, 孔有り	C13区	PL52
2473	火 打 金	7.1	3.7	0.3	39.3	鉄	山型, 断面長方形	C13区	PL52
2474	火 打 金	7.1	3.3	0.4	37.1	鉄	孔有り, 頂部から打撃部は厚い	111区	PL52
2475	火 打 金	6.1	3.9	0.4	48.1	鉄	孔有り, 断面の厚み一定	3区表探	PL52
2476	小 札	(6.7)	2.5	0.2	(13.5)	鉄	小孔は10ヶ所で径2mm, 中央部の孔未確認	111区	PL49
2477	小 札	(2.6)	2.6	0.2	(4.7)	鉄	小孔は4ヶ所で径3~4mm, 下部欠損	111区	PL49
2478	毛 抜	8.0	0.5~1.3	0.2	14.9	鉄	断面長方形	111区	PL51
2483	環状鉄製品	4.9	4.9	0.5	20.3	鉄	断面長方形, 円形	2区B表探	
1240	紡 塞	(12.9)	0.5	0.4	(8.8)	鉄	断面円形, 先端欠損	F12区	
2491	紡 塞	(19.3)	0.4	0.4	(11.7)	鉄	断面方形, 先端欠損	C13区	
2492	筭	(7.6)	(1.1)	0.2	(4.0)	鉄	筭部欠損, 胴部から耳掻部残存	H11区	
2498	筭	18.3	1.2	0.4	24.0	銅	完存, 耳掻部	J11区	PL54
2497	柄 頭	4.2	2.5	0.7	10.8	銅	孔は径4mm, 楕円形を呈す	111区	PL49
2499	枝 鏡	(6.4)	(2.4)	(1.2)	(17.0)	銅	「永樂通口」は屈曲, 歯道部バリ有り	G11区	
2449	不 明	(9.8)	(1.7)	0.3	(19.6)	鉄	先端部屈曲	H11区	
2484	不 明	(5.0)	4.6	0.4	(10.8)	鉄	断面方形, 一部欠損, 環状カ	F12区	
1242	不 明	(6.9)	1.1	0.5	(8.7)	銅	銅板を筒状に丸める, 内空洞	2区表探	PL50
2496	不 明	(4.3)	2.2	0.4	(3.9)	銅	銅板を筒状に丸める, 内空洞, 中部屈曲	D13区	PL50

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
1255	筭	11.6	1.3	0.25~0.3	4.0	骨	胴部から筭部まで残存, 胴部広がる	2区	PL54
2770	筭	(10.2)	0.5	0.35	(2.22)	骨	胴部欠損	G11区	
2771	筭	12.8	0.52	0.38	3.0	骨	完存, 胴部から筭部は直線的	G11区	
2772	筭	(14.0)	0.3~1.5	0.1~0.5	(5.1)	骨	胴部の一部から筭部まで残存, 胴部広がる	N12区	PL54
2773	筭	(17.2)	0.8	0.2	(3.7)	骨	胴部から筭部まで残存, 直線的	E13区	
2786	骨角製品	7.11	2.1	1.41	13.4	鹿角	小刀の柄部カ	E13区	PL53

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(出土)	特 徴	出土位置	備考
2774	軒 丸 瓦	—	(7.1)	3.0	(160.0)	長石・石灰	巴文の一部残存, 珠文縁	C13区	
2775	丸 瓦	(15.7)	(13.5)	(3.3)	(790.0)	長石・雲母	内面布目肌, 外面へろ削り, 玉縁式カ	C13区	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特 徴	出土位置	備考
1247	至道元寶	2.47	0.60	0.10	3.74	995	銅	行書	H1区	
1248	熙寧元寶	2.45	0.70	0.13	4.04	1068	銅	篆書	H1区	
1249	景德元寶	2.10	0.60	0.09	2.28	1004	銅	真書	H1区	
1250	熙寧元寶	2.53	0.60	0.12	4.06	1068	銅	篆書	H1区	
1251	宣和通寶	2.43	0.57	0.10	2.94	1119	銅	真書	H1区	
1252	祥符元寶	2.48	0.59	0.10	(1.56)	1008	銅	真書、欠け	H1区	
1253	永樂通寶	2.53	0.56	0.51	4.44	1408	銅	真書	H1区	
1254	景德元寶	2.34	0.60	0.11	3.00	1004	銅	真書	H1区	
1379	□□□□	2.33	—	0.11	(1.62)	—	銅	判読不能、欠け、模跡	H1区	
1380	治平元寶	2.45	0.60	0.12	4.04	1064	銅	篆書、星形孔	H1区	
1843	□□□□	2.29	0.64	0.07	2.24	—	銅	判読不能、凹孔、模跡	H1区	
1844	—	2.12	0.59	0.06	(1.18)	—	銅	判読不能、模跡	H1区	
1845	—	2.24	0.62	0.08	(2.36)	—	銅	判読不能、模跡	H1区	
1846	□□□□	2.38	0.70	0.10	3.84	—	銅	判読不能、模跡	H1区	
1847	—	2.22	0.70	0.12	(1.68)	—	銅	判読不能、模跡	H1区	
1848	□□□□	2.40	0.57	0.12	3.02	—	銅	判読不能、模跡	H1区	
1849	□□□□	2.44	0.63	0.14	4.62	—	銅	判読不能、模跡	H1区	
1850	—	2.37	0.66	0.10	(2.94)	—	銅	判読不能、模跡	H1区	
1851	—	2.32	0.66	0.09	2.82	—	銅	判読不能、凹孔、模跡	H1区	
1852	—	2.13	0.74	0.05	1.14	—	銅	判読不能、模跡	H1区	
1853	—	2.12	0.56	0.07	(1.44)	—	銅	無文銭、欠け	H1区	
1854	—	2.28	0.67	0.08	2.00	—	銅	判読不能、模跡	H1区	
1855	□□□□	2.36	0.62	0.09	2.84	—	銅	判読不能、模跡	H1区	
1856	皇宋通寶	2.36	0.68	0.09	2.94	1038	銅	真書	H1区	
1857	□□□□	2.19	0.62	0.07	1.48	—	銅	判読不能、模跡	H1区	
2500	至大通寶	2.28	0.59	0.16	3.74	1310	銅	真書	C13区	
2501	□□□□	2.39	0.66	0.11	3.58	—	銅	判読不能、模跡	C13区	
2502	洪武通寶	2.31	0.55	0.09	2.70	1368	銅	真書	C13区	
2503	皇宋通寶	2.45	0.72	0.13	4.18	1038	銅	篆書	C13区	
2504	祥符通寶	2.46	0.66	0.10	3.20	1008	銅	真書、割れ	C13区	
2505	永樂通寶	2.49	0.56	0.17	5.20	1408	銅	真書、背錯范	C13区	
2506	皇宋通寶	2.53	0.61	0.12	(3.52)	1038	銅	真書	C13区	
2507	洪武通寶	2.42	0.54	0.14	3.62	1368	銅	真書	C13区	
2508	開元通寶	2.49	0.64	0.13	(3.66)	621	銅	真書	C13区	
2509	洪武通寶	2.29	0.52	0.11	3.80	1368	銅	真書、背「一銭」	C13区	
2510	熙寧元寶	2.38	0.68	0.11	(3.02)	1068	銅	真書、欠け	C13区	
2511	祥符通寶	2.49	0.58	0.09	3.42	1008	銅	真書	C13区	
2512	嘉祐元寶	2.46	0.78	0.08	3.16	1056	銅	真書	C13区	
2513	洪武通寶	2.29	0.64	0.11	2.80	1368	銅	真書	C13区	
2514	元祐通寶	2.46	0.58	0.14	4.40	1086	銅	篆書、星形孔	C13区	
2515	皇宋通寶	2.49	0.77	0.11	3.56	1038	銅	篆書	C13区	
2516	開元通寶	2.39	0.66	0.11	3.34	621	銅	真書	C13区	
2517	天聖元寶	2.50	0.67	0.13	4.10	1023	銅	篆書	C13区	
2518	洪武通寶	2.42	0.69	0.16	3.96	1368	銅	真書、背上「磨」、星形孔	C13区	
2519	元豊通寶	2.44	0.68	0.11	3.42	1078	銅	篆書	C13区	
2520	至道元寶	2.45	0.64	0.09	3.28	995	銅	行書	C13区	
2521	嘉祐元寶	2.38	0.61	0.10	3.26	1056	銅	真書	C13区	
2522	淳熙元寶	2.41	0.61	0.13	3.52	1174	銅	真書、背上月	C13区	
2523	熙寧元寶	2.42	0.70	0.12	3.52	1068	銅	真書	C13区	
2524	景德元寶	2.39	0.62	0.09	2.34	1004	銅	真書	C13区	
2525	熙寧元寶	2.36	0.64	0.14	3.74	1068	銅	真書	C13区	
2526	洪武通寶	2.26	0.57	0.15	3.86	1368	銅	真書	C13区	
2527	熙寧元寶	2.39	0.68	0.13	(3.42)	1068	銅	真書、欠け	C13区	
2528	天聖元寶	2.48	0.74	0.09	(2.66)	1023	銅	真書、欠け	C13区	
2529	永樂通寶	2.50	0.54	0.12	3.50	1408	銅	真書	C13区	
2530	皇宋通寶	2.42	0.70	0.08	2.86	1038	銅	真書	C13区	
2531	聖宗通寶	2.50	0.58	0.11	3.82	1101	銅	真書	C13区	
2532	嘉祐元寶	2.47	0.79	0.08	3.02	1056	銅	真書	C13区	
2533	景祐元寶	2.51	0.61	0.10	(3.26)	1034	銅	真書、欠け	C13区	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特 徴	出土位置	備考
2534	熙寧重寶	2.52	0.87	0.09	3.82	1071	銅	真書, 星形孔	C13区	折二銭
2535	皇宋通寶	2.48	0.74	0.12	3.48	1038	銅	真書	C13区	
2536	景祐元寶	2.39	0.62	0.10	3.46	1034	銅	真書	C13区	
2537	皇宋通寶	2.46	0.64	0.12	3.42	1038	銅	真書	C13区	
2538	永樂通寶	2.51	0.55	0.14	4.64	1408	銅	真書	C13区	
2539	元祐通寶	2.47	0.70	0.14	3.40	1086	銅	行書	C13区	
2540	永樂通寶	2.45	0.59	0.13	4.94	1408	銅	真書	C13区	
2541	元豐通寶	2.48	0.73	0.10	3.50	1078	銅	行書	C13区	
2542	元豐通寶	2.41	0.61	0.08	3.12	1078	銅	篆書	C13区	
2543	紹聖元寶	2.37	0.67	0.11	2.72	1094	銅	篆書	C13区	
2544	熙寧元寶	2.41	0.72	0.10	(2.46)	1068	銅	篆書, 欠け	C13区	
2545	一宋一一	—	—	0.08	(0.83)	1038	銅	真書, 欠け	C13区	
2546	祥符元寶	2.53	0.66	0.09	3.48	1008	銅	真書	C13区	
2547	明道元寶	2.50	0.75	0.09	(3.30)	1032	銅	篆書	C13区	
2548	元豐通寶	2.47	0.66	0.13	3.80	1078	銅	篆書	C13区	
2549	皇宋通寶	2.47	0.73	0.07	2.48	1038	銅	篆書	C13区	
2550	元豐通寶	2.50	0.60	0.11	3.20	1078	銅	行書, 円孔	C13区	
2551	元豐通寶	2.44	0.68	0.12	3.52	1078	銅	篆書	C13区	
2552	政和通寶	2.38	0.57	0.12	3.10	1111	銅	篆書, 円孔	C13区	
2553	開元通寶	2.43	0.69	0.08	2.66	621	銅	真書	C13区	
2554	皇宋通寶	2.47	0.69	0.11	3.30	1038	銅	真書	C13区	
2555	元祐通寶	2.31	0.72	0.12	2.20	1086	銅	篆書	C13区	
2556	元祐通寶	2.53	0.55	0.13	4.56	1086	銅	篆書	C13区	
2557	嘉祐元寶	2.30	0.65	0.10	2.56	1056	銅	篆書	C13区	
2558	開元通寶	2.33	0.78	0.09	2.60	621	銅	模跡	C13区	
2559	洪武通寶	2.29	0.65	0.14	2.94	1368	銅	真書	C13区	
2560	皇宋通寶	2.44	0.79	0.12	2.94	1038	銅	篆書, 星形孔	C13区	
2561	元豐通寶	2.51	0.67	0.10	(3.12)	1078	銅	行書, 欠け	C13区	
2562	永樂通寶	2.49	0.57	0.11	3.38	1408	銅	真書	C13区	
2563	嘉祐元寶	2.32	0.66	0.13	3.74	1056	銅	篆書	C13区	
2564	熙寧元寶	2.47	0.68	0.13	4.04	1068	銅	篆書	C13区	
2565	洪武通寶	2.40	0.54	0.14	3.42	1368	銅	真書	C13区	
2566	洪武通寶	2.37	0.56	0.15	3.20	1368	銅	真書	C13区	
2567	永樂通寶	2.51	0.49	0.17	4.76	1408	銅	真書	C13区	
2568	洪武通寶	2.36	0.54	0.15	3.56	1368	銅	真書	C13区	
2569	永樂通寶	2.44	0.57	0.11	2.46	1408	銅	真書	C13区	
2570	皇宋通寶	2.40	0.75	0.11	2.78	1038	銅	模跡	C13区	
2571	熙寧元寶	2.46	0.66	0.12	3.66	1068	銅	篆書	C13区	
2572	天禧通寶	2.43	0.63	0.12	3.94	1017	銅	真書	C13区	
2573	熙寧元寶	2.44	0.64	0.13	3.12	1068	銅	真書	C13区	
2574	開元通寶	2.46	0.68	0.12	2.96	621	銅	真書	C13区	
2575	嘉祐元寶	2.47	0.78	0.10	3.14	1056	銅	篆書	C13区	
2576	永樂通寶	2.53	0.54	0.13	3.60	1408	銅	真書	C13区	
2577	祥符一一	—	—	0.11	(2.04)	1008	銅	真書, 欠け	C13区	
2578	洪武通寶	2.28	0.52	0.11	3.40	1368	銅	真書, 背「一錢」	C13区	
2579	皇宋通寶	2.47	0.72	0.11	(3.30)	1038	銅	篆書	C13区	
2580	元豐通寶	2.41	0.64	0.15	4.42	1078	銅	篆書	C13区	
2581	永樂通寶	2.49	0.55	0.12	3.68	1408	銅	真書	C13区	
2582	開元通寶	2.39	0.69	0.12	3.82	621	銅	真書	C13区	
2583	洪武通寶	2.31	0.62	0.16	3.34	1368	銅	真書	C13区	
2584	景祐元寶	2.49	0.62	0.10	3.52	1034	銅	真書	C13区	
2585	元豐通寶	2.33	0.67	0.10	2.84	1078	銅	篆書	C13区	
2586	洪武通寶	2.07	0.45	0.13	3.14	1368	銅	真書, 背「一錢」, 円孔	C13区	
2587	開元通寶	2.48	0.71	0.11	3.12	621	銅	真書	C13区	
2588	政和通寶	2.43	0.66	0.11	3.40	1111	銅	分権	C13区	
2589	元豐通寶	2.44	0.72	0.12	3.42	1078	銅	行書	C13区	
2590	皇宋通寶	2.45	0.71	0.09	(2.70)	1038	銅	真書, 欠け	C13区	
2591	熙寧元寶	2.35	0.70	0.12	3.76	1068	銅	篆書	C13区	
2592	永樂通寶	2.48	0.55	0.10	3.38	1408	銅	真書	C13区	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特 徴	出土位置	備考
2593	天祿通寶	2.25	0.64	0.11	2.86	1017	銅	真書	C13区	
2594	嘉祐元寶	2.30	0.71	0.10	2.88	1056	銅	真書	C13区	
2595	元祐通寶	2.47	0.61	0.09	3.02	1086	銅	篆書	C13区	
2596	元豊通寶	2.42	0.66	0.10	3.42	1078	銅	行書	C13区	
2597	—	2.32	0.60	0.10	(3.52)	—	銅	模鑄	C13区	
2598	洪武通寶	2.25	0.62	0.11	3.44	1368	銅	真書	C13区	
2599	洪武通寶	2.33	0.59	0.15	3.84	1368	銅	真書	C13区	
2600	元祐通寶	2.40	0.73	0.11	(2.90)	1086	銅	行書、欠け	C13区	
2601	太平通寶	2.33	0.61	0.08	2.56	976	銅	真書	C13区	
2602	洪武通寶	2.31	0.57	0.11	(3.36)	1368	銅	真書	C13区	
2603	熙寧元寶	2.30	0.63	0.11	(2.82)	1068	銅	真書	C13区	
2604	洪武通寶	2.41	0.60	0.12	3.92	1368	銅	真書	C13区	
2605	至道元寶	2.33	0.64	0.07	2.48	995	銅	真書	C13区	
2606	元祐通寶	2.37	0.67	0.15	3.52	1086	銅	行書	C13区	
2607	洪武通寶	2.23	0.61	0.15	3.36	1368	銅	真書	C13区	
2608	開元通寶	2.39	0.62	0.09	3.30	621	銅	模鑄	C13区	
2609	景祐元寶	2.49	0.62	0.11	3.24	1034	銅	真書	C13区	
2610	元豊通寶	2.44	0.67	0.11	3.66	1078	銅	篆書	C13区	
2611	元祐通寶	2.50	0.55	0.13	(4.02)	1086	銅	行書、鏽がひどい	C13区	
2612	洪武通寶	2.38	0.57	0.12	3.50	1368	銅	真書	C13区	
2613	開元通寶	2.36	0.63	0.12	3.50	621	銅	真書	C13区	
2614	元符通寶	2.37	0.64	0.14	3.58	1098	銅	篆書	C13区	
2615	熙寧元寶	2.29	0.59	0.11	3.26	1068	銅	真書	C13区	
2616	永樂通寶	2.39	0.56	0.10	3.62	1408	銅	真書	C13区	
2617	治平元寶	2.44	0.62	0.12	3.74	1064	銅	真書	C13区	
2618	至和元寶	2.45	0.77	0.10	3.38	1054	銅	真書	C13区	
2619	皇宋通寶	2.33	0.63	0.08	2.46	1038	銅	真書、星形孔	C13区	
2620	開元通寶	2.50	0.72	0.12	(3.56)	621	銅	真書、欠け	C13区	
2621	—	2.60	0.78	0.09	(2.84)	—	銅	判読不能、ゆがみ有り	C13区	
2622	開元通寶	2.38	0.70	0.10	(2.26)	621	銅	真書、欠け	C13区	
2623	皇宋通寶	2.42	0.64	0.11	3.82	1038	銅	真書	C13区	
2624	政和通寶	2.40	0.60	0.12	3.38	1111	銅	分極	C13区	
2625	元豊通寶	2.46	0.67	0.08	3.24	1078	銅	真書	C13区	
2626	元祐通寶	2.42	0.70	0.10	(3.00)	1086	銅	行書	C13区	
2627	景祐元寶	2.39	0.78	0.10	2.44	1034	銅	真書	C13区	
2628	元豊通寶	2.36	0.67	0.09	3.96	1078	銅	篆書	C13区	
2629	天聖元寶	2.32	0.70	0.12	(2.64)	1023	銅	篆書、欠け	C13区	
2630	開元通寶	2.37	0.69	0.08	2.46	621	銅	真書	C13区	
2631	元豊通寶	2.34	0.67	0.09	2.66	1078	銅	篆書	C13区	
2632	祥符元寶	2.36	0.63	0.10	(2.46)	1008	銅	真書	C13区	
2633	至和元寶	2.35	0.72	0.10	2.58	1054	銅	模鑄	C13区	
2634	洪武通寶	2.33	0.58	0.13	2.98	1368	銅	真書	C13区	
2635	天祿通寶	2.30	0.64	0.10	(2.50)	1017	銅	真書、欠け	C13区	
2636	元祐通寶	2.34	0.68	0.11	2.78	1086	銅	模鑄	C13区	
2637	元豊通寶	2.35	0.64	0.09	(2.28)	1078	銅	模鑄	C13区	
2638	□□□□	2.25	0.65	0.08	(1.86)	1101	銅	模鑄	C13区	
2639	洪武通寶	2.24	0.67	0.10	(2.06)	1368	銅	真書	C13区	
2640	天祿通寶	2.33	0.61	0.08	(1.98)	1017	銅	真書	C13区	
2641	熙寧元寶	2.26	0.63	0.09	2.64	1068	銅	真書	C13区	
2642	天聖元寶	2.26	0.63	0.09	2.64	1023	銅	真書	C13区	
2643	元豊—	—	—	0.09	(1.64)	1078	銅	篆書、欠け	C13区	
2644	景德元寶	2.46	0.64	0.10	3.10	1004	銅	真書	D13区	
2645	元豊通寶	2.42	0.70	0.11	3.68	1078	銅	行書	D13区	
2646	元豊通寶	2.45	0.63	0.15	3.66	1078	銅	行書、星形孔	D13区	
2647	永樂通寶	2.48	0.58	0.11	3.38	1408	銅	真書	D13区	
2648	嘉祐通寶	2.41	0.61	0.12	(3.24)	1056	銅	真書、欠け	D13区	
2649	洪武通寶	2.32	0.58	0.13	4.00	1368	銅	真書	D13区	
2650	祥符元寶	2.47	0.65	0.10	3.28	1008	銅	真書	D13区	
2651	景德元寶	2.42	0.65	0.11	(2.90)	1004	銅	真書、星形孔	D13区	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特 徴	出土位置	備考
2652	元祐通寶	2.32	0.69	0.12	3.04	1086	銅	行書	D13区	
2653	天聖元寶	2.56	0.71	0.14	2.96	1023	銅	模鑄、錆がひどい	D13区	
2654	咸平元寶	2.41	0.63	0.11	3.02	998	銅	模鑄	D13区	
2655	元豊通寶	2.38	0.64	0.11	3.34	1078	銅	行書	D13区	
2656	開元通寶	2.42	0.65	0.10	2.70	621	銅	真書	D13区	
2657	嘉祐通寶	2.41	0.74	0.08	2.70	1056	銅	真書	D13区	
2658	祥符元寶	2.52	0.62	0.11	3.46	1008	銅	真書	D13区	
2659	景祐元寶	2.47	0.66	0.09	3.60	1034	銅	篆書	D13区	
2660	永樂通寶	2.40	0.64	0.09	(2.34)	1408	銅	真書、円孔	E12区	
2661	永樂通寶	2.41	0.62	0.11	3.78	1408	銅	真書	E12区	
2662	永樂通寶	2.47	0.58	0.14	3.74	1408	銅	真書	E12区	
2663	祥符元寶	2.30	0.61	0.06	2.08	1008	銅	真書	E12区	
2664	祥符元寶	2.37	0.63	0.10	3.32	1008	銅	真書	E12区	
2665	永樂通寶	2.42	0.59	0.10	2.80	1408	銅	真書	E12区	
2666	紹聖元寶	2.46	0.76	0.09	(2.64)	1094	銅	行書、欠け	E13区	
2667	永樂通寶	2.43	0.56	0.10	3.36	1408	銅	真書	E13区	
2668	開元通寶	2.30	0.71	0.17	4.26	621	銅	真書	E13区	
2669	元豊通寶	2.42	0.71	0.13	(3.66)	1078	銅	行書	E13区	
2670	—	2.32	0.66	0.08	2.44	—	銅	模鑄	E13区	
2671	開元通寶	2.32	0.71	(0.13)	(2.78)	621	銅	真書、錆がひどい	E13区	
2672	—	2.32	0.62	0.11	2.00	—	銅	模鑄	E13区	
2673	永樂通寶	2.48	0.55	0.12	3.76	1408	銅	真書	E13区	
2674	熙寧元寶	2.50	0.70	0.11	2.98	1068	銅	篆書	F12区	
2675	至道元寶	2.54	0.55	0.12	3.94	995	銅	真書	F12区	
2676	熙寧元寶	2.39	0.75	0.11	2.92	1068	銅	真書	F12区	
2677	熙寧元寶	2.54	0.70	0.15	(5.10)	1068	銅	真書、錆がひどい	F12区	
2678	—	2.08	0.68	0.09	1.44	—	銅	無文銭	F12区	
2679	皇宋通寶	2.35	0.72	0.08	2.44	1038	銅	模鑄	F12区	
2680	—	2.30	0.72	0.08	2.40	—	銅	模鑄	F12区	
2681	元豊通寶	2.37	0.61	0.09	2.68	1078	銅	篆書	F12区	
2682	熙寧元寶	2.40	0.66	0.10	2.56	1068	銅	篆書	F12区	
2683	皇宋通寶	2.43	0.80	0.08	2.42	1038	銅	真書	F12区	
2684	天聖元寶	2.44	0.68	0.10	2.78	1023	銅	真書	F12区	
2685	治平元寶	2.30	0.62	0.11	3.58	1064	銅	篆書	F12区	
2686	洪武通寶	2.34	0.60	0.12	(3.36)	1368	銅	真書	F12区	
2687	開元通寶	2.29	0.65	0.07	2.16	621	銅	真書	F12区	
2688	—	2.35	0.53	0.18	3.10	—	銅	模鑄、錆がひどい	F12区	
2689	洪武通寶	2.33	0.57	0.14	3.40	1368	銅	真書	F12区	
2690	永樂通寶	2.41	0.61	0.15	4.92	1408	銅	真書	F12区	
2691	開元通寶	2.54	0.65	0.10	3.30	621	銅	真書	F13区	
2692	元豊通寶	2.42	0.67	0.11	3.20	1078	銅	模鑄	F13区	
2693	朝辭通寶	2.37	0.60	0.14	4.04	1423	銅	真書	F13区	
2694	洪武通寶	2.25	0.50	0.12	3.12	1368	銅	真書、円孔、背「一錢」	G11区	
2695	永樂通寶	2.43	0.50	0.10	3.60	1408	銅	真書	G11区	
2696	永樂通寶	2.46	0.56	0.10	3.74	1408	銅	真書	G11区	
2697	—	—	—	0.15	(1.76)	—	銅	判読不能、欠け	G11区	
2698	永樂通寶	2.50	0.50	0.11	3.75	1408	銅	真書	G11区	
2699	—	—	—	0.08	(1.28)	—	銅	判読不能	G11区	
2700	祥符通寶	2.39	0.61	0.10	2.68	1008	銅	真書	G11区	
2701	紹聖元寶	2.48	0.65	0.11	3.64	1094	銅	篆書	G13区	
2702	元祐通寶	2.50	0.66	0.12	3.62	1078	銅	行書	G13区	
2703	熙寧元寶	2.43	0.68	0.09	2.84	1068	銅	篆書	G13区	
2704	元祐通寶	2.44	0.69	0.13	3.54	1086	銅	篆書	G13区	
2705	宗通元寶	2.48	0.62	0.12	(3.22)	960	銅	真書	G13区	
2706	景祐元寶	2.49	0.59	0.17	3.74	1034	銅	真書	G13区	
2707	治平元寶	2.43	0.64	0.14	3.74	1064	銅	真書	G13区	
2708	開元通寶	2.40	0.70	0.13	3.04	621	銅	真書	G13区	
2709	皇宋通寶	2.38	0.68	0.12	2.88	1038	銅	篆書、星形孔	G13区	
2710	皇宋通寶	2.48	0.71	0.12	3.56	1038	銅	篆書、錆がひどい	G13区	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特 徴	出土位置	備考
2711	開元通寶	2.26	0.65	0.07	2.46	621	銅	真書	H11区	
2712	至道元寶	2.45	0.63	0.10	(2.52)	995	銅	草書、欠け	H11区	
2713	永樂通寶	2.50	0.59	0.12	(2.76)	1408	銅	真書	H11区	
2714	永樂通寶	2.41	0.58	0.13	3.30	1408	銅	真書	H11区	
2715	元祐通寶	2.36	0.67	0.10	3.22	1086	銅	行書	H11区	
2716	熙寧元寶	2.39	0.66	0.13	3.34	1068	銅	真書	H11区	
2717	宣和通寶	2.36	0.61	0.11	3.14	1119	銅	分楷	H11区	
2718	開元通寶	2.49	0.66	0.09	2.90	621	銅	真書	H11区	
2719	元祐通寶	2.38	0.67	0.09	(2.28)	1086	銅	篆書	H11区	
2720	永樂通寶	2.43	0.58	0.09	(2.62)	1408	銅	真書	H11区	
2721	皇宋通寶	2.42	0.71	0.11	2.76	1038	銅	真書、星形孔	H11区	
2722	皇宋通寶	2.35	0.63	0.10	3.06	1038	銅	真書	H11区	
2723	元豊通寶	2.48	0.66	0.10	(3.14)	1078	銅	篆書、欠け	H11区	
2724	元祐通寶	2.44	0.72	0.12	3.64	1086	銅	行書、星形孔	H11区	
2725	元豊通寶	2.32	0.73	0.12	3.36	1078	銅	篆書、円孔	H11区	
2726	—	2.31	0.66	0.12	3.50	—	銅	模鑄	H11区	
2727	開元通寶	2.38	0.64	0.13	3.78	621	銅	真書	H11区	
2728	元豊通寶	2.36	0.71	0.09	(2.62)	1078	銅	真書	H11区	
2729	元祐通寶	2.41	0.61	0.12	3.84	1086	銅	真書	H11区	
2730	開元通寶	2.44	0.70	0.10	(2.62)	621	銅	真書、欠け	H11区	
2731	開元通寶	2.46	0.70	0.10	(2.92)	621	銅	真書	H11区	
2732	皇宋通寶	2.37	0.66	0.08	2.74	1038	銅	真書、星形孔	H11区	
2733	天聖元寶	2.54	0.75	0.17	(3.44)	1023	銅	真書、鑄がひどい	H11区	
2734	宣徳通寶	2.53	0.58	0.13	3.30	1433	銅	真書、円孔。	H11区	
2735	紹聖元寶	2.41	0.68	0.11	3.54	1094	銅	行書	H11区	
2736	景祐通寶	2.34	0.73	0.14	2.30	1034	銅	模鑄	H11区	
2737	天聖元寶	2.46	0.57	0.11	3.70	1023	銅	篆書	H11区	
2738	永樂通寶	2.47	0.60	0.12	3.52	1408	銅	真書	H11区	
2739	永樂通寶	2.43	0.60	0.10	3.32	1408	銅	真書	H11区	
2740	皇宋通寶	2.42	0.61	0.10	2.88	1038	銅	真書	H11区	
2741	永樂通寶	2.46	0.62	0.11	3.14	1408	銅	真書	H11区	
2742	永樂通寶	2.48	0.61	0.10	3.28	1408	銅	真書	H11区	
2743	元祐通寶	2.37	0.64	0.08	2.44	1086	銅	篆書	H11区	
2744	祥符元寶	2.49	0.58	0.11	(3.22)	1008	銅	真書、欠け	H11区	
2745	水一寶	—	—	0.10	(1.64)	1408	銅	真書、欠け、永樂通寶カ	H11区	
2746	元豊通寶	2.19	0.69	0.07	1.86	1078	銅	篆書	H11区	
2747	元祐通寶	2.22	0.75	0.10	2.44	1086	銅	行書	H11区	
2748	皇宋通寶	2.42	0.74	0.10	(2.62)	1038	銅	篆書	H11区	
2749	治平通寶	2.37	0.71	0.13	3.54	1064	銅	篆書	H11区	
2750	天聖元寶	2.51	0.77	0.13	(3.08)	1023	銅	真書、欠け	H11区	
2751	永樂通寶	2.47	0.60	0.10	3.34	1408	銅	真書	J10区	
2752	政和通寶	2.39	0.60	0.11	3.40	1111	銅	篆書	J10区	
2753	祥符元寶	2.17	0.62	0.09	2.26	1008	銅	真書	J10区	
2754	—	—	—	0.10	(0.92)	—	銅	判読不能、欠け	J11区	
2755	天聖元寶	2.41	0.68	0.10	3.14	1023	銅	篆書	J11区	
2756	開元通寶	2.48	0.63	0.20	(4.20)	845	銅	真書、背「開」	2区表探	
2757	洪武通寶	2.35	0.58	0.16	4.22	1368	銅	真書	2区表探	
2758	開元通寶	2.35	0.66	0.08	1.88	621	銅	真書	2区表探	
2759	紹聖元寶	2.50	0.69	0.11	3.04	1094	銅	行書	2区表探	
2760	天聖元寶	2.49	0.75	0.11	(2.44)	1023	銅	篆書、欠け	2区表探	
2761	紹定通寶	2.41	0.64	0.11	3.08	1228	銅	模鑄、背「口」	2区表探	
2762	永樂通寶	2.48	0.55	0.12	2.42	1408	銅	模鑄	2区表探	
2763	—	2.45	0.69	0.12	4.16	—	銅	模鑄	2区表探	
2764	—□寶	—	—	0.12	(1.74)	—	銅	模鑄、欠け	2区表探	
2765	—宋通—	—	—	0.11	(1.64)	—	銅	真書、欠け	2区表探	
2766	元□寶	2.45	0.74	0.11	(2.60)	—	銅	判読不能	2区表探	
2767	皇宋通寶	2.37	0.72	0.08	3.04	1038	銅	真書	4区	
2768	熙寧□寶	2.47	0.70	0.10	(2.42)	—	銅	篆書、欠け	4区	
2769	開元通寶	2.44	0.70	0.09	3.70	845	銅	真書、背「昌」	4区	



## 第4節 まとめ

### 1 はじめに

当遺跡を調査するにあたっては、先に調査が行われた沢田遺跡の成果から、釜屋や鹹水槽などで構成される製塩跡や墓跡等の遺構や、土器や陶磁器類、さらに製塩跡に係る様々な遺物の出土が想定された。実際、平成15年度からの調査では、製塩跡の他、製塩などの生業に従事した人々が生活したと想定される建物跡や墓跡、貝集積地や畝状遺構も確認された。そうした遺構からは土師質土器や陶磁器類、多量の古銭、硯や石臼・茶臼などの石製品、火打金・弁・小刀などの金属製品、骨角製品など多種多様な遺物が出土した。その結果、当遺跡は製塩を主な生業とする人々が生活を営んだ集落が砂中にバックされて残された生産遺跡であることが明らかになった。村松虚空蔵堂文書などからも、この近辺にはかつて集落が存在していたことがうかがえる。

ここでは、確認された遺構と遺物の中から、遺跡の性格にかかわるいくつかの点を取り上げて検討を加え、まとめたい。

### 2 遺構について

#### (1) 釜屋跡

今回の調査では、標高約4～10mの砂丘上から製塩跡が21か所確認された。製塩跡は釜屋と鹹水槽で構成され、釜屋跡21か所、それに伴うと判断される屋内・外鹹水槽195基、土樋2条が検出されている。

釜屋は廃棄された後、場所を変えて新たに構築されたと考えられるが、出土遺物が少ないことから、釜屋跡の時期決定ができなかった。しかし、当地が砂地であることから、遺構は下層から上層へと順次構築されており、遺構同士の新旧関係は、土層断面で確認することが容易であった。

ここでは、確認された釜屋跡についてその構築法や形状、内部施設などに焦点をあて、A～D類に類型する(第627図)。

<A類>：釜屋を構築する黒色土が方形で、一部張り出し部を有しているもの(第1・2・5・6・9～13・17・19・20号釜屋跡)。

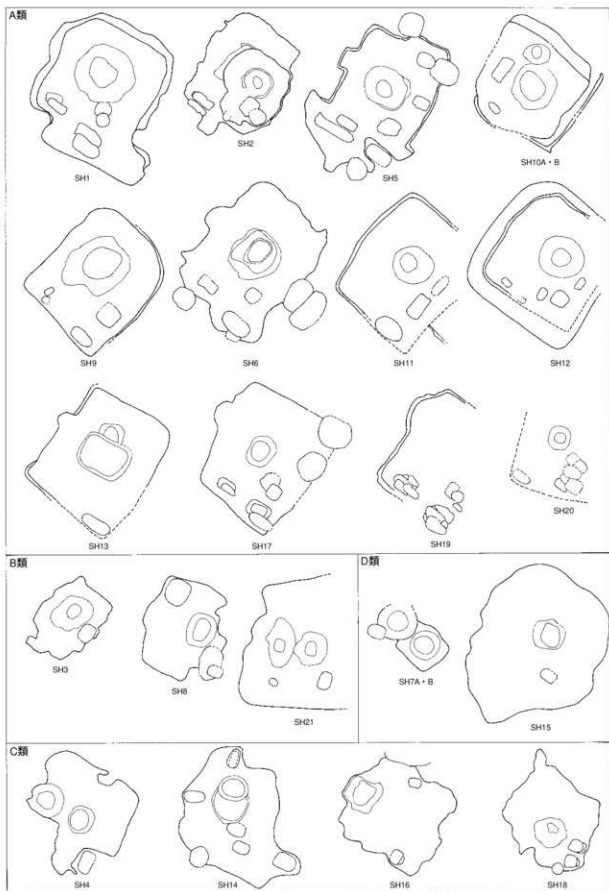
A類の特徴としては、釜屋を構築する黒色土の範囲が一辺約15mの方形を呈し、黒色土の外側に、ローム土と暗褐色土を版築状に積み重ねた層が巡っていることが確認されている。また、土層断面からも釜屋内の黒色土面が一段高くなっていることが確認されており、これらを補強するために黒色土の外側にローム土と暗褐色土を版築状に積み重ねて構築したものと考えられる。釜屋内の黒色土はほぼ平坦に貼り付けられているが、土層断面からは竈や操業面など何回かの補修を行っていることがうかがえた。

内部施設には竈の他、南西部に長軸約2m、短軸約0.5m、南東部に長軸約2m、短軸1mの隅丸長方形型の鹹水槽が2基構築されている。釜屋内の竈も一回ないし二回、黒色土を積み重ねて造り替えを行っており、幾度か補修されながら操業を続けていたことがとらえられた。

また、A類には釜屋を構築する黒色土の一部に、長方形の張り出し部を有しているものがあつた。

この長方形の張り出し部は釜屋内への出入り口部と推測され、南東部あるいは西部に確認できる。

南東部は第1・2・5号、西部は第6・13・17・19号釜屋跡である。前者は最初の遺構確認面に位置していることから、当遺跡内の最終段階で操業されていたものと推測される。後者の第13・17号釜屋跡は同一の場所で規模や形状をほぼ変えずに上層へと構築が繰り返されていることから、出入り口部を西部に設け



第627図 釜屋跡類型図

る共通の構築法を踏襲していたといえる。第13・17号釜屋跡は当遺跡内では第2目目で確認されていることから、後者である西部に出入り口部を有する釜屋の形態から、前者である南東部に出入り口部を有する釜屋の形態へと構築法が変化していった可能性が高い。

また、第1・2・10号釜屋跡では釜屋を構築する黒色土面の範囲を変えている。第1号釜屋跡は範囲を南部へ拡張、第2・10号釜屋跡は逆に範囲を縮小させている。また、第9・13・17号釜屋跡は3軒、第11・12・19・20号釜屋跡の4軒はほぼ同じ場所で重複していることが認められた。第1号釜屋跡は鹹水槽の南部への造り替えに伴い、南部に拡張したと想定されるが、第2・10号釜屋跡の縮小については、生産事情によるものか明らかではない。製塩跡の配置は全体的に近接しており、その中でも製塩跡同士が2箇所で重複していることから、製塩業がいくつかの単位で行われていたと考えられる。

そうしたことがうかがえる遺構は、第1・2・5・6号製塩跡である。釜屋跡を含めた黒色土の範囲から、第1・2号製塩跡は同一の黒色土面に構築されており同時期の操業、第5・6号の間は釜屋を構築する黒色土面が切断されていることから、操業時期に差があったと判断される。そのことは、第5号製塩跡の屋外鹹水槽が海岸に近い東部に構築されているのではなく、北東方向に延びて構築されていることから、東に位置する第6号製塩跡が第5号製塩跡より先行した時期に操業していた可能性が高いことから指摘できる。屋外鹹水槽を含めた範囲を想定すると、最も高い地点に位置する第1・2・5・6号製塩跡が存在したのは、当遺跡内で製塩が大規模に行われていた時期であると推測される。

< B 類 > : 釜屋を構築する黒色土の範囲がほぼ長方形で、釜屋内に一段高くなる黒色土の壁や黒色土の外側の版築状の層が確認されないもの (第3・8・21号釜屋跡)。

釜屋内を構成する黒色土はほぼ平坦に貼り付けられており、第3・8号釜屋跡の平面形は長方形である。第21号釜屋跡は東部が調査区域外に延びているため、平面形が確認できなかった。第3・21号釜屋跡は標高が約5m代と低く、最下層から確認された釜屋跡といえる。第3・8号釜屋跡は標高で1mの差があるものの、釜屋内の竈の東部に屋内鹹水槽を1基設ける共通の構造となっている。第8号釜屋跡では釜屋内の西部に円形のくぼみが確認できるが、底面からは焼砂や灰が検出されておらず、燃料となる木材の置き場などが想定される。また、屋内鹹水槽も1基ないし2基と少なく、屋外鹹水槽を有していないことを考えると、大規模な操業ではなかったことが考えられる。第3号釜屋跡が位置する場所は、調査区域内の釜屋跡が集中するA類よりも南西へ約50mと離れていることから、釜屋跡が新たに調査区域外の南西に延びる一部か、あるいは、建物跡に付随した施設の一部と考えられる。

しかし、遺構全体図で明らかなように、製塩区域と建物区域が配置を異にしていることを考えると、建物跡に付随した製塩跡と仮定するのは困難である。このように、B類に含まれる製塩跡は、規模や屋外鹹水槽の保有数などから、小規模で行われていたものと推測される。

< C 類 > : 釜屋を構築する黒色土の範囲が不定形で、釜屋内には一段高くなる壁を有しないもの (第4・14・16・18号釜屋跡)。

釜屋内を構築する黒色土はほぼ平坦に貼り付けられている。その中でも竈の場所を変え、造り替えが行われているのが第4・14号釜屋跡で、その他は単一の竈である。屋内鹹水槽の配置も様々で、一定していない。釜屋内の黒色土は竈や屋内鹹水槽の位置に合わせて貼り付けられている。第4・14号釜屋跡の確認された標高は約5m代で、B類の第3・21号釜屋跡とほぼ同じである。第4・16号製塩跡の釜屋内からは、多量の焼砂範囲が確認されている。

<D類>：A～C類の形態に属しないもの（第7・15号釜屋跡）。

第7号は竈2基のみで、釜屋内と考えられる範囲には黒色土面や屋内鹹水槽、柱穴が確認されている。竈のみの操業であったか、釜屋を構築する黒色土が再利用され、残存していないなどの事情が想定される。第15号は釜屋全体がドーム型を呈しており、高まりのある砂丘面を利用し黒色土を貼り付けて構築したと考えられ、当遺跡内では異例である。

当遺跡における釜屋の類型から、構築法や内部施設などに一定の規則性が見られる第1・2・5・6・11号釜屋跡のA類が最終段階、屋外鹹水槽をもたない低標高から確認されている第3・8・21号釜屋跡のB類が初期段階の釜屋と考えられる。初期段階から最終段階の釜屋形態の変化は、操業規模との関連が考えられる。最終段階である第1・2・5・6号釜屋跡が稼働していた期間は、大規模な操業であった可能性が高い。

なお、海水を煮詰めるために火を使い、竈内からは多量の灰が出る。この灰は当時大切な肥料として再利用されたため、貴重な灰が釜屋内に散在して確認されることは考えられず、一帯に灰などが確認されている第1・2・12・13・19号釜屋跡は、火災などにより釜屋の屋根材や壁材などが焼け落ちた可能性が高い。

## (2) 建物跡

建物跡は38軒確認された。先に述べた製塩跡の西部や南東部に建物跡が集中し、出土遺物と製塩跡との距離から考えて、製塩にかかわる人々が生活した建物跡ではないかと推測される。ここでは、建物跡を柱穴や内部施設、出土遺物などから、I～IV類に類型化する（第628・629図）。

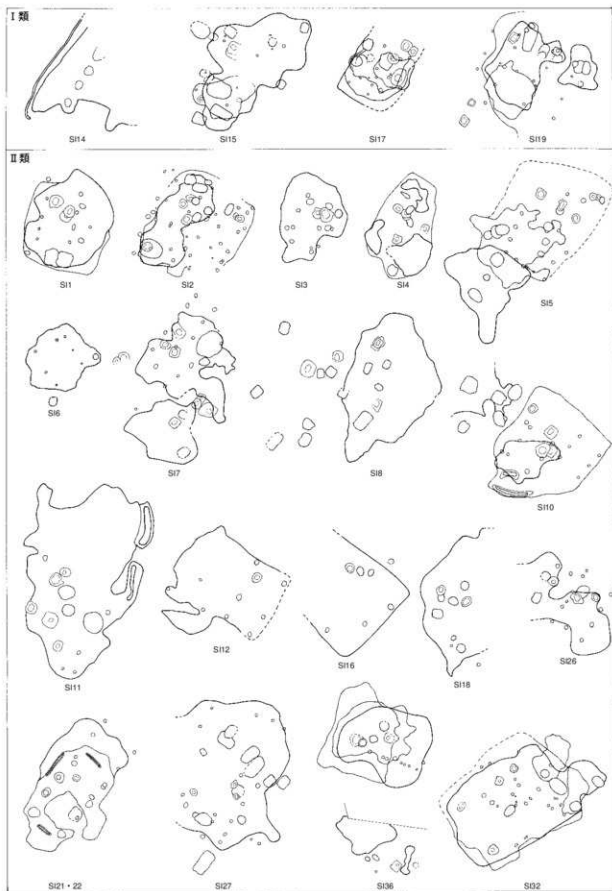
<I類>：柱穴や遺物の出土状況から、両面庇付の大型の建物と推測されるもの（第14・15・17・19号建物跡）。

第19号建物跡からは多量の土師質土器や陶磁器類、石製品が出土している。特に、建物を構築する黒色土層から出土した100枚を越す古銭は注目される。第19号建物跡の南東部10mの砂層中からは、本跡に関係すると考えられる約380枚の稻銭や古瀬戸大皿類7枚が未使用の状態で出土しており、備蓄しておいたものが埋もれてしまったのではないかと推測される。第14号建物跡は四方が調査区域外になるため、全体の様相は確認できなかったが、黒色土で構築された土手状の高まりが確認され、同じ軸方向でピット列が配されている。この土手状の高まりは、屋敷を区画するためのものと考えられ、屋敷内の一部が確認されたものと推測される。また、ピット列の西側には、幅約0.5m、長さ約8mにわたって帯状の焼砂層が確認され、多量の釘や土師質土器片とともに分銅や硯、香炉、火熱痕のある陶器類が出土している。第19号建物跡の東部からも多量の遺物と焼砂の帯が検出されていることから、両跡は屋根や壁材が火災などで焼け落ちて廃絶されたものと推測される。第14号建物跡は分銅や硯などの出土遺物から、集落内では中心的な存在であった可能性が高い。時期は、出土遺物から15世紀後半と考えられる。

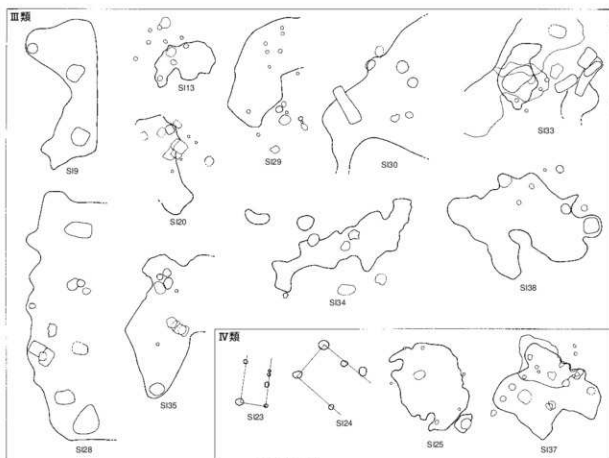
第14・19号建物跡は調査区が異なることから、同時期に存在したかどうかは判断しがたいが、15世紀後半に、製塩を管理する人物が存在したとの推測は十分可能であろう。

<II類>：日常雑器類やかたが建物跡内から確認され、生活面を構築する黒色土面に柱穴も規則的に配されているもの（第1～8・10～12・16・18・21・22・26・27・31・32・36号建物跡）。

これらの建物跡は遺構の配置状況から、それぞれ単独での存在ではなく、1～5軒のいくつかのまとまりをもって集落を構成していたと考えられる。その中でも第10・26号建物跡は柱穴の配列から、炉を中心



第628図 建物跡類型図(1)



第629図 建物跡類型図(2)

とするL字状の曲率的な構造をもつ建物と推測され、集落の中でも特別な用途の建物であった可能性が高い。また、構造上の特徴としては、黒色土で構築された土手状の高まりをもつ建物跡が第4・11号建物跡内から確認されている。この土手状の高まりは、第14号建物跡とは違い、建物を構築する黒色土面と共につながっており、居住を区画するためというよりも、出入り口部にあたると思われる。第4号建物跡は南部、第11号建物跡は東部に出入り口を有しているということになる。

Ⅱ類の中には、遺構を構築する黒色土面が何面にもわたって確認された建物跡がある。時間差がどれほどか定かではないが、黒色土層間の砂A層からは、あまり期間を空けなかったものや、やや期間を空けて黒色土を構築したと思われる層が確認されている。いずれにしても、黒色土を幾度も貼り付け、生活面を補修しながら生活を営んでいたと言える。黒色土面からは確認できない柱穴が、黒色土を除去した下層から確認されていたのは、そのためである。

<Ⅲ類>：日常雑器類やかがが建物跡内からは確認されず、生活面を構築する黒色土面に柱穴も配されないもの(第9・13・20・28~30・33~35・38号建物跡)。

Ⅲ類は日常雑器類の出土量が少なく、かがが検出されていないため、継続的に生活が営まれた建物とは考えにくい。土層断面からは黒色土を幾度も補修していることが明らかになった。また、柱穴が確認できないものが多く、Ⅲ類の多くは上屋がなかった生活・作業スペースか仮小屋的なスペースと推測される。やはり、先に述べたⅠ・Ⅱ類同様、単独での存在は考えられず、それぞれ中心になる建物に付随したものであるのであろう。特に、第38号建物跡は北東に構築された土坑や黒色土の形状などから、作業場や厩など

の生活以外に機能した建物と推測されるが、黒色土面に構築された粘土貼土坑や土坑の用途が不明であるため、Ⅲ類の建物が集落内でどのような役割を果たしていたかの判断は難しい。

<Ⅳ類>：Ⅰ～Ⅲ類に属さないもの（第23～25・37号建物跡）。

第25号建物跡は、円形の黒色土面の中央部に炉が構築され、その炉を中心に柱穴列が配されており、ちょうど黒色土を囲むような上屋が想定される。炉内からは金属製品、赤変硬化した焼土が確認されていることから、鍛冶関連の作業が行われていた可能性が高い建物である。また、第37号建物跡内からは、炉の他、砂質粘土で構築された円筒状の竈1基が検出されている。当遺跡内でこの形状の竈が確認されているのは本跡だけで、竈の内面がかなり赤変硬化しており、竈前の黒色土もかなり締まりがあることから、高温で長期間稼働していた可能性がある。しかし、竈の用途については出土遺物などからの判断が難しく、作業内容については不明である。両跡とも近接して位置していることから、この周辺は、製塩や建物以外の作業場が置かれた区域と考えられる。この第25・37号の周辺の遺構外からは「永楽通口」の枝銭が出土しているが、鑄造に関する遺物は出土していない。また、第23・24号建物跡は黒色土面をもたず、柱穴列だけが確認されたことから、倉庫跡と推測した。Ⅲ類と同じように別の建物跡に付随するものと推測されるが、両跡はこれらの作業区域の中で、道具や物資を保管する倉庫なのではないかと考えられる。

このように建物跡はいくつかに分類され、遺構配置などからおおよそ4～5軒がひとつの区画内に存在し、それぞれの役割を果たしていたものと推測される。具体的には第1～5号、第6～10号建物跡などが一つのまとまりと考えられ、生活した建物、作業場、倉庫などの役割を果たしていたものと想定される。Ⅰ類は当遺跡内で北部に位置し、製塩を管理していた人物が居住していた建物、Ⅱ類は建物跡の大部分を占め、4～5軒で同一の集落を構成し、調査区の中央部から南部にかけて、製塩に従事していた人々が居住していた建物の可能性が高い。

### (3) 整地面

整地面は33か所確認されている。当遺跡が砂丘上にあるため、黒色土を構築しなければ生活する上でも困難が生じると考え、これらの面を整地面とし、いくつかの性格付けを試みた。これらは、出土遺物や確認状況などから、a～c類に類型化することができる。

<a類>：黒色土面に数基の土坑が構築され、柱穴列が検出されないもの（第3・8・18・19・27・28・29号整地面）。

柱穴列が確認されないため上屋の想定が難しい。出土遺物がわずかで、黒色土面から土坑は確認されるが用途不明であるため、主たる生活の場ではなく、建物跡に付随する屋外施設の一部と考えられる。

<b類>：以前に構築された遺構を埋め戻して整地されたもの（第10号整地面）。

第10号整地面は第3号製塩跡の上層から確認されており、釜屋内を埋め戻すために整地された面であるといえる。整地後の使用目的は不明である。

<c類>：整地された黒色土面は不定形で、日常雑器類が確認されないもの（第5・11・24号整地面）。

不定形の黒色土面は建物跡間などで確認され、日常雑器類が確認されないことから、建物と建物などを行き来するために整地された面と推測した。特に、第5号整地面は建物跡のD類に隣接して位置していることから、本跡から作業区画への行き来した道であった可能性が高い。

この他に、内部施設の残存状態や出土遺物などから、以前構築された建物跡などの残存である可能性が高く、前述した建物跡と判断できず、整地面として報告したものもある。これらは第14・16・32・33号整

地面が該当すると考えられる。特に第14号整地面からは天目茶碗などが、第16号整地面からは炉跡や柱穴は確認できないが、整地された面から約40枚の古銭がまとまって出土している。これらは、建物跡などの黒色土面を除去した下層から検出されている。当地は砂地のため、新たに遺構を構築する際、上層に黒色土面を構築することから、旧遺構面は下層に残存している。

#### (4) 土壌墓

当遺跡の土壌墓は、大半が掘り込みの有無を確認できないものであった。このような状態であっても、人骨に伴ってわずかながら副葬品が出土していることや頭位を北方に向けた屈葬で確認されていることから、人骨は土坑に埋葬されたものととらえた。ここでは、これらの土壌墓について若干の考察を加えることにしたい。

人骨の確認された標高は、最も高い位置で約11m、最も低い位置で約3mである。各標高における出土人骨の出土状況を第630図に示した。これは、確認された人骨そのものの高さである。

埋葬されていた人骨は出土した標高から、8m以上と7m以下に大別できる。標高8m以上で確認された人骨は主に製塩区域の上層部付近で出土しており、釜屋の操業と前後して埋葬された可能性が高い。標高7m以下で多くの人骨が確認されたのは、製塩区域の北側で何層にもわたって建物跡や整地面が確認できた地区である。特に第8号製塩区域から第10号製塩区域の北西側では、標高3～6mで人骨が出土しており、土壌墓が集中していた。建物跡と整地面の確認面に標高差があるのと同様に、出土人骨にも標高差があることから、埋葬された時期には差があることが推測される。その根拠としては、

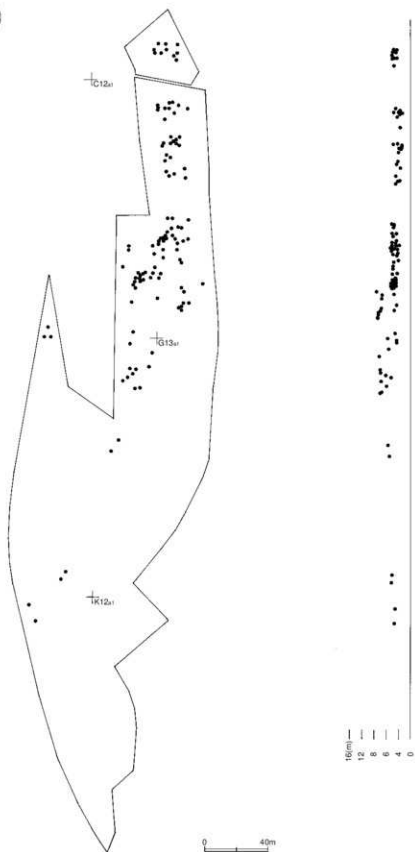
- ① 近接する土壌墓で出土人骨の標高差が1m以上ある例も見られ、墓穴の深さが一定でないことを考慮しても、短い期間に埋葬が行われたとは考えにくいこと。
- ② 層を形成するように建物跡や整地面の構築がなされていたところに、標高差をもって人骨が点在していたこと。

があげられる。さらに、建物跡や整地面、釜屋の下層から確認された土壌墓は、これらの構築面を掘り込んだ状況が確認されなかった。人骨は、この構築面の下層0.3～1.2mの範囲で確認されている。このことから、すでに存在していた土壌墓の上部に黒色土で床面及び整地面の構築がなされたと考えられる。当遺跡では、北部一帯が墓域として意識されていたと考えられる。しかし、土壌墓とそれ以外の遺構が重なるように確認されているのも事実で、墓域がそれぞれ単独で機能していたものではなく、生活の場あるいは作業場と墓が混在していたと考えるのが妥当であろう。

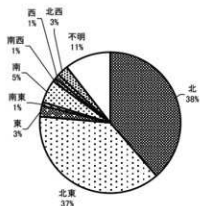
埋葬状況は、頭位、顔の向き、仰臥・側臥・俯臥、伸展葬・屈葬の項目で記述してきた。頭位は頭蓋骨が削平されてしまった場合でも、残存している四肢骨・体幹骨の状況から推測することが可能である。また、埋葬姿勢は、ある程度の四肢骨・体幹骨が残存していれば、体の向きや上肢と下肢の状況が推測可能である。しかし、新生児の場合や腐朽が進んでしまった骨については、頭位や埋葬姿勢を把握するのは困難であった(第631図)。

頭位は北方向が38%、北東方向が37%、北西方向が3%という数値を示し、北方を意識した状況が78%を占めている。南・東・西方向は合わせて11%で、不明も11%である。顔は西方向が22%、北西方向が11%、南西方向が1%という数値を示し、西側に顔を向けた状況が30%を超えている。前述以外の顔の向きに関しては10%で、表砂除去の際に頭蓋骨が損傷を受け確認できなかったものも多数存在し、54%を占めている。仰臥・側臥・俯臥については、仰臥14%、側臥48%、俯臥6%を占めている。側臥の中で80%

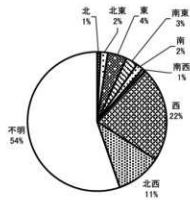




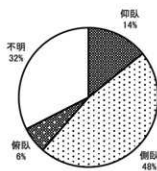
第630图 人骨出土位置图



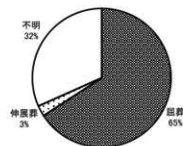
埋葬姿勢における頭の方向(人骨114体)



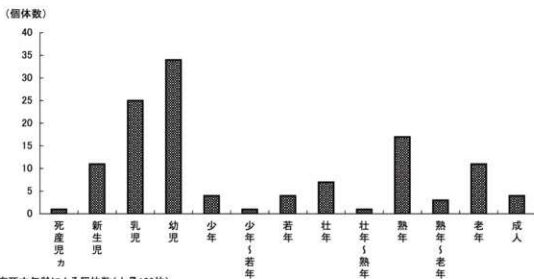
埋葬姿勢における顔の向き(人骨114体)



埋葬姿勢における体の状況①(人骨114体)



埋葬姿勢における体の状況②(人骨114体)



推定死亡年齢による個体数(人骨123体)

※ 埋葬姿勢については土壇墓109基と製塩跡出土人骨5体を合わせ114体とし、死亡年齢については埋葬姿勢の不明なものを含め123体とした。

### 第631図 埋葬姿勢・推定死亡年齢のグラフ

以上が右側臥である。また、埋葬状況の確認できなかった新生児や乳児を含め32%が不明である。伸展葬と屈葬については、確認できた姿形の65%が屈葬であり、伸展葬は3%であった。これらの数値から、埋葬状況が確認された人骨は、頭部を北側に向け、顔は西側を向けた屈葬が多いことが指摘できる。斎藤忠氏は『墳墓の考古学』の中で、文献と考古学から例を上げ、埋葬人骨の北首西顔について述べている。また、北首西顔については、これまでの調査例の中でも頻例が多いと指摘されている。当遺跡においても、北首西顔の事例が多く、そのことを追認できた。

表27 副葬品一覧表

番号	区	遺構番号	副葬品	点数	備 考	番号	区	遺構番号	副葬品	点数	備 考
1	2	SK6	古銭	6		85	4	SK389	古銭	1	
9	3	SK5	古銭	4		88	4	SK401	磁器	1	
10	3	SK7	古銭	1		93	4	SK449	貝	3	貝3枚が重なった状態
35	4	SK30	古銭	6		94	4	SK456	古銭	1	
39	4	SK39	古銭	4		98	4	SK465	古銭	4	
40	4	SK42	古銭	6		102	4	SK511	古銭	2	
44	4	SK51	古銭、蓆、貝	3	古銭1、蓆1、貝1	109	2	HK1	古銭	4	
80	4	SK379	土師質土器	1							

副葬品が確認された土壇墓15基のうち古銭が副葬された土壇墓は12基である。土師質土器や磁器を副葬品としているのは、それぞれ1基ずつである。また、貝を重ねて副えた例や古銭と鉄製品（ヤス）にウバガイを伏せた状態で副えた例もある。また、六道銭については、出土状況から見るかぎり6枚という数にはこだわっていなかったようである（表27）。

死亡推定年齢については、出土した123体の人骨を新生児・乳児・幼児・少年・若年・壮年・熟年・老年に区分し、グラフ化した（第631図）。新生児から若年にかけての年代は、当遺跡で出土した人骨の65%を占め、うち新生児から乳児までが30%、幼児が27%である。このことから子供の死亡が多く、中でも乳幼児が最も高い割合で死亡していたことが指摘できる。また、大人では、老年よりもむしろ熟年に該当する年代の死亡する割合がやや高かった。男女については、成人で性別の推定できた人骨が40体あり、24体が男性で、16体が女性である。

遺骸の特徴として挙げられることは、歯の様子、骨格と筋肉の様子の2点である。歯は子供から成人まで歯が目立ち、成人の歯の磨耗についても著しいものが数例みられた。歯が脱落し、歯槽骨が閉鎖している事例も多々あった。骨格の様子から概して言えることは、筋肉が発達していたと推測されることである。成人男性は骨が太く、大腿骨の後陵や三角筋粗面が隆起しており、筋肉が発達していたと推測される個体が多かった。成人女性においては、骨格が華奢であっても筋肉については男性と同様にしっかりしていたであろうと推測される個体が見られた。これらは、当時の生活や生業との関わりを物語っていると考えられる。本稿でふれてきたように、当時のこの村には、製塩に携わる人々を中心に多種多様な業種の人々の存在が考えられる。遺構北部の砂層から出土した鯨の骨やその骨の加工品、骨角未製品などは、それらの裏付けと考えるとよいのではないだろうか。

### (5) 貝集積地

貝集積地は、建物跡の床面や整地面、あるいはその周辺で確認されている。貝集積地を構成している貝には食の可能な貝が多数含まれており、タニシやマツカサガイなどの淡水性の貝やシジミ属は副食として利用されていたと考えられる。それ以外の海洋性の貝についても可食貝は多く含まれており、食の可能性は否定できない。こうした食材としての利用以外に、貝殻の素材を活用するというも行われていた形跡が見うけられる。ここでは、貝の細片に着目し、その点についてふれてみたい。

貝集積地からは、多板綱及び複足綱、二枚貝綱に属する貝が出土し、貝の原形をとどめているものが少なくない。これらに加えて、破断面が摩耗して、滑らかで丸みを帯び明らかに海岸で採取してきたような貝の細片も多量に出土している。また、貝殻を故意に砕いたような細片も含まれている。ウバガイの細片は28か所、イタボガキ属の細片は19か所の貝集積地でそれぞれ確認されている。これらを重量比で見ると、左右の殻全体が残存しているものよりも細片が上回り、ほとんどの貝集積地でこの傾向がみられる。貝集積地の貝は主成分がカルシウムであることから、まとまった量であると長い年月でもタニシやシジミ属のように殻が薄くても原形を保っている例が多い。その点、ウバガイのように厚くて硬い殻を持つ貝が原形をとどめていないことが多いことには、不自然さが残る。

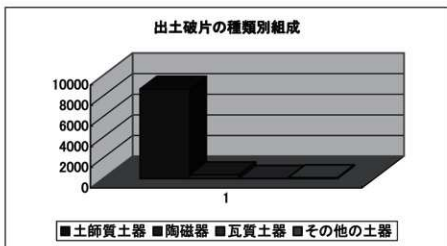
次に、ウバガイやイタボガキ属のように、個体が大きく重量のあるものが細片として多いことに注目したい。今回の出土遺物の中で、貝殻の成分と考えられる石灰質の物質が付着した石がある。この石は貝殻や貝殻片を砕く用途に使用されたとも考えられる。また、4点の石灰質の塊にも注目したい。この塊には、貝集積地で確認されたような貝の細片が含まれており、意図的に蓄えられたものと言える。この塊の表面には産と思われる模様が残っており、貝殻を砕いて粉状にし、入れ物(籠)に蓄えて置いたと考えられる。この塊については、小野正敏氏から「漆喰」であるとの指摘をいただくとともに、自然科学分析においても、漆喰である可能性が高いという報告を受けている。さらに、これまで述べてきた遺構を構築する黒色土の中には貝殻片が混ざられており、建物跡の床面や整地面を構築する原材料として活用されていることが分かっている。貝を原材料とする場合、厚い貝の方が量を確保するのに有利である。貝集積地で確認された貝は、食用としての利用と同時に、細片に加工し漆喰など二次産品として活用されていたことが推測される。

## 3 遺物について

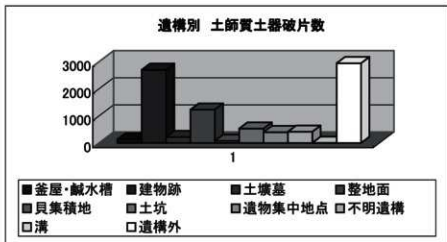
### (1) 土器・陶磁器

当遺跡から出土した土器類の総破片数9,132点のうち、土師質土器8,663点、瓦質土器21点、陶磁器類366点、土師器や須恵器などが82点である(第632図)。土師質土器片8,663点の遺構内訳は建物跡から2,699点、整地面から1,232点、その他の遺構及び遺構外から4,732点である(第633図)。

土師質土器片の出土傾向をみると、小皿・皿・内耳鍋の占める割合が高い。皿類は、胎土の観察から雲母を含んでいるものも多く、在地産が多いと言える。底部の中央部が穿孔されているものもあり、用途を考える上で課題であった。しかし、第12号釜屋内の柱穴周辺から出土した土師質土器の皿には底部の穿孔部に金属製品(釘か)が付着した状態であったことから、柱などに取り付けて、灯明皿を受けた皿として使用されたものと判断した。このことは、釜屋内での灯りを必要とした作業が行われたことを裏付ける貴重な資料と言える。底部穿孔された皿がすべてこの用途であったとは言いがたいが、焼成後穿孔されていることから、皿であったものを二次的に転用していたことは確かである。また、内耳鍋は破片での出土

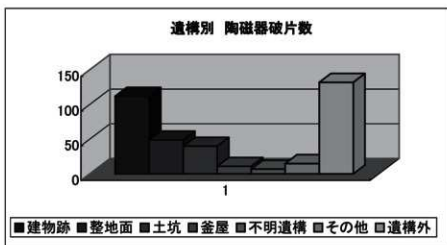


第632図 出土破片の種類別組成

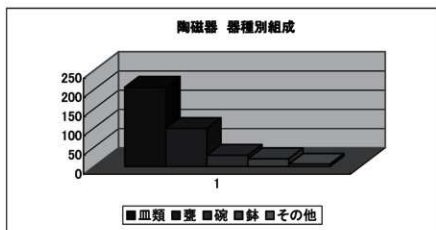


第633図 遺構別土師質土器破片数

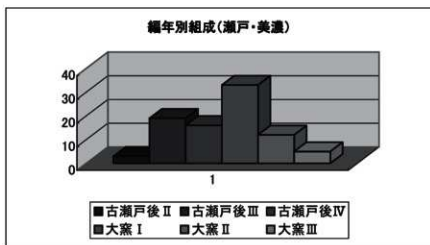
が多く、完形になるものがなかった。かつて、調査が行われた沢田遺跡では、人骨と古銭が内耳鍋片と一緒に見つっている例がある。佐藤次男氏によれば、人骨周辺から出土している内耳鍋片と古銭は埋葬によるもので、死者に土器をかぶせるのは民俗事例でも報告されているという<sup>1)</sup>。当遺跡では、実際にかぶせられた状態での出土はないが、109基ほどの土墳墓のうち、内耳鍋が出土しているのは7基である。陶磁器片は出土総破片数の366点うち、建物跡から112点、整地面から49点、土坑から40点、その他の遺構及び遺構外から165点である(第634図)。釜屋や土墳墓からの出土割合は低いが、第88号土墳墓から出土した八角小坏(白磁)のような例もある。遺骸の特徴から、子どもの埋葬品と判断した。陶磁器片の器種別は、皿206点(大皿を含む)、碗29点、鉢20点、甕99点、その他6点で、皿類の出土数が多いことが特徴である(第635図)。最下層の遺構確認面より下層から出土した大皿7枚は、直縁・折縁・卸目付の3器種に分けられ、藤澤良祐氏の編年<sup>2)</sup>に従えば古瀬戸後期Ⅲ～Ⅳ期に属する製品であった。逆位で7枚が重なった状態であったが、ひものようなものが巻かれていた痕跡は確認されなかった。なお、卸目部については摩耗が見られないことから、未使用の状態である。保管されたものか、何らかの理由でそのまま埋もれて



第634図 遺構別陶磁器破片数



第635図 陶器の器種別組成



第636図 編年別組成(瀬戸・美濃)

しまったのではないかと考えられる。

また、7枚とは別に、第14号建物跡から出土した卸目付大皿の破片は軸が焼けただれており、その残存状況から火災に遭ったと見られるものである。7枚とはほぼ同時期であるこの破片の残存状況や、建物跡周辺の焼砂層の検出などから、第14号建物跡は火災により廃絶したものと推測した。

また、皿類のうち出土数が顕著なものとして、緑釉小皿が挙げられる。緑釉小皿は本来窯の中の製品と製品の間に置かれる一種の窯道具のひとつであるが、当地においては商品として流通している。藤澤良祐氏の編年に従えば古瀬戸後期Ⅲ期～大窯Ⅰ期までのものが多く、今回の出土陶磁器片を時期別に分けたものと一致する（第636図）。また、輸入陶磁器においても、皿・碗類が中心で、龍泉窯の椀花皿や青磁碗など15世紀中～後期とされるものが多く、国内の陶器類の出土傾向と時期がほぼ一致する。

この他に、17世紀初頭に比定される第6号集石から出土した志野焼丸皿がある。これは大窯Ⅲ期の製品と推測され、上記の時期よりやや遅れるが、これは集落の移動に伴うその一部が今回の調査区域内の一端に存在するということであろう。

## (2) 火打石

火打石は総数で52点が出土している（表28）。内訳は建物跡から40点、その他の遺構及び遺構外から12点である。建物跡では第19号建物跡が9個と多く、第15号建物跡が6個、第17号建物跡から5個、第31・37号建物跡から4個、第21・32号建物跡から各3個出土している。黒色土面やが内から出土しており、石の稜に着目すると、使用によってできた擦痕が確認できる。ほとんどが建物内で使用されたものが、そのまま遺棄されたと考えられる。石質は珉瑯が多く、わずかであるが石英も確認できた。確認された火打石の石質のほとんどが珉瑯であることは、珉瑯の産地が茨城県北部に存在することから、入手が比較的容易で

表28 村松白根遺跡出土火打石集成一覧表

番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	特徴	出土遺構	出土位置	備考
1	3.7	3.8	1.3	23.2	珉瑯	摩滅の集中箇所有り	S11	炉1内	I259
2	3.9	2.9	1.4	19.9	珉瑯	摩滅の集中箇所有り	S16	覆土中	I260
3	4.2	3.0	2.0	29.1	珉瑯	摩滅の集中箇所有り	S110	2次面中	518
4	4.9	3.8	4.3	76.8	石英	摩滅の集中箇所有り	S110	2次面	519
5	3.4	2.8	1.6	15.0	珉瑯	一部の稜が摩滅	S115	西部砂層	I262
6	3.3	3.1	1.7	21.7	珉瑯	一部の稜が摩滅	S115	西部黒色土面下	I263
7	4.7	4.3	3.3	76.5	珉瑯	一部の稜が摩滅	S115	中央部黒色土面下	I264
8	4.7	3.9	3.3	86.6	珉瑯	摩滅の集中箇所有り	S115	中央部黒色土面下	I265
9	5.0	3.9	2.7	75.1	石英	一部の稜が摩滅	S115	覆土中	I266
10	4.7	3.3	2.2	45.7	珉瑯	摩滅の集中箇所有り	S115	西部黒色土中	I267
11	4.5	4.1	1.5	31.6	石英	摩滅の集中箇所有り	S117	西部3次面	I271
12	3.5	3.3	3.3	39.3	石英	摩滅の集中箇所有り	S117	西部4次面覆土中	I273
13	4.2	4.0	2.5	52.6	珉瑯	摩滅の集中箇所有り	S117	覆土中	I274
14	4.9	4.9	2.6	77.5	珉瑯	一部の稜が摩滅	S117	南東部3次覆土中	I275
15	7.2	3.0	2.6	46.6	珉瑯	摩滅の集中箇所有り	S117	覆土中	I276
16	4.2	2.2	1.7	24.2	珉瑯	摩滅の集中箇所有り	S119	覆土中	I277
17	4.1	3.3	1.8	28.8	珉瑯	摩滅の集中箇所有り	S119	覆土中	I278
18	3.9	3.7	2.9	35.4	珉瑯	摩滅の集中箇所有り	S119	覆土中	I279

番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	特徴	出土遺構	出土位置	備考
19	4.5	2.7	2.5	36.5	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI19	覆土中	1280
20	5.0	4.0	1.7	46.7	石英	摩滅の集中箇所有り	SI19	覆土中	1281
21	6.0	3.9	3.2	74.6	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI19	北部 1 次黒色土面	1282
22	5.8	4.5	4.0	112.8	石英	一部の稜が摩滅	SI19	中央部 2 次黒色土下	1283
23	4.4	4.5	2.8	77.8	石英	一部の稜が摩滅	SI19	覆土中	1284
24	6.1	4.4	3.3	96.1	石英	一部の稜が摩滅	SI19	覆土中	1285
25	4.1	3.0	2.4	27.2	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI21	2 次黒色土下	1288
26	4.2	4.2	1.9	32.2	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI21	2 次黒色土中	1289
27	5.4	3.5	2.8	51.5	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI21	黒色土面	1290
28	3.7	4.0	1.6	27.4	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI31	覆土中	1455
29	3.5	3.4	2.0	28.3	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI31	覆土中	1456
30	3.9	3.1	2.2	35.9	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI31	覆土中	1457
31	6.5	4.4	3.2	97.9	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI31	覆土中	1458
32	3.9	3.7	2.8	45.7	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI32	2 次面中	1512
33	4.0	3.0	2.1	41.9	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI32	炉 4 内	1513
34	4.5	3.7	3.4	78.5	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI32	2 次面中	1514
35	4.0	2.8	1.1	18.3	瑪瑙	一部の稜が摩滅	SI35	SK309内	1257
36	4.8	2.9	2.4	52.0	瑪瑙	一部の稜が摩滅	SI35	SK309内	1258
37	4.0	3.2	1.0	18.4	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI37	西部 2 次面中	1772
38	3.6	3.0	2.0	26.5	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI37	中央 1 次面中	1773
39	4.6	2.7	1.6	23.6	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI37	西部 1 次面中	1774
40	7.6	3.7	3.1	72.4	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	SI37	黒色土面	1775
41	4.6	2.7	1.5	24.6	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	HK32	覆土中	1268
42	4.7	4.3	2.7	55.5	瑪瑙	一部の稜が摩滅	HK32	覆土中	1269
43	6.0	4.3	2.5	65.4	石英	一部の稜が摩滅	HK32	覆土中	1270
44	5.8	3.3	1.0	20.2	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り		SK48内	1624
45	4.7	3.1	3.7	58.9	石英	一部の稜が摩滅		SK69内	1683
46	4.7	3.9	2.6	53.4	石英	摩滅の集中箇所有り		3K表掘	2413
47	4.7	3.9	2.9	51.0	石英	一部の稜が摩滅		C13区	2414
48	5.3	4.0	5.6	80.7	石英	一部の稜が摩滅		C13区	2415
49	5.9	3.3	3.3	90.2	石英	摩滅の集中箇所有り		C13区	2416
50	6.1	6.0	3.3	127.7	石英	一部の稜が摩滅		C13区	2417
51	7.1	6.6	3.5	138.4	石英	一部の稜が摩滅		C13区	2418
52	7.9	4.3	4.3	139.0	石英	一部の稜が摩滅		E14区	2419

あったことが考えられる。また、瑪瑙原石も多く出土している。小林克氏の研究成果(1994)をもとに、出土した火打石の稜の残存状況から、①全ての稜が摩滅しているもの、②稜が摩滅している部分とない部分があるもの、③ごくわずかな部分に摩滅があるもの、の3類に分けられる<sup>3)</sup>。出土した火打石の稜の残存状況はほとんど①・②であることから、使用されていた状態のままの大きさか、やや大きい状態で廃棄されたものと推測できる。①の中では厚さ1cmと小さいものもあり、この程度の大きさまでなら充分使用に耐えたのであろう。

### (3) 火打金

火打金は総数で24点出土している(表29)。内訳は建物跡から19点、その他の遺構及び遺構外から5点で



ある。建物跡では第19号建物跡が9点と多く、先に述べた火打石の出土割合と同じである。その他、建物跡数軒から1ないし2点出土しているが、釜屋内からの出土は確認されていない。火打石と同様、火打金は建物跡の黒色土面や黒色土中、が跡内から出土しており、建物内で使用されたものが、そのまま遺棄されたと考えられる。

高嶋幸雄氏は『火の道具』の中で、火打金は山型（笠型）、カスガイ型、短冊型、台形鉄板型の4種類に分類している<sup>31</sup>。本稿で取り上げた24点の火打金は、ほとんどが山型（笠型）に含まれている。さらに、鶴見貞雄氏は、火打具を取り上げた論考の中で、山型（笠型）を形態差から以下のA～Hの8種類に細分している<sup>32</sup>。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| A 「上」形タイプ     | E 三角形タイプ      |
| B 「山」字タイプ     | F 三角形端部合わせタイプ |
| C 「山」字端部渦巻タイプ | G 三角形端部渦巻タイプ  |
| D 笠タイプ        | H 「凸」字端部渦巻タイプ |

以上の類型に当てはめると、D類が18点（推定も含めて）、A類が6点である。また、鶴見氏は火打金の編年から、A類は9世紀初頭から中世にかけて存在する形態であり、D・E類は中世後半にかけて存在する形態であることを指摘している。出土した火打金のほとんどはA・D類に含まれており、鶴見氏の編年と一致している。

表29 村松白根遺跡出土火打金集成一覧表

番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	類型	特徴	出土遺構	出土位置	備考
1	3.9	7.6	0.4	31.1	1D	孔有り	SI1	炉1内	156
2	3.9	(7.5)	0.3	(22.0)	1D	片側端部欠損、孔有り	SI8	北部黒色土面下	486
3	3.0	9.0	0.7	37.9	1D	孔有り、頂部から打撃部は厚み	SI8	炉4・B内	487
4	(7.6)	2.0	0.3	(33.4)	1A	片側端部欠損、X線撮影により孔確認	SI15	南西部砂層	638
5	8.8	(2.7)	0.3	(33.0)	1D	頂部欠損、X線撮影により孔確認	SI15	中央部黒色土面下	639
6	(8.2)	(2.3)	0.3	(28.7)	1D	頂部欠損	SI16	覆土中	689
7	7.0	(2.0)	0.2	(28.3)	1D	頂部欠損、孔有り	SI17	北東部1次黒色土下	723
8	9.0	(2.3)	0.4	(27.6)	1A	頂部欠損	SI19	中央部2次黒色土中	920
9	7.6	3.1	0.6	(26.1)	1D	孔有り、頂部から打撃部は厚み	SI19	中央部2次黒色土下	921
10	(6.7)	3.7	0.5	(23.2)	1D	孔有り、両端部欠損	SI19	北部2次黒色土下	922
11	(6.7)	3.0	0.4	(18.6)	1D	頂部欠損	SI19	北西部2次覆土中	923
12	8.4	(2.6)	0.4	(37.0)	1A	頂部欠損	SI19	北部2次黒色土下	924
13	8.9	(3.4)	0.3	(34.2)	1A	頂部欠損、孔有り	SI19	北部2次黒色土下	925
14	(7.5)	(3.9)	0.3	(46.2)	1D	片側端部欠損、孔有り	SI19	南西部2次黒色土下	926
15	6.7	3.6	0.2	20.0	1A	孔有り、山型	SI19	南西部2次黒色土下	927
16	8.8	4.0	0.2	58.0	1D	孔有り、断面長方形	SI19	北部2次黒色土下	928
17	(5.3)	2.9	0.3	(20.7)	1D	両端部欠損、X線撮影により孔確認	SE21	2次黒色土中	1080
18	8.6	3.6	0.6	53.4	1D	片側端部欠損	SE31	中央部1次面中	1462
19	(7.2)	(3.0)	0.4	(18.9)	1D	頂部両端部欠損	SE32	2次面中	1526
20	7.5	3.1	0.4	31.6	1D	孔有り、頂端部欠損		SK154内	1635
21	8.1	(3.4)	0.3	(22.5)	1A	山型、頂部欠損、孔有り		C13区	2472
22	7.1	3.7	0.3	39.3	1D	孔有り、断面長方形		C13区	2473
23	7.1	3.3	0.4	37.1	1D	孔有り、頂部から打撃部は厚み		111区	2474
24	6.1	3.9	0.4	48.1	1D	孔有り、断面の厚みは一定		3区表層	2475

第19号建物跡は火打石の出土数が多いことから、居宅以外での作業（火打金の制作など）が行われていたか、火打金の集中管理が当建物で行われていたかなど推測される。

#### (4) 枝銭

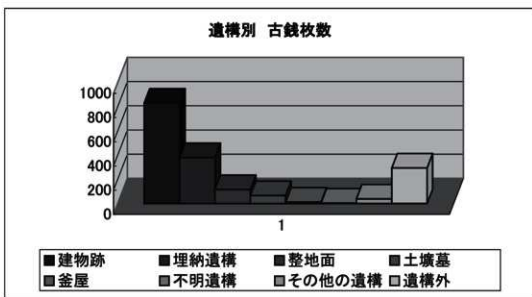
「永樂通□」が1枚付いた状態の枝銭が、建物跡のⅣ類に属する第25・37号建物跡が位置する区域内から出土している。現存長は6.4cmで、「永樂通□」の銭部1枚が軀を介して湯道（鑄棟）に直角に付いた状態である。湯道（鑄棟）には「永樂通□」1枚が残った塚1か所を含め4か所の塚があり、3枚は湯道（鑄棟）から外されたことが確認できる。「永樂通寶」（永・通の文字部分は銭部の湯回りが悪かったためか鑄不足状態）の銭部は塚際で銭文が外側になるように180度折り曲げられており、これが湯道（鑄棟）からははずすための行為の結果なのかどうかは不明である。この10年ほどの間に、京都・鎌倉・博多・堺といった中世都市では、発掘調査によって「銭鑄型」が出土している。「銭鑄型」の出土は、これらの中世都市において確実に銭貨の鑄造が行われていたことを示す資料である。今回、枝銭が出土した周辺を精査したが、鑄造に関する「銭鑄型」や「坩堝」などの遺物は確認されなかった。今回の調査区域は当時の集落の規模を考えるとごく一部分であり、他に鑄造を行った場所が存在する可能性はあるものの、現段階では不明と言わざるを得ない。

枝銭については、国立歴史民俗博物館の齋藤努・小瀬戸恵美氏にお願いし、成分分析と鉛同位体比測定を行うことができた（付章参照）。成分分析では銅・スズ・鉛の成分はほぼ均一であるという結果が出たが、ヒ素が他の銭に比べるとやや多く含まれている状態である。ヒ素の含有率は、銭の悪銭さを判断するひとつの材料になると言われている。また、鉛同位体比測定では、中国の華中～華南産の鉛が原料として使用されている可能性が高いという結果が出た。このことから、枝銭は中国からの渡来銭を一度溶かして当地か別の場所で鑄銭されたものと推測した。枝銭の「永樂通□」は、本銭の永樂通寶と比べるとあまりにも貧弱である。

当遺跡で、この枝銭の他に「目貫」、「切羽」、「斧」などの銅製品や不明銅製品が多数出土している。斧を除いては単体で出土しているものが多く、枝銭を含めこれらの用途について検討する必要がある。そのひとつに、「銅細工師」の存在が考えられる。鎌倉の由比ヶ浜へと広がる長谷小路北側の発掘では、井戸の中から多量の鉛滓とともに銭の鑄型の破片が見つかった<sup>91</sup>。出土した銭は、すぐに鏝銭と見破られてしまうような粗悪品であり、材料によっては利益どころか赤字になりかねないため、銅破片を集めて、鑄造の際の原料の一部にしたのではないかと考えられている。つまり、鎌倉では「銅細工師」が鑄造に必要な銅の原料を集めるために、銅破片もかき集めてきたとも考えられる。「銅細工師」がどのような細工までおこなっていたかは不明であるが、当遺跡で出土している銅製品が鑄造や細工のための原料として持ち込まれた可能性も否定できない。

#### (5) 古銭

当遺跡からは総数1,748枚の古銭が出土している。出土した遺構と枚数の内訳は、建物跡831枚、釜屋13枚、土壇壘67枚、埋納遺構381枚、整地面117枚、不明遺構5枚、その他の遺構39枚、遺構外295枚である（第637図）。出土古銭の総数に占める割合を銭種別にみると、「永樂通寶」11.2%、「皇宋通寶」11%、「開元通寶」8.3%、「熙寧元寶」7.6%、「洪武通寶」7.1%と続いている（表30）。これらのうち、埋納遺構から出土した381枚を除いては、建物跡内からの出土が約半数を占めている。また、無文銭は11枚確認されて



第637図 遺構別古銭枚数

おり、文字が不鮮明で判読の難しい古銭のほとんどは模倣銭と考えられる。

381枚の古銭が一括して出土した埋納遺構は4区の北部に位置し、4纏が砂面に垂直に埋められた状態で確認されたものである。容器については、その痕跡すら確認できなかった。1纏は崩れた状態であるが、他の3纏は各約96～97枚からなっており、纏は銭の表裏に規則性がない無作為な状態であった。381枚の古銭の備蓄に係わったと考えられる人物とかかわりのある施設を推測すると、南に位置する第19号建物跡の可能性が極めて高い。第19号建物跡は規模や出土遺物の量などから、集落での中心的な存在である。

このように、地下に大量の銭貨が埋められることについては、財産を備蓄したとする説や、土地の開発に先だって土地神に対する祭祀として埋納したとする説などが出されている。しかし、周辺に祭祀的要素を含む遺構や遺物が確認されないことから、前者の可能性を考えておきたい。そのため、備蓄しておいた纏銭が何らかの理由で埋もれたままになったのではないかと考えられる。

表30 銭種別出土枚数

銭名	枚数	比率	銭名	枚数	比率	銭名	枚数	比率
永樂通寶	196	11.21	紹聖元寶	37	2.12	至和元寶	15	0.86
皇宋通寶	193	11.04	景德元寶	32	1.89	祥符通寶	14	0.80
開元通寶	145	8.30	聖宋元寶	31	1.83	元符通寶	14	0.80
熙寧元寶	133	7.61	嘉祐元寶	27	1.54	太平通寶	11	0.63
洪武通寶	125	7.15	至道元寶	25	1.43	大觀通寶	11	0.63
元豐通寶	116	6.64	天禧通寶	24	1.37	淳化元寶	9	0.51
元祐通寶	106	6.06	嘉祐通寶	23	1.32	朝鄜通寶	8	0.46
天聖元寶	66	3.78	咸平元寶	20	1.14	治平通寶	6	0.34
政和通寶	55	3.15	治平元寶	19	1.09	宋通元寶	5	0.29
祥符元寶	39	2.23	景祐元寶	17	0.97	宣德通寶	5	0.29

銭名	枚数	比率	銭名	枚数	比率	銭名	枚数	比率
明道元寶	4	0.23	嘉泰通寶	2	0.11	開禧通寶	1	0.06
宣和通寶	4	0.23	紹熙元寶	2	0.11	大宋元寶	1	0.06
正隆元寶	4	0.23	開元通寶 <sup>カ</sup>	1	0.06	皇宋元寶	1	0.06
嘉定通寶	4	0.23	乳元重寶	1	0.06	景定元寶	1	0.06
至和通寶	3	0.17	熙寧重寶	1	0.06	大中通寶	1	0.06
淳熙元寶	3	0.17	元祐通寶 <sup>カ</sup>	1	0.06	無文銭	11	0.63
紹定通寶	3	0.17	紹聖通寶	1	0.06	判讀不能	162	9.24
至大通寶	3	0.17	元符通寶 <sup>カ</sup>	1	0.06	合計	1748	100
熙寧元寶 <sup>カ</sup>	2	0.11	紹興元寶	1	0.06			

建物跡から出土した古銭は、前述したように一括して出土するのではなく、黒色土中や黒色土を除去した砂層から一枚単位で出土している。同じように出土しているのは、第2・6・17・19・32号建物跡で、第17号建物跡は総数が154枚と最も多い。ほぼ同時期での京都・奈良での大工の日当がおよそ100文であったということ考えると、約1.5日分になるが、居住空間に100枚以上のお金落ちていたのは不自然である。今回確認された古銭の総枚数は1748枚で、当時の流通枚数を考えると、見つかった枚数はごく一部であろう。古銭を建物内に落としてしまった場合も考えられるが、建物跡内での出土分布を見てみると、炉や建物内の土坑周辺に集中していることが特徴として挙げられる。土坑の用途については不明な点も多いが、火を使用する炉周辺での出土枚数が多いことを考えると、建物構築や炉に対して何らかの意図が働き、黒色土を貼る際に、銭を蒔いた可能性が高いと考えられる。

#### 4 終わりに

当初、遺跡の時期を15世紀中から17世紀初めと設定し、その中で、製塩跡と建物跡や整地面がどのように変遷していくのかを考えてみた。しかし、出土遺物などを検討した結果、15世紀中葉から後葉の遺物が多く、16世紀代の遺物が少ないことが判明した。このことから、当集落は15世紀後半で途絶えてしまい、短い期間しか集落が存在しなかった可能性が高いことが明らかになった。製塩跡は出土遺物が少ないため、単独で時期を決定することは難しい。焼砂や灰が操業面や建物跡周辺から検出されていることから、火災などに遭い廃絶したと推測されるその状況から、両跡の関連を探ることができるのではないかと考えた。そこでともに火災を受けて廃絶されたと推測される第1・2・8・12・13・19号釜屋跡と第14・19号建物跡の関連を探ることにした。釜屋は鹹水を蒸詰めるため火を使用し灰が排出されるが、前述したように、貴重な畑の肥料になることを考えると、焼砂や灰が操業面一帯には確認されないはずである。建物跡については、焼砂層と多量の遺物が出土していることを考えると火災と想定した方が自然である。特に、第14・19号建物跡は多量の出土遺物の他、陶磁器類などの軸の残存状況から火を受けた痕跡が明確で、火災により廃絶したと判断した。第14号建物跡は、出土した陶磁器類から時期が15世紀後半に比定され、両跡とも製塩の管理者が居住していた可能性が高い中心的な建物跡と想定した。焼失と判断した第1・2号釜屋を含む製塩跡は当地での最終段階のものであり、両跡の時期が15世紀後半ではないかと考えられる。つまり、第1・2号製塩跡と第14・19号建物跡はほぼ同時期に存在していた可能性が高いということを指摘しておきたい。

次に、これらが廃絶する原因となった火災について考えてみたい。

村松虚空藏堂の寺伝によると、文明17年（1485年）に磐城常陸が兵を率いて、佐竹氏と村松で対戦したと

いう記録が残っている。そのときの戦いで村松虚空藏堂が兵火にかかり、伽藍がすべて灰燼に帰したとされている。この戦いがどのようなものであったか定かではないが、村松虚空藏堂とわずかな距離に位置する当地もこの戦乱に巻きこまれ、当時存在したと考えられる釜屋（第1・2号）や建物（第14・19号）が焼失した可能性は高い。つまり、当地では15世紀後半には製塩が大規模に行われ、その管理者や製塩に関わった人々が生活していた建物跡が存在していたが、村松での佐竹氏と磐城氏の戦いの影響で、製塩や集落が途絶えてしまった可能性は高いであろう。その後、この集落は別の場所へ移動していったようである。わずかながら、調査区域境などから16・17世紀代の遺物が出土しているが、移動した集落の一端が、今回の調査区域内に存在したということを示している。

17世紀初頭とされる志野焼丸皿が調査区の南西部の集石遺構から出土していることから、集落は南西方向へ移動している可能性を指摘しておきたい。集落の移動については、平成16年度の調査成果を期待したい。

釜屋や建物などを構築するための黒色土についても取り上げておく。当地は砂丘であるため、黒色土の供給は不可能である。遺構構築の黒色土と周辺の土壌を分析した結果、当遺跡より内陸部に位置する那珂台地の黒色土が運びこまれた可能性が高いことが判明した。黒色土中からは須恵器片や埴輪片も出土していることから、古墳などの盛土が運び込まれたものと推測することもできる。西約1 kmに位置している核燃料サイクル機構の敷地内からは人形埴輪が出土しており、この村松海岸周辺に古墳が存在することは知られていた。村松海岸からさほど距離を隔てずに、黒色土は存在したのである。しかし、これだけ多量の黒色土を運び込むことは大変な仕事量であったはずである。このために、多大な労力を行使できる際には、塩浜と製塩に伴う労働者を管理していた有力者の存在がうかがえる。その有力者としては、この地方を支配していた佐竹氏が最も有力である。

佐竹氏と製塩の関わりを示す唯一の史料としては、1492年の「岡本家文書」があり、その中の「当乱相違地注文写」には佐竹氏の塩浜を真崎氏が横領したことが記されていることから、15世紀後半には佐竹氏が管理していた可能性は高い。

佐竹氏の秋田移封後、当地方の塩浜と労働者を管理していたと考えられるのは、西に位置する村松大神宮である。網野善彦氏は塩生産者の存在形態を三類型に分けており<sup>1)</sup>、その一つは平民百姓による製塩であるという。これは塩浜が百姓名に結合している形態で、瀬戸内海周辺の荘園や公領に見られ、とれた塩は年貢として負担するものである。この形態は、全国的に見ても量的・質的にも大きな比重を占めている。二つには、海辺の領主や平民百姓の首長などが下人や所従を駆使して製塩を行う場合があるとし、西北九州の青方氏の製塩などを挙げている。

三つには、職人による製塩を行う場合として、伊勢神宮や春日大社などの中央の大神で見られる例を挙げている。これらは、神事に必要な塩を確保するために塩浜をもち、中には製塩を職掌とする神人・職掌人によって分担させ、塩を生産させた場合である。伊勢神宮はその典型で、多くの塩浜をもち、御塩焼人といわれた「職人」による製塩が行われたとされている。この場合、神社に年貢される塩は公事ということになる。村松大神宮と村松海岸の製塩との関係を示す史料は、村松虚空藏堂に所蔵されている「村松虚空藏堂文書」（1623年）で、その中には毎年大風で集落が砂に埋もれて迷惑しているの、大神宮領内に住まわせて欲しいと願ひ出たことが記されている。徳川光圀が大神宮の神殿を造営し、伊勢より御分霊を奉遷し「大神宮」としたのは1696年であることを考えると、大神宮が勢力を発し、塩浜を管理したとするならば、佐竹氏の秋田移封後ということになる。

しかし、村松における製塩が誰のもて行われたかについて、現状では文献などからは明らかになってお

らず、今後の重要な課題である。

註)

- 1) 佐藤次男「伝説千々乱風」『茨城県史研究』32号 茨城県史編纂委員会 1975年8月
- 2) 藤澤良祐「中世瀬戸窯の動態」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～』財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター設立5周年記念シンポジウム資料集 1997年11月
- 3) 小林 克「江戸の火打石―出土資料の分析から―」『史業』50号 日本大学史学会 1994年1月
- 4) 高嶋幸雄『火の道具』柏書房 1985年
- 5) 鶴見貞雄「火打具を考える―遺跡出土の火打金・火打石を取り上げて―」『茨城県考古学協会誌』第11号 茨城県考古学協会誌 1999年5月
- 6) 今小路西遺跡発掘調査団『今小路西遺跡―由比ヶ浜一丁目213番3地点―』1993年7月
- 7) 網野善彦「平安時代末期～鎌倉時代における塩の生産」『日本塩業大系』日本専売公社編

参考文献

- ・廣山亮道『塩の日本史』(第二版) 雄山閣 1997年7月
- ・東海村史編さん委員会『村の歴史と群像』1992年3月
- ・河野真知郎『中世都市鎌倉』講談社選書メチエ 1995年5月
- ・上高津貝塚ふるさと歴史の広場「埋蔵銭の物語」『第2回特別展図録 出土銭から見た中世の世界』1997年2月
- ・鈴木公雄『銭の考古学』吉川弘文館 2002年5月
- ・永井久美男『中世出土銭の分類図版』高志書院 2002年4月
- ・葛飾区郷土と天文の博物館「埋められた渡来銭」『平成12年度特別展図録 中世の出土銭を探る』2000年10月
- ・宮内良隆 西本豊弘「中妻貝塚発掘調査報告書」取手市教育委員会 1995年7月
- ・西本豊弘 鶴見貞雄「高崎貝塚第57号土壇出土の魚骨・獣骨の問題点」『研究ノート』第4号茨城県教育財団
- ・榎原悠紀田郎ほか『看護学生のための歯科学』医歯薬出版株式会社 1987年1月
- ・日野原重明『解剖学・生理学』株式会社医学書院 1985年9月
- ・馬場一雄『系統看護各講座 21 小児看護学』株式会社医学書院 1987年1月6日
- ・斉藤 忠『斉藤忠著作選集』第4巻 墳墓の考古学 雄山閣出版株式会社
- ・藤井 明「四肢骨の長さとし長との関係に就いて」『順天堂大学体育学部紀要』第3号
- ・桃崎祐輔「中世常陸における葬送の風景―中世墓の諸相と通史的叙述への試論―」『茨城県考古学協会誌』第7号 茨城県考古学協会 2003年5月
- ・SIMON HILLSON『MAMMAL BONES AND TEETH』1992年
- ・渡部忠重 小菅貞男『貝』保育社 1996年
- ・江坂輝彌『化石の知識 貝塚の貝』考古学シリーズ9 東京美術 1983年
- ・鈴木素行「平磯のムラサキインコ」『茨城県考古学協会誌』第16号 茨城県考古学協会 2004年5月

## 付 章

村松白根遺跡の動物遺体（2003年度）	国立歴史民俗博物館	西本 豊弘 ……………	567
村松白根遺跡出土枝銭・銅銭の化学分析	国立歴史民俗博物館	齋藤 努 ……………	576
村松白根遺跡出土遺物の自然科学分析	バリノ・サーヴェイ株式会社	……………	579

## はじめに

村松白根遺跡の2003年度の調査では人骨とともに動物遺体も出土した。貝殻を除く動物遺体はイヌとウマが主体であり、その他にサメ類・スズキ・ニワトリ・アホウドリ・ネコ・ネズミ類などが出土した。イヌとウマ以外の出土量は少ないので、それらについては2004年度の報告書でまとめて述べることにする。イヌとウマについても2004年度報告でこの遺跡全体のそれらの特徴を述べる予定であり、ここでは2003年度出土のイヌとウマについてのみ簡単に説明する。なお、これらの資料の分類・整理では太田敦子・黒須珠子・波形早季子の協力を得たことに感謝します。

## 1 イヌ

1個体の骨がほぼ揃っており埋葬されていたと思われるもの5個体と散乱状態で出土したものの9個体分の少なくとも14個体分が出土した。埋葬個体は、雄成獣2個体と雌？成獣2個体と生後3ヶ月程度の幼獣1個体であった。その他の個体を頭蓋骨と下顎骨で年齢推定すると成獣が大部分であった。その中には歯が摩耗し歯周症を示す例が多く、壮年から老年の個体が多い。雄雌の比率は分らない。それらの推定体高は42cmから48cmで、全体としては小型犬であり大小のバラエティーが小さい。頭蓋骨を見ると、吻部が細く額段（ストップ）が少し見られ、前額部が広く頬部の張り出しが比較的后方であるタイプが多い。現在の関東柴犬や江戸時代の町屋の犬は頬部が丸く膨らんでいる犬が多いが、弥生犬に近いタイプと思われる。埋葬犬の四肢骨を見ると比較的短く太くたくましい。おそらく在来犬のひとつのタイプであろう。

なお、散乱状態で発掘された頭蓋骨では、たとえば写真に示したように後頭部に撲殺されたと思われる穴と頭頂部に解体痕を持つ犬もある。この犬は吻部が幅広くたくましい印象を与えるが、おそらく食用とされたのであろう。

## 2 ウマ

埋葬された状態で出土したものの7個体と散乱状態で出土したものの3個体の計10個体以上が出土した。埋葬されたと思われるものでも、解体されて皮や肉が利用されたかもしれない。犬歯の有無で雌雄を判断すると、雄8体・雌1本・雌雄不明胎児1体であった。歯の摩耗の程度から推測すると、胎児以外は5歳以上の成獣であり、18～19歳の老獣も見られた。歯が細く頭部が大きいモウコウマ系のウマである。ウマの体高92cmの個体は、頭蓋骨の最大長からの推定ではあるが、中世馬ではもっとも小さいグループに属する。中世末期から江戸初期の地方村落では、このような小型馬も労役に役立っていたのであろう。

## おわりに

この遺跡では、イヌとウマが主体であり、ネコとニワトリも少量出土した。しかし、ウシが全く出土していない。また、貝殻を除けば魚骨も少量であり、動物遺体全体の種類も少ない。この遺跡は、人骨が多量に出土していることから、塩作りを行う定住的村落であったと推測される。砂丘に形成された村落であるため植物質のゴミが消滅したとしても、動物質のゴミが少ない村と言える。この特徴は、塩作りを主体とする集落の性格や、その存続期間の短さと関係しているのかもしれない。



表1 埋葬犬の出土

調査区	遺構番号	区、層位	イヌNo.	部位		LR	数値	年齢	最大長	推定 体高	備考	同一個体出土部位
				頭蓋骨								
2	SH-1	鹹水槽上面	埋葬犬1	頭蓋骨			1	老犬	155.0	42	歯周症	頸椎、軸椎、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨、腓骨、寛骨、頰椎、胸椎、腰椎、胸骨、尾椎、恥骨、肋骨、胸骨、手根・足根骨、指骨、陰茎骨
				下顎骨	LR	各1	R:116.6		42	歯周症		
3	第6号土壌		埋葬犬2	頭蓋骨				成犬			歯周症	頸椎、軸椎、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨、腓骨、寛骨、頰椎、胸椎、腰椎、胸骨、肋骨、指骨、手根・足根骨
				下顎骨	LR	各1				歯周症		
4	SI-19		埋葬犬3	頭蓋骨				幼犬 (3ヶ月?)	—	—		肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨、腓骨、寛骨、頰椎、胸椎、腰椎、胸骨、肋骨、指骨、手根・足根骨
				下顎骨	LR	各1						
	SN-168内		埋葬犬4	頭蓋骨			1	成犬	158.7	44	歯周症	頸椎、軸椎、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨、腓骨、寛骨、頰椎、胸椎、腰椎、胸骨、肋骨、指骨、手根・足根骨、陰茎骨
				下顎骨	LR	各1	L:120.0		43	歯周症		
	F13c5		埋葬犬5	頭蓋骨			1	成犬			歯周症	歯周部に歯石沈着

表2 イヌの遺構別出土

調査区	遺構番号	区、層位	No.	部位		LR	数値	年齢	最大長	推定 体高	備考	
				頭蓋骨								
2	SK46			頭蓋骨			1	老犬	170.0	47	矢状縁に解体痕	
	SK46			下顎骨	LR	各1			R:132.3	47	歯周症	
		H11.6	2	下顎骨	R	1		老犬			骨体下部に解体痕あり	
		H11.6	2	上腕骨	R	1						
				頭蓋骨			1	老犬	180.7	48	歯周症	
				頰椎			1					
3		第二次確認面東端		頭蓋骨			1	成犬	172.8	46	歯周症	
				下顎骨	L	1		老犬	129.7±	46		
			9	下顎骨	R	1		成犬	129.5	46	歯周症	
							1		—	—		
4	SI-32		99	上腕骨			1		—	—		
	SI-32		99	大腿骨			1		172.6	48		
	SI-32		99	下顎骨	R	1		成犬	118.3	43	歯周症	
	SI-15		5	頭蓋骨			1	成犬	—	—	右上顎切歯歯肉(1残存か)あり	
	SI-15		5	下顎骨	LR	各1		成犬	133.9	47	左右第1・2切歯は残存乳歯の可能性。歯周症	
	SI-15		5	頰椎			1					
	SI-15		5	軸椎			1					
	SI-15		5	胸椎			2					
				1	頭蓋骨			1	老犬	—	—	磨耗が著しい
				2	頭蓋骨				成犬			
				2	大腿骨	L						
				3	頭蓋骨	LR	1		老犬	—	—	歯周症
				17	頭蓋骨			1	成犬	—	—	
				4	下顎骨	R	1		成犬	121	44	
					頰椎			1				
				15	軸椎			1				
				15	橈骨	L	1			142.2	45	加齢による変形
				15	大腿骨	L	1					遠位端欠損
				15	大腿骨	L	1					小転子部に病変 近位部に噛み痕あり
			15	脛骨	R	1						
			15	寛骨	LR	各1					中央部で癒合し、また仙骨が癒合している	
			15	頰椎			1					
			15	胸椎			5					
			15	仙骨			1				寛骨と癒合	
			15	肋骨			9					
				下顎骨	R	1		幼犬	—	—		
	C13h4		1	頭蓋骨			1	成犬	—	—	右E3、Cは生前に破折か	
	F12bo x		1	頭蓋骨	L	1		成犬	—	—		
	CB区			頭蓋骨			1	老犬			歯周症	
	F12区		8	上腕骨	L	1			—	—		

調査区	遺構番号	区、層位	No.	部位	LR	数値	年齢	最大長	推定 体高	備 考
4		E13区		上脛骨	L	1				
		E13区 X	14	腰椎		1				
		E13～F13区	11	下顎骨	R	1	老犬	125.7	45	歯周症
		E13～F13区		下顎骨	L	1	成犬			
		E13～F13区		遊離歯		2				
		E13～F13区	12	大腿骨		1		162.8	47	
		E13～F13区		下顎骨	LR	各1	幼犬	—	—	
		E13_g1区		腰椎		1				
		E13_g1区		軸椎		1				
		E13_g1区		頸椎		2				
				7	頭蓋骨	1	成犬	—	—	中型 摩滅ほとんどなし
				6	頭蓋骨	1	成犬	—	—	
					手根骨	1				
6		N8区		頭蓋骨	1	成犬	—	—	左右13・右は生前に破折か	
9				頭蓋骨	1	老犬	—	—	歯周症	
7	?	X①		下顎骨	L	1	成犬	132.9	47	
	?	X②		頭蓋骨		1	老犬			歯周症
	?	X②		下顎骨	LR	各1	幼犬	—	—	
	?	X②		上脛骨	R	2		144.7	43	
	?	X②		上脛骨	R			141.1	43	
	?	X②	13	頭蓋骨		1	老犬	—	—	歯周症
	?	X②	13	遊離歯2	R	1				

表3 ウマの遺構別出土

調査区	区・層位・遺構番号	部位	LR	骨列・残存部位		性別	年 齢	推定体高	備 考
				L	R				
2	第1号土壌	頭蓋骨	LR	I123CP234M123	I123CP234M123	♂	5～6歳	120±	1個体分 四肢骨・体幹骨あり
		下顎歯	LR	I123CP234M123	I123CP234M123				
3	第二次確認面	頭蓋骨	LR	(I123C)P234M123	(I123C)P234M123	♂	8～9歳	128	1個体分 肢骨・体幹骨あり
		下顎骨	LR	(I123CP234M123)	(I123CP234M123)				
4	第3号土壌	頭蓋骨	LR	I12CP234M123	P4M123	♂	18～19歳	124	1個体分 四肢骨・体幹骨あり
		下顎骨	LR	(P4M123)	(P4M123)				
4	第2号土壌	頭蓋骨	LR	I123CP234M123	I123CP234M1	♂	17～18歳	134	1個体分 四肢骨・体幹骨あり
		下顎歯	LR	I123C(Px4M123)	I123CM3				
4	第4号土壌	頭蓋骨	LR	I123P234M123	I23CP234M123	♂	6～7歳	115	1個体分 四肢骨・体幹骨あり
		下顎歯	LR	P234M123	CP234M123				
4	第5号土壌	頭蓋骨	LR	(I123C)P234M123	(I123C)P234Mx23	♂	7～8歳	121	1個体分 四肢骨・体幹骨あり
		下顎骨	LR	(I123CP234M123)	(I123CP234M123)				
4	SI-20 C-13	頭蓋骨	LR	dm123	dm1				1個体分 四肢骨・体幹骨あり
		下顎骨	LR	dm1	dm1				
6北		頭蓋骨	LR	P234M12	P234(M12)		15～16歳		小型 四肢骨・体幹骨なし
9		頭蓋骨	LR	I123CP23(4M123)	I123CP234M123	♂	5～6歳	92(最大長) 112(基底最大長)	小型 四肢骨・体幹骨なし
2B		頭蓋骨	LR	I3C (P234Mx23)	(CP234M12x)	♂	17～18歳		小型 四肢骨・体幹骨なし
3		下顎骨	LR	(xxx x P234M123)	(I123C)			114	小型 四肢骨・体幹骨なし
4	F13c4	下顎骨	R		(Px34M123)		7～8歳		四肢骨・体幹骨なし
4	E13g1	下顎骨	R		(P234M123)		12～13歳		小型 四肢骨・体幹骨なし
4	SN-22	下顎骨	R		P234M123		9～10歳		小型 四肢骨・体幹骨なし
?	?	下顎骨	L	P234M12			8～9歳		四肢骨・体幹骨なし
?	?	下顎骨	L	(P234M12)			壮年		四肢骨・体幹骨なし
2B		軸椎					成獣		
2	HK-1の下	脛骨	L	骨幹～遠位端			成獣		骨幹に噛み痕
3	第2次トレンチ	機骨	LR	完存			成獣	128	
3	第2次トレンチ	中手骨	LR	完存			成獣	128	
3	第2次トレンチ	基節骨	LR	完存			成獣		
3	第2次トレンチ	上脛骨	LR	骨幹部のみ			成獣		

調査区	区・層位・遺構番号	部 位	L/R	歯列・残存部位		性別	年 齢	推定体高	備 考
				L	R				
4	SI-32	距骨	L				成獣		
4	SI-32	脛骨	R	完存			成獣	135	骨幹に噛み痕
4	SI-16表採	脛骨	R	完存			成獣	131	
4	SI-16	中足骨	L/R	完存			成獣	122	R: 遠位部に噛み痕
4	SK-62	脛骨	L	完存			成獣	113	
4	SK-62	距骨	L				成獣		遠位部に噛み痕
4	C-13c5	末節骨		完存			成獣		
4	C-13b4	橈骨	R	近位端～遠位端			成獣	110±	
4	C-13区配石	距骨	L	完存			成獣		
4	E135	大腸骨	L	完存			成獣	120	
4	E13～F13区	上腕骨	R	骨幹～遠位端			成獣		
4	E13～F13区	脛骨	R	骨幹～遠位端			成獣		
4	E13～F13区	頸椎					成獣		
4	F12	橈骨	L	完存			成獣	126	
4	F12	橈尺骨	L	完存			成獣	114	
4	F12	脛骨	R	骨幹			成獣		
4	G12c7	橈骨	L	完存			成獣	124	
4	遺物集中地点	脛骨	L	近位端～骨幹部			成獣		
4		脛骨	R	完存			成獣	130	
4		中足骨	R	近位端～骨幹部			成獣		
4		踵骨	R	骨幹～遠位端			成獣		同一
4		距骨	R	完存			成獣		
4		末節骨		完存			成獣		
6	MDSPF	橈骨	L	近位端～骨幹部			成獣		
6	N-9	橈尺骨	R	完存			成獣	124	
6	N-9	中手骨	R	完存			成獣	119	骨増殖あり
6	N-9	大腸骨	L	近位端～遠位端			成獣	117	
6	N-9	脛骨	R	完存			成獣	121	
6	N-9	中足骨	R	完存			成獣	117	
6	N-9	基節骨		完存			成獣		
6	N-9	中節骨		完存			成獣		
6	N-9	仙骨		第1仙椎			成獣		
6	SB-6	中手骨	L	完存			成獣	118	
6北		上腕骨	R	完存			成獣	127	
9		中手骨	L	完存			成獣	131	

\* 9層出土のものを除く1個体分出土馬骨の推定体高は四肢骨から算定した。



図1 ヒトの頭蓋骨  
 1. 第23号土壌墓出土の頭蓋骨 2. 第11号土壌墓出土の頭蓋骨  
 a. 前面 b. 上面 c. 口蓋面



図2 ヒトの下顎骨  
 1. 第23号土壌墓出土の下顎骨      2. 第11号土壌墓出土の下顎骨  
 a. 前面    b. 上面    c. 側面



図1 埋葬犬1の頭蓋骨  
上段. 左側面 下段. 上面



図2 解体痕（矢印）のあるイヌの頭蓋骨



図3 埋葬犬1の骨格



図4 ウマの頭蓋骨  
上段. 上面 中段. 左側面 下段. 口蓋面



## 1. はじめに

茨城県・村松白根遺跡から出土した枝銭1点と銅銭（永樂通寶）5点について、成分分析と鉛同位体比測定を行った。

## 2. 分析方法

### 2.1. 成分分析

資料表面の錆層を除いて金属部分を露出させ、電子線プローブマイクロアナライザー（EPMA, 日本電子JXA-8200）を用いて、エネルギー分散型X線検出器で成分分析を行った（齋藤ら, 2002）。枝銭は三ヶ所（図1）、銅銭は緑部一ヶ所について分析した。それぞれ、一ヶ所につき場所を変えて5点を測定し、平均値を求めた。

### 2.2. 鉛同位体比分析

資料表面から錆を採取し分析用試料とした。試料から、高周波加熱分離法で鉛を単離して硝酸溶液とし、鉛200ng相当量の試料溶液を分取して、リン酸・シリカゲルとともにレニウム・シングル・フィラメント上に塗布した。表面電離型質量分析装置（Finnigan MAT 262）を用いて、フィラメント温度1200℃で鉛同位体比を測定した。

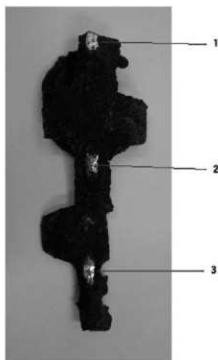


図1 EPMAによる枝銭の成分分析箇所

## 3. 分析結果

### 3.1. 成分分析

表1に成分分析結果を示した。

表1 村松白根遺跡出土枝銭および銅銭の成分分析結果（%）

資料名	資料番号	分析箇所	銅	スズ	鉛	ヒ素
枝銭		1	84.1	4.4	10.5	1.0
		2	85.0	4.7	9.1	1.2
		3	84.2	4.4	10.5	0.9
永樂通寶	M2505		75.9	9.0	14.7	0.4
永樂通寶	M2529		67.8	8.8	23.0	0.4
永樂通寶	M2538		69.0	10.8	19.9	0.3
永樂通寶	M2616		94.9	0.7	3.6	0.8
永樂通寶	M2751		71.8	10.1	17.7	0.4

枝銭の三ヶ所の分析結果はほぼ同じで、資料が比較的均一であることを示している。これまでの報告（馬淵ら, 1978；馬淵ら, 1979）によれば、永樂通寶に鉄、亜鉛、アンチモンなどがわずか（1%以下）に含まれている場合もあるが、ここで測定した資料について、本分析法の感度では検出できなかった。

### 3. 2. 鉛同位体比

表2に分析結果を示した。

表2 村松白根遺跡出土枝銭および銅銭の鉛同位体比測定結果

資料名	資料番号	分析番号	$^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{209}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{209}\text{Pb}$	$^{206}\text{Pb}/^{207}\text{Pb}$
枝銭		B6601	0.8531	2.1115	18.363	15.666	38.774
永樂通寶	M2505	B6602	0.8560	2.1170	18.307	15.670	38.758
永樂通寶	M2529	B6603	0.8559	2.1180	18.332	15.691	38.827
永樂通寶	M2538	B6604	0.8545	2.1138	18.343	15.675	38.774
永樂通寶	M2616	B6605	0.8466	2.0921	18.441	15.612	38.941
永樂通寶	M2751	B6606	0.8562	2.1195	18.324	15.689	38.836

### 4. 考察

これまでに報告されている永樂通寶の数値は、成分分析結果で鉛16～22%、スズ7～11%、ヒ素0.4～0.7% (馬淵ら, 1978; 馬淵ら, 1979) であり、また精度として十分と思われる鉛同位体比分析結果は表3の通り (馬淵ら, 1982) である。これらと比較すると、永樂通寶のM2505, M2529, M2538, M2751は、成分および鉛同位体比が比較的近似し、これまでの報告値とも整合しているとみてよいであろう。

表3 永樂通寶の鉛同位体比測定結果

資料番号	$^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{209}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{209}\text{Pb}$	$^{206}\text{Pb}/^{207}\text{Pb}$
C-21	0.8554	2.1142	18.288	15.644	38.664

図2には、表2と表3の結果を $^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ 比と $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ 比の関係(A式図)で表示した。図中にJで示したのは、日本で産出する方鉛鉱の大部分が含まれる範囲(馬淵・平尾, 1987)である。

上記の資料やこれまでの報告値と比較すると、枝銭はスズ濃度が低く、鉛とヒ素の濃度が高い。また、鉛同位体比の数値も少し離れているようである。永樂通寶のM2616はスズ、鉛濃度がきわめて低く、鉛同位体比は全く異なる数値を示し、日本産鉛の範囲に入る。枝銭を含め他の資料は、いずれも中国の華中～華南産の鉛が原料として使用されていると考えられる。

### 参考文献

- 齋藤 努, 高橋照彦, 西川裕一 (2002), 「古代銭貨に関する理化学的研究—「皇朝十二銭」の鉛同位体比および金属組成分析」, IMES Discussion Paper No.2002-J-30 (日本銀行金融研究所).
- 馬淵久夫, 山口誠治, 菅野 等, 中井敏夫 (1978), 「原子吸光法による東洋の古銭の化学分析」, 『古文化財の化学』22, 20.
- 馬淵久夫, 野津憲治, 西松重義, 不破敬一郎, 井山弘幸, 富永 健 (1979), 「古代貨幣の化学組成」, 『日本化学会誌』1979 (5), 586.
- 馬淵久夫, 平尾良光, 佐藤晴治, 緑川典子, 井垣謙三 (1982), 「古代東アジア銭貨の鉛同位体比」, 『考古学と自然科学』15, 23.
- 馬淵久夫, 平尾良光 (1987), 「東アジア鉛鉱石の鉛同位体比—青銅器との関連を中心に—」, 『考古学雑誌』73 (2), 71.

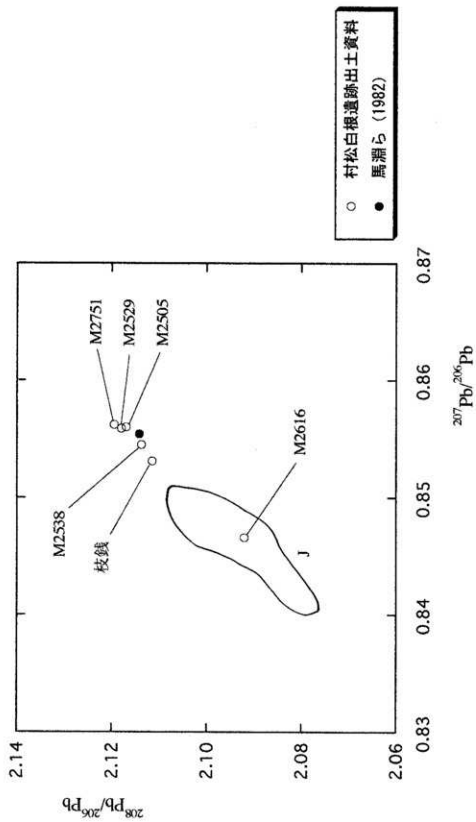


図2 村松白根遺跡出土資料などの鉛同位体比

## 村松白根遺跡出土遺物の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

村松白根遺跡（茨城県那珂郡東海村大字村松白根に所在）は、太平洋岸に近い砂地に位置し、これまでの調査により、海水をためる「かん水槽」が325基、濃くした海水を煮詰める「釜屋」が21基出土し、室町-江戸時代の製塩施設として知られている。この他、住居跡や畑とみられる畝状遺構、全国でも出土例がない砂岩製の石鍋なども確認されている。これらの検出された遺構の内、第19号釜屋跡では、径約40cm×高さ約15cm、重さ約8kgの円筒状で、貝片や植物遺体を含む白色の不明遺物が検出された。同様の遺物は、調査区内から計4点が出土し、そのうち3点は釜屋跡から、1点は遺構外から出土している。また、釜屋では、上屋根の可能性のある炭化材や灰状の白色堆積物が認められた。今回の自然科学分析調査では、第19号釜屋跡で検出された不明遺物について、材質・製法等に関する情報を得るために、X線回折、薄片作成、貝同定、灰像分析を行う。また、釜屋で認められた炭化材について樹種同定を、灰状物質について灰像分析を行う。

### I. SH-19出土不明遺物の材質

#### 1. 試料

試料は、第19号釜屋跡の竈から南東部の黒色土より出土した径約40cm×高さ約15cm、重さ約8kgの円筒状の白色物質である。表面には、繊維状の物質が貼り付いたような痕跡が広く認められる。貝同定に用いた試料は、肉眼によって貝殻が残存する破片を用いる。

#### 2. 分析方法

##### (1) 薄片作製観察

ダイヤモンドカッターにより試料を22×30×15mm大の直方体に切断して薄片用のチップとする。そのチップをスライドガラスに貼り付け、#180～#800の研磨剤を用いて研磨機上で厚さ0.1mm以下まで研磨する。さらに、メノウ板上で#2500の研磨剤を用いて正確に0.03mmの厚さに調整する。スライドガラス上で薄くなった薄片の上にカバーガラスを貼り付け完成とする。薄片は、偏光顕微鏡を用いて観察を行う。

##### (2) X線回折分析

遺物表面の一部を採取し、メノウ乳鉢で微粉砕した後、アルミニウムホルダーに充填し、X線回折分析試料を作成する。作成したX線回折測定試料について以下の条件で測定を実施する。

検出された物質の同定解析は、Materials Data, Inc.のX線回折パターン処理プログラムJADEを用い、該当する化合物または鉱物を検索する。

装置：理学電気製 MultiFlex	Divergency Slit: 1°
Target: Cu (K $\alpha$ )	Scattering Slit: 1°
Monochrometer: Graphite 湾曲	Receiving Slit: 0.3mm
Voltage: 40KV	Scanning Speed: 2°/min
Current: 40Ma	Scanning Mode: 連続法
Detector: SC	Sampling Range: 0.02°
Calculation Mode: cps	Scanning Range: 2~45°

### (3) 貝同定

試料を肉眼観察し、その形態的特徴から、種の同定を行う。同定および解析には金子浩昌先生の協力を得た。

### (4) 灰像分析

試料の表面に付着した繊維状物質には、組織の観察に障害となる有機物がほとんど含まれていなかったため、これを400倍の光学顕微鏡下で観察する。

## 3. 結果

### (1) 薄片作製観察

#### a) 鉱物片

石英：きわめて微量存在し、粒径最大0.33mmの他形で粒状を呈する。他の碎屑片を伴って径1～5 mm大で濃集する。

カリ長石：きわめて微量存在し、粒径最大0.24mmの他形で破片板状を呈し、弱いVサイト組織が発達する。

斜長石：きわめて微量存在し、粒径最大0.55mmの半自形～他形で柱状～破片板状を呈し、集片双晶が発達する。セリサイト化しているものはなく、新鮮である。

角閃石：きわめて微量存在し、粒径最大0.31mmの他形で板状を呈し、淡褐色～褐色の多色性を示す。

#### b) 岩片

ガラス質安山岩：きわめて微量存在し、粒径最大0.95mmの亜円礫状で斜長石の斑晶を含む。石基には斜長石、斜方輝石などの石基鉱物が晶出している。

チャート：きわめて微量存在し、粒径最大0.15mmの亜円礫状で微細粒状を呈する石英の集合体からなる。

#### c) 化石片

貝殻片：中量存在し、長径最大17mmで、厚さ最大1.0mmである。薄板状をなす貝殻片は、平行に折り重なって成層構造を形成している。結晶化が進んでおり、粒径0.02mm程度の方解石となっているものもある。

植物繊維：試料表面部に認められた繊維状物質の断面が観察される。断面形は、ほぼ円形を呈し、径約0.1mmのものと同約0.05mmのもの2種類の径が認められる。また、繊維の内部は方解石により置換されている。

#### d) 基質

アラゴナイト：少量存在し、粒径最大0.05mmで微細不定形状～土状を呈して基質を構成する。

方解石：多量存在し、粒径最大0.56mmの他形で不定形状を呈し、貝殻片を置換している。

#### e) 孔隙

少～中量存在し、孔径最大7 mmでレンズ状～不定形状を呈し、貝殻片の配列とほぼ平行に分布する。充填鉱物は認められない。

### (2) X線回折分析

不明遺物のX線回折図(図1)では、方解石(calcite)のほか、微量の霏石(aragonite)、石英(quartz)の存在が確認される。

### (3) 貝同定

検出された貝種の一覧を表1に示す。検出される貝類は、サルボウガイ、マガキ、ウバガイ?の3種類が確認される。

サルボウガイは、断片が見える程度である。マガキは、やや大きい殻片が数点みられる。かなり大形の殻の破片が多く混入されている可能性がある。ウバガイ？は、破片2点が確認される。小破片で、表面が劣化もしているので確認が困難であるが、厚い殻である点は大形になるこの貝の特徴を示す。

これらの種類は、サルボウガイが潮下帯上部から水深20mの砂泥底、マガキが平水性内湾の潮間帯から潮下帯の砂礫底ないし泥底、ウバガイが潮間帯下部～水深30mの砂底とされており(奥谷編著, 2000)、遺跡に近い海岸で多獲できる種類である。

#### (4) 灰像分析

表面に付着した繊維状物質には、植物繊維が見られるものの、特徴的な形態を有する植物珪酸体を含む珪化組織は認められない。

#### 4. 考察

薄片観察およびX線回折の結果から、白色を呈する物質の主体は、方解石および霽石のいわゆる炭酸カルシウムであるといえる。炭酸カルシウムからなる人工物でまずあげられるものとして、壁材として利用される漆喰がある。漆喰は、消石灰(水酸化カルシウム)に海草などから作った「のり」となる物質と「スサ」といわれる繊維を混合したものであるが、乾燥後の収縮を調整するために「貝灰」とよばれる貝殻の破片や砂を混ぜることもあるとされている。消石灰は、乾燥し、空気中の炭酸ガスを取り込んで炭酸カルシウムとなり硬化する。今回の不明遺物は、上記した漆喰の材料のうち、繊維や貝殻までも含まれていることから、漆喰である可能性が高いといえる。何らかの理由で、調査途中あるいは壁に塗る前の漆喰材が放置されたものであると考えられる。

なお、確認できた貝類は、サルボウガイ、マガキ、ウバガイ？であり、周辺海域での入手が用意であったことが推定される。また、単一種を用いたものでなく、様々な種類を用い、さらに厚い殻の種類を選択している可能性がある。また、スサは一般にワラや麻、紙などの繊維が利用されるといわれているが、今回の繊維では、植物珪酸体が認められなかったことからワラ以外の材料が使用されていると考えられる。

## II. 釜屋から検出された炭化物

### 1. 試料

試料は、第13号釜屋内から出土した炭化物1点である。

### 2. 分析方法

横断面および縦断面の剖断面を複製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

### 3. 結果

炭化物は、イネ科に同定された。解剖学的特徴等を記す。

表1 SH-16 出土不明遺物検出貝類一覧

軟体動物門	Phylum Mollusca
二枚貝綱	Class Bivalvia
翼形亜綱	Subclass Pteriomorpha
フネガイ目	Order Arcoida
フネガイ科	Family Arcidae
サルボウガイ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>
カキ目	Order Ostreida
カキ亜目	Suborder Ostreina
イタボガキ科	Family Ostreidae
マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>
異歯亜綱	Order Heterodonta
マルスグレガイ目	Order Veneroidea
バカガイ科	Family Mactridae
ウバガイ？	<i>Pseudocardium sachalinensis?</i>

#### ・イネ科 (Gramineae)

炭化物は、中空で薄い。横断面では、基本組織が大部分を占めており、外側部分で維管束が接線方向に配列する。維管束は、原生木部の小道管の左右に1対の大型の道管が配列し、その周囲を厚壁の繊維で構成された維管束鞘が囲んでいる。

以上の特徴から、イネ科の稈に同定される。イネ科には、稈が木質化し、大きくなる種類も含まれるタケ・ササ類、イネやムギ等の穀類、水湿地に生育するヨシ、草原に生育するススキなど多くの種類が含まれるが、稈の特徴から種類を同定することは困難である。

#### 4. 考察

SH-13から出土した炭化物は、出土状況および形状等から、上屋材の可能性が考えられている。炭化物はイネ科の稈に同定されたが、稈の特徴から種類を同定することは困難である。イネ科には民俗事例で茅葺の原料となるヨシやススキ等が含まれており、上屋材であるとの推定とも整合する。

### Ⅲ. 釜屋を構成する黒土中の白色堆積物

#### 1. 試料

試料は、釜屋内の黒色土中に挟在する白色堆積物である。堆積物は、層厚約1 cmの砂質シルトであり、部分的に層厚5 mm程度の黒色土を挟んで、上位と下位にそれぞれ厚さ5 mm程度の同様の白色堆積物の薄層も認められる。

#### 2. 分析方法

試料を泥化し、更に灰化するために過酸化水素水処理を行った。これを水洗し、400倍の光学顕微鏡下で観察した。観察では、イネ科葉部(葉身と葉鞘)に由来した植物珪酸体を包含する珪化組織片の有無を近藤・佐瀬(1986)による植物珪酸体の分類に基づいて調べる。

#### 3. 結果

分析結果を表2に示す。数多くのススキ属短細胞が見られ、ウシクサ族機動細胞列(ススキ属もウシクサ族に分類される)も多い。また、ネザサ節短細胞もわずかに見られる。

表2 黒色土中白色堆積物の灰像分析結果

種 類	量
ススキ属短細胞	+++
ウシクサ族機動細胞列	++
ネザサ節短細胞	+
+++ : 非常に多い, ++ : 多い	
+ : 検出, - : 非検出	

#### 4. 考察

白色堆積物はススキ属の植物体(特に葉部)の灰に由来する可能性が考えられる。白色堆積物の層界には赤色部などの被熱の痕跡は認められず、白色堆積物中に粘土分や砂分が混入していることから、別な場所で燃やされた灰が本地点で堆積したものと思われる。なお、これらとともにネザサ節短細胞もわずかに見られた。ただし、前回の本遺跡の黒色土の自然科学分析調査では、ネザサ節短細胞列が認められており、白色堆積物から検出されたネザサ節短細胞列は、黒色土に本来含まれていたものが混入した可能性が高いと考えられる。

## 引用文献

近藤錬三・佐瀬 隆, 1986, 植物珪酸体分析, その特性と応用, 第四紀研究, 25, 31-64.

奥谷喬司・窪寺恒己・黒住耐二・齋藤 寛・佐々木猛智・土田英治・土屋光太郎・長谷川和範・濱谷 敏・速水 格・堀 成夫・松隈明彦, 2000, 日本近海産貝類図鑑, 奥谷喬司編, 東海大学出版会, 1173p.



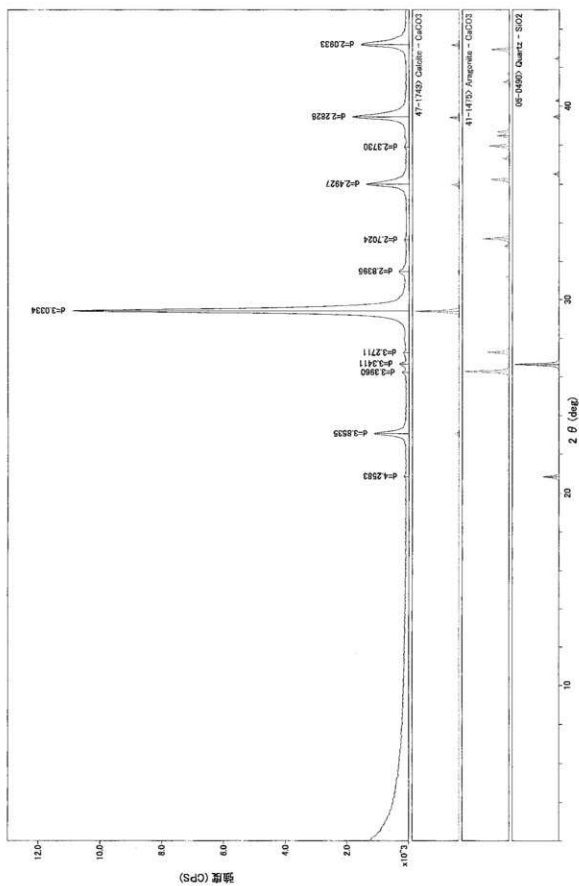
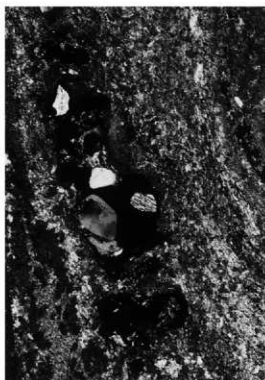
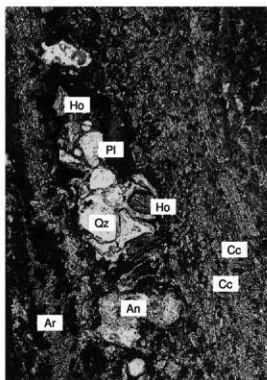
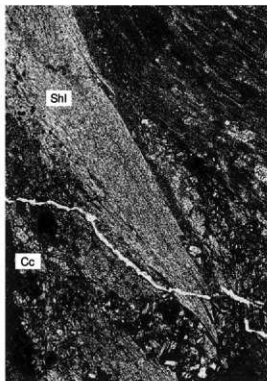


図 1 SH-16出土不明遺物の X 線回折図

図版1 薄片



1. SH-19内出土不明遺物 (1)

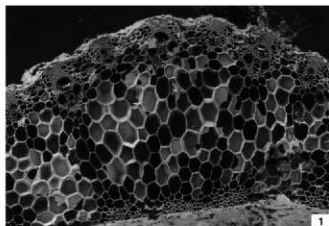


2. SH-19内出土不明遺物 (2)

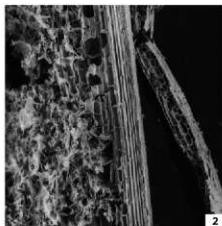
Qz:石英 Pl:斜長石 Ho:角閃石 Ar:アラゴナイト Cc:方解石  
An:安山岩 Shl:貝  
写真左列は下方ポラーラ, 写真右列は直交ポラーラ下。

0.5mm

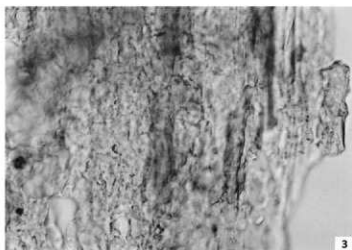
図版2 炭化物・植物珪酸体



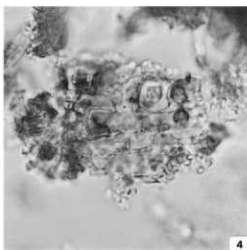
1



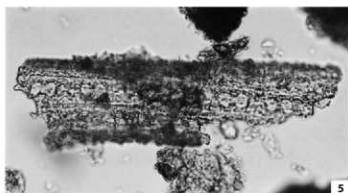
2



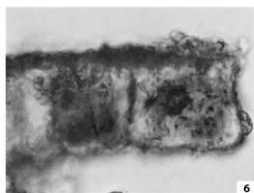
3



4



5



6

1. SH-13出土炭化物

3. 植物遺体（不明遺物の繊維状物質）

5. ススキ属短細胞列（黒色土中の白色堆積物）

2. SH-13出土炭化物

4. ネザサ節短細胞列（黒色土中の白色堆積物）

6. ウシクサ族機械細胞列（黒色土中の白色堆積物）

200  $\mu$ m

50  $\mu$ m

50  $\mu$ m

(1,2)

(3,4,6)

(5)

写 真 图 版



枝錢



第2号製塩跡完掘状況



ピット内炭化材出土状況



第30号鹹水槽完掘状況



第31号鹹水槽完掘状況



第50号鹹水槽完掘状況



第4号製塩跡確認状況



第56号鹹水槽完掘状況



第57号鹹水槽完掘状況



第61号鹹水槽完掘状況



第62号鹹水槽完掘状況



第5号製塩跡完掘状況



第21~25号鹹水槽完掘状況



第13号鹹水槽完掘状況



第18号鹹水槽完掘状況



第71号鹹水槽完掘状況

PL4



第6号製塩跡完掘状況



第12号鹹水槽完掘状況



第1~4号鹹水槽完掘状況

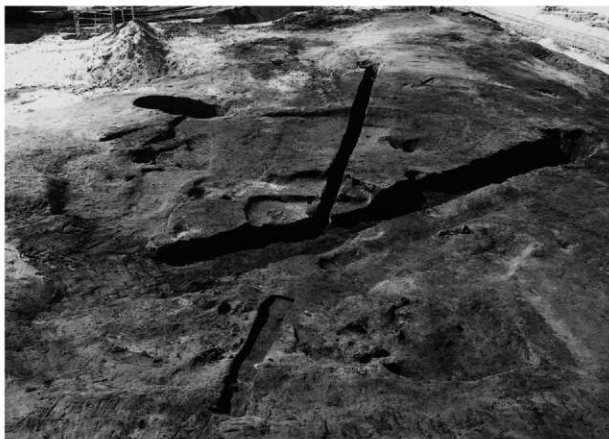


第7号鹹水槽完掘状況



第49号鹹水槽完掘状況





第13号製塩跡完掘状況



第99号鹹水槽完掘状況



第98~100号鹹水槽完掘状況



第104号鹹水槽完掘状況



宝篋印塔出土状況



第15号製塩跡完掘状況



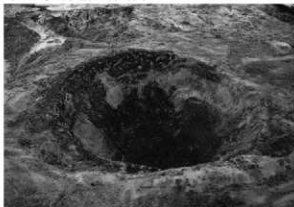
第183号鹹水槽完掘状況



第169号鹹水槽土層断面



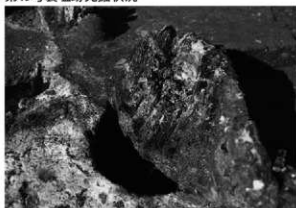
第182号鹹水槽完掘状況



第184号鹹水槽完掘状況



第19号製塩跡完掘状況



ピット内炭化材出土状況



釜屋内版築状況



第170号鹹水槽完掘状況



第116号鹹水槽土層断面



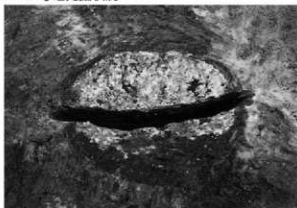
第21号製塩跡確認状況



A・B号竈完掘状況



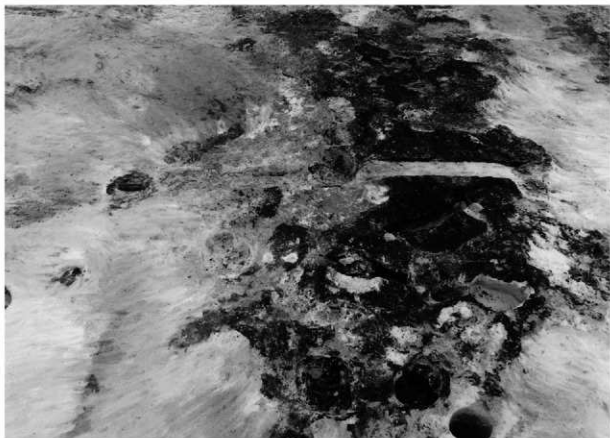
土層断面



第226号鹹水槽完掘状況



第227号鹹水槽完掘状況



第 2 号建物跡完掘状況



土層断面



第 1 号炉完掘状況



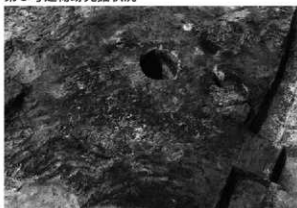
炉・土坑完掘状況



第 130 号土坑完掘状況



第3号建物跡完掘状況



ビット完掘状況



ビット土層断面



第1号炉・第100号土坑完掘状況



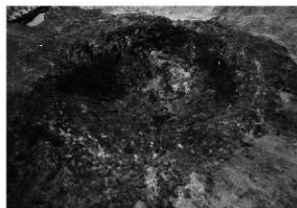
第2号炉完掘状況



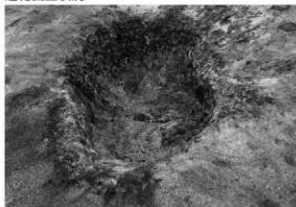
第10号建物跡完掘状況



遺物出土状況



第1号炉完掘状況



第218号土坑完掘状況



第221号土坑完掘状況



第14号建物跡完掘状況



土層断面



ビット・焼砂確認状況



遺物出土状況



硯出土状況

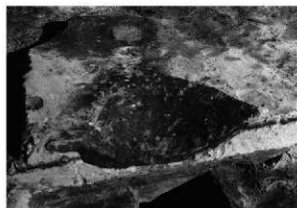




第19号建物跡完掘状況



遺物出土状況



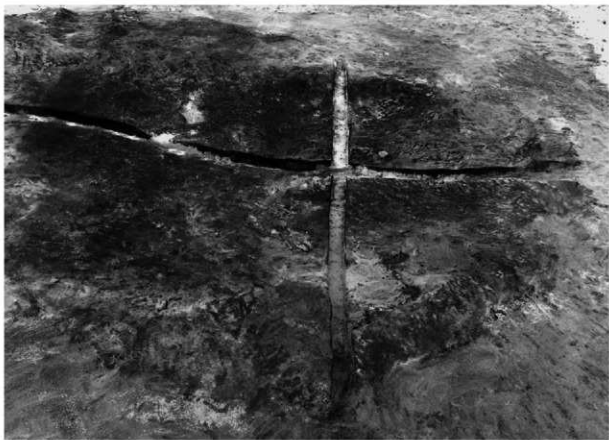
第361号土坑完掘状況



第306号粘土貼土坑完掘状況



第37号貝集積地確認状況



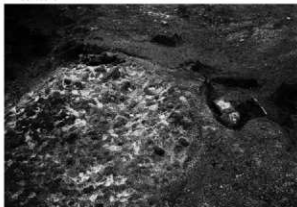
第25号建物跡完掘状況



土層断面



遺物出土状況



遺物出土状況



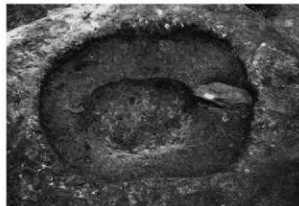
炉土層断面



第37号建物跡完掘状況



竈完掘状況



第1号炉完掘状況



第104号土坑完掘状況



具出土状況



4区鹹水槽群  
完掘狀況



2区第38号鹹水槽  
貝出土狀況



4区第208号鹹水槽  
遺物出土狀況

第 1 号 土 坑 墓  
人 骨 出 土 状 况



第 5 号 土 坑 墓  
人 骨 出 土 状 况



第 7 号 土 坑 墓  
人 骨 出 土 状 况





第 8 号 土 坑 墓  
人 骨 出 土 状 况



第 9 号 土 坑 墓  
人 骨 出 土 状 况



第 1 2 号 土 坑 墓  
人 骨 出 土 状 况

第5号製塩跡内  
人骨出土状況



第31号土壙墓  
人骨出土状況



第35・36号土壙墓  
人骨出土状況





第 4 7 号 土 坑 墓  
人 骨 出 土 状 况



第 4 9 号 土 坑 墓  
人 骨 出 土 状 况



第 6 8 号 土 坑 墓  
人 骨 出 土 状 况



第 55 号 土 壤 墓  
人 骨 出 土 状 况



第 56 · 57 号 土 壤 墓  
人 骨 出 土 状 况



第 60 · 61 · 62 号 土 壤 墓  
人 骨 出 土 状 况





第 1 号 土 壙  
馬 骨 出 土 状 況



第 2 号 土 壙  
馬 骨 出 土 状 況



第 6 号 土 壙  
犬 骨 出 土 状 況



3 区 鯨 骨 出 土 状 况



第 4 号 土 坑  
馬 骨 出 土 状 况



第 25 号 整 地 面  
鹿 角 出 土 状 况



畝  
完  
状  
掘  
遺  
状  
構  
況



畝  
確  
状  
認  
遺  
状  
構  
況



畝  
土  
状  
層  
遺  
断  
構  
面

第 8 号 整 地 面  
確 認 状 况



第 8 号 整 地 面 柱 穴 列  
確 認 状 况



第 1 6 号 整 地 面  
確 認 状 况

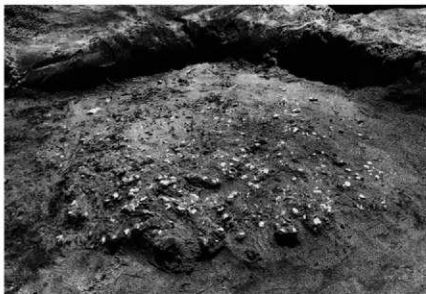




第 2 号 貝 集 積 地  
確 認 状 況



第 1 4 号 貝 集 積 地  
確 認 状 況



第 2 4 号 貝 集 積 地  
確 認 状 況

第 6 号 集 石  
遺 物 出 土 状 況



遺 物 集 中 地 点  
確 認 状 況



遺 物 集 中 地 点  
遺 物 出 土 状 況





埋納遺構  
古錢出土狀況



第9号不明遺構  
確認狀況



漆喰出土狀況





東西トレンチ  
土層断面



東西トレンチ  
土層断面



南北トレンチ  
土層断面



その他の出土遺物-1800

直縁大皿

- 1 内面 見込みに重ね焼痕
- 2 底面 底部回転ヘラ削り、三足貼り付け
- 3 正面 灰釉漬け掛け



その他の出土遺物-1861

## 折縁深皿

- 1 内面 見込みに重ね焼痕（一部に自然釉）
- 2 底面 底部回転ヘラ削り、三足貼り付け
- 3 正面 灰釉漬け掛け



その他の出土遺物-1862

折縁深皿

- 1 内面 一部に自然釉
- 2 底面 底部回転ヘラ削り，三足貼り付け
- 3 正面 灰釉漬け掛け



その他の出土遺物-1863

## 卸目付大皿

- 1 内面 縦27本，横14本の卸目，未使用状態
- 2 底面 底部回転ヘラ削り，三足貼り付け
- 3 正面 灰釉漬け掛け



3  
その他の出土遺物-1864

### 卸目付大皿

- 1 内面 縦12本，横8本の卸目，未使用状態
- 2 底面 底部回転ヘラ削り，三足貼り付け
- 3 正面 灰釉漬け掛け，片口



その他の出土遺物・1865

### 卸目付大皿

- 1 内面 縦11本，横9本の卸目，未使用状態
- 2 底面 底部回転ヘラ削り，三足貼り付け
- 3 正面 灰釉漬け掛け，片口



その他の出土遺物-1866

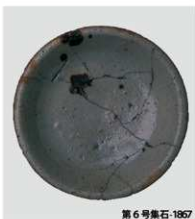
卸目付大皿

- 1 内面 縦17本、横11本の卸目、未使用状態
- 2 底面 底部回転ヘラ削り、三足貼り付け
- 3 正面 灰釉漬け掛け、片口





第88号土罐盖-66



第6号集石-1867



S17-458



S31-1450



S31-1451



S121-1066





4区 SN14-137



SIS-332



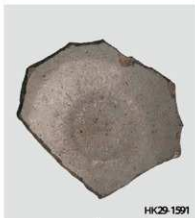
S113-384



その他の出土遺物-1224



その他の出土遺物-2378



HK29-1591













2区 SK192-1644



2区 SK271-1658



その他の出土遺物-2311



その他の出土遺物-2315



その他の出土遺物-2316



その他の出土遺物-2328



その他の出土遺物-2329



その他の出土遺物-2331



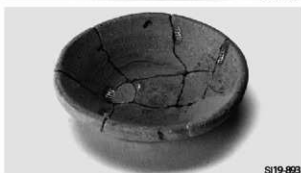
SH2-81



SH12-117



S15-328



S19-893







その他の出土遺物-2302



その他の出土遺物-2310



SI17-707



SH12-118



SI19-903



SI16-685



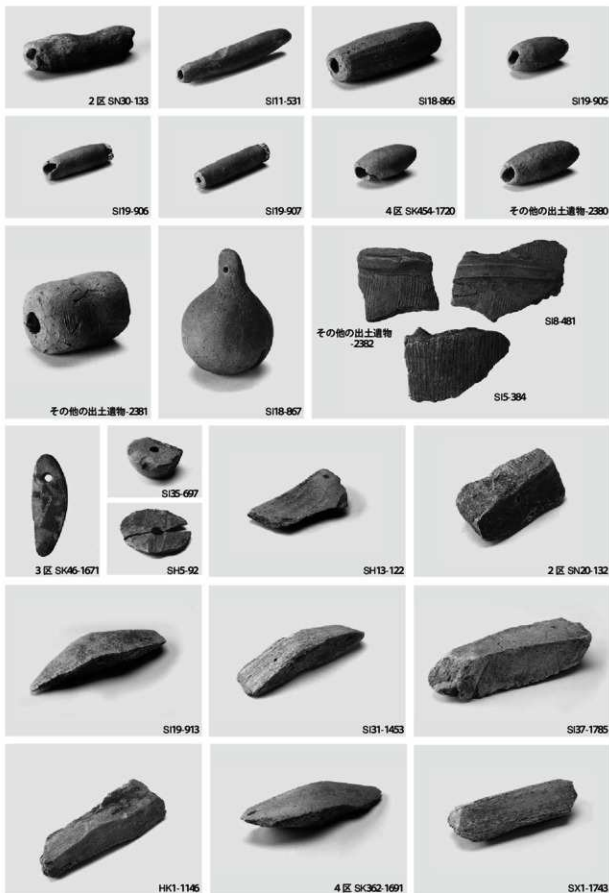
SI02-1506

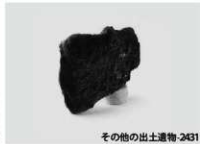


4区 SK125-1687



その他の出土遺物-1216







その他の出土遺物-2429



SH9-114



4区 SN176-141



第50号土壌墓-40



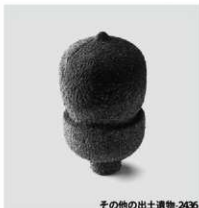
SB-484



4区 SK113-1665



その他の出土遺物-2435



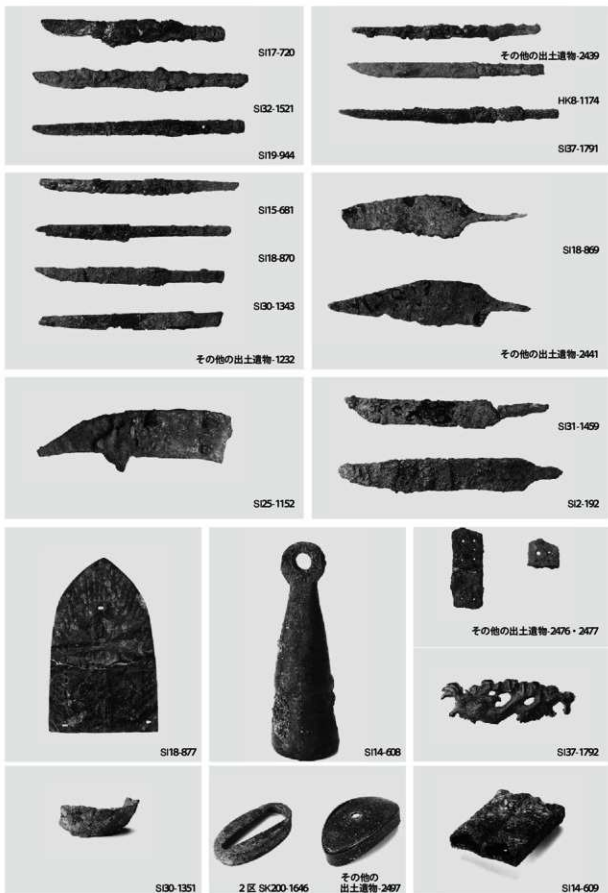
その他の出土遺物-2436

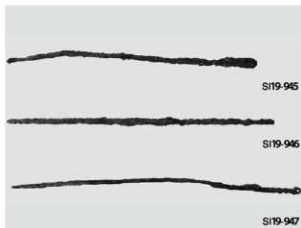
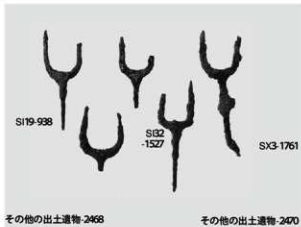
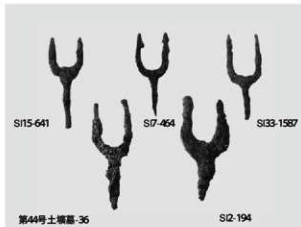
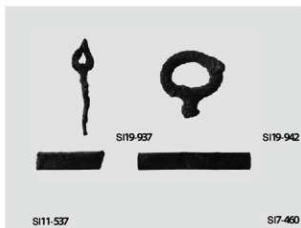


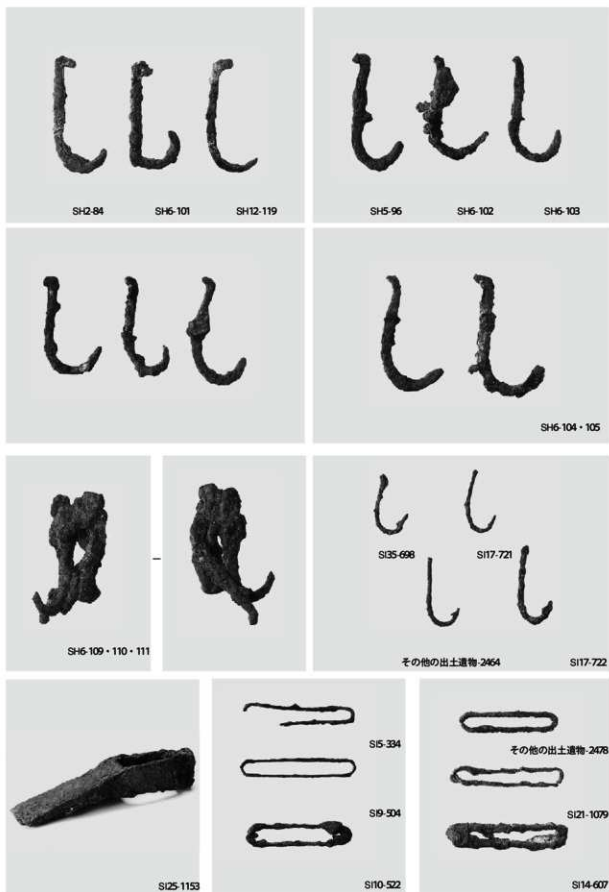
SH13-123



4区 SN35-138













SI14-616



SI5-383



遺物集中地点-1901

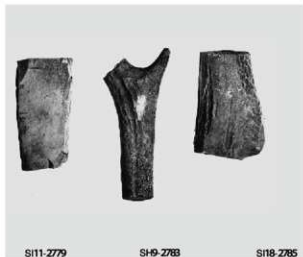


SI2-2777

SI27-2784

SI15-2782

その他の出土遺物-2786



SI11-2779

SH9-2783

SI18-2785



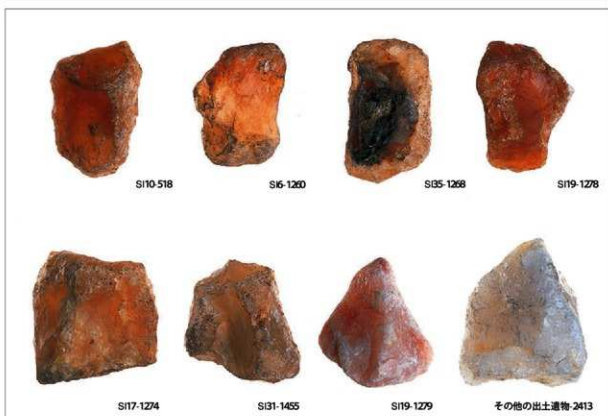
SH2-88



SH19-2796



ガラス製品・骨角製品・貝加工品



茨城県教育財団文化財調査報告第250集

## 村松白根遺跡 1

大強度陽子加速器施設設置に伴う  
埋蔵文化財調査報告書 1

(下巻)

平成17(2005)年3月22日 印刷  
平成17(2005)年3月25日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
T E L 029-225-6887

印刷 株式会社 イセブ  
〒305-0005 茨城県つくば市天久保2丁目11-20  
T E L 029-851-2515